新日本・永田裕志がミルコを指名 12・31出陣へ

平成12年4月25日第3種郵便物認可　平成13年12月13日発行（毎月第2・第4木曜日発行）第3巻・23号・通算59号

SRSDX

No.59
2001
12・13
毎月第2・4木曜発売
定価680YEN

12/8 K-1決勝も
12/31 猪木祭りも

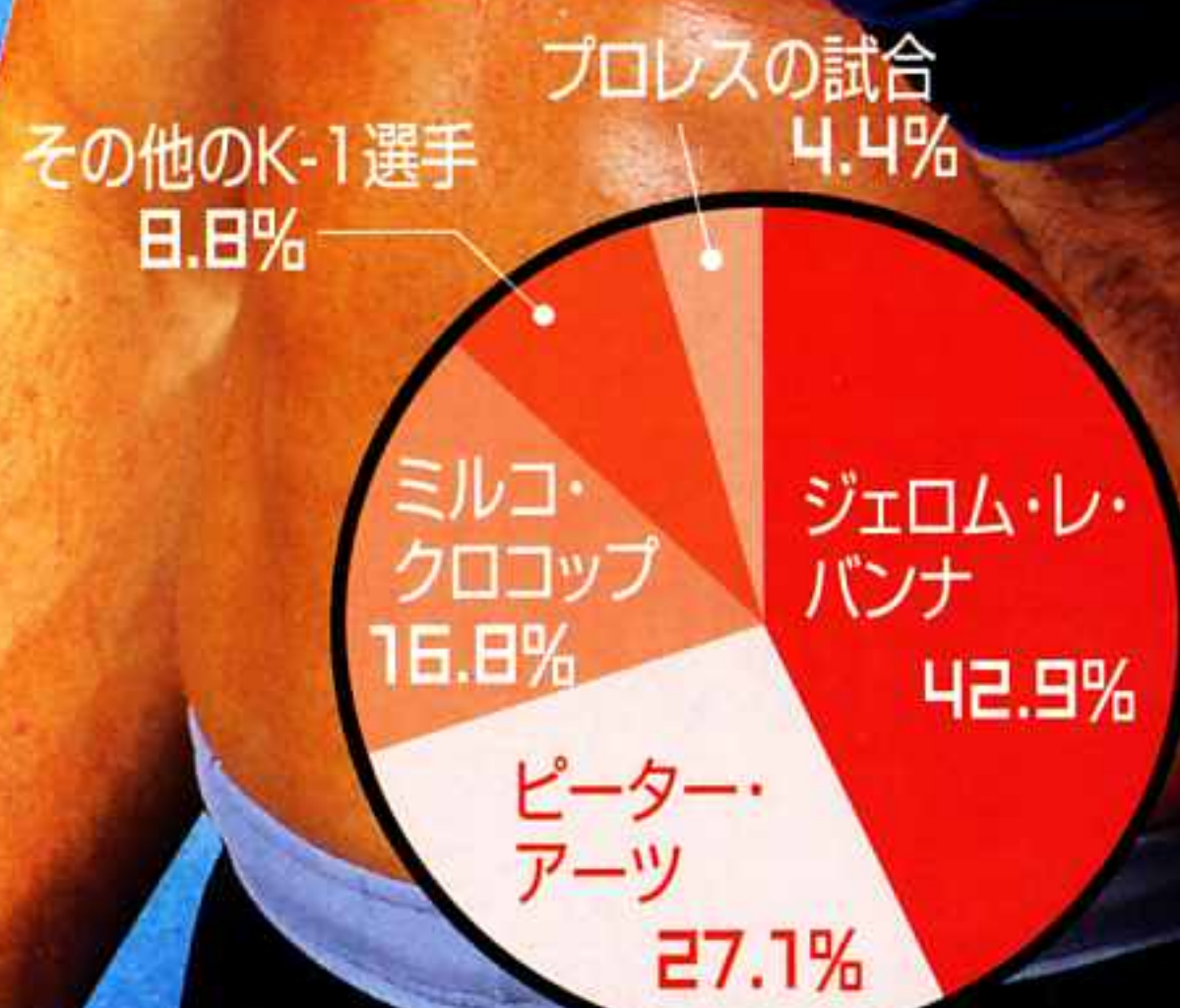
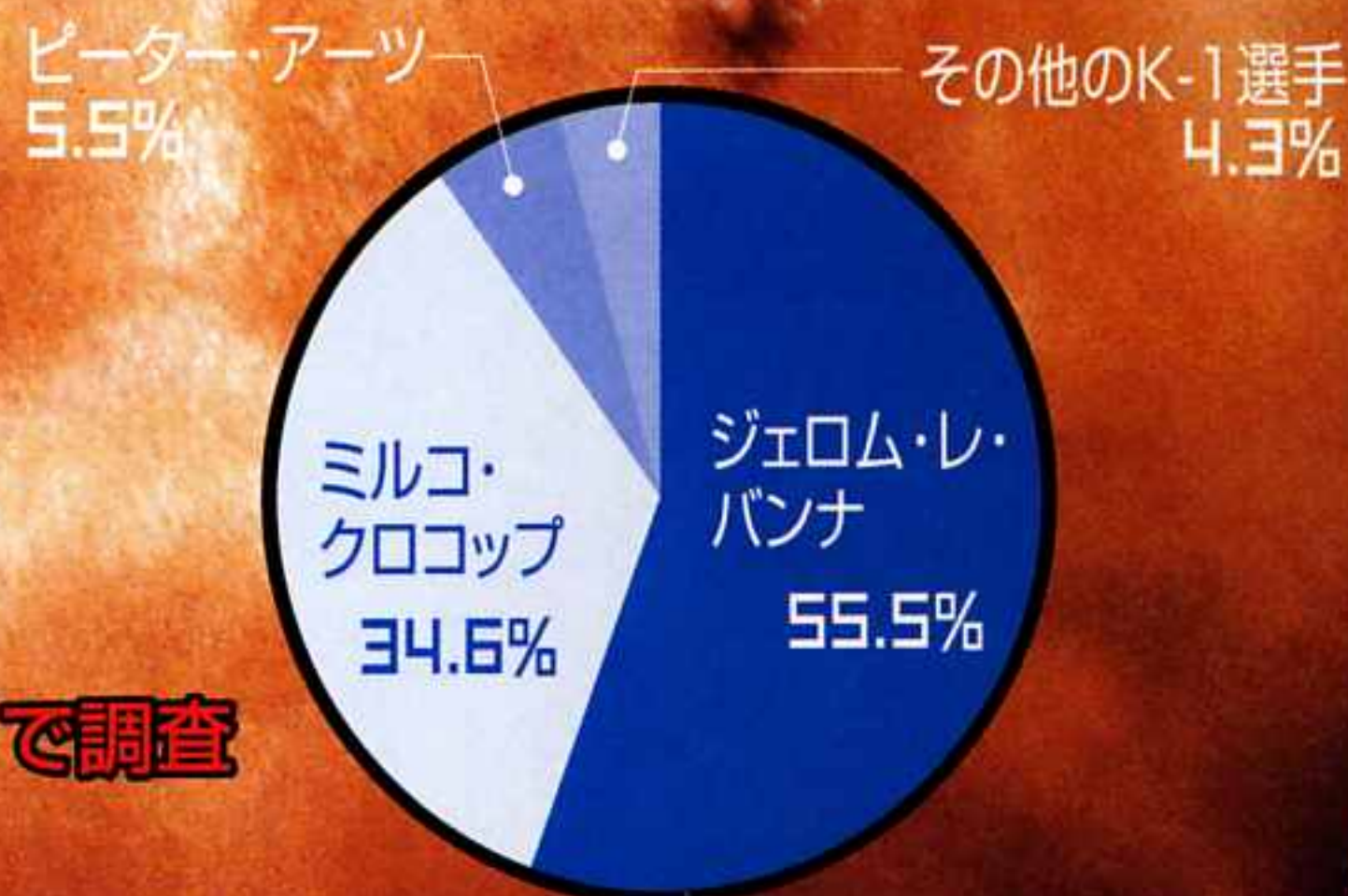
主役はバンナ

12・31『猪木祭り』あなたの見たいカードは？

ゴネる小川直也

選手	%
ジェロム・レ・バンナ	42.9%
ピーター・アーツ	27.1%
ミルコ・クロコップ	16.8%
その他のK-1選手	8.8%
プロレスの試合	4.4%

出陣決定の藤田和之

選手	%
ジェロム・レ・バンナ	55.5%
ミルコ・クロコップ	34.6%
ピーター・アーツ	5.5%
その他のK-1選手	4.3%

本誌公式サイト『Webゴング』で調査

K-1予想が真剣(マジ)になる。

KOKO

www.fujitv.co.jp/koko/

予想のアシストはフジテレビのこの番組!!

感動ファクトリー
「すぽると!」
1週間ぶちぬきK-1企画!
12月3日(月)~6日(木) 23:50~24:30
12月7日(金) 24:10~24:50

「SRS」
K-1特集もお見逃しなく!
11月30日(金)／12月7日(金)
25:45~26:15

WINNER

11/22(thu) 10:00AM インターネットで投票開始!!

1等賞金10,000ドル!

2001.12.8(sat) K-1 WORLD GP 2001決勝戦 TOKYO DOME　放映:2001.12.8(sat) 21:00~22:54 フジテレビ系全国ネットにて放映

優勝

決勝

準決勝

1回戦

A ステファン・レコ
B アーネスト・ホースト
C ジェロム・レ・バンナ
D マーク・ハント
E ニコラス・ペタス
F アレクセイ・イグナショフ
G フランシスコ・フィリォ
H ピーター・アーツ

KOKO 2001 完全的中まで確率1／128!

KOKO RULE 1：8名のK-1選手の勝ち上がりをあなたのセオリーにより完全予想せよ!

KOKO RULE 2：ケガで出場がキャンセルも‥。だから名前ではなくて現在の対戦枠指定で投票! そこまで読みきる!?
※選手の変更があっても一度行った投票は変更できません。
※同一電話番号で複数投票した場合は、すべての投票が無効となります。

KOKO RULE 3：試合に勝ってもケガはつきもの!次の試合に出れない場合は、敗者復活で負けた選手が勝ち上がる。KOKOでは勝ち上がり選手を予想!

KOKO RULE 4：投票はPC、携帯のどちらでもOK! KOKOオフィシャルページ www.fujitv.co.jp/koko/ にアクセス!

KOKO RULE 5：投票期間は11月22日(木) 10:00 AM~12月8日(土) 12:00 PMまで。会場の東京ドームでは投票できないぞ!

KOKO RULE 6：K-1 GP 優勝者決定後(12月8日 21時以降)に、完全的中者の中でWINNERから5等までの抽選を行う。その場で本人確認の電話連絡があるぞ。完全的中者は電話の前でスタンバイせよ! 当選者のチェックはKOKOオフィシャルページで。

KOKO PRIZE：WINNER／1等賞金 $10,000
2等賞金 $5,000
3等賞金 $2,000
4等賞金 $1,000
5等賞金 $500

(注1)出場選手およびジャッジ、レフリー、大会関係者の投票はできません。
(注2)ご入力された電話番号で連絡が取れない場合は無効とさせていただきます。

主催:フジテレビジョン／株式会社K-1　お問合せ:フジテレビ・KOKO 2001事務局 TEL:03-5500-1773　大会お問合せ:(株)K-1 TEL:03-3796-2977 キョードー東京 TEL:03-3498-9999

噂の三面記事・拡大版

12・31『イノキ・ボンバイエ』
〜猪木軍 VS K—1全面対抗戦〜

幻想膨らむミルコ 次の対戦相手は…… 新日本・永田裕志？

全ては帰国後の猪木の調整次第

11・3『プライド17』の高田戦で物議を醸し、さらに幻想が膨らむK—1ミルコ・クロコップの次の相手に新日本プロレス永田裕志の名前が浮上している。いったい、どんな経緯でこの話は出てきたのか？　また、実現の可能性は？　その噂の真相を追ってみる！

永田がミルコに興味を持って急展開！K—1からセフォーが参戦を表明

プロレス専門誌で報道されているように、新日本プロレスの今年のG1王者・永田裕志が、「K—1との対戦に興味がある」と発言し、12・31『イノキ・ボンバイエ』参戦が濃厚となってきた。

そもそもこの話は、K—1との対抗戦に猪木自ら「中西や永田にも声を掛ける」と発言したことから持ち上がったのだが、猪木と新日本の確執からいって実現薄と見られていた。

中西も猪木発言を受けていち早く「やるにしても準備が必要」と返答し、煮え切らない新日本勢に対して藤田も「ヘタレ」発言を展開。なんと言っても、新日本は年頭の恒例イベントである1・4東京ドーム大会が控えているだけに、中西・永田の出場は考えにくいと思われていた。しかも、これはプロレスの試合ではない。

ところが、永田本人がその気を見せた。対戦相手としてミルコの名前を出し、「今、彼はマスコミの扱いが非常に大きくなっている。髙田戦を見る限り、藤田がやられたのはアクシデントじゃない気持ちにもなってきた」とコメントし、実際11月6日に新日本の藤波辰爾社長に意志表示した。

これに対して、ミルコとの再戦が濃厚だった藤田も「待ってましたっていう感じ。永田先輩ならミルコに勝てる」と太鼓判。藤田は「俺はバンナかK—1王者に相当する人とやる」と、ミルコとのリベンジ戦を永田に譲る逆提案もしている。もしこのカードが実現すれば、巨大な山である新日本のG1王者が参戦するということで、さらに大きな話題となるだろう。

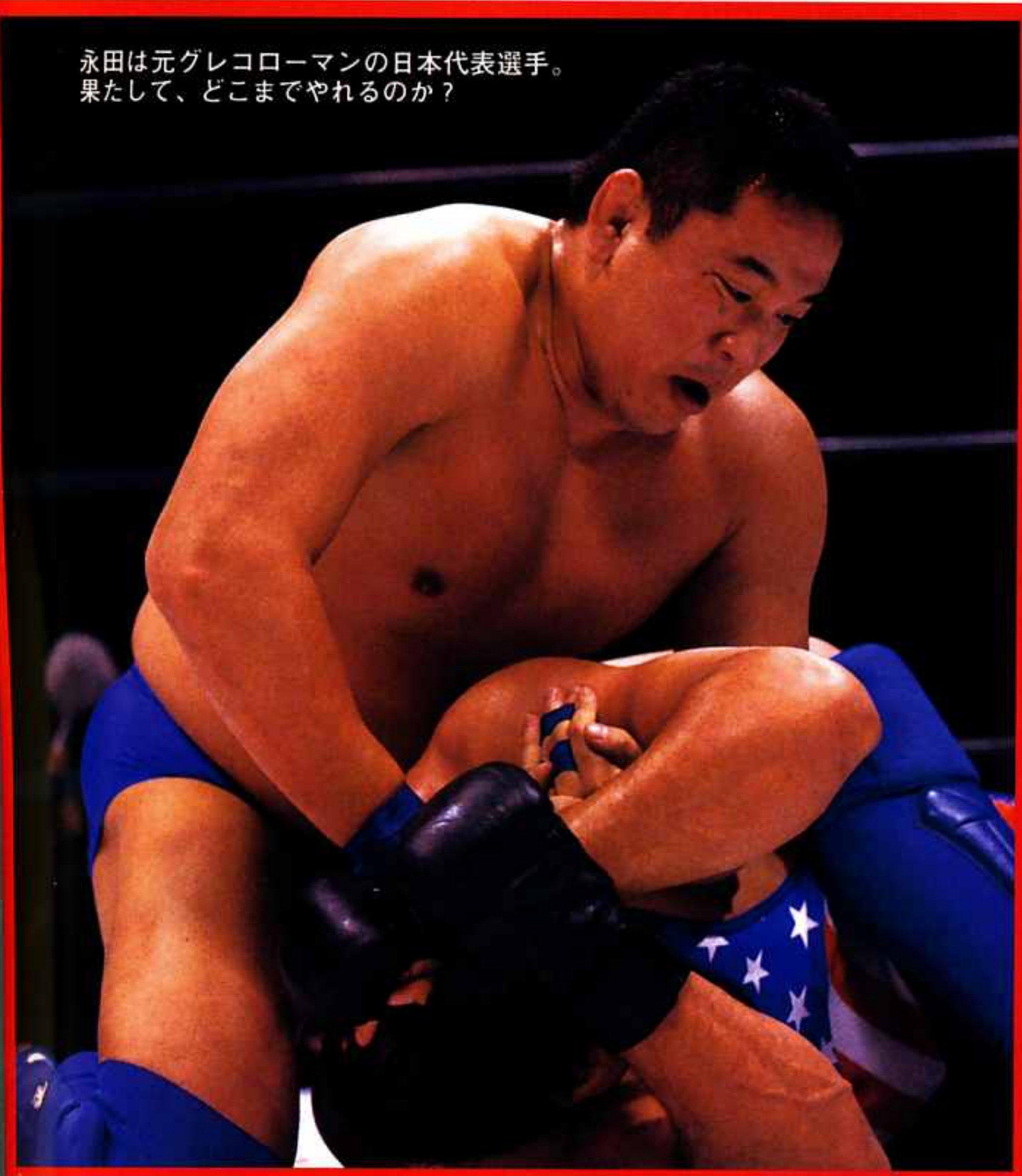
永田・藤田の意志が確認できれば、あとはこの対戦が実現するためにクリアしなければならない問題は2つ。ひとつは猪木と新日本の調整で、もうひとつは石井館長とミルコのK—1側の意志確認だ。

まず、猪木は11月28日に帰国。新日本との話し合いはそれからになる。また、K—1側は12・8『K—1ワールドGP決勝戦』が終わるまで一切カードは決められない。

石井館長、ミルコとも、今のところ藤田VSミルコのリベンジ戦を考えているから、最終的には猪木—石井館長会談も必要になってくるだろう。ただし、永田の発言から見て、ミルコ戦以外なら出場してこないんじゃないかと思われる。いずれにせよ、正式な決定は猪木が帰国してからだ。

しかし、そのK—1軍にも動きがあった。ミルコ、サム・グレコに続き、大物ファイターとして、レイ・セフォーが参戦を表明したのだ。セフォーは昨年のグランプリで準優勝している。ミルコと同等の実績の持ち主だが、今年は不運が重なって決勝大会を脱落。4月の大阪・開幕戦では、1回戦でアダム・ワットをKOするものの、腰痛のため準決勝を棄権。さらに10月の福岡・敗者復活戦では、マーク・ハントとノーガードの打ち合いをし、勝ったもののドクターストップがかかってしまった。

そんなセフォーは、猪木軍との対抗戦に名乗りを挙げ、極秘に来日して、正道会館の道場で総合のトレーニングに専念している。まさかセフォーまで出場するとは思わなかったが、K—1側も着々と陣容を揃えつつあるのだ。

藤田、安田、佐竹、永田が出場の意志を見せた猪木軍。ミルコ、グレコ、セフォー、そして噂によるとフランスの喧嘩屋シリル・アビディまでやる気になっているというK—1軍。まさに夢の豪華カードが実現しそうな12・31決戦である。■

永田は元グレコローマンの日本代表選手。果たして、どこまでやれるのか？

なんとレイ・セフォーが『イノキ・ボンバイエ』に名乗りを挙げた

▲藤田＆安田も永田の参戦には大喜び。藤田は「ミルコ戦は譲ってもいい」と発言

だものを時代が要求してるんだよ」と。

永田VSミルコ成るか!? 国際電話で猪木を直撃!

「永田は真面目だけど、ファンの常識を破るような先駆者になれ!」

聞き手◎"Show"大谷泰顕

――猪木さん、さっそくなんですけど、永田選手がミルコ戦に名乗りを挙げた件についてコメントをもらいたいと思いまして。

猪木 まあああのー、彼は責任感が強いんでね。新日本のシリーズもあって。本来ならば準備時間を十分取らせてあげたいなと。これはひとつには実力がどうこうというよりも、闘い方のクセというのかな。プロレスは「受けて」という部分でね、闘い方が多少違ってしまう。そこのところを、1カ月間なりの時間をね、本来ならばそっちに専念させて意識を変えさせるっていうのは大事な部分なんだけど。たぶん本人は新日本の顔っていうのもあるだろうし。逆に言えば、俺らの望むところなんだけどね。それもこなしながらも異種格闘技もできるよ、と。それがホントは理想なんだけど、最近は、異種格闘技とプロレスが分かれてしまって、闘い方が違うとか、そういう風潮とか意識になってしまってたんでね。そういう部分では非常にいいんじゃないのかと。

――それができるのが理想ですもんね。

猪木 (アメリカに)来る前にちょっと(永田と)話をしたんでね。もうひとつは新日本に対する気遣いというのが、ある意味では非常にブレーキになるケースが出てきてるんでね。だからそこは勝ち負けというのは絶対的な条件なんだけど、一歩踏み出していく勇気っていうのが。

――そこですよね!

猪木 そこのところをファンの人にも見てもらいたいというね。結果がどうなろうとも、その結果は結果でしょうがないことなんだけど。今、新日本ていう、萎縮してるわけじゃないけど、そういうイメージでとらえられてる部分を、やっぱり踏み出していくことで、応援してあげるのが大事な部分だと思うね。

――この前、猪木さんが成田空港から飛び立つ際に、藤波社長に対してか、マスコミに対してなのか、「火種を大きくしてやらないと」って言ってましたよね。

猪木 うん。だから要するに立ってる立場というのが、俺とは違うしね。俺らは好きなことが言える立場でもあるし。組織の中にいる一人としての発言というのもあるだろうしね。そこのところは大変非常に難しい決断をしなければいけないっていうね。決断をした以上は差支えのないような状態にしてあげないと。

――じゃあ猪木さんは今度日本に来たら、すぐに永田選手に会って、という感じなんでしょうか?

猪木 ホントは海外に出してあげたいんだよね。まあ、ある意味では立ってる位置を変えてみて、日本というものを逆に見たりね。そういうふうに、これは戦に例えると、臨機応変というか。だからそういう対応する部分では、場所を変えてみる、というのがあると思うんだよね。ただ、その時間がないから(苦笑)。

――そうなんですよねぇ……。ただ、きっと永田選手は藤田選手と話して、そういう意識になった部分が少なからずあったと思うんですけど、やっぱり永田選手も猪木さんの真意というか、意図というか、それを察したんじゃないですかね。

猪木 もっと分かりやすく言えば、「猪木イズム」というね。「闘い」というものに対する向き合い方というのかな。そういうものを見たいという。唯一、藤田がね、「猪木イズム最後のナントカ」みたいなね。新日本の中にもいるんだけど。さっきも言ったように、火種があるなら、それを大きくしてあげようという意識が、この10年くらいの間になくなっちゃったというか。なくなったわけじゃないけど、萎縮してしまったというかね。レスラーっていうのは、紳士であっても金が儲かるわけじゃないんだよね。どっかで紳士でありたいと思うのと、もうひとつ逆に荒くれというかね。

――紳士と荒くれ!

猪木 非日常的な要素を含んでないと。藤波にも言ったのはね、「真面目なのはもう腐るほどいるんだよ」、どこでも。今の時代に必要なのは、そうじゃない、非日常的、非常識というかね、そういう要素を含んだものを時代が要求してるんだよ」と。

――そうですよねえ!

猪木 だから、ある意味では新日本の選手も誰からも、荒くれというか、そういう感じのするヤツがいなくなっちゃったじゃないの。昔風に言やあ、トンパチというかさ(笑)。

――じゃあまだ永田選手が手を挙げてくれてよかったというか。

猪木 まあ、彼は真面目なんだけどね。根っから真面目な部分にプラスアルファ、ファンの常識を破るようなね、先駆者になれば。負けようと勝とうと、俺からすれば、「格闘技」がもっともっと隆盛になればいいわけだからね。

――実際、ミルコと闘うことに対してはどんな印象があると思いますか?

猪木 まあ、藤田と髙田と2戦見てきてね。K—1の中では唯一格闘向きの選手というのかな。勘がいいというか、そういう標的には違いないよね、間違いなく。その中でやっぱり反省点というのは、藤田の場合は、たしかにルールがあってという、『プライド』的なルールで、とことん勝負ということになれば、また違う結果が出たと思うんだけどね。

――はいはいはい。

猪木 永田に関して言えば、髙田でさえ、タックルに入れたんだから、永田のタックルのほうがまだ全然いいと思うんだよね。もうひとつ、彼は打撃系の練習はしてるんでね。その点はもしかしたら一番、他の選手よりも有利かもしれない。

――今、永田選手にかけてやる言葉があるとしたら、どんな言葉がありますか?

猪木 気楽にやれやと(笑)。難しくプレッシャーをかけたってさ。今はね、出て行く部分が大事な部分なんでね。結果は分からないよ、正直言ってこれは。■

純K―1でも、主役はこの男！
ジェロム・レ・バンナにファイナル・アンサー

「K―1こそ本物の男の闘い！ オレたちプロの打撃を見ろ」

「猪木軍VSK－1」が話題になっているが、いよいよ立ち技最強の男を決定する『K－1ワールドGP2001 決勝戦』が、12月8日東京ドームで開催される。すでにチケットの売れ行きは『プライド』東京ドーム大会以上。今年は誰がいったい優勝するのか。その最終情報として、今号では四天王の動きを追う。まずは、注目のバンナにファイナル・アンサー！

聞き手◎谷川貞治　写真◎K－1

▼前回のマーク・ハント戦では、バンナもKOで倒すことができなかった。果たして今回は？

—バンナさん、お電話ですみません。K―1の決勝大会を目前に、ちょっとお話をお聞かせください。

バンナ　ちょっと待て。まずオレのほうから言わせてくれ。

—は、はい？　どうぞ、どうぞ。

バンナ　この前のミルコとタカダの試合はいったいなんだ。クソのような試合というのは、ああいう試合を言うんだ。ノールール、ノールールって日本のファンはバカ騒ぎしているけど、あれがファンを楽しませる試合と言えるのか、オレは本気で頭にきたぜ。

—ああ、もう高田VSミルコ戦のVTRは見たんですか？

バンナ　いや、まだ見ていないが、話は日本からすぐに聞いたよ。もう見る気にもならないよ。タカダという男は最悪だ。闘おうとせずに、リング上で自分から寝てばかりいたんだろ。もし、あいつがオレにそんなことをやったら、ルールなんてブチ壊して、ブッ殺してやったよ。なぜミルコがそうしなかったのか、オレには理解できない。『プライド』はやっぱり、ションベンのような闘いだ。

—いや、あの、それは……。

バンナ　イノキはアメリカでハンバーガーでも食っていればいいんだ！　それでもノールールがストリートファイトに近い闘いだなんて興奮しているヤツがいるとしたら、目に溜まったクソをオレが取り除いてやるよ。

—言いますねぇ（笑）。

バンナ　たしかにフジタとミルコの試合は面白かったが、あの試合がなぜ面白かったかというと、結局、打撃のプロ集団が集まったK―1が絡んだからだろう。そういう打撃のプロが絡まないと、ノールールはオカマのような闘いになる。それなのに、なんで自分から寝るんだ。もう本当の男の闘いを見に来たかったら、K―1を見に来ればいいんだ。オレは自分からリングで寝るヤツなんて信じられないぜ。

—猪木軍よ、K―1を見に来いっと。

バンナ　そんなことはどうでもいいけど、オレたちの打撃がどこまで魅力的なのか、それを東京ドームで証明してやるよ。

—逞しいですねぇ（笑）。今日はその猪木軍との話ではなく、K―1の決勝戦の話を聞こうと思ったんですけど。

バンナ　……。

—今年は特にバンナ選手がダントツの本命に挙がってると思うんですが、それについてはどう思いますか？

バンナ　べつになんとも思わないね。日本のファンがみんな、オレのファイトを見たがっている証拠だろう。

—勇ましいですねぇ（笑）。で、まずトーナメントの組み合わせ抽選会で、ホースト選手を避けずに第2試合を選んだのは意外な気がしたんですが……。

タカダVSミルコはクソのような試合だ
自分から寝るなんて信じられない！

バンナ　べつに……。Cという枠と赤（赤コーナー）が好きなだけだ（笑）。

—なんですか、その理由は（笑）。

バンナ　まあ、早く試合を終えて、次の準備をしたほうがいいからな。

—マーク・ハントがあなたの隣を選んだことについては、どう思います？

バンナ　いいんじゃない？　オレもマークと1回戦で闘おうと思ってたからな。ヤツはデッカイ男のイチモツを持ったヤツだってことが、この前のレイとの試合でハッキリしたからな。そういうヤツとやれるっていうのは、本当の男らしい闘いになるからな。

—えっ？　でも1回戦ではニコラス選手か、フィリォ選手とやりたいって言ってたじゃないですかぁ。

バンナ　そんなこと忘れたよ。それにフィリォはまだ、オレにKO負けした後遺症が残ってるんじゃないか。ニコラスは気に食わないヤツだけど、マークとのほうが男と男の闘いができるだろう。

—極真は忘れた、と（笑）。でも、ハント選手は非常にタフな選手で、プロデビューしてから、車に轢かれた以外は倒れたことがないって言ってますけど。

バンナ　フンッ。そう言えば、マット（スケルトン）も何年か前にそんなこと言ってなかったか？　おまえらの質問はいつもそうだ。でも、結果はどうだった？（バンナの1RKO勝ち）。そんなもんだよ、オレと闘えば。

—バンナさんのパンチは、交通事故よりも破壊力がある、と（笑）。

バンナ　そんなもん、オレに倒されたヤツに聞いてくれ。

—でも、もしハント選手がレイ・セフォー戦と同じようにノーガード戦法できたらどうします？

バンナ　あり得ないね。マークのことはよく知らんが、あいつがそんなマヌケな男でないことを祈るよ。ただ、イチモツがデカイだけの男じゃないことを（笑）。

—ハハハ……、でも順当にいけば、準決勝戦ではホースト選手との試合になりそうなんですけど……。

バンナ　あいつのコマーシャルをするつもりはない。だからこの件に関しては、ノーコメントだ。

—もしかして、凄くライバル心で燃えてるんじゃないですか。去年のK―1はつまらなかったとバンナさんも言ってましたけど、あれはホースト選手に対してですよね。

バンナ　べつに。ただ、オレのことを大口を叩くヤツとか言ってるらしいけど、だったらオレを倒して黙らせてみろと言いたい。以上だ。

—では、決勝戦の相手は誰になると思います？　フィリォですか？

バンナ　ピーターだろう。ピーターのケガはまだ治っていないのか？　コンディションが良かったら、ピーターが一番手強い相手だろう。2年前のオレは、グランプリで優勝することより、ピーターに勝つことのほうが価値があると思ってたからな。それがナンバー1ってことの証明だと思っていたよ。

—最近のアーツ選手は、本当に調子が悪いですからね。

バンナ　2年前にオレに倒されてから、たしかに良くない。でも、ピーターも必死なんじゃないか。

—ああ、それもオレと（笑）。フィリ

ホーストのコマーシャルはしたくない
大口叩くなと言うならオレを倒して黙らせろ

今年のグランプリの行方を占うのが準決勝のホースト戦。2年前も両者は準決勝で対決し、ホーストがKOで勝っている

ォ選手とやりたいっていう感情は特にないんですか？　去年の決勝戦ではバンナ選手のほうからフィリォ選手を指名しておいて、体調不良で試合が流れてしまったんですけど。

バンナ　べつに。フィリォのほうがそう思ってそうだったから、相手になってやろうと思っただけだ。

——今回のトーナメントは、イグナショフやニコラスのような新世代の台頭が著しいんですけど、K—1四天王としての危機感はありますか？

バンナ　そんな質問はオレよりもっとおじいちゃんに聞けよ。オレがそんなふうに思うわけないだろう。

——ハハハ……。そう言えば、ベルナルド選手が決勝トーナメントに上がって来れなかったのは、残念だったんじゃないですか。

バンナ　べつに……。それはオレの問題じゃなくて、マイクが勝てなかったのが悪いんだろう。だいたい、この前の試合は反則だったから、べつにオレは負けたと思ってないからな。決勝に上がれなかったあいつが悪いんであって、オレはなんとも思ってないよ。

——決着戦はどうだっていい、と。

バンナ　ああ。

——ちなみに、今年一番警戒している選手は誰ですか？　まさか、藤田とか（笑）。

バンナ　相手は誰とか、そんなことはべつになんとも思わない。オレが今、一番怖いのは戦争だけだ。世の中狂ってて、誰が何をするか分からない。ニューヨークのテロも、アフガンの戦争も本当に狂った話だ。早く戦争が終わって、平和な世界に戻ることを祈ってるよ。

——なるほどねぇ。もちろん、コンディションはバッチリでしょうねぇ。

バンナ　当たり前だ。つまらないこと聞くなよ。

——ちなみに、どんなトレーニングをしてきたんですか？

バンナ　朝は5時に起きてランニング。10時からはボクシングのトレーニング。それで午後からはムエタイのトレーニングを3時間から3時間半やってきた。それは当日の試合を見れば分かることだ。

——噂によると、柔道の練習もしているとか。

バンナ　よく知ってるなぁ。投げたり、寝技の練習をするということは、普段鍛えてない筋肉を鍛えられるからやってるだけだ。K—1でも役に立つと思ったからやってるだけで他に意味はないよ。ファイターは長いことひとつの練習に没頭していると体が慣れてくる。たまには違う刺激を与えるのも悪くない。

——なるほど、なるほど（笑）。猪木軍との闘いにも役に立ちそうですしね。

バンナ　そんなことは今はまったく考えてないよ。

——そうですか。では話を戻すと、これまでバンナ選手というと、ワンマッチでは抜群に強いイメージがあるんですけど、トーナメントは苦手じゃないかという声も多いんですけど。

バンナ　そんなこと誰が言ってるんだ？

――えーっと、たとえば僕なんですが。

バンナ　ハハハハ、それはいい（笑）。でもそれは過去の話で、オレの試合が激しいからそういうイメージがあるんだろう。オレの試合は勝っても負けてもKOだったからな。だったら、今回はみんなをビックリさせてやるよ。オレのファイティング・スピリットはみんなをビックリさせることだからな。

――へぇ～、猪木さんも「哲学とは相手を驚かせることだ」って言ってましたけど。

バンナ　だから、イノキはアメリカでハンバーガーでも食べてればいいって。

――はいはい。でも、トーナメントとワンマッチでは、やっぱり闘い方も変わってくるんですか？

バンナ　トーナメントで勝つには、頭をうまく使うことだ。オレは今年は当然、優勝を狙っているから、3つの試合に勝つための戦略を立てていく。今回は考えて闘うつもりだ。

――去年、バンナさんはグランプリを見て、KOのない、闘いのないK―1だったと言ってましたよね。頭を使うってことは、バンナさんもKOにこだわらないってことですか？

バンナ　誤解するな。KOというのは探すもんじゃなく、どうせ来るものなんだ。

――「探すものじゃなく、どうせ来るもの」。いや、いい言葉ですねぇ。

バンナ　倒そう倒そうと思って、パンチに力が入りすぎると、大振りになって、たとえ相手に当たったとしてもKOにはならない。普通にやればいいんだ。オレが普通にやってれば、どうせKOは向こうからやって来るからな。

――いやぁ、かっこいいですねぇ。

バンナ　そういうミスをしないことが、逆にトーナメントで勝ち上がることにつながるだろう。だけど、勘違いしてほしくないのは、だからといってポイントをチョコチョコとって判定狙いで勝つつもりはない。オレはどんどん相手にプレッシャーをかけていくつもりだよ。だいたい、オレにはポイントを取って勝つなんて面倒くさいことはできない。早ければ早いほど、ラクだしな。

――いやぁ、できれば全部KOで勝って、やっぱり凄い強いと思わせるような優勝をしてほしいですね。そうしないと、やっぱり『プライド』のほうが面白いってなっちゃいますよ（笑）。

バンナ　フンッ、言われるまでもないよ。みんなオレの首を狙っているみたいだし、オレのことが気に食わないヤツがいっぱいいるみたいだからな。オレが野獣のようになって、K―1を面白くしてやるよ。

――ホント、素晴らしいですね、バンナさんは（笑）。でも、今年こそ文字どおりK―1の頂点に立ってください。

バンナ　ああ、本当の男の闘いを見せてやる。■

K－1 WORLD GP 2001 決勝戦

最終情報～12月8日（土）・東京ドーム～

フジテレビが決勝戦・完全予想　「KOKO2001」開催！

フジテレビでは、今年からK－1ワールドGPの勝ち上がりを予想するクジ「KOKO（ココ）2001」を開催。完全的中者の名から抽選で1等1万ドル、2等5千ドル、3等2千ドル、4等1千ドル、5等5百ドルの賞金がもらえる。応募開始は11月22日（木）10時からで、大会当日の12月8日（土）正午12時が締め切り。応募方法は携帯モバイル、PCからフジテレビのHPのKOKOオフィシャルページ（http://www.fujitv.co.jp/koko/）にて。当選者は大会終了後の午後9時以降に直接電話連絡される。なお、出場選手の変更があっても一度行った投票は変更できず、同一の電話番号で複数投票した場合は全てが無効になる。予想は一回限りなのだ。詳しい問い合わせは、フジテレビ・KOKO事務局☎03・5500・1773（平日10時～18時　土日祝日は除く）まで。

●予想をアシストする番組は2つ

① 12・3（月）～12・6（木）23:50～24:30／12・7（金）24:10～24:50
『すぽると！』一週間ぶち抜きK－1特集

② 11・30（金）／12・7（金）25:14～26:15
『SRS』2週連続K－1特集

K－1生実況 会場内 FM放送決定！

12・8当日、東京ドームで決勝トーナメントをよりエキサイティングに楽しんでもらうために、会場内でFM生実況の放送が決定。午後4時から大会終了まで、ニッポン放送の山本元気アナウンサーと大槻ケンヂが裏実況とも言える過激な実況を行う。この放送を聞けるのは当日会場にいるファンだけの特典で、会場では携帯ラジオも有料で貸し出してくれるぞ。FM波の音声周波数は、ラジオ貸し出し所にて案内される。

いったい誰が優勝するんだ！ 決勝トーナメント組み合わせ

優勝賞金　400,000ドル／2位　60,000ドル／3位　20,000ドル

第1試合
ステファン・レコ VS アーネスト・ホースト
〈ドイツ／マスターズジム〉〈オランダ／ボスジム〉

第2試合
ジェロム・レ・バンナ VS マーク・ハント
〈フランス／トサジム〉〈ニュージーランド／トニー・ムンダイジム〉

第3試合
ニコラス・ペタス VS アレクセイ・イグナショフ
〈デンマーク／極真会館〉〈ベラルーシ／チヌックジム〉

第4試合
フランシスコ・フィリォ VS ピーター・アーツ
〈ブラジル／極真会館〉〈オランダ／メジロジム〉

地上最強のカラテを証明できる男
フランシスコ・フィリォ

ゴッドハンドの魂が降臨し、この男の手で『極真最強』再び！

昨年ジェロム・レ・バンナにKO負けして以来、大きな勝利を掴んでいない極真ブラジルの怪物フランシスコ・フィリォ。しかし、トーナメント表を見ても、今年のグランプリを制するチャンスは十分ある。果たして、ゴッドハンドの魂は、フィリォに降臨するか？

Francisco Alves Filho

フィリォの最終目標は、K−1王者になるかバンナにリベンジすることしかない！

　かつて大山倍達が宣言していた「地上最強のカラテ」極真。しかし、その極真が格闘技の象徴として君臨してから四半世紀以上が経ち、今やK—1やバーリ・トゥードなど、より過激なルールのプロ格闘技が続々と誕生している。松井館長の時代になって門戸開放したのは、そういった時代に遅れをとらないためにも、他のリングに打って出なければ、ただの伝統空手に収まってしまうからだ。

　もちろん、それはそれでひとつの選択肢である。しかし、極真に属する選手はそれを良しとしない。なぜなら、組織というより、選手個人に大山倍達が唱えた最強を求める遺伝子があり、黙っていられなかったからである。

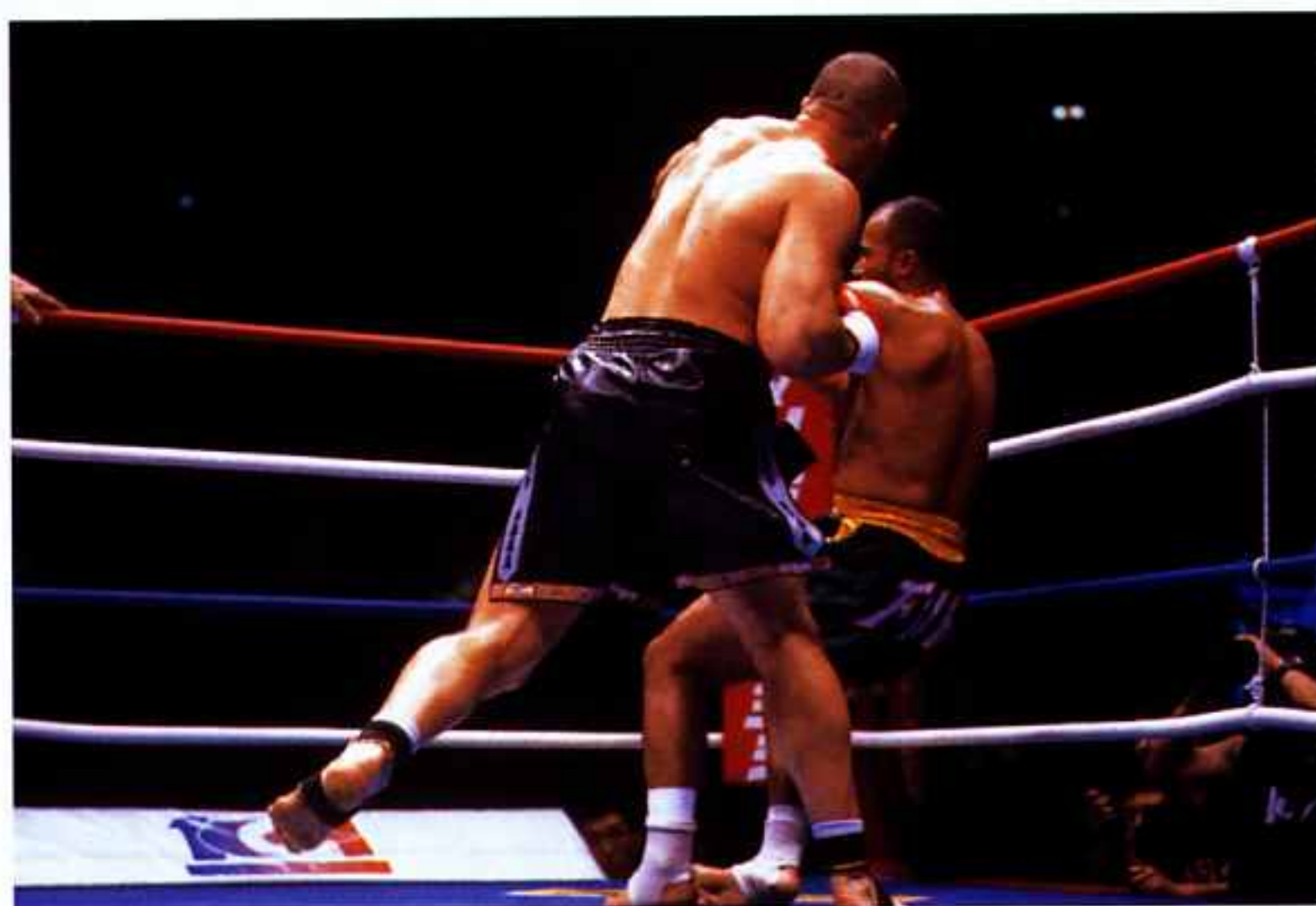
　だから、フランシスコ・フィリォを筆頭に、極真は他流試合に打って出た。他流試合に出るということは、相手の土俵に上がることである。相手のルールで闘うということは、相手の土俵に上がるということ。つまり、流派の看板を賭け、あえて不利な条件で闘い、負けを覚悟して闘わなければならないのが、他流試合の本質なのだ。

　これは当事者にとっては、想像以上に残酷な世界である。他流試合の勝敗は、通常の試合と比べても重みが違う。もし特別な負けを普通の負けにするんだったら、その競技に馴染まなければならない。それが、他流試合のリスクをできるだけ回避する方法だ。

　しかし、見る側が何を期待しているかというと、特別な負けを、普通の勝ちや普通の負けに変えることではない。特別な負けを大きく受け止める「負け様」を思いきり見せてくれることだ。そして、その「負け様」から特別な勝ちを手にしていく姿。そんなところに他流試合の醍醐味を見るのである。

　極真の最強の切り札であるフィリォは、K—1のリングで2つの、特別な勝ちと特別な負けを見せてくれた。

　特別な勝ちとは、K—1デビュー戦でアンディ・フグを一撃で倒したこと。そして、特別な負けとは、極真世界王者になったあと、ジェロム・レ・バンナに一撃で倒されたことだ。この2試合こそ、極真にとっても、近年最大の他流試合と言えるだろう。

　最強の遺伝子を背負ったフィリォは、アンディとは逆に勝ち続けることで怪物ぶりを発揮、一撃で倒すという勝ち様を見せてきた選手だった。しかし、極真で史上初の外国人世界王者に立つという偉業を達成したあと、今度はバンナに敗れて負け様を問われることになる。

　その負け様について、フィリォはK—1に慣れて同化していく道を選んだ。この点に関しては賛否両論あるが、フィリォのゴールはK—1王者に立つか、バンナ、ベルナルドといった倒された相手に勝つことしかない。その意味で、今年のグランプリは非常に重要な局面に立たされていると言ってもいい。

　バンナに負けたあと、フィリォはずっと普通の勝ちと普通の負けを繰り返している。普通の負けは、昨年カゼをひいて判定負けしたグランプリ準決勝のホースト戦と、今年疑惑の判定で敗れたラスベガスのイバノビッチ戦。あとは全て僅差を乗り越えて勝ってきている。その点、フィリォは紙一重で自己の評価を守ってきた。

　だが、それはあくまでも紙一重なのだ。最近、フィリォは判定勝ちが多くなっているのも紙一重と言える理由だろう。しかし、見方を変えれば、判定で勝てるようになったってことは、それだけK—1の闘い方が刷り込まれてきた証拠。その判定勝ちもK—1王者に立つための過程と考えれば、期待が高まってくる。

　全てはK—1王者になるための経験。フィリォがそう牙を研いでいたとしたら、これほど楽しみなことはない。それが我々の理想のフィリォ像だ。

　K—1全体が猪木軍との対抗戦話で揺れる中、まったく関心も示さず、ただ黙々と一つの道を究める。気が付いたら、そんなフィリォが今年のK—1を制していたとなったら、こんなに気持ちのいい話はない。しかも、決勝戦の相手がバンナで、そのバンナを倒しての優勝なら、完璧に他流試合は完結する。フィリォに対する期待はそこだ。

　フィリォを見ていると、身体能力はK—1の中でも並外れたものを持っているのに対し、精神的な部分で人と殴り合いをするようなタイプではない優しい人間に見える。同じ極真出身でもアンディとは正反対。アンディは体は小さかったが、精神的な部分で他の誰よりも負けず嫌いだった。その精神的な部分で、K—1王者を強引に自分のもとに導いた選手だったと思う。

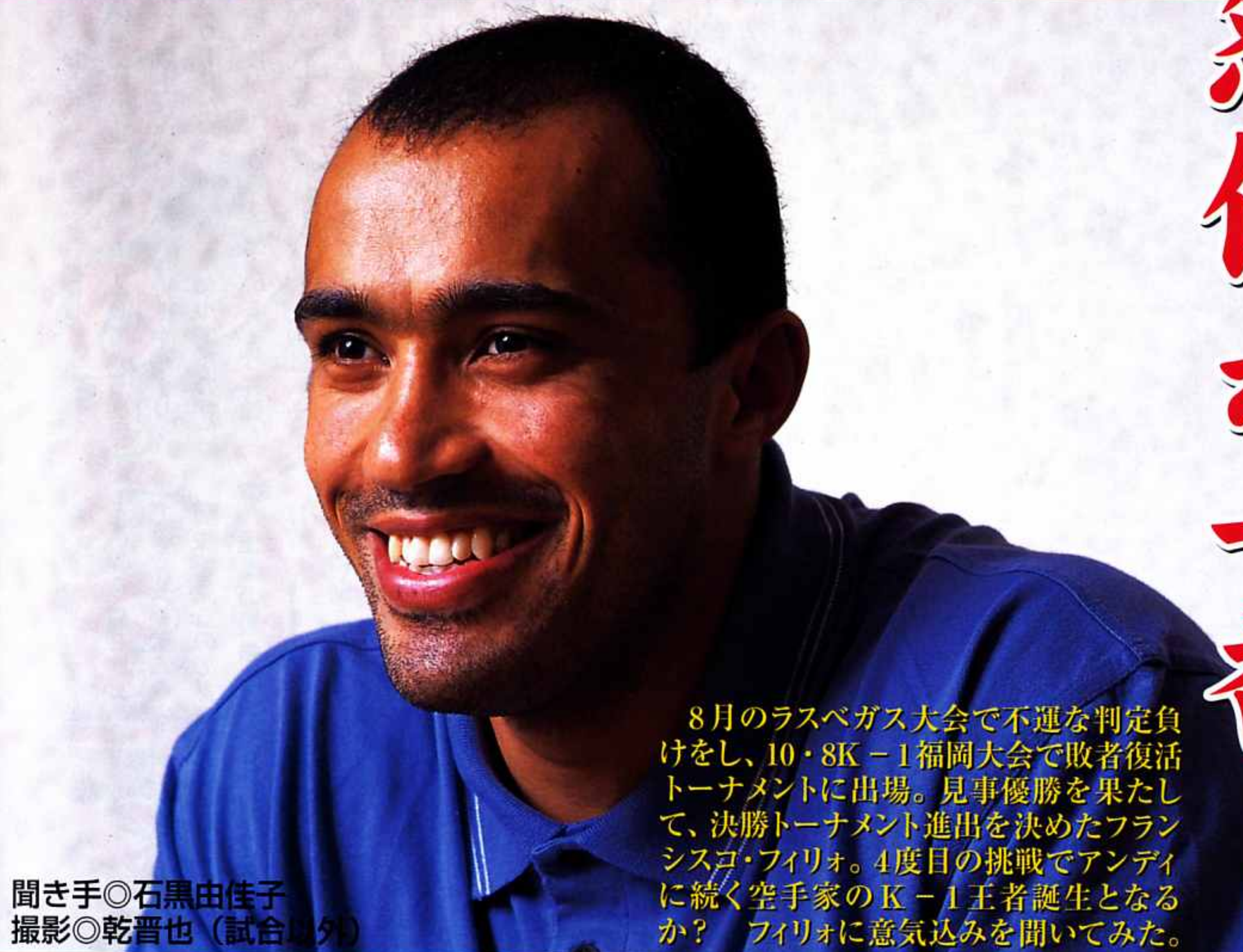
　そのアンディをフィリォは2度一撃で倒しているのだが、磯部師範の話によると、極真の世界大会の時も、K—1のデビュー戦の時も、アンディ戦ほどフィリォのモチベーションが上がっていたことはなかったという。ならば、この2つのアンディ戦の時と同じモチベーションを持てるかどうかに、今年のグランプリの行方はかかっているだろう。

　「今年は優勝する可能性は十分ある」と松井館長も言っている。1回戦のピーター・アーツの体調がどこまで回復しているのか分からないが、たしかにクジ運は悪くない。極真の世界大会を制したという、ひとつの目標を達成してしまったフィリォにとって、そんなにこれからも長く闘いのモチベーションが保てるとは思えない。だったら今年こそ、最大のチャンスかもしれないのだ。フィリォは間違いなく優勝候補の一人だ。（谷川）

Francisco Alves Filho

フランシスコ・フィリォを読みとるキーワード!

いつ何時、どんな状況でも自然体が一番！

▼常に自然体でいることを望んでいるフィリォ。リング上の厳しい表情もいいが、自然な笑顔の表情もまたかっこいい！

8月のラスベガス大会で不運な判定負けをし、10・8K－1福岡大会で敗者復活トーナメントに出場。見事優勝を果たして、決勝トーナメント進出を決めたフランシスコ・フィリォ。4度目の挑戦でアンディに続く空手家のK－1王者誕生となるか？　フィリォに意気込みを聞いてみた。

聞き手◎石黒由佳子
撮影◎乾晋也（試合以外）

――すでに何度も聞かれていると思いますが、10・8福岡大会の感想をお願いします。

フィリォ　自分とグラウベが参戦できたことはとても良かった。2人とも勝てれば、なおのこと良かったんだけどね。

――優勝までの道のりは大変だったんじゃないですか？

フィリォ　たしかにトーナメントで勝ち上がっていく上で、全ての試合を1RKO勝ちできるのが理想だと思う。今回はそうじゃなかったんだけど、勝てた時の喜びは大きかったし、自分としてはいい経験になったと思ってます。

――特に一番良かったと思える部分は？

フィリォ　前よりもパンチを多く出せたことです。あとはパンチからの蹴りのコンビネーションが多く出せたのも良かった。前は蹴りのほうが多かったんだけど、今回は意識的にパンチを出すようにしようと思って練習をしてきたし、実際に試合で出せましたから。

――なるほど。試合を見てて、フィリォさんは非常に慎重に闘ってるなと思ったんですね。それは福岡は敗者復活トーナメントで決勝戦に行ける最後のチャンスという部分を意識したからですか？

フィリォ　たしかに最後のチャンスだという部分も頭にあったし、8月にラスベガスで闘った時はそんなにプレッシャーを感じなかったけど、今回は最後のチャンスということで、かなり慎重になってしまったところはあったと思います。

――今回のプレッシャーは世界大会の時と同じような感じでしたか？

フィリォ　極真の時ほどのプレッシャーは感じなかったです。世界大会は4年に一度ですし、今まで外国人選手がトップに立ったことがなかったという部分で独特なプレッシャーを感じてました。

――そうなんですか。あの、決勝大会の組み合わせ抽選会で、フィリォさんは結局7番目の権利で選ぶ余地がなかったんですが、もし、選べていたら誰と闘いたかったんですか？

フィリォ　自分は抽選会の時に自然に任せるほうを選ぶから、7番目という順番はかえって良かったと思ってます（笑）。もし、選ばなきゃいけない状況だったら……難しかったでしょうね（笑）。自分は常に自然に任せるようにしているので、この質問に答えるのは正直に言って難しいです（笑）。とにかく自分は自然な流れで自分に与えられた相手がベストだと思っているし、なんでも自然の流れでいきたいので。

――ということで、自然にアーツ選手と闘うことになりましたが、いかがですか？

フィリォ　最高ですね。アーツ選手はこれまで3回チャンピオンになっているし、彼と試合ができることをとても光栄に思ってます。勝ち負けはべつにしていい試合ができるんじゃないかと思うし、自分にとってはいい経験になるでしょうね。

――ご自分のブロックについてはどう思いますか？　ニコラス選手もいますけど……。

フィリォ　本音を言えば、ニコラスが別のゾーンにいたほうがベストだったんですが、もしニコラスと対戦することになったらそれはそれで仕方ないですね。

――で、逆ブロックなんですけど、誰が勝ち上がってくると思いますか？

フィリォ　う～ん…………………ホースト……。

――ほぉ～、ホースト選手！　もし、自分が決勝まで上がって、闘うとしたら誰

Francisco Alves Filho

自分が一番気を付けなきゃいけないのは イグナショフ選手かな……

がいいですか？

フィリオ 誰ということはありませんが、強いて挙げるなら、バンナ選手には前に負けてるからリベンジしたいですね。

——そのジェロム選手が抽選会で「オレたちのブロックのほうがホントの闘いだっ！」なんて言ってましたよね（笑）。その時に、フィリオさんが「ん〜？」という顔をしてたのが印象的だったんですよ（笑）。

フィリオ あそこにいた8人はみんな勝ち抜いて選ばれたんだから、それぞれが素晴らしい選手だと思うんです。簡単に勝てるだろうと思っていた試合が、逆に負けてしまうことだってあるわけだし、そういう意味ではあまりあのバンナ選手の言葉には賛同できませんでした。

——たぶん、あの発言の裏にはジェロムが前から「キョクシンとは戦争だ！」と発言してたこともあって、一種の挑発行為のように思えたんですけどね。

フィリオ そ、そうですかねぇ……。

——ええ、たぶん。

フィリオ もし、キョクシンに対抗意識を持って、キョクシンと闘いたかったら、キョクシンの世界大会に出てくればいいし、K—1は別の競技なんだから、彼もそこまで思ってないでしょう。

——でも、フィリオさんにしても、ニコラス選手にしても、ジェロム選手の標的になってますよ。

フィリオ ということは、我々が勝って上がってくると思っているんだろうから、いいんじゃないですか（笑）。

——そう思うと、フィリオさんとニコラス選手が同じゾーンにいるって悲しいですよね。

フィリオ そうですね。できればニコラスとは闘いたくないですね（笑）。

——フィリオさんは、決勝大会の組み合わせを改めて見て、優勝する自信はありますか？

フィリオ ありますよ。

——おおっ。では、決勝大会に向けてどういう調整をしていこうと思ってますか？

フィリオ ブラジルと日本でトレーニングしたいと思ってます。メニュー的には新しいことをやろうとは思ってません。パンチのテクニックを中心にやろうと思ってます。

——福岡大会でセフォー選手とハント選手がノーガードで凄い打ち合いをしたじゃないですか。トーナメントであああいう闘い方をするのって、ちょっと考えられないですよね。

フィリオ ああ、あの試合は少し見ました。とても美しい試合だったと思うけど、自分ではああいう試合はやらないと思います。ガードをあんなに下げるとリスクも大きいし、自分だったらあそこまではやらないですね。

——今年の決勝トーナメントは、ベテラン4人と新鋭4人という感じなんですけど、新鋭4人についてはどう思ってますか？

フィリオ レコ選手は新鋭じゃないですね。イグナショフ選手は今までにはなかったムエタイのタイプ。ハント選手はセフォー選手にタイプが似ているし、自分にも近いスタイルですね。自分が一番気を付けなきゃいけないのは、イグナショフ選手かな。

——イグナショフ選手のヒザ蹴りはちょっと凄いですもんね。

フィリオ イグナショフ選手と正確な距離をとりながら闘うのは、とても大変だと思います。

——ニコラス選手は大変ですよね。

フィリオ でも、ニコラスにとってはいい経験になると思いますよ。

——フィリオさんがK—1初参戦した時にアンディさんと対戦して劇的なKO勝利をしましたよね。その時に「五感を研ぎ澄まして、何かが来たから手を出したらアンディが倒れていた」とコメントされてましたけど、今はK—1でも何戦も経験してますが、そういう気持ちはもうないですか？

フィリオ 五感を働かせて考えながら闘っているのではなくて、KOとかが生まれる時というのは、自然にそういう瞬間がくるものだと思いますよ。だから、特に五感を使ってということよりも、自然にくるタイミングなんでしょうね。

——ここでも〝自然〟がキーワードなんですね（笑）。今、新しい競技にチャレンジする人が増えているんですが、その理由として自分のやっているベースがどこまで通用するかというのがあるんですが、フィリオさんがK—1に挑戦しようと思った時は、自分の空手がどこまで通用するかということを試したかったからですか？

フィリオ どこまで通用するかということを考えて参戦したのではないです。もし、どこまで通用するかということを考えるのであれば、ルールに規定のあるリングに上がるよりも、何も規定のない自由な闘い、要するにケンカのような形であれば、自分の空手がどこまで通用するかということを試せると思います。だけど、K—1に参戦した理由はそうではないですよ。

——じゃあ、K—1に参戦するということで、K—1ルールで勝つためのスタイルに合わせていこうという感じなんですか？

フィリオ 空手家にとってはK—1のルールはデメリットのほうが多いんですね。そういうところで、何がデメリットなのかというのは考えました。ただ、空手がどこまで通用するかってことは考えてませんね。

——では、いずれは空手がどこまで通じるかというステージにぜひ立ってくださいね（笑）。

フィリオ あなたも一緒にやるのであれば（笑）。

——私は空手をやっていないので、チャレンジできません！　とにかく、K—1 GP頑張って優勝してくださいね。

フィリオ アリガトウ（日本語で）！■

▲フィリオは最近のK－1の試合ではパンチを多用している。決勝大会に向けてもパンチを重視した練習メニューを行うそうだ

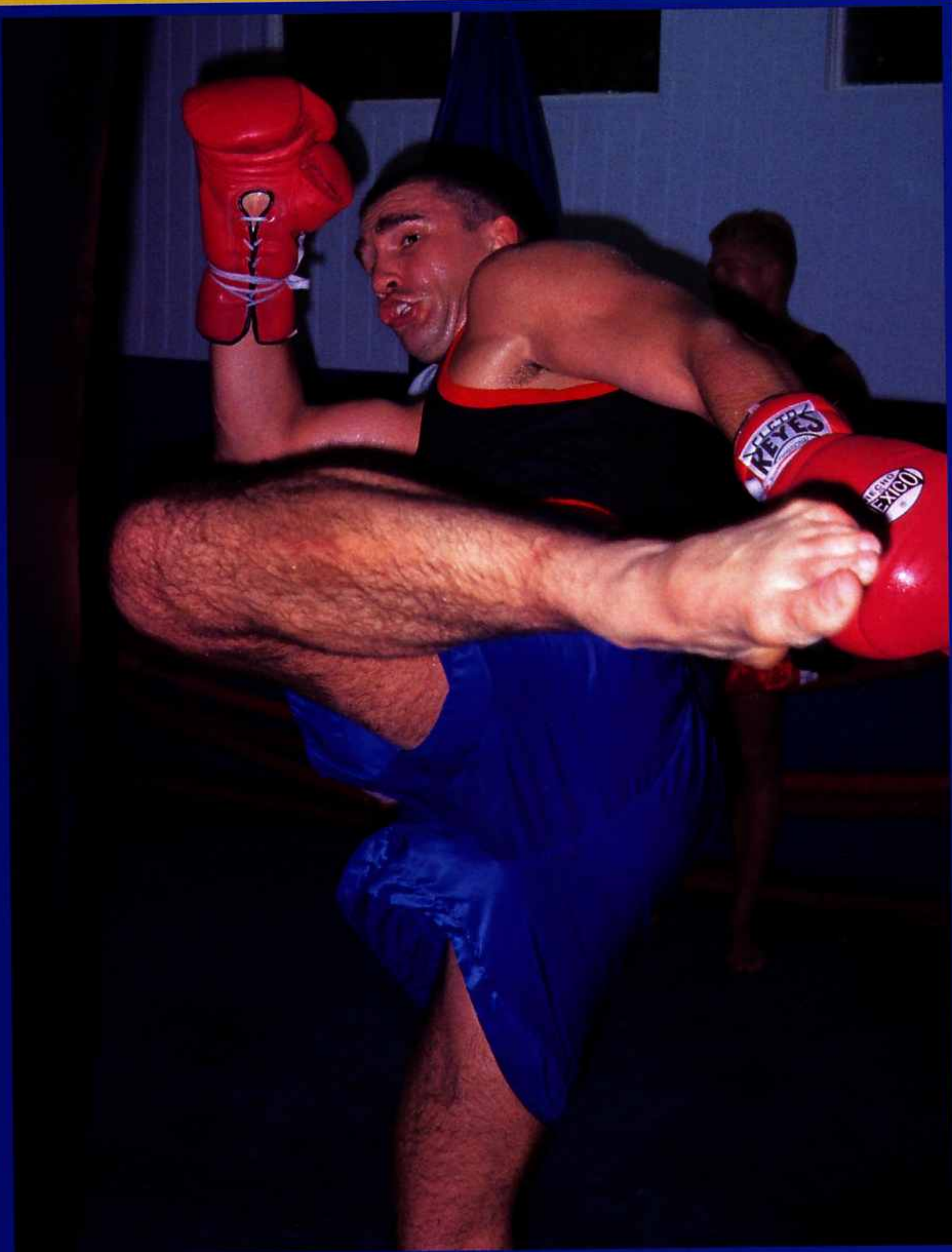
K-1を制するのは今年も格闘技王国オランダだ!

取材＆文◎遠藤文康

大本命はやはり、アーツ＆ホースト!

1994,95,98年 K-1 GP王者

1997,99、2000年 K-1 GP王者

強いアーツが帰ってくる！

まずは結論から述べよう。
アーネスト・ホースト。変わらぬ安定状態で絶好調。そして復活の危ぶまれていたピーター・アーツ。彼もまたなんとほぼ完全な状態まで体調を取り戻し絶好調。このことをまずはファンに知ってもらい安心してもらいたい。
まずはアーツの状態から報告しよう。

11月12日 月曜日 メジロジム

月曜のメジロはサンドバッグを使った打撃の基礎トレーニングが基本。
そこでアーツは鬼気迫る練習に汗を流していた。練習のパートナーはジアド・ポリヨ（コンバット・ジーヨ）だ。
今年のアーツ不調の原因は、昨年7月22日にメジロで練習開始直後に襲った腰の激痛だった。その瞬間を偶然に目撃していた筆者としては、動くに動けず、立つに立てないアーツを見て「これは長引くかもしれない」と直感的に思った。指圧の心得のある筆者友人に、その場でうつぶせになって指圧されたアーツは何とか立ち上がれるようになり、ゆっくりと着替えてジムを後にした。スポーツバッグすら持てない状態で、車まで運ぶのを手伝った記憶がまだ鮮明に残っている。
あれからのアーツはだましだまし闘ってきたと言ってよい。そして今年7月。赤ん坊誕生で練習にあまり時間がとれなかったアーツが、メジロに久しぶりに顔を出しラスベガスに向けて始動。3回目の練習の時に再び腰を痛みが襲ったのだ。だから、あのステファン・レコに壮絶なKO負けを喫した時のアーツは最悪の状態でリングにいたのだ。ラスベガス後にトレーナーのアンドレ・マナートはこう言った。
「アーツは厳しいかもしれない。目から炎が消えたから」と。負けて元気なハズがない。帰国してからのアーツはモチベーションが下がった。練習に顔を見せる状態ではない。気持ちの切り替えに時間を要し、その間に懸案だったヒジの手術も行った。ところが、ファン投票で決勝トーナメント出場が決定したことを聞き、生来陽気な彼の中で、再び消えていた炎に火がついたのだ。
マッチメイクのくじ引きに日本へ行くことを兼ねて、アーツは日本で徹底的に体のオーバーホールに時間を使った。気功師までも使った。心の中に背水の陣を敷き、生命の中に刃を置いてアーツはコンディション復活に徹した。
オランダに帰国したアーツはメジロの練習には顔を出さず、マナートの了解を取って、ドイツのバーデンバーデンという町でキャンプをはった。山を上り徹して体力回復に時間を費やしたのだ。朝夕と3時間のマラソンをした。
状態が良くなるにつれ、ジーヨを相手に激しいスパーリングも開始。ジーヨとともに、オランダからヤン・ウェッセル

Peter Aerts

も呼び、スパーリングを重ねたのだ。それらを納得するまで終えてメジロに顔を出したのが11月12日の月曜。実にラスベガス以後、初めてのメジロ入り。そして繰り広げられた練習でのアーツのその姿は、ほぼ全盛期の状態に戻っていたと言って過言ではない。

11月下旬からは再び場所を変えて合宿に入るという。万全を期している。

——絶好調のように見えます。

アーツ ハイ。ダイジョウブ。

——腰は？

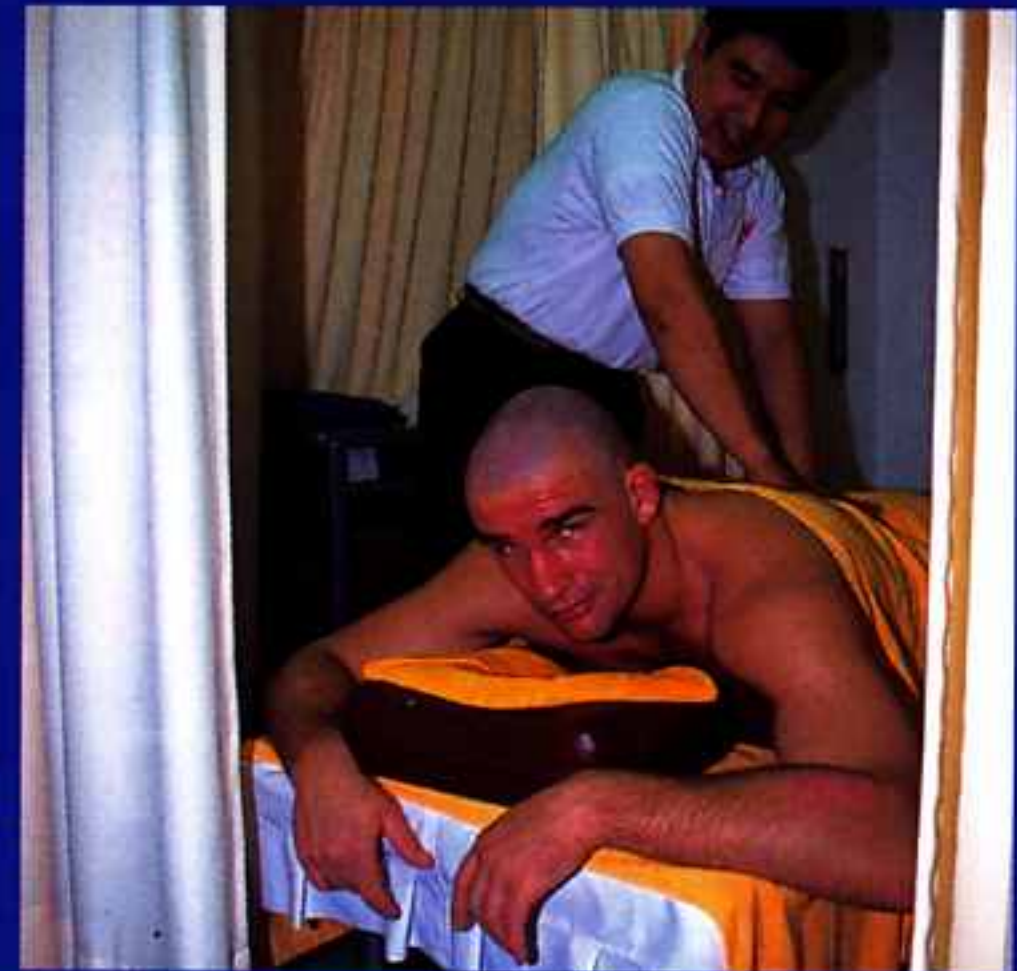
アーツ ダイジョウブ。治したよ。スタミナをつける練習をずっとやってたんだ。4週間合宿したんだ。ポリョと。彼のところはバーデンバーデンという保養地だしね。山を走ったよ。毎日。もう体力はすっかり回復したよ。

——ヒジは？

アーツ まだちょっとね。僕がヒジを手術したことは他の選手もみんなもう知ってるだろうけど、問題はないよ。

——痛みは？

アーツ それはない。腰が治ったのでガンガンいけるしね。もう一度本来のアーツをみんなに見せることができるよ、間違いなくね。オランダで1週間練習して最終調整でまた合宿に入る。場所は○○だけど、内緒ね。秘密兵器も開発してるんだよ。これも内緒ね。

▲▶トーナメント抽選のために日本に来たアーツは、スイミングとマッサージでオーバーホール

「決勝にはなんとしても上がる。そして、ホーストと決着をつけたい。バンナはホーストに勝てないよ」

まずは元気になった。そして、自信が溢れている。パートナーのポリョは、「一緒にいて日々回復していくのが分かるんだ。どんどん動きも圧力も増してくるんだ。全盛期に近い状態だよ。ひたすら走ったしね」と証言。

秘密兵器とアーツは言った。メジロでの練習を見てると、今まであまり見たことのない技を繰り出すことがあった。恐らくあれがそうなのだろう。ここでそれを紹介することはやはりできない。当日の試合で知ることになるだろう。

アーツ 決勝にはなんとしても上がる。そしてホーストとやりたい。彼もいつものように調子いいはずだ。ブロックが違うから決勝でしかあたらない。やるならホーストと決着をつけたい。彼は必ず決勝に上がってくるはずだから。バンナ？ 無理だろうね。ホーストには勝てないよ。それよりバンナは1回戦のことを心配したほうがいいだろうな。ホーストに会う？ それなら、決勝で会おうと伝えておいてほしいな。

アーツのこの状態は以前どこかで見たことがあると思っていた。そして思い出した。98年に優勝した時だ。

あの時、アーツはザンドフォールトという海辺の町で6週間の合宿をした。毎日基礎トレーニングに徹して汗を流していた。もともと強いアーツだ。それが不安のある基礎体力運動に徹したのだ。指導はスポーツ大学教授のピーター・コープマンがあたっていた。たえず脈拍を測りながらのトレーニングだった。脂肪を落としてパワーをつけることを主眼にコンディションを上げていた。技術的な練習は週に3度。それ以外は体力運動に徹したのだ。あの時と今回がとてもよく似ている。だから、アーツの顔も自信に漲っている。

アーツ 今は何も問題ない。新しい世紀に初優勝を目指すだけだ。

アーツの欠点を書いておこう。

アーツなりに完成されたムエタイの技術はすでにある。いまさら技術的にどうこうというものはない。彼の場合の欠点。

それは彼自身が自分に自信を持てない時。メンタルな部分なのだが、練習が思うようにできなかった時。この時のアーツは弱い。弱気な顔が出てしまう。過去ベルナルドにKO負けした時。ラスベガスでレコに負けた時。同じ表情をしている。ベルナルド戦は過度な自信から来る練習不足と不摂生な生活が敗因。レコ戦は端的に練習不足から来る不安が敗因。その練習を思う存分成し遂げているのが今のアーツだ。ファン投票でアーツに投じた人はそれが正解だったと思えることになるだろう。■

▲腰の不安がなくなったアーツ。体力回復に時間を費やし、全盛期に近い状態に仕上がってきている。優勝すれば3年ぶり4度目となる

王者ホーストに死角なし！

11月15日 木曜日 ボスジム

ドーム決勝までもう3週間だというのにホーストは何も変わらぬ様子で生徒の指導にあたっている。そして実はこの風景は毎度のことなのだ。日本の試合で負けて帰国した時も、勝って帰国した時も、ホーストは変わらずに生徒に指導している。木曜日はホーストの指導担当の日なのだ。

自らの練習を5時に終え、シャワーを浴びてわずかの休息を終えた6時から1回目の指導が開始される。続いて7時15分から2回目の指導。そして8時半から最後の指導。生徒が全員帰った後のジムを整理してホーストは10時過ぎに帰途につく。電車で。

──変わらないですよね。

ホースト あははは、変わらないよ。僕はいつも一緒さ。変わる時って、人間は態度まで変わるじゃないか。僕はそんなのは嫌いだ。僕は僕のまま。ちょっと有名になったからって態度が変わっちゃおかしいじゃないか。

──93年に初めて会った時から何も変わってないですから、この8年。

ホースト 君だって変わってないよ。僕は相手の態度が変わればそりゃあこっちも変わるだろうけど。こちらから態度を変えるなんてことはないよ。それはヒポリットも同じさ。あっ、変わったことがあるよ。2つ。1つはヒポリットがこのジムのオーナーになった95年から僕はコーチの一人になって生徒に教える立場になったってこと。もう1つは日本で頑張ってるから、少し貯金が増えたこと。経済的に余裕ができたことさ。それだけさ。

──選手としての立場でもストイックですよね。

ホースト そりゃ、選手だから。きちんとしないと闘えないから。当たり前のことをやってるだけだよ。

──去年は決勝前に合宿していましたが、今年は？

ホースト もうやったよ。ベルギーの小さい小さい田舎町で。2週間だけど。そこで8割以上体調は仕上げたから。残りのこの3週間で最終仕上げに入るんだ。まま、最後の1週間は特別なことは何もしないけどね。モチベーションをどんどん上げて行く調整になるんだ。

練習には懐かしいロブ・ファン・アスドンクの姿もあった。過剰防衛でベルギーの刑務所に長らくご厄介になっていたが、刑期を終えて練習に復帰したのだ。彼女同伴のアスドンクは背中の刺青を見せてくれた。いやがる彼女の刺青も見せてくれたが、その部分は女性のアソコ。そこには「アスドンク」と彫られていた。笑うよりも、その脳天気的カップルに恐れ入ってしまった。

──フリースタイルは好きですか？

ホースト うーん、見るのは嫌いじゃないけど好きでもないよ。やろうとは全然思わないね。別の競技だしね。ジャンルの違う競技をとやかく言うのも好きじゃないしね（バンナへのあてつけか？）。

──出ないか？　と言われても……。

ホースト やらないね。仮に、やろうとするなら、選手はちゃんと一から練習しないとダメだよ。簡単なことじゃないからね。ミックスファイト（総合）にはそれ用の動きとか論理があるんだから。簡単じゃないよ。僕はキックボクサーだから。総合の選手じゃない。

──ボスジムではフリースタイルのコー

Eernesto Hoost

◀王者になってもずっと変わらないホースト。決戦が目前に迫っても、やはり変わらぬ様子で生徒たちへの指導にあたっていた。勝っても奢らない、常に自然体がホーストの強さの秘訣だ

スが開始されましたよね。

ホースト　そうそう。ヒポがね、やりたいってことでね。総合のいい選手が所属してきたからね。強化のために柔術のコーチも招いてやってるんだ。9月にブラジリアン柔術のヒクソンの弟子が来てセミナーもやったしね。タイプ的に総合をやりたい選手はその練習もやってるよ。アンソニー・ハードンクやジェレル・ヴェネチアンなんかはもう総合の練習してるしね。タイプ的にあってるんだよ。

――ボスジム出身総合選手がどんどん出てきそうですね。

ホースト　だろうね。

――ヴェネチアンと言えば、先月彼はイグナショフを判定で完封しました。

ホースト　うん。イグナショフは動きが鈍かったね。体重が重すぎじゃないかな。ヘビー級って重ければいいってもんじゃないからね。100キロ未満ぐらいがベストだと思うけどね。動きにしても切れにしても。

「ベルギーの田舎町での合宿で8割以上体調は仕上げた。あとはモチベーションを上げていくだけだ」

――彼は順当に勝てばアーツとあたることになります。

ホースト　ピーターはどうなの?

――それが抜群の状態になっています。アーツから決勝に上がるから、ぜひあなたと優勝を争いたいってメッセージです。

ホースト　そう…。やりたいね。イグナショフはヴェネチアンのような動きの速い選手にはダメだったけど、ピーターとなら噛み合うんじゃないかな。

――僕もそう思うんですよ。

ホースト　判定にまでもつれると、スタミナが厳しくなるね。

――そうですね。

ホースト　僕も旧世紀から新世紀にかけて優勝すれば世紀をまたいでずっとK―1の王者だったってことになるよね。

――それも前人未到の3連覇つきです。

ホースト　頑張らないとね。おっと、次の生徒が待ってるから。

　ホーストはいつもホースト。何も変わらず淡々とコンディションを高めている。

　ホーストの欠点を書いておく。

　技術的には間違いなくトップにある。これは誰の認識も一致するだろう。彼の弱点は意外なところにある。過去の敗北の原因はただ一つ。それは子供。フィリォに負けた時。バンナに負けた時。それらは子供の出産の時と重なる。もう子供のことになるとホーストの頭の中は真っ白になるのだ。嘘のような本当の話だ。本人がそう言っているのだ。「子供のことを考えると自分が自分じゃなくなるんだ」と。

　今はその子供のことは何もひっかかりがない。ちょっと気がかりな点と言えば、年齢から来る自然なパワーの減退ぐらいか。それにしたって少々の技術や力技では崩すことなど到底無理な話。見るところ、今のホーストに、死角と言えるものは皆無なのだ。

　3日3月3年という。就職して仕事を辞めたくなる節目によく使われる。

　「3年一つのことが続かない人間は信用できないよ」とは大山総裁の言葉だ。一般の会社でも3年が軌道に乗る目安で、10年続けば一つの形とか伝統が始まる。K―1はその10周年が目前だ。よく考えるまでもなく、この8年、ホーストもアーツもずっとK―1の牽引力としてトップに君臨し続けてきた。今なおK―1の第一世代がトップに存在しているのだ。その両名ともがオランダ人。

　振り返って記録を見ると、初代王者ブランコ・シカティックはクロアチア人とはいえ、実質はチャクリキ出身だった。第2代ピーター・アーツ。亡くなった第3代アンディを挟んで第4代はアーネスト・ホースト。その後はアーツとホーストが王座を分けあうこの歴史的事実を見れば、その全てがオランダ人によってK―1は王座の変遷が行われているとしか言えないではないか。

　イグナショフを応援するも良し、バンナを応援するも良し。極真のフィリォやペタス、それにレコやハントに期待するのもいいだろう。しかしどうだ。やっぱり今年もオランダじゃないのか。

　アーツやホーストの絶好調の様子を見ると今年もまたどちらかが優勝するとしか思えないのだが。■

※注目のマーク・ハントのニュージランド取材は、110ページでお届けします（目次に記載されているページから変更）

▶昨年、GP2連覇を果たしたホースト。そして、昨年は初戦のアビディ戦で勝ったものの負傷のため涙を飲んだアーツ。この2人が2001年GPの決勝を争う可能性はかなり高いと言ってもいいかもしれない

だからこそ、髙田さん今こそ『イノキ・ボンバイエ』に出て！

12/31

非難ゴウゴウ、マスコミ総バッシング

『プライド17』東京ドーム大会が終わって、とにかく話題騒然、物議を醸しているのが髙田VSミルコ戦だ。翌朝のスポーツ紙、プロレスマスコミはとにかくすさまじい髙田バッシング。それに対して、当の髙田延彦はまったくもってめげていない。ヒクソン戦以来、髙田は確実に精神的に強くなっていたのだ。

聞き手◎谷川貞治
写真◎乾晋也

松葉杖をついて現れた髙田は、右足首の骨折でギプスをはめていた。しかし、試合に対して、本人はかなり納得していた

プロレス・マスコミからの批判？ 俺はヒクソン戦でプロレス村から追い出されてるから

―髙田さん、エライ大反響じゃないですかぁ。凄いじゃないですかぁ（笑）。

髙田　嬉しそうだねぇ、もしかして悪魔？

―いやいやいや、とんでもないですよぉ。でも、どいつもこいつも凄い叩き方ですよね。スポーツ紙もプロレス専門誌も凄い非難してるじゃないですか。『週プロ』の表紙が「こんな試合やりやがって」で、えーっと『ゴング』が「これが髙田のやり方か、無惨な集大成」ですよ。正直、髙田さんメチャクチャ怒っているんじゃないかとか、落ち込んでるんじゃないかって思ってたんですよぉ。

髙田　『週プロ』はこの前、インタビュー受けたよ？

―佐藤編集長もよくもまあ、ノコノコと髙田さんの前に顔を出しましたねよぇ（笑）。

髙田　俺もノコノコと受けたよ。

―また、髙田さんも人がいいというか（笑）。

髙田　『週プロ』に関してはね、佐藤氏が試合前に1回インタビューに来たんだよね。それまでまったく接点がなかったからね。で、ミルコ戦のことを語ったんだけど、プロレス雑誌が都合のいい時だけノコノコ出てきやがってと思ったんだけど、真面目に取材しようとするなら一度乗ってみようっと思って受けたんだよね。それに、たまたまなんだけど、『週プロ』の誌面上で、石井館長の例のプロレスラーに対するメッセージがあったでしょう。

―ああ、あれも佐藤編集長が脳天気に館長に言わせたみたいですよ。

髙田　そう。そういうからみもあったからね。俺自身プロレス雑誌に関しては、名前も写真も使ってもらいたくないっていうのが本音だよ。そういう意味で今回の一件は俺と佐藤氏にとって何か意味のあることだったのかもしれないね。だけど、これっきりっていうのもありだな。

―それはどうしてですか？

髙田　俺はヒクソン戦で、プロレス村から追い出されてるんだよ。

―追い出された？

髙田　そんなの分かってんじゃない。ヒクソンが出てきた時、ノコノコ出ていって負けて、プロレスの威信を崩したんだって。プロレス界をどうしてくれるんだ、と。

―はい。

髙田　黙殺、抹殺だよ。

―それが今でも凄く根の部分として残ってるんですか？

髙田　ない訳ないだろ。

―今回のミルコ戦は期待感が大きかった分だけ、ブーイングが凄かったんですけど、それはどうなんです？

髙田　自嘲気味にね、笑いが込み上げてくるんだよね。またブーイングかって。

―でも、ホイス戦とかヒクソン戦に比べて、今回の髙田さんは、全然ブーイングされるいわれはないと思ってるんじゃないですか？

髙田　観客の評価は自由だからね。そこに関して俺は何も言わないよ。たしかに皆が期待していた作品を出せなかった責任はあるよね。

―でも、正直なところ、髙田さん自身は結構満足されてるんじゃないですか？

髙田　自分自身最後まで闘う気持ちを捨ててなかったからね。それを、寝てた寝てたということに全部集約されて、俺自身まったく寝てないからね。気持ちは全然寝てない。まあ見る側の解釈だからしょうがないよ。でも、俺は寝てて夢見てたわけじゃないんだから。寝てるってことに全てが集約されるのは、非常に残念だよ。

―あの時の髙田さんの目は凄かったですもんねぇ。

髙田　それは良かった。

―それをファンはともかく、専門誌にまで言われるのはショックでした？

髙田　全然。それこそ、1回目のヒクソン戦で自分自身が一度完全に終わってるからね。あれからこうやって『プライド』のリングに上がってること自体、本当はないことなんだよ。

―あの時点で、プロレスラー髙田延彦はリセットされたと。

髙田　そのあとの自分が、なんなのかっていうのはまだ分からないけどね。

―ああ、なるほど。だったら、今回のミルコ戦でそれが少しは掴めたんじゃないですか。髙田さん自身には、そういう満足度があったような気がしたんですけ

©Essei Hara

この髙田の形相を見よ！　純プロレスラーの髙田が、こんなタックルを決められるようになったのだ

どねぇ。

高田　掴めてる…………？

――たとえば、マーク・ケアー戦とか、イゴール・ボブチャンチン戦というのは、ある意味、玉砕戦だったわけじゃないですか。でも、今回のミルコ戦は勝てるチャンスもいくつかあったし、ミルコにほとんど打撃をもらってないですよね。

高田　一発もないよ。

――だから、高田さん自身、何かその答えが見つかったんじゃないのかなって思って。

高田　べつに答えが見えなくてもいいんじゃないかと思ってるよ。たしかに勝ちたいし、いつもそのつもりでリングに上がってんだけど、果たして勝てば答えを出したことになるのか。あるいは、自分がリングに向かえることで、すでに答えを出してるのかもしれないし。現時点では分からないよね。

――ああ。

高田　今回はね、ホント練習すればするほど体が壊れていったんだけど、気持ちの部分では『プライド』に上がってから一番いい自分に仕上げることができたんだよ。入場を待っている時、ホント気持ち良かった。楽しくてね。楽しいという言い方が伝わるかどうか分からないけど、大好きなところに向かっていくというか、そういうポジティブな高揚感があったんだよ。なんでもエネルギーにできそうないい状態だね。だから、歓声とかじゃなくて、自分をそこまで立ち上げて、リングに向かっていくことができたことが答えだったかもしれないね。

――じゃあ、ああいうふうにマスコミに言われたことに関しては、どこを見てるんだって感じなんですか？

高田　さっきも言ったけど、それは見る人の解釈で、自由だからしょうがないなと思う。だから、それに対してもね、自分がもし次に試合に出ていく時に、どれだけみんなが期待感を持ってくれるかというのが、その証明になると思うんだよね。それで自分自身の存在意義を確認するよ。

――じゃあ、ブーイングを浴びてこれで辞めよう、引退しようっていう気持ちにはならなかったんですね。

高田　ないよ。

――それは良かったぁ。

高田　それはまったくない。本当に100％勝ちにいったし、やれることはやったという思いがあるからね。それに対して、賛否両論があるのは仕方がないよ。

寝てるってことで全てを集約するのは非常に残念だよ

――それだけ期待感の裏返しでもあるわけですからね。

高田　嬉しいねぇ。

――対戦相手のミルコもボロクソに言ってたでしょ。

高田　だから、パフォーマンスでしょ。俺のことを「チキン！」って言ってるなら、それをやっつけられないヤツはチキン以下だよ。ヒヨコだよ。

――ヒヨコ！（笑）。

高田　あいつは何もしてこなかったからね。

――高田さん、今回もホント、きれいな顔して帰ってきましたもんねぇ。

高田　今回はかなり顔をやられると思ったんだけどね。

――だから、これだけブーイングとか、物議を醸しても、高田さん自身は凄く手応えを感じてるんですよね。

高田　最近、毎日が楽しくて仕方がない。

――でしょう（笑）。だったらね、高田さん、プロレスマスコミとか、ブーイングしたファンをギャフンと言わせるために12月31日に出てくださいよぉ。もう、今のタイミングが一番いいですよぉ。

高田　あなたは………鬼？

――いやいやいや、今ですよ、高田さん。

高田　どこ見て言ってんの、この解説者は？

――どこって、高田さんの目を見て。

今、やっとこの闘いが面白くなってきた でも、俺には時間がないんだよ、時間が

高田　違う違う違う、足、足！

—あっ、骨折……。

高田　あのねぇ、日常生活もままならないんだから。靭帯もやってるからね。恐ろしいこと言うねぇ。

—いやぁ、どこからか気功師とか、超能力者を見付けてでも、高田さんの足を治したいなぁ。

高田　見付けて来てよ、どこかで。

—出てほしいなぁ。正直、高田さんとK—1の他流試合は、ある意味、噛み合うと思うんですよ。凄く緊張感も出るし。

高田　うん、緊張感あるね、たしかに。

—なんか、バーリ・トゥードに慣れた人との闘いよりも、K—1ファイターのような一発の武器が優れた選手との闘いのほうが、スリリングですよね。ミルコともう一度見たいし、他のファイターも同じタイプだから面白いんじゃないですか？　勝てますよぉ。

高田　うん。でも、一番総合に向いているのはミルコじゃないかな。K—1の中では。

—ああ、ミルコ。じゃあ、ミルコで。

高田　このオッサン、ホントいけしゃあしゃあとね（笑）。

—でも、高田さんなら治しちゃうんじゃないかなぁ（笑）。

高田　でも今回は自分でもよく仕上がったなと思ったね。試合1週間前に靭帯やっちゃったし、2カ月くらい前から、ずっとカゼを引いてたしね。セキとタンが止まらなくて。で、3週間前にもギックリ腰やっちゃったからね。もう開き直って、腰とヒザに注射をバンバンに打ってたよ。

—よく試合に出てきましたよねぇ。

高田　サクにも言ってたんだけど、ちょっとお祓いしないとダメだね。いくら練習してても、そりゃあないだろうって。大事な試合の前に、こんなに続くのはおかしいよ。サクも肩やられちゃったでしょ。だから、ケチらないでお祓い料はずんで、もう貯金全部はたくくらいのつもりでやろうかって（笑）。

—お祓いで気分一新して。

高田　もう100メーターくらいの振るヤツを作ってもらってね、クレーン車かなんかでお祓いしてもらうの（笑）。そのくらいやらなきゃおさまらないよね。

—でも、そこまで気持ち的に作り上げられたのは、なんだったんですか？　それほどミルコとやりたかったんですか？

高田　責任感だね。

—男らしいなぁ（笑）。

高田　やっぱり一つの大きなカードだということは分かってたからね。それで休むことは絶対にできなかったというね。だから、試合前の練習は怖かったねぇ。ローキック一発で靭帯伸びちゃうこともあるし、あとカウンターをバチンともらうこともあるしね。楽しい反面、ケガをするのが怖かった。年齢的にも治りが遅くなってるからね。でも、昔の悲壮感じゃなくて、いい意味での責任感みたいなものが強く持てたのが良かったね。

—そんな高田さんの勇気とは裏腹に、新日本の選手は12・31に出場するかどうか迷ってて、藤田選手はもし中西や永田が出て来ないんだったら、ヘタレだって発言しているんですけど。

高田　ヘタレはある意味、新日本の伝統になってきているでしょう。今、始まったことじゃないよ、それは。だってヒクソンが出てきて何年よ。UFCが出てきて7年？　8年？　今、黒船が来たわけじゃないからね。

—いつまで経っても、と。

高田　8年経って、何も反応しなかったでしょう。ある日突然、『プライド』が誕生した。それである程度、純プロとの区分けがされたのにもかかわらず、藤田が負けることによって、K—1とか、ミルコが飛び込んできたわけじゃない。にもかかわらず、まだ何も対応できないというのが答えじゃないの。

—もう、伝統になってると。そんなヤツらに比べれば、自分のやってることは……。

高田　そんなことは考えてないよ。それは自分が行きたいから行ってるだけだよ。だから、俺は若くてイキのいいのに、どんどん譲るって言ったじゃない。そいつらが「高田引っ込んどけ」って言ったら、いつでも譲ったよ。自分が藤田戦を見て感じたり、館長の言葉に感じて思いを巡らせたから行ってんだよね。でも、プロレスラーなら、そういう思いは必ず持ってるでしょ。

—そんな中で格闘技のベースのない純プロの高田さんが、ここまで作り上げてるっていうのは偉いですよね。タックル一つ取るのだって、本当に大変だと思い

3R以降、負けない作戦に転じた高田。このマットに背中をつけた闘いは、果たして本当に悪かったの？

一応31日を目標にするわ。よーしっ、明日から縄跳びするか！

ますけど。

高田　大変だね。基本がなかった俺のような人間が、タックル警戒しているヤツから取るのはホント難しいよ。練習でやってる何千本、何万本の中の一本だよ。

――だから、ファンとのギャップはあるかもしれないけど、今が一番楽しくなってきたというのはいいなぁ（笑）。

高田　だから、時間がない、時間が。

――あと5年くらいやってくださいよ。

高田　あと5年って、45だよ。あなた、ホント悪魔？　だからね、そこがジレンマなんだよ。そういう楽しい時期に差し掛かって、ふと自分を振り返ったら、もう来年40だよ。だから一個一個ね、確実に目標を持ってやっていくよ。

――今、振り返って小川戦よりミルコを選んだことは、どうですか？

高田　正解だったね。自分はいつも、たとえ負けても1回も選択を間違ったなんて思ったことはないんだよ。

――小川選手はもう髙田さんとはやらないって言ってましたよ。

高田　じゃあ、止めるよ。

――今後なんとか……。

高田　もういいよ。よく分からないから。だいたい俺のことを批判するなら、K―1退治の手本を見せてよ。ヘタなドラマに出てる場合じゃないでしょう。

――そのとおりですよぉ。でも、髙田さんも時間がないんなら、やっぱり出ましょうよ、12・31。

高田　まったく「あと5年」とか、12・31とか、悪魔だね。間に合わないよ（笑）。だいたい間に合うってこと自体危ないよね。こういうケガは、ゆっくりと時間をかけて治していかないと。本当に気功師とか霊媒師とか連れて来るの？

――みんな連れて来ますから（笑）。

高田　よけいに危ないって！

――今回のようにホント、間に合っちゃったらいいのになぁ。

高田　だから……そんなもん出られるか！

――でも、髙田さん、本当に精神的にも逞しくなりましたよね。前だったら、佐藤編集長のインタビューなんか受けてなかったでしょ。

高田　うん、強くなったね。

――もう凄く落ち込んでたとばっかり思ってましたよ。やっぱりヒクソン戦が大きかったんでしょうね。

高田　まあ、たまたまこういう結果になってね、勝って凄いリアクションがあるんならこれ以上のことはないんだけど、どっちにしても全ての評価を、また自分を作るエネルギーにするよ。応援してくれた人たち、そして試合後のあたたかいメッセージを送ってくれた人たちに心から感謝したいね。

――だから、今度は勝って見返してほしいんですよね。ホント早くケガを治してリングに上がってもらいたい。

高田　じゃあ、一応31日を目標にしておくわ。

――えっ、ホントォ？

高田　約束はしてないよ、全然（笑）。

――じゃあ、目標ということで（笑）。そうしたら、早く治りますよ、きっと。

高田　いいこと言うねぇ（笑）。

――そうですよ、髙田さん。あと1カ月半しかないと思わずに、1カ月半もあるんだと思ってください。

高田　なるほどねぇ………なんか宗教やってない？

――いやいやいやいや、そんなことはないです。

高田　そうだね、そのくらいの気持ちで治すよ。よーしっ、明日から、縄跳びするか！

――さすが、髙田さんだなぁ（笑）。■

©Essei Hara

「永田先輩には自分の気持ちを貫いてほしい!」

渡米直前、いよいよ総大将の藤田和之が動き出す!

先週末、アメリカに向けて出発した藤田和之。アメリカからはブラジルに飛び、マリオ・スペーヒーからブラジリアン柔術を習得するという。そんな藤田にあらためて『プライド17』を、そして未だに『猪木祭り』参戦を明言していない、小川直也と、ミルコ戦に名乗りを挙げた永田裕志についても聞いてみた――。

聞き手◎〝Show〟大谷泰顕
撮影◎乾晋也

いけど、高田選手自身は「ブーイング?」

藤田 そんなこと言ってたの?（苦笑）。

▲髙田VSミルコ戦で藤田は、藤田VSミルコの日に倒れた、ブライアン・ジョンストンのTシャツを着て、髙田のセコンドについた。「髙田さんの呼吸で闘ってください」と話したという

——藤田さん、今日はあらためて『プライド17』のことを聞きに来たんですよ。

藤田　忘れちゃったよ（苦笑）。去年の話みたいじゃないですか（笑）。

——まだ10日くらいしか経ってないじゃないですか！（笑）。

藤田　何を言うんですか？　どの試合？

——じゃあまず第1試合の小原道由選手はなぜああなっちゃったのかなあと。

藤田　どの試合も、お互いが攻め込んで行ったら、必ずしもいい試合になるわけじゃないし。いい試合になることもあるけど、どっちになるかは分からないし。お互いに譲らないで、勝ちにこだわれば、それがいい試合になるのかならないのかは、本人が一番よく分かってると思うんで。それは全部の試合に対してそう思うんですけどね。でも、それはそれでいいんじゃないですかね。勝ちにこだわるっていうか、勝負にこだわってるわけだから。だから勝ち負けにこだわるのか、内容にこだわるのかの違いですよ。それが一番。それは本人が一番よく分かってますよ、どの選手も。

——とはいっても、やっぱり第1試合だし、小原選手に対しては特に「新日本プロレス」の選手だと思うから、僕でなくても期待しちゃうと思うし。

藤田　結果的にいい時と悪い時があるから、これぱっかりは難しいですねぇ……。実際、試合が終わって、どういう内容か、結果か、評価かっていう。

——正直な話、期待してただけに……。

藤田　期待はね、必ずしも期待以上の結果が出るとは限らないし、期待を裏切ることが、また次の試合につながるかもしれないし。なんとも言えないですよ。そんなことは、俺なんかより小原さん自身が考えてると思うんで。

——結果的に、残念ながら今回は日本人選手は誰も勝てなかったのに、唯一負けなかったのが髙田選手だったんですけど、VSミルコ戦についてはどう思いました？

藤田　いや、なんかアクシデント。コンディションが良くなかったみたいで。トラブルがあって。「あれっ？」と思ったんだけど、それでちゃんと対応して、闘いを変えられるっていうのは、精神的に余裕があったんだと思うんで。それは素晴らしいと思いますよ。

『プライド17』？　髙田さんにしても桜庭さんにしても、あそこまで行くと、みんな芸人クラスですからね（笑）

——強がりかもしれないけど、髙田選手自身は「ブーイング？嬉しいね。ブーイングされてるうちが花だ」って言ってたんですね。

藤田　ブーイングされるってことは、期待されてるってことだから。

——試合中に、セコンドについてた藤田さんが「こうしてください！」みたいなことは言わなかったんですか？

藤田　僕が言ったのは、「自分の呼吸で、ちゃんと自分で『間合い』を取って、ちゃんとガードして」って言っただけで、それをしっかりやった上であぁいう作戦を本人が自分の意志でできたってことは、それだけ冷静に対処できたってことだから、さすがだと思いますよ。

——セコンドについてた藤田さんとしては、試合中に髙田選手がケガをした場面って分かりました？

藤田　いや！　セコンドから見てて、3ラウンド……。途中でね、インターバルの時に「足をちょっとやった」って言ってたから。

——結果的に全治2カ月みたいなんですけど、例えば藤田さんの判断でタオルを投げるとか、そういうこともできなかったんですか？

藤田　いや、本人が闘う意志があったから。それが立ってる状態か、寝てる状態かの違いだけで。闘う意志はあったわけだから。みんながそうやってマイナスに言うと、みんなそういうふうに見ちゃうから。

——いや、そういう話もあるけど、同じ「猪木軍」の安田忠夫選手は、「俺でもできる『前に出る』」っていうことが、あの日の髙田延彦にはできてなかった。たしかに、あっちも俺も『プロレスラー』と呼ばれてるけど、俺は一緒にされたくない」って言ってたんですね（笑）。

藤田　そんなこと言ってたの？（苦笑）。

——言ってましたね（笑）。

藤田　いや、もっと肩の力を抜いてね。いろいろな意見をね……。ていうか、俺なんかがそれに対していろいろと言うのもナンだから。最終的には本人が判断して、試合を運んだわけだから。

——見方によってはですけど、藤田さんはファーストコンタクトでレフェリーストップ負けだったけど、髙田選手は最後まで負けなかったわけだから、藤田さんよりも上っていうか。

藤田　あ、そうですよ、上ですよ！　そういう結果論だけで言えば！

——結果論で言えばね（笑）。

藤田　勝ち点が2点だとして、負けが0点だとすると、引き分けが1点だから。俺は0点ですよ（笑）。

——ま、そうなりますよね（笑）。

藤田　いや、あの試合は全体的な内容として考えると、髙田さんは自分の呼吸で、自分のやりたいように闘ってたわけだから、その点では髙田さんが引っ張ってたっていうふうに見ることもできますよね、見方によっては。

——なるほど！

藤田　冷静に判断してましたしね。対応してましたから。たまたまああいう闘い方になっただけですよ。

——ただ、あの試合直後の髙田選手曰く「また、ブーイングかよ」って思ったらしいですよ（笑）。

藤田　いや、ブーイングすら起こらなかった時のほうが怖いですよね。

——なるほど、なるほど。試合前に「何かアドバイスをした」って言ってましたけど、どんな話をしたんですか？

藤田　いや、特にアドバイスみたいなことは……。

――「言ったらミルコに伝わっちゃうから、試合前は言えない」って言ってたじゃないですか。

藤田　今も言えないですよ。言ってないから（笑）。

――実は何も言ってない（笑）。

藤田　いや、ホント試合中にセコンドにつきながら、「自分の呼吸でしっかり闘わなくちゃダメですよ」って、そのくらい。それができれば、冷静に判断できるから。結局、試合はずっと髙田さんのペースでしたからね。ミルコがイライラしてただけで。入り込めばいいだけの話なのに。髙田さんが誘って誘って。それがたまたまブーイングってなっただけかもしれない。

――じゃあメインの桜庭VSシウバ戦はどう見ました？

藤田　そりゃあもう、桜庭さんが勝つだろうと。

――結果的にケガしちゃいましたけど。

藤田　あれはアクシデントだから。内容的にはね。ケガして、止められちゃったらね。試合続行できなかったらしょうがないですからね。俺はそれを経験してますから。

――ミルコ戦でね。

藤田　本人は当然「やる」っていう気持ちはあっただろうし。やった者しか分からないからね。凄く分かりますよ（苦笑）。

――ケガが分かるまでは、1ラウンドの試合内容はどう見ました？

藤田　冷静にサバいてるようにしか見えなかったから、「あれっ？」と思って。試合の内容としては桜庭さんがシウバに攻撃しただけで、しっかりと対処してるふうに見えたんでね。その辺は髙田さんにしても桜庭さんにしても、あそこまで行くと、みんな芸人クラスですからね（笑）。

――芸人クラスですか（笑）。

藤田　どうしていいのか分からないぐらい（笑）。

――試合後の、桜庭さんの涙はどう思いました？

藤田　いや、桜庭さんがどうというよりも、俺も泣きたかったですよ、ミルコとやった時（笑）。

――あの時は涙じゃなかったから（笑）。

藤田　涙じゃなくて、血が出ちゃったから。赤い水分がいっぱい出ましたよ（笑）。

▲藤田は今年6月には永田とともにタイにも訪れている。この時、永田も「行けば分かるさ！」の意味を悟ったのか？　また藤田に対して「藤田VSK―1の1対7なら、ギャラ7倍ですよ（笑）」と問うと、「いや、ギャラ7千倍か7万倍（笑）」との返答だった。いくらなんでも、それは難しい!?

今と明日じゃあ食べたい物は違うから、『猪木祭り』の相手は K―1GP王者に相当するファイターなら、誰でもいい！

――複雑な心境ですね（笑）。じゃあ『プライド』のヘビー級タイトルマッチについては？

藤田　あの試合は凄く技術的な攻防が見られて良かったですよ。

――『プライド』のベルトはどう思います？

藤田　ベルトは何本もあってもねえ（笑）。ただ、狙うなら照準を絞って。もらえるならもらいたいですね。そのくらい価値のあるベルトだと思うし、価値のある試合だったと思うし。

――で、聞くところによると、海外にトレーニングに出るみたいですけど、日本を離れるとしたら、どんなスケジュールになりそうなんですか？

藤田　まずアメリカで練習して、11月末からブラジルのリオ・デ・ジャネイロに向かいます。ブラジリアン・トップ・チームと練習します。大晦日に向けて合同トレーニングに励んでいるそうなので、そこに合流しようかなと。

――柔術の練習というのは？

藤田　やったことないです。初めてです。

――今回、なんでブラジルで柔術を練習しようと思ったんですか？

藤田　柔術の練習をしに行くというのではなく、柔術出身の選手が物凄く活躍しているその原点を感じ取れたらいいなと思って、今回のブラジル行きを決めました。柔術入門に行くわけではないです。自分たちの柔術をベースにして、どうやって総合に入っていったのかなっていうのを知りたかったんで。

――そうかそうか。でね、最近誰のことかはともかく、藤田さんがいろんなところで「ここまで来て『猪木祭り』に（新日本プロレスから誰も）出なければヘタレ」って言ってるじゃないですか。

藤田　いや、誰ってことじゃなくて、もっと自分の意思を持って。みんないろんな状況があるのかもしれないけど、なんでもかんでも周りのことを気にしすぎると、せっかくの目の前のチャンスを逃してしまうこともあるから。やっぱりそういうタイミングとか、チャンスが目の前に転がってたら、自分の意思をしっかり現さないと。自分の気持ちなんだから。目の前のチャンスが通りすぎちゃったらねえ？　やっぱり迷うのは迷うだろうけど、「あのぐらい」とか「このぐらい」でいいんじゃなくてね。「あれ以上」「これ以上」はやらないと、世代は交代しないから。

――最近、藤田さんが言った言葉に「このままだとプロレス界は見下される。大晦日に一発勝負を賭けるヤツはいないのか！」っていうのがありますよね。

藤田　チャンスが目の前にあるのに、指を食わえて見てるのもねえ？　勝負を賭ける時は勝負を賭けないと。2度とチャンスは来ないのかもしれないし。その判断は、本人が一番分かってると思うから。これ以上は言わないですけどね。きっとみんな準備してますよ。ただね、どこで手を挙げるかっていうね。どこで意思を固めるかっていうところに分岐点があると思うから。でも今ね、誰も行かないから、チャンスなのに……。

――みんな「藤田和之にはなりたくない！」と思ってるんですかね（笑）。

藤田　きっとそうでしょう！（笑）。

――ベルトも巻けたし、ギャラも上がって、いいことばっかりなのにねえ？

藤田　でもその分、いつ落ちるかっていう。崖っぷちに立って、下を見てるんじゃないですか？

——みんなは、藤田さんが崖っぷちに立って下を見てると思ってると。

藤田　上を見てるのにね（笑）。

——崖っぷちに立っていても（笑）。安田選手が言ってましたよ。

藤田　なんて？

——「藤田クンはいいよなあ。ベルトも巻けて。俺なんか、ベルトどころか、タッグも含めて、まだ1回も挑戦すらさせてもらったことねえんだぞ!」って。

藤田　早いもん勝ちだから（笑）。みんなが考えないことを先にやらないと。コロンブスの卵みたいなもんですよ。なんとも言えないです（笑）。

——ただね、先週発売された『週刊ゴング』（11月29日号）に永田裕志選手が「藤波社長と話して、『猪木祭り』でミルコと闘いたい、と伝えた」旨の記事がありますよね？

藤田　それに関しては、僕が聞いたところによると、本人は「凄く出たい。大晦日の試合に興味がある」と。その中でやるんであれば、ミルコと、という話をチラッと聞きました。本人の気持ちとしてはですけど。

——本人から直接聞いたと。

藤田　あとはいろいろと、新日本プロレスとか周りとかの兼ね合いがあると思うんで。その辺の調節がうまくいけば。出る出ないは別として。まだ決定事項ではないんですけど、気持ちは聞きました。

——じゃあ「ヘタレ」って言った甲斐があったというか（笑）。

藤田　だからそれは、叱咤激励という言葉があるように、ちょっと叱咤しただけですよ（笑）。いいことじゃないですかね。とてもいいことだと思います。いよいよ動き出したかな、と。

——もちろん藤田さんとしては、永田選手にもやってもらいたいと思ってる？

藤田　う～ん。出るからには、いろいろとメリット、デメリットあるけど、相手としてはいろんな意味でミルコ以外はないんじゃないかな、と僕は思いますけど。本人もそういう気持ちだと思います。あとは周りが言うと、両サイドのいろんな意見があるんで、それをうまく調節しながら自分の気持ちを貫いてほしいと思います。

——そのことを猪木さんは知ってるんですか？

藤田　もう知っているんじゃないですかね。本人の気持ちは決まっているんで、あとは周りの兼ね合いが必要だと思います。まあ、いい方向に進むんじゃないですかね。まあ、本人はいたって前向きのようです。1人で動いているわけじゃないんで。やっぱり大きな組織なんで。みんな勝手なことばっかり言ってると、まとまりつかないから。本人はそういうところを一番気にしているんじゃないですかね。個々の動きがあって、大きな動きになると思うんで。ひとり一人が変われば、全体が変わると思います。

——藤田さんとしては「自分の気持ちを大事にして、やりたいことはやったほうがいいよ」ってアドバイスはした？

藤田　アドバイスなんてそんなおこがましいことは（笑）。本人が一番よく分かっていると思うんで。僕より大先輩ですから。

——そうかそうか……。ところで、最近の藤田さんの記事には「大晦日の相手はバンナかミルコ」って載ってたりしてて、『プライド17』の翌日のファンクラブパーティーの時は「K—1GP王者と闘いたい」って言ってましたけど？

藤田　K—1GP王者に相当する、それに匹敵する相手だったら、誰でもいいかなって。やってマイナスじゃないと思うから。自分に持ってないモノがあるし。

——ミルコでもバンナでも。

藤田　今、腹減ってて食べたい物と、明日腹減って食べたい物は違うから（笑）。ただね、最近知ったんですけど、ミルコってグランプリに出ないんですね（笑）。「頑張ってくれ」ってエールを贈ったんだけど（笑）。勉強不足でした。

——分かりました（笑）。それから、今のところ『猪木祭り』への参戦を明言してない小川直也選手に対して、猪木さんが「あんまりゴネるなら、小川はいらない」みたいに言ってますよね。

藤田　「小川はいらない」っていうのは、猪木さんの意見であってね。本人は一番よく分かってるでしょう。

——分かってますか！

藤田　本人の中では、もう意思は固まってると思うんで。ただ、出るタイミングか出ないタイミングを計ってるだけでね。

——藤田さんとしては、やっぱり出てきてほしいと思いますか？

藤田　出てきたほうが面白くなるんだろうと思うし。それは僕個人の考えであって、小川選手本人はもっと考えてることはあるだろうから。企んでることもあるだろうし。

——企んでることも（笑）。

藤田　いい意味でね（笑）。いい意味で何か考えてると思うんで。もう答えは出てると思いますけどね。

——じゃあなぜ明言しないんですかね。

藤田　それは彼なりの、策士的な……。いろいろとあるじゃないですか。

——もし出なかったら、確実にメインは藤田さんになるでしょうしね。

藤田　じゃあもし（小川が）出るなら、俺は第1試合でやってもいいよ。「メインを空けて待ってる」って（笑）。まあ、とにかく俺は「出る」って決めて意思表示しただけでね。あとのコメントは控えさせていただきます（笑）。

——最近の小川選手は橋本真也選手とタッグを組んで、『紅白歌合戦』の出場を狙うみたいですけどね（笑）。藤田さんはどうですか、歌番組は？

藤田　俺はいい（笑）。

——有り得ないけど、もし『紅白』からオファーがあったらどうします？

藤田　意味ないって（笑）。■

小川直也の『猪木祭り』参戦問題？　もう小川の意思は固まってると思う。タイミングを計ってるだけですよ

▲11月16日、安田とともに、まずはロスに向かった藤田。藤田はロスにある、ファビアノ・イハ、ティト・オーティズ、ダン・ヘンダーソンらのいるHBセンターに向かい、安田はロスのラグーナにあるマルコ・ファス道場で練習に励む。なお藤田は、猪木が小川に「テレビドラマなんか撮ってる場合じゃねえ！」と言ったことについて「忙しいからね。いいんじゃないですか？　それはさ、テレビのことだから。今度はリングのほうのドラマを考えてるんですよ」とフォロー（？）を入れていた

癒し系ファイター・安田忠夫があの2人をバッサリ！

オレなんかに批判される＝オレより弱いってことだからね！

12・31『イノキ・ボンバイエ』でレネ・ローゼへのリベンジに燃えているはずの安田忠夫に話を聞きにいったところ、宿敵レモ・ネードより先に『プライド17』についてどうしても言いたいことがあると言いだしたっ！

聞き手◎石黒由佳子
撮影◎乾晋也（試合以外）

せっかく猪木さんをバックにかっこよく撮っても、この笑顔に勝てるものはなかった。ああ、癒されるぅ〜

▲今時こんな体育座りの似合うレスラーっていないでしょ？ ああ、癒されるわぁ……

――安田さんが『プライド17』を見てどうしても言いたいことがあると噂で聞いたので、今日はインタビューに伺いました。

安田 やめようよ、あんまり俺は人の批判なんてできないんだから。

――えっ？ 批判なんですか？

安田 あっ……。

――では、さっそくなんですが、新日本プロレス第4の男として小原選手が出場されましたよね。安田さんから見て、あの試合はどうだったんですか？

安田 いや、あんまり人のことは言えないんだよね（笑）。

――さっき、テープが回る前に言ってたことを話してもらえばいいんですけど（笑）。

安田 いや、小原さんのことは言ってないですよっ。

――たしかに（笑）。で、どうだったんですか？

安田 はぁ……強いて言うなら前に出てほしかったなとは思いますけど、それは人がやることだから、俺がどうのこうの言ったところでしょうがないんでね。次頑張ってください（笑）。

――なんか優等生ですねぇ（笑）。でも、残念だなぁとは思いませんでしたか？

安田 そうですね、それは思いましたね。

――安田さんは小原さんの強さとかご存知ですよね。

安田 いや、もう、ハイッ。小原さんには前の日に言ったんだよ。「技術じゃなんにも言えませんけど、負けそうになったら抱きついて噛みついちゃってもいいんじゃないですか」って（笑）。

――へぇ〜、いいこと言うじゃないですか。

安田 い、いやっ、これはね僕も前に藤田君に言われたんだけどね。それがずっと頭の中にあったから。もしダメだったら、噛みついてでもいいじゃん、反則負けになってもね。でも、小原さんについてはそれだけ！

――あんまり言いたがらないので、次行きましょうか。安田さんと『プライド』で対戦した佐竹選手の試合はどうでしたか？

安田 あれだったら僕にもできます。グフフフフ。

髙田さんがプロレスラー代表じゃないのは確かでしょう

――また、はっきり言いますね（笑）。

安田 ああいう試合でいいんだったら、いつでも呼んでください（ニコッ）。

――そんな満面の笑み浮かべちゃって（笑）。実際に、安田さんは佐竹選手と闘ってるわけですから、力加減とかは分かってるじゃないですか。

安田 いや、力は強いかどうかは分からないけど、腰を引いた時の重たさだけは覚えてます、今でも。グフフフ。でも、体調悪かったんじゃないですか？

――ここまで言っといて（笑）。

安田 ああいうふうになりたくないなッ（ボソッと）。

――ひ、ひどいっ（笑）。

安田 ああいうふうになるくらいだったら、もう『プライド』にも上がらないし、もう、やめますっ！ グフフフフ。

――や、やめちゃうんですか。極端ですね。あと、あの日はプロレスラーがらみと言えば、髙田選手とミルコ選手の試合がありましたよね。

安田 プッ（笑）。

――な、何吹いちゃってるんですか。

安田 いや……頑張ってたんじゃないですかぁ……ガハハハハハハハ。

――あれ……さっきは……？

安田 いや、でもプロレスラー代表じゃないのは確かでしょう（笑）。

――髙田さんが？

安田 はい。と思われるのは嫌です。なんかの代表とかっていうのは不満がありま〜す！

――あ、ありま〜すって（笑）。どういう点でですか？

安田 自分もいつも「お相撲さん」とか言われるのが嫌ですし、「元新日本」とかって言われるのも嫌なので。自分は自分だし、髙田さんは髙田延彦として闘ったんだろうから、それはしょうがないでしょ。

――でも、ファンからみたら、髙田さんがミルコと対戦すると言った時に、「藤田が負けた後に、誰もプロレスラーは手を挙げないのか」と言った中で、「私が手を挙げましょう」となったわけじゃないですか。

安田 そ、それは本人の自由だと僕は思うんです、ハイ。マスコミはただ単にプロレスラー代表って言ったのかもしれないし、勝手に代表になるのはちょっと……（笑）。それだけですね。あと、試合については、髙田さんは頑張ったと思いますよ。髙田さんのことをもっと批判しろって言われたらできるけど、負けたくないっていう気持ちがあったら、やっぱりああなっちゃうと思うんだよね。でもさ、ここまで言って31日負けたら、僕もう歩けないよぉ、外。

――ギャハハハハハハハハ。

安田 こんな人のことボロクソに言ってねぇ。でもさ、「髙田さんが強い」と言われても、ちょっと待ってと思うんだよ。武藤さんとかのほうが強いんじゃないのって思うような気もするんだけどね。桜庭選手が人の試合のことを言わないのと一緒で、僕もあんまり人の試合をどうのこうの言える立場じゃないので、ホントに。よ・わ・い・か・ら！ グハハハハ。

――弱いと言いつつ、桜庭選手と同列（笑）。でも、桜庭選手と言えば、私、『プライド17』で一番印象に残っていたのが、安田さんが端のほうで試合を見ていたのに、桜庭選手の試合になったら、ビジョンの見やすい所へ移動して、食い入るように見ていた姿だったんですよ。

安田 うん、応援してたんですよぉ、桜庭選手ぅ。

――す、好きなんですか（笑）。

安田　好きっていうか、凄いなって思いますよ。去年1年間ずっと負けないでいたわけでしょ。『プライド』に出てからの桜庭選手は凄いなとずっと思っているので。

――へぇ〜。試合はどうでしたか？

安田　あれはもう、アクシデントでしょ。もう1回リベンジしてくれると思うんで、それを期待したいと思いま〜す！　桜庭選手に関しては。あとの人はもう出るなっ！

――はっ？　『プライド17』の総括は、桜庭選手には頑張ってほしいけど、他の選手はもう出るなですか（笑）。

安田　いや、桜庭選手以外のプロレスラーはねっ！　でも、僕こんなに言っちゃっていいのかなぁ……いいやぁ、どんどん書いてください。来年やめるし。

――そ、そうなんですか？

安田　佐竹になりたくないのが事実なんです。プロレスと『プライド』って別物のような気がするんですよね。もう『プライド』やるんだったら、それ専門でやらないとできないし、僕みたいな二足の草鞋みたいなのは失礼かなと。で、どっちがいいかなって言ったら、自分の中ではやっぱりプロレスのほうがいいんで〜す！　『プライド』を経験して、プロレスの良さも悪いところも少しは分かるんで、その辺は変えたいなと思うけど。とにかく、K―1の人に負けたことについて、あまりにも変な書かれ方をされたのがショックだったんだよね。周りに迷惑をかけちゃったんで。新日本にも悪いし、お相撲さんに対しても悪いなぁって。だから、そのイメージだけはちゃんと取り除いてプロレスに戻りたいんです。あのね、プロレスが好きになったんです。今年1年離れて。

――安田さんにとって、レネ・ローゼ戦はなんだったんでしょうかね。

安田　なんだったんでしょうかねって、負けただけです。ギャハハハハハ。救急車で病院に運ばれたのも初めてなんで。

――そういう初めての状況も含めて、やはりあの結果はかなりショックだったんですか？

安田　負けたのは凄いショックでした。勝つ気マンマンというか、K―1の人を舐めてたっていうのが事実ですね。

――そうだったんですか？

安田　自分の中では「寝かしたら勝てるだろう」って思ってたから。キャハハハハハ。

――キャハハハハって（笑）。

安田　倒してしまえばなんにもできないで勝てるだろうっていう安易な気持ちで出たんですよ。で、そうじゃなくても、あの時G1で1000万と言いながらベスト4まで残って、自分じゃ雲の上に行ったような感じでいたから（笑）。それでお休みモードに入ってたら、戻されたんですけど（笑）。

――あれは衝撃的な戻され方でしたよね（笑）。

安田　でも、軽くOKしたというか、会長が「行け」と言えば、行きゃなんとかなるだろうみたいな、自分の中で安易な気持ちで出たんで、K―1の人には失礼かなと。K―1の人というか、あのレモ・ネード……？

――レネ・ローゼっ（笑）。

安田　だって、覚えられないんだもん。レモ・ネードって言ってれば覚えられるじゃない。レネ・ローゼってうまく口が回らないんですよ（笑）。

――えっと、じゃあ、それでいいです。

佐竹のようになりたくないのが事実なんです！

安田　いや、お家に帰ってから悔しくなったんだよね。それまでは人が一緒にいたから、みんな結構いろいろ言ってくれたりして、自分の中では悔しいんだけど、人がいたらそんなにね。

――じゃあ、お家に帰ってひとりぼっちになって「くそ〜、レモ・ネードの野郎っ！」って感じだったんですか？

安田　いやっ、「島田のヤロ〜」ってずっと思ってましたっ。

――ああ、「島田のヤロ〜」。最近いろんなとこでこのような言葉を聞きますね（笑）。

安田　ずっと、ちゃんとやってくれたらなぁって。負けたショックというよりも、とにかくやり返さなきゃ終われないなぁって。あの日は1〜2時間しか寝られなかったなぁ。そのあとにアメリカに行って、負けちゃったなぁって思ったんだ。

――アメリカに行ったのは、もう1度やり直したかったからですか？

安田　ぜ〜んぜんっ！

――え〜っ！

安田　やり直すなんて気持ちは毛頭ないよっ！

――そうは言っても、頭の中はレネ戦へ突っ走っていたんですか？

安田　そうですね、やらせていただければって。だから、次の日に会長のところに行って「すみません、負けました。もう1回リベンジさせてください」って言ったら、「分かってる」とは言ってくれたので。「もう、お前は12月かもしれないけど、藤田はもっと早くさせるかもしれない」ってその時点では言ってましたけどね。藤田君も体調崩したりしたから。

――みなさん、大変ですよね。

安田　いや、勝ってる時っていうのは、それこそなんにも考えないんですよね。勢いに乗ってるから、その勢いのまま周りが見えなくなることってあるんですよ。行けるよっていう気持ちがずっとあるんですよね。で、自分の中にもそういう気持ちがずっとあったと思うんですよ、そういう過信が。実際は弱いのに、エヘへへへ、そういうのを勝ってると忘れるんだよね。

――佐竹選手に勝ったりしてですか？

安田　佐竹には勝ったとは言えないですけどね、勝たしてもらったんで。KOしてないので自分の場合はそんなにきれいに勝ってないからあれでしょうけど、あれがきれいに勝っちゃうと過信すると思うんですよぉ。

――じゃあ、レネ・ローゼ戦の時って、自分の中ではめちゃくちゃ勢いがあった時だったんですか？

安田　自分なりに結果を出してきたから、「OK！」みたいな（笑）。ホントは弱いのに……。

――それで、奈落の底に突き落とされたと。

安田　でも、そんなに自分が思っている

▲安田がどうしてもリベンジしたいレモ・ネードことレネ・ローゼ。8・19K―1ジャパンでの猪木軍VSK―1の先鋒戦として行われた安田VSローゼ戦は戦慄の結末となった

◀安田と話をしていると、こんな素敵な笑顔を幾度となく見ることができる。幸せ……。あまりに癒されてつい、ウチの編集部の女子全員が安田に癒されていると話したら「男の趣味が悪いんじゃないのぉ」と言いつつ照れていた

ほど、周りは温かく見てくれてるんですよね。雑誌だけを見ちゃって「なんだぁ」って思うと、周りの人は逆に「頑張れ」って言ってくれるから、またそういうのも救いですよ。

――なるほど。で、今は『イノキ・ボンバイエ』のことしか考えてないんですよね。

安田 はい、もちろん！

――今回は日本で調整するんですか？

安田 ホントは、今月は今まで遊んだ分を取り戻そうと思って、12月になったら追い込む練習をしようかなと思っていたんだけどね。

――いたんだけどねって？

安田 藤田君がブラジル行くでしょ？

――トップチームですよね。

安田 その前に藤田君はロスに行くんですけど、僕、おまけでくっついて行くことになりました。

――安田さんもノゲイラのところに行くんですか？

安田 いや、僕はロスに残ってマルコ・フ、フ、ファ、ファ……。

――マルコ・ファス選手のところですね。

安田 そうそう。そこで柔術を教えてもらおうかなぁって。

――マルコのところで柔術ですか……？ まあ、行けば分かるさでいいと思います（笑）。どのくらい行くんですか？

安田 12月半ばくらいまでだと思うんだけど、よく分からない（笑）。

――あっ、そうなんですか（笑）。

安田 日本だとどうしても一人でやると甘えが出てしまうんですよ。いかんせんなまくらですから（笑）。だから、体に覚えさせる練習をやるために行くのはいいんじゃないかと思って。まあ、僕は12月31日で終わりですから。

――『プライド』はどうするんですか？

安田 出ないですよ。

――えっ？ 来年どうするんですか？

安田 来年？ プロレスやります（ニッコニコ）！

――めっちゃ、嬉しそうですねぇ（笑）。もし、猪木さんが「何を言ってるんだ、やれ！」って言ったらどうします？

安田 ん？ そん時だけやります（笑）。

――なるほどぉ。猪木さん次第なんですね。でも、どうして自分からはもう出ないなんて言うんですか？

安田 弱いからです。いやねぇ、俺だって強けりゃ闘いたいよ。藤田君みたいにあれくらい強かったら、いつでも出ていくよ。ホントに佐竹みたいになりたくないんですぅ。

まあ、僕は12月31日で（VTは）終わりですから

――また、言っちゃった。

安田 ホントに自分の中であぁいうふうになりたくないんです。そうやって言うと、佐竹には凄く悪いような気がするけど、事実そうでしょ？ あんなんだったらもう出ないほうがいいよ。

――弱い、弱いって言いますけど、レネ戦は良かったですよ。自分で見て面白くなかったですか？

安田 自分で見て面白くはないです。なんでここで極められなかったのっていう後悔しか出てこないから。ここでもチャンスあるじゃん、なにやってんの、バカじゃないのっていうところが、3回以上あったもんね。致命的なの1回あったでしょ？ あとね1回だけ腹が立ったのがあったんだよね。パンチで自分が下がったところが1回あったんだよ。それはいやですね。「ああ、みっともない」って。自分じゃホントに強いって思わないよ。だって、ほとんど道場で石澤選手とやっても、小原さんとスパーリングやったって、いっつも「ごめんなさい」してるの俺だったんだもん。あの人たちのほうが強いもん。なんでって。だって、正直言って最初に『プライド』出たのも行くとこなくて出たんだもん、アハハハハハ。

――またぁ、そんなこと告白してぇ。でも、あの時は安田さんに対して「安田がVTをやったらどうなるの」っていうもの凄い幻想があったんですよ。

安田 ホント、あの時に昔柔道やっときゃ良かったなぁって思ったよ。がに股になってもいいから。でも、今でもがに股なんだけどね、グハハハハハ。なんで中学の時に柔道やらなかったのかなぁ。なんで極め技がホント下手ですもんね。でも、この間、ちょっとアメリカへ柔術を習いに行ったら、なんだこんな簡単なことで極まるのみたいな。結局毎日やらなきゃダメだなって。体で覚えなきゃって。頭じゃ覚えられないから、アハハハハハ。

――でも、今度が最後のVTの試合っていうのは寂しいですね。

安田 根本的にはプロレスとVTを自分の中ではずっと分けてるつもりはないんだけど、でもお客さんが分けてるでしょ。で、あっちに出る時は勝ち負けっていうイメージが強いじゃないですか。プロレスファンの人って負けても勝っても頑張れば拍手くれるし、優しいじゃないですか。

――その優しさに触れたいんですね。

安田 そういうことっ！

――も、もしかして寂しいんですか？

安田 わ、分かるぅ？

――さ、寂しかったんだ（笑）。

安田 そうなのよ。まあこの前のレモ・ネード戦は言い訳させてもらえるなら、反則勝ちだからね、グハハハハ。でも、そういう気持ちがあるうちはVTをやりたいなって思うけど、この間の『プライド17』を見て、僕なんかお呼びじゃないなって。レベルが違い過ぎるよ。

――そ、そうですか？

安田 そうだよ。だからさ、俺なんかに批判される＝俺より弱いってことだからね。僕より弱い人は猪木軍には入れませんっ。僕は猪木軍の末端なんだからさぁ。分かるかな？

――いったい、誰に向かって言ってるんですか（笑）。

安田 まあ、とにかく今はレモ・ネード！ あいつに勝ったら言いたいことを言うよ！ ■

髙田VSミルコを検証しないと、「猪木軍VSK－1」は面白くならない！

ブーイングをぶっ飛ばせ！

すっかり恒例！

〝格闘技界の哲人〟
堀辺正史師範の
〈日本骨法會・創始師範〉
『プライド17』総括

聞き手◎サダハルンバ谷川

――堀辺先生、『プライド17』の総括を今日はしていただきたいんですけど、終わってみて一番印象に残ったのはどの試合ですか？

堀辺　自分も全9試合を見て、たしかにノゲイラVSヒーリング、ニンジャVSヘンダーソン、そしてメインの桜庭VSシウバなどいい試合もあったんですけど、東京ドームを出てくる時、頭の中で一番渦を巻いていたのが髙田VSミルコ戦でしたね。他の試合が思い出せないくらい、2人のあの試合が強く印象に残っているんですよ（笑）。

――先生の頭に印象に残っているなんて凄いですね（笑）。でも、髙田VSミルコ戦の技術的レベルが、ノゲイラVSヒーリングより高かったわけじゃないじゃないですか。それなのになぜ印象に残ったか、そこがポイントですよね。

堀辺　次の日のスポーツ紙や専門誌を全て見てみたんですけど、非難ごうごうでしたよね。で、それを一番端的に表した言葉がえーっと、週プロの表紙にあった「こんな試合しやがって」という批判だったと思うんですよ。各スポーツ紙もこれに近い形でした。

――そういう意味じゃあ、佐藤編集長偉いなぁ（笑）。

堀辺　表現は違ってるけど、各スポーツ紙が言わんとすることは「こんな試合しやがって」ということでしょう。つまり、髙田VSミルコ戦については、髙田選手一人が批判を浴びた。これを検証する必要があると思うんです。

――先生の意見はぜひ聞きたいですね。

堀辺　はい。あの日、会場の熱気は凄かったんですけど、明らかに一番観客の声援が大きかったのは、髙田選手の入場の時でしたね。ドーム上の空気がいちだんとウワーッと圧縮されるのを感じました。それと結果報道を含めて考えてみると、髙田選手に対する期待感は私が考えている以上に大きかったんだということが分かった。

――やっぱり髙田選手は、プロレスというジャンルを背負って闘うというニュアンスの発言を何度もして、今回K―1のミルコに立ち向かっていきましたからね。

堀辺　今回は特にそう。K―1のミルコに対してプロレスラーが名乗りを挙げなかったらどうするんだということを自覚して、〝プロレス〟というジャンルを背負ってリングに上がったということが、まず押さえておかなければならないポイントだと思います。

――そうですね。

堀辺　もちろん髙田選手に対する従来の人気っていうのもあるんですけど、「俺はプロレスラーを代表してジャンルを守るよ」という形で出ていったのをファンはよく知っていた。私が何度も言っているように、ジャンルの看板を賭けた他流試合というのは、たとえばノゲイラVSヒーリングのような高度な闘いよりも印象に残るんですよ。その裏返しとして、期待が大きかった分だけ、全ての批判を髙田選手が集中的に受けてしまったと思うんですね。

――はいはい。

堀辺　しかしね。私がその髙田批判を見て感じたのは、一つにはこの試合の性質を分かっていないということ。というか、プロレスマスコミ的感想がまず多かったなと思うんです。髙田VSミルコ戦というのは、まずジャンルの看板を背負った他流試合なわけです。しかも、他流試合にもいろいろあるけれど、これは典型的な

髙田選手に対する批判はおかしい
他流試合の本質はああなるものです

組み技系で育った人間と打撃系で育った人間の果たし合いだったわけですよ。もっとも他流試合的というかね。そういう闘いはどうなるかというと、もの凄く噛み合って一瞬でパッと決まってしまうか、まったく噛み合わないで終わってしまうか、どちらかの場合が多いんです。そういう性質があることを、まず踏まえておかないといけないんですよォ。

――ああ、そうかぁ……。

堀辺　でね、他流試合の闘い方の鉄則は何かというと、自分が普段やっている土壌にいかに相手を引き込むか、これが大切なんですよ。これはね、別の言い方をすると、相手の土俵にいかに入らないか。そういう闘いになるんです。他流試合というのは、看板がかかっていればいるほど、試合を面白くするっていう意識は二の次にならざるを得ない。ジャンルを背負ってるということは、そういうことでしょ。個人の敗北では済まされないんですから。髙田選手が負けたら、ヒクソン戦同様、プロレス全体の価値が地に墜ちるという意識がある。特に髙田選手は自分で「俺はプロレスを背負って出る」というニュアンスで宣言しているんだから。だから、これはもう負けられないんですよ。それはミルコ選手だって同じ思いだったと思うんですよ。

――では、ああいう試合になるのは当然だと。

堀辺　他流試合の本質から考えれば、ああいう試合になることは十分あります。でね、これは髙田選手の目を見てもらえば分かるんですけど、髙田選手は全局面で今まで以上に必死の形相をしているんですよォ。これは100%勝ちにいっているのは間違いないと思うんです。髙田選手の精神状態には「プロレスを代表する」という発言と相反するものは何もなかったと言っていい。

――ホント、目は燃えてましたよね。

堀辺　で、この種の他流試合は勝負論に徹すればするほど、ああいう試合になってしまうってことです。ミルコのほうは寝技にいきたくないし、たしかにタックルを切るのはうまかった。でも、そこからグラウンドの打撃にはいかなかったでしょ。

――チャンスはたくさんあったんですけどねぇ。すぐに立ちましたね、ミルコも。

堀辺　一方、試合中には気付かなかったんですけど、髙田選手は途中で右足を負傷した。タックルもうまく切られはじめた。そのことによって、自ら尻もちをついて倒れて寝技に誘い込む作戦に切り替えた。それが大ブーイングを浴びた理由だったと思うんですね。たしかにブーイングするのは分かるんですよ。なぜかと言うと、片方が立ってて片方が寝ている図柄というのは、寝ているほうが負けているという図柄なんです。たとえば昔からどこの国の王様でも、一般庶民よりも

一段高い所に座っていた。王様は誰よりも一番目立つ玉座に座っているわけですね。そして庶民は王様に対して、平伏した形で地面に付く状態を取るわけです。これは人類の中にインプットされた図柄なんですよ。だから、寝てる回数が多いほうが負けてるとか、屈しているというイメージになりやすいんですよね。

――そういうイメージの問題は大きいですね。だから、グレイシー柔術の人はよくそういう形になってたんですけど、やっぱり弱々しく見えたり、ブーイングが起こったりしてましたからね。

堀辺　でも、グレイシーなり、高田選手なりの「それはやってもいいんだ」という主張は正当だと思うんですよ。負けるところにわざわざいく馬鹿はいませんからね。まして、高田選手は足をケガしたわけですから、なおのことタックルにはいきにくい。そうすると、K―1の土俵に入ってある程度打撃の勝負をしなきゃならないってことでしょ。一方のミルコも、高田選手のタックルを切っていれば、いつかはスタンドの打撃勝負になると読んでいた。だから、寝技で殴るチャンスもあったんだけど、すぐに立って闘おうとした。これはどちらも正当な理由なんですよ。

――高田選手が悪いんじゃなくて、どっちも悪くない、と。

堀辺　ええ。ですから他流試合において、2人のとった行動は正当なんだという理解は、ほとんどのマスコミが持っていなかったと思うんです。どっちも悪くないというのが、まずこの試合の前提にあるわけですよ。人類の記憶としては無意識に立ってるほうが偉いと思えるんですけど、高田選手のことは責められないと思うわけですよ。

――では先生、ミルコの言い分はどうなんですか？　ミルコは「俺は寝技になってもいいと思っている。でも、だったら俺をタックルするなりして、テイクダウンさせてみろ！」と言ってるわけですよ。それは間違ってるんですか？

堀辺　この意見は、私も非常に考えなければいけないと思う。

――考えなければいけない？　それはどういうことですか？

バンナやミルコはなぜ悪く言うのか？　それは“男らしい闘い”の価値観の違い

堀辺　なぜなら、勝負の大前提として高田VSミルコ戦のようなことは正当なんですけど、このような試合が続いたら、「K―1VS猪木軍」の試合は誰も見に来なくなるからです。交戦しようという展開が続かないと、見る側のモチベーションは下がってくる。見る側としては、激しい交戦を期待しているわけですから。

――そうそう。どっちかが折れて相手の土俵に行くしかないわけですからね。そうなると、猪木―アリ状態が永遠に続いてしまうわけですから。

堀辺　ミルコの主張というのは結局〝男らしさ〟を言ってるわけですよ。お互いにブン殴り合って組み付いたりして、その流れで寝技にいくのはいいと。古今東西を問わず、相手と決闘する場合はお互いにボコボコ殴り合って勝負を決するというのが、男らしさにつながっているという共通の認識があるわけです。ジェロム・レ・バンナが『プライド』の試合を見て「ホモみたいだ」と言ってたというんですが、その発想も、ある種〝男らしい闘い〟とは殴り合うことだという価値観からきているわけですよ。ミルコの主張というのも、そういうところから出てきていると思うんです。

――西洋人なんか特にそんな感じですけど、あの東京ドームに集まった観客のブーイングもそういう発想だったんじゃないですか。

堀辺　そう。日本人の中でもその価値観は共有できるんですよ。「男だったらもっと殴り合うべきじゃないか」って。その試合とまったく裏腹な試合だったのが、石川VSランペイジ戦ですよ。石川選手はプロレスラーとして、まったく高田選手と逆のことをした。相手の土俵に自ら突っ込んで行って、完全にKOされてしまいましたからね。ああいうのを男らしい闘いだというイメージが一般的にはあるんですよ。だから、高田VSミルコ戦に関しては、他流試合の闘い方として両者ともに正当です。でも、非公開ではなく、ファンの見ている前で他流試合を行うという別の理屈が働くわけです。公開他流試合ということで、石川選手のようにあえて危険なところに飛び込んでいって散るか、それとも高田選手のように負けない闘いをするのか。そこで評価が分かれるわけです。

――ああ、なるほど。でも、僕は正直、石川選手の闘い方もなぁ……。あれは玉砕ですもんねぇ。

堀辺　うん、これはね、どっちに軍配を上げるかというのは非常に難しいんですよ。じゃあ、負ければいいかということになりますもんねぇ。

――石川選手は負けにいってますもんねぇ。それはそれで男らしいし、プロレスラーらしいんですけど。

堀辺　だから、高田選手にブーイングしたファンは、石川選手と比べてどうなの？　ということが問われるわけですよ。格闘技の試合では、結果が重要だから高田選手が非で、石川選手が是だと単純に言えないものを内包している。だから、だから問題なんですよォ！

――はぁ。その問題を解くにはどうしたらいいんですか、先生？

堀辺　K―1と猪木軍が試合をする時に、今後こういうことが起きないためにはどうしたらいいか。単にミルコが言うように、男らしいとか、男らしくないとかの次元ではなくて、根本的な解決をするんだったらどうするのか？　それにはルールを変えるしかないんです。なぜなら、立つ寝るの「起倒」状態を選手の自

由意志に任せれば、否応なしにお互いが対峙したまま髙田VSミルコ戦のように何ラウンドも過ぎていくようなことになる。これはハッキリ言って、非公開の、野原で男と男が誰も見てない中で相手を殺し合うような他流試合ではないんですよ。お互いに対峙してジーッと何時間も動かない緊張感はたしかにある。でも、それが公開の他流試合で、1試合ならずとも、全試合続いたら興行として、まったく成り立たなくなるでしょ。

——ええっ、K—1VS猪木軍の試合が全て膠着っ！（笑）。

堀辺 そうなると、ミルコ選手が言うように、ルールで「自分から寝てはいけない」という反則事項を設け、〝注意〟を与えるのも一つの方法なんですよ。あるいは、1試合中、何回それを認めるかとか、そういう条項をルールに盛り込めば、髙田VSミルコ戦のようなことは起こり得ない。そうやって、ルールを修正していくしかないんです。

——なるほど、あるいは4点ポジションのキックもOKにするとか、猪木—アリ状態で寝ている相手の顔面を蹴ってもいいというルールにするとか……。

堀辺 そうです。それだけでも、闘いの展開は大きく変わっていきます。だから、単なる髙田擁護とか、ミルコ擁護ではなく、これはルール問題としてハッキリ捉えるべきなんです。そうじゃないと、なんの解決も生まれない。たとえば、試合時間を3分にしたのも、K—1の選手を呼び込むための呼び水としては、私も正解だったと思う。いきなり10分の試合だったら、彼らはやらなかったでしょう。慣れているノゲイラだって、10分でフラフラになりましたからね。しかし、それも慣れてくれれば、5分にするとか、そういうルールの見直しが必要になってくるでしょう。でぇ！ ここで考えなければならないのは、『プライド』っていうのは、なんのために生まれたかってことですよぉ。『プライド』のルールというのは、やっぱり一番公正な他流試合のルールなんです。そういうことを話し合っていくうちに、結局はなんでも有りに必ずなっていくんですよ。私はね、暫定的には「猪木軍VSK—1」のルールは賛成ですよ。特にK—1の選手は慣れていないから、いくつかの禁止事項は必要でしょう。でも、このルールが当たり前だとして、その展望を持たなかったら、「猪木軍VSK—1」の他流試合的意味は色褪せていく。まったく別の競技になっちゃうわけですよ。

——そうですね、そこなんですよぉ「猪木軍VSK—1」の難しさは。ヘタをすると「猪木軍VSK—1」の試合は、髙田VSミルコ戦のような膠着試合になるか、トム・エリクソンVSマット・スケルトンのように、タックル一発でスパッと決まる、どちらかの試合になってしまう。あの2つの試合っていうのは、悪いパターンだと思うんですよ。8・19の開戦では、3試合とも奇蹟的にいい試合が続いた。でも、11・3の『プライド』では考え得る最悪のパターンが出てしまったと思うんですね。で、そこから、さあどうするということを考えないと、「猪木軍VSK—1」は内容的に成功しないと思うんですよ。

堀辺 それは本当に大切です。それには「猪木軍VSK—1」のルールをどうするか？ 主催者の心構え、これはいわゆるマッチメイクの組み方なんですけど、それをどうするのか？ それと、ファイターがどんな試合を見せようかというモチベーション。この3つを総合的に考えなければならないんです。そこを猪木さんと、石井館長がどう考えるかだろうね。そうじゃないと、髙田選手のようにブーイングを浴びる不幸な選手も生まれてくると思うんですよ。

猪木軍 VS K－1を面白くするには、ルールを見直すしか道はないっ！

——でも、それを突き詰めていくと、『プライド』のルールになるんだろうなぁ。でも先生、この話は非常に面白いんで、また日をあらためて詳しくやりましょう。で、今回はもう一つ、桜庭選手がシウバに負けてしまったことに対する感想も少しお聞きしたいんですけど。

堀辺 そうですね。桜庭選手の肉体的な動きは回復していたと思うんですよ。でも、入場してから、途中で脱臼して試合が終わるまで、彼のメンタルな部分が完全に復活したかどうかは読みとれませんでした。そこが一番気になりましたね。

——と言いますと？

堀辺 たしかにあれはアクシデントはアクシデントですよ。でも、あれはシウバがああいうことを狙って仕掛けた技ですし、単なるアクシデントと片付けていいのかなぁと。シウバは明らかに狙って受け身を取らせないような投げ方をしているし、柔道の投げ技をなぜ〝一本〟というかというと、固い地面に叩きつけられたら致命傷になるからですね。しかも、投げ技で一番事故が多いのは、鎖骨骨折と肩鎖関節なんですよ。だから、アクシデントではあるけど、アクシ

シウバが狙ってああなったんだから、完全に一本負けですよね。

——はい。

堀辺 それと、やっぱり殴り合いにいった時でも、組み合いにいった時でもパワーの差は感じましたね。もちろん、桜庭選手は技術でうまく制してましたけど、最後の投げ技といい、パワーの差は気になりました。

——たしかにパワーに押されているように見えましたよね。でも、あれも桜庭選手のスタイルというか、ヒョウヒョウとしていてあそこから逆転するのが彼の真骨頂なのかもしれないですけど、まあ脱臼したんでそれは今回分からなかったですねぇ。

堀辺 そうですね、でね、私は今回の負けは結果的に仕方がないとして、心配になったことがあるんですよ。たしかにぁそこからガーッと盛り返すのが桜庭選手かもしれないですけど、肉体的なパワー不足というよりも、先ほども言ったね、メンタルな部分での心配は少なくとも残りました。

――メンタルな部分？

堀辺　そう。前回、桜庭選手はボコボコに殴られて、シウバに秒殺されましたよね。その後遺症という意味で、もちろん肉体的には完全に回復しているんですけど、シウバに対するイメージを完全に払拭しているのかな、と。

――ほおほお。

堀辺　これは一般論ですが、格闘技というか、喧嘩でもそうなんですけど、男と男が一対一で闘った時にね、早い話、チョークや関節技を極められて「まいった！」するというのは、あまり敗北感はないんですよ。あ～、うまくやられちゃったなと、そういう感覚のほうが強い。それに対して、打撃でボッコボコにブン殴られたほうが心のダメージが強いんです。人によっては、その男と再会した時に、その男の顔が見れなくなることもあるんですよ。

――あー、なるほどぉ。

堀辺　これをね、宮本武蔵の言葉で言うと「底を抜く」と言って、心の奥底まで潰してしまうという意味なんです。だから、「2度とあいつとはやりたくない」という恐怖を与えるには、関節技ではなくボッコボコにしちゃうことなんです。顔をズッタズタにしたり、パンパンに腫れ上がらせる。そうすると、相手はもう2度とやりたくないって気持ちにさせられちゃうんですよ。

――ボッコボコに、ズッタズタに、パンパンですか（笑）。

堀辺　それをやられると、サブミッションで極められる比じゃないんですよ、心理的な影響は。外傷というより、脳の中に与えた記憶のダメージが残っちゃうんですよ。で、シウバは打撃系の人間でしょ。桜庭選手は前回、その打撃でやられて、今回もあの投げ技は一種の打撃なんですよ。そのやられ方の心のダメージが、桜庭選手の心の中から抜けきっているのか、そこが一番心配ですね。私はね、今回のシウバ戦を見ていて、パワーの差というよりも、そういう心のダメージを払拭しているのかどうか気になったし、あそこから挽回するのが桜庭選手かもしれないけど、そういうメンタルな回復はあの時点で見えませんでしたね。

――いやぁー、その説はまた面白いなぁ。たしかにそういう部分はありますよねぇ。

堀辺　だから、桜庭選手は今回ケガで長期の欠場になってしまうかもしれませんけど、私はできるだけ時間をかけて休んだほうがいいと思います。そして、肉体的な回復だけでなく、メンタルな部分でもシウバに対するマイナスイメージを全部取っ払ってから復帰してもらいたい。決して慌てることないと思うんですよ。桜庭選手には時間をかけて復帰してもらわないと、ホントにヤバイと思いますよ。

――なるほど、彼は使命感が強いけど、本当にビシッと復活してほしいですね。今日はありがとうございました。■

闘いで心のダメージを与えるのは"打撃" 桜庭選手が負けて一番心配なのはそこだ

第4回「ビクトリー・ジャッジメント」

今後、シュルトには大注目ですね 下手するとノゲイラでも勝てないですよ

採点者◎堀辺正史

ニンジャVS	ヘンダーソン
用	2
美	2
道	3
合計	7

「用」を2点にしたのは、この試合をポジショニングだけで採点したら、ヘンダーソンは完全に負けてたからです。スタンドの打撃戦で、相手よりもダメージを与えたから勝てたのでしょう。彼の勝利への必勝方程式は今回荒かった。「美」も、ただ相手にダメージを与えただけで仕留めきれなかったので2点。「道」は3点にしました。試合中、それほど効いてなかった金的をいかにも効いてるふうにして体を休めてましたからね。肉体的にフラフラになりながらも上手くルールを利用した点で、精神状態にゆとりがあったと思います。

スケルトンVS	エリクソン
用	5
美	5
道	5
合計	15

タックルが非常に良かったですね。巨体を利用して一気に入り、マウントへの流れもスムーズでした。「用」は5点です。「道」も落ち着いていたので5点。「美」ですが、早い倒し方だったですし、最後の鷲掴みチョークが必殺にもなりうるということで5点にしましたが、あの技は反則にしたほうがいいですね。掛けられた側が死亡する可能性があり、非常に危険です。首を全体的に掴まれたなら外すことができますが、喉仏の後ろにある骨に指が回ってましたからね。ぜひ、関係者には一考してもらいたい。

桜庭VS	シウバ
用	5
美	5
道	5
合計	15

グラウンドで下になってパスガードを許しませんでしたね。桜庭選手を相手に、バックに回ったり、チョーク仕掛けたり、自分の動きが封じられることなく技を仕掛けてました。「用」は5点です。仕留め方ですが、アクシデントとも見れますが、半分は受け身を取らせなかった投げ方でした。地面に衝突させて失神KOさせる投げの原点でしたね。よって5点。「道」は、最後まで闘志ギラギラで、常にエンジンに火がついたままの状態でした。精神の圧力で相手をビビらせてしまう。それにあの顔とあの目でしょ（笑）。しかも我を忘れず冷静ですからね。もちろん5点です。

佐竹VS	シュルト
用	5
美	5
道	5
合計	15

シュルトは強いですねぇ。「用」の部分で5点を付けました。小路戦の時と同じように、今回も相手に制空圏を全然与えなかったですね。自分のリーチを殺されずに、上手く間合いを保ってました。彼の戦法の一番のポイントは、制空圏を与えるか与えないか。制空圏を維持し続けたら彼はもの凄く強いですね。「美」ですが、一見、佐竹選手が意気地がなくてポンと倒れたかのようにも見えたけれども、左のフックが効いてて動けなかったんですね。間違いなく5点です。「道」ですが、制空圏というものが自分の命だっていうのをよく理解していて、それを奪われないように平常心そのもので闘ってました。もちろん5点です。シュルトは今後、期待できる外人選手の中に入れていいでしょうね。制空圏を維持し続けると、打撃戦でも勝てるし相手は組み付くこともできませんからね。下手するとノゲイラでも勝てないかもしれないですよ！

◀今回も制空圏を奪われることなく、佐竹を完封したシュルト

石川VS	ランペイジ
用	3
美	5
道	5
合計	13

打撃戦でいき、パンチの切れ味も鋭かったので「用」は合格点の3。「美」ですが、左フックで一発でキレイに仕留めてるので5点あげてもいいでしょう。「道」は、石川選手がある意味でムチャクチャ振り回していたパンチをよく見てましたね。心理状態は落ち着いてましたので、5点です。ランペイジは、他の選手よりも一瞬にして力を集中する勝負力がありますね。ただの怪力男ではない、恐るべきものを秘めてる感じがします。

ボブチャンチンVS	スペーヒー
用	5
美	5
道	5
合計	15

開始早々、右ストレートからタックルでマウントポジションをすぐ取って極めましたからね。打投極のつながりが凄く良かったので「用」「美」ともに5点です。最後の肩固めですが、ボブチャンチンの片足が絡んでるにもかかわらず、右肩に体重を掛けて一本取ってますね。完成型に持っていかないでも極められるというところに、彼がサブミッションを知り尽くしてることがうかがえる。もしあれが型どおりの状態で極まったら、ボブチャンチンは当分起きあがれないくらい落ちてたでしょうね。「道」も、試合中まるで普通のスパーリングをやってるような状態に終始してましたので、5点です。

ヒーリングVS	ノゲイラ
用	4
美	4
道	5超
合計	13超

「用」「美」の部分で、これまで判定裁定の場合は、どんなケースでも2点しか出してきませんでしたが、今回は4点を出しました。彼の必勝パターンというのは、1R終了間際に見せた水が流れるがごとく相手を追い込んでいくことなんですね。相手がどんなに変化しても追っていけることが垣間見えた。足の状態もあり極めることはできなかったけれど、芸術性という点からも優れているので、慣例を破り「用」「美」ともに4点です。「道」ですが、ああいう過酷な展開の中で最後まで冷静だった。普通、肉体がヘトヘトになると精神状態も乱れが生じるんですが、肉体と精神が独立していて疲労してても心が折れることがなかった。間違いなく5を超えてます。「5超」ですね。

小原VS	ヘンゾ
用	2
美	2
道	3
合計	7

ヘンゾは、2Rに外掛けで小原選手を倒したけどすぐ立たれてしまいましたよね。彼の必勝パターンである倒して極めることができなかったことが、結局判定になった理由でもありますし「用」「美」ともに2点ですね。闘志や判断能力は良かったと思うので「道」は3点です。でも、これは積極的に勝ちにこなかった小原選手が悪い部分もありますね。体重差が10キロありましたし。ヘンゾには気の毒でした。

フランス『KARATE・BUSHIDO』誌提携
SRS DX
スペシャル・リング・サイド
No.59 12・13号

CONTENTS

※入稿の都合上、目次の内容と異なることがございます。ご了承願います。

ノゲイラVSヒーリング戦はスポーツで
髙田VSミルコ戦はスポーツじゃない???
PRIDEの“イビツ”を徹底研究

出席者◎山口日昇（紙のプロレスRADICAL編集長／通称：会長）
◎サダハルンバ谷川（本誌編集長）
◎“Show”大谷泰顕（ワンダフル）
司　会◎柳沢忠之（本誌発行人／通称：社長）

PRIDE.17を見て考えました
スポーツとは何か？

山口　Ｓｈｏｗ、頭に変なのかぶって、脳の手術でもしてきたの？
―脳がむき出しになっているじゃん、それ。大丈夫か？
大谷　ヒャッ!?　フジテレビの清原プロデューサーには、黒澤年男みたいだって言われたんですよ。
山口　それは持ち上げすぎだね（笑）。
―俺からみたら〇〇〇以外の何者にも見えないよ（笑）。
山口　かわいそうになぁ。
谷川　じゃあ、そのかわいそうなＳｈｏｗから『プライド17』を総括してくれ。
大谷　『プライド17』の総括の前に、訂正していいですかね。
山口　全人生を？（笑）。
大谷　いやいや、猪木さんが「俺の名前はビンタジン」って言ったって前号で書いたんですけど、猪木さんに確認したら、違ってたんですよ。「俺の名前はビンタディン」って言ったんですって。で、猪木さんが「伝わらなかったみてえだなぁ」って。
山口　ビンタディン？　俺、『紙プロ』の表紙に「ビンタジン」で打っちゃったぞ。まあ、いいや、ここで言っとけば。
大谷　で、もう一歩突っ込んで、この間、木戸修さんとパラオに行ったんですって、猪木さんが。
谷川　Ｓｈｏｗ、面白い話してくれよ。
大谷　「木戸、オマエ、俺とタッグを組まねえか、オサム・ビンタディン」っていう（笑）。
―………。
谷川　不謹慎だなあ、キミは。
大谷　それは猪木さんに言ってくださいよ。
山口　５万大観衆の前で言わないと、寒いだけだね、それは。で、それが訂正？

大波紋のPRIDE.17
徹底分析座談会

ノゲイラVSヒーリング戦は、ノゲイラの試合の中では一番つまらないですよ（山口）

大谷 はい、それから、もう一コ訂正。

谷川 はい。

大谷 『プライド16』の時に、「でっかいプライドと小さいプライド」って言ったんですけど、でっかいプライドは真意って言ったんですけど、あれは信念の間違いでした。訂正終わり。

谷川 ……。

山口 オマエ、本当に脳の手術したろ（笑）。

大谷 これで俺はもう言いたいことを言ったんで、あとは、皆さんで『プライド17』を総括してください。

谷川 いやいや、何を言ってんだよ、キミの総括はどうなの？

大谷 ええっ？　えっと……つまらなかった。

山口 身もフタもないことを言うなぁ、オマエは。

谷川 どこがどうつまらなかったんだよ。

大谷 話違いますけど、絶対に今年の流行語大賞でしょうね、「くだらねえな、これは」ってのは。

――オマエ、本当に病院に戻ったほうがいいよ（笑）。

山口 でも、うちの雑誌で読者にアンケートとったらね、流行語大賞は健介の「正直、スマン」だったんだよね（笑）。

――それも、くだらねえな（笑）。

谷川 なに、その「正直、スマン」って。

大谷 ほら、分からない人がいるじゃないですか。

山口 もう、いいです、それは。

谷川 さぁ、会長、そろそろ締めてください。

山口 なんで、いきなり締めるんだよぉ（笑）。まだShowの脳の手術の話だけじゃん、しゃべったことって。

大谷 イヤ違う。猪木さんの最新情報と訂正ですよ。

山口 で、何を話せばいいんですか？

谷川 『プライド17』の問題点を。

山口 あ！　本物のビンラディンがさぁ、スゴイ話をしていたじゃない、この間。

谷川 どういう話？

山口 テロには、良いテロと悪いテロがあるって（笑）。

――ああ、言ってた言ってた。

山口 猪木さんも昔、「ポルポトにも良いポルポトと悪いポルポトがある」って言ったことがあってさ（笑）。

――ダッハハハハハハハ。

山口 それを思い出したんだけど。ビンラディンが、良いテロと悪いテロがあって、今回のテロは宗教的にも論理的にもなんら悪いところがないって言い放ったわけ。スゲエ発言するなぁって思ったんだけどさぁ。猪木さんも、フランスの水爆実験があった時に、「もう少し盛り上がったら行ってみたいと思います」って言ってたけど（笑）、あれに匹敵するなぁと思って、ビンラディンは。さすが、ビンタディンとビンラディン（笑）。まあ、猪木さんのその話はいいんだけど、良い『プライド』と悪い『プライド』があるとすれば、今回は悪い『プライド』かなぁという感じだよね。

谷川 おいShow、オマエは、こういうのをちょっと見習えよ。

大谷 なるほど。いい締めじゃないですか。

山口 締めじゃねえよっ！

大谷 なるほど、そういうふうに話をもっていくんだ。だけど、ボクは訂正するだけで精一杯。

山口 でも、思ったよりノゲイラ対ヒーリングが沸いたのにはビックリしたね。

谷川 視聴率も一番良かったもんね。

大谷 ええ～っ。

――あれは、本当に会長（山口日昇のアダ名）の言ったとおりだったね。

山口 なんか言ったっけ？

――今は、ノゲイラとヒーリングでいい時代なんだって言ってたじゃない。

山口 ああ、でも、あそこまでとは俺も思わなかったよ。

谷川 いい時代なの？

――いい時代なんでしょ。

山口 大阪城ホールレベルの会場だったら全然いいんだろうと思ったけど、ドームであんだけ沸くとは思わなかったよね。

谷川 いい時代なの？

――いや、俺はああいうのはマニアックな世界なんだろうと思ってたけど。

山口 もはやマニアックじゃないっていうことだよね。

谷川 たしかに、ファンは技術の攻防はよく分かってたし、完成されたものだったと思うけど……。でも、ノゲイラ対ヒーリングで客が集まるのかなぁ？

山口 それはまたちょっと別でしょ。

――うん、集客とは別でしょ。

山口 集客は、確実にサク対シウバと髙田対ミルコで集めているよね。

大谷 『プライド』の名前で集めているんじゃないの？

谷川 もちろんそれもあるけど、その2カードが発表されていたのは大きいよ。今回、東京ドームがいっぱいになったのは。

山口 現場での桜庭&髙田人気ってのは凄いよね。で、髙田対ミルコに期待して来たファンが反動でノゲイラ対ヒーリングに反応したというのもあるかもしれないけどね。

――でも、あの試合があれだけ沸くってことは歴史上凄いことだよね。

谷川 でも、面白かった、あれ？

山口 いや、これまでのノゲイラの試合の中では一番つまらないですよ。それは断言しておくけど。

スポーツというのはけがれのないもの。どっかにけがれがあるとプロレスに見えちゃう（谷川）

谷川　そうだよねぇ。何がそんなに面白かったのか、不思議なんだよなぁ。

山口　リングス時代のノゲイラの試合のほうが全然面白かった、試合的にはね。

谷川　いいよねぇ。コールマン極めた時だってもっと面白かったしね。

——まあでも、そのレベルじゃないところが、また遠心力なんだろうね。

山口　ああ、そうだね。だから大衆化されていたんじゃないの、ちょうどいい具合に。

大谷　大衆化バーリ・トゥード（笑）。

——大衆化は大衆化なんだけど、ドーム版っていうかね。

大谷　ドーム版バーリ・トゥード（笑）。

——関節技のああいう攻防、スイープとかが、大きなムーブに見えるんだろうね。プロレスだったら、四方のコーナーマットから飛ばないと東京ドームでは動きにならないところが、『プライド』っていう空間の中では、ノゲイラとヒーリングくらいの動きで、もの凄い大きな、ダイナミックな動きに見えるんだよね。今までのいわゆるドームプロレスっていう、関節技とかグラウンドなんて絶対にドームじゃダメなんだって言われていたのが、あれだけ沸くって、ちょっと考えられないよ。

山口　あともう一つ、ノゲイラVSヒーリングの沸き方を見て思ったのは、ホントに日本ってスポーツファンが多いなってことだね。やっぱりあれはスポーツじゃない？　バーリ・トゥードとはいえ。バレーボールのラリーと一緒で、技のラリーが繰り返されるという。

谷川　論調もそうだよね。ファンの論調とか、テレビ局関係の人たちもそうなんだけど、100％ノゲイラVSヒーリングを誉めるよね。

山口　だから、本当にスポーツファンの数の多さにビックリしたね、俺は。驚愕したというか。俺はスポーツなんて大嫌いだからさぁ。単なるスポーツ観戦って一番無駄な時間だと思うタイプなんで。

——あれがスポーツ……。

山口　えっ？　スポーツじゃない？

——いや、スポーツだと言われればスポーツなんだなぁと思って。

谷川　あの～っ、僕ね、ノゲイラ対ヒーリングがスポーツだって感じは、あまりしないんだよね。スポーツっていうよりはUWFみたいな感じで。

大谷　だって、UWFの目指したのってスポーツじゃないですか。

谷川　でも、あれをスポーツだと見るってことは、スポーツってラリーってこと？

山口　ラリーというのも含めて、要するに、初期のバーリ・トゥードのイメージとは全然違うよね。

谷川　凄いバイオレンス性のない、技の攻防のラリーをスポーツだって見ているということ？

山口　単純に言えばね。だから、K—1が、プロレスファンを無視しても、あれだけお客さんが入るんだなぁというね。

大谷　ああ、なるほど。

山口　K—1がまったくプロレス界のヘソと関係のないところで盛り上がっているという、そういう部分も、なんとなくだけど、解明されたような気がしたけどね。だから、俺らは必死になってスポーツじゃない部分というか、スポーツを飛び越えた〝余計〟な部分に光を当てようとしているけれども、そこにまで目が行かないファンというか、スポーツの部分だけで満足しているファンがやたらと多いなと。

——う～ん、そういう話を聞くと、スポーツを定義してみるってのは面白いかもしれないね。スポーツってものの定義ができてないんだよ。

谷川　できてないね。

山口　一つのヒントとして、会場のファンは髙田にブーイングを送ったよね。つまり髙田VSミルコはやっぱりスポーツじゃないんじゃない？

——スポーツじゃない……んだ（笑）。

山口　世間一般のイメージのスポーツとは違うでしょ。あ、分かった。スポーツというのは、純粋なものなんですよ、日本人から見ると。

谷川　純粋なものっていうより、けがれのないものなんじゃないの？

山口　そうだね。そういうふうに言えるかもしれない。

谷川　どっかにけがれがあると、スポーツじゃなくて全部プロレスに見えちゃうというか。

——プロレスはけがれてるんだ（笑）。

大谷　なんでっ！　それは谷川さんの偏見じゃないですか！

谷川　いやいや、俺は好きだよ。

——だっはははは、面白いなぁ。

大谷　それじゃスポーツとプロレスってのはまったく反対のものだって言いたいんですか？

谷川　反対でしょ。

大谷　そ、その意味も分かるけど……。

山口　でも、そういう意味じゃなくても、プロレスはスポーツじゃないよ。

大谷　そうそうそうそう。俺はそれを言いたいんですよ。

——何を言いたいんだ（笑）。

大谷　っていうか、スポーツになったらお終いですよ。

——そのネガティブなスポーツってなんだろうね。

山口　けがれのないものであり、プラス正々堂々としているというイメージ。

谷川　一般的なスポーツのイメージって、とにかく公正に、ある一定のルールのもとで競い合いをして、それで、そこにけがれのないイメージってのがあるよね。

山口　だから、けがれなき世界っていうか、俺にはベビーフェイスって概念しか沸かないんだよね。スポーツ＝ベビーフェイスの世界。

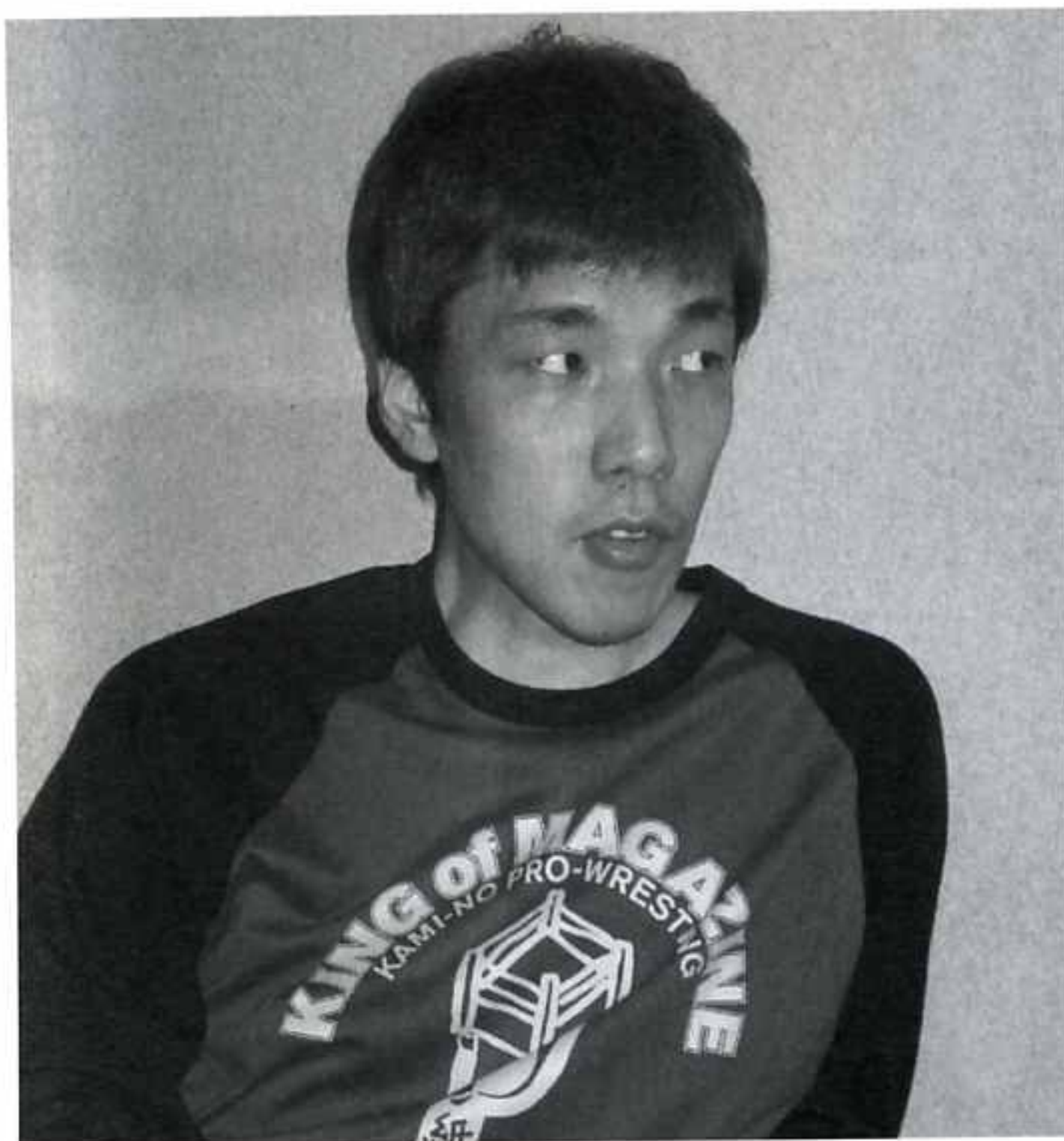
谷川　うん、たしかにベビーフェイスの世界だよね。

山口　ヒールはいらないというね。

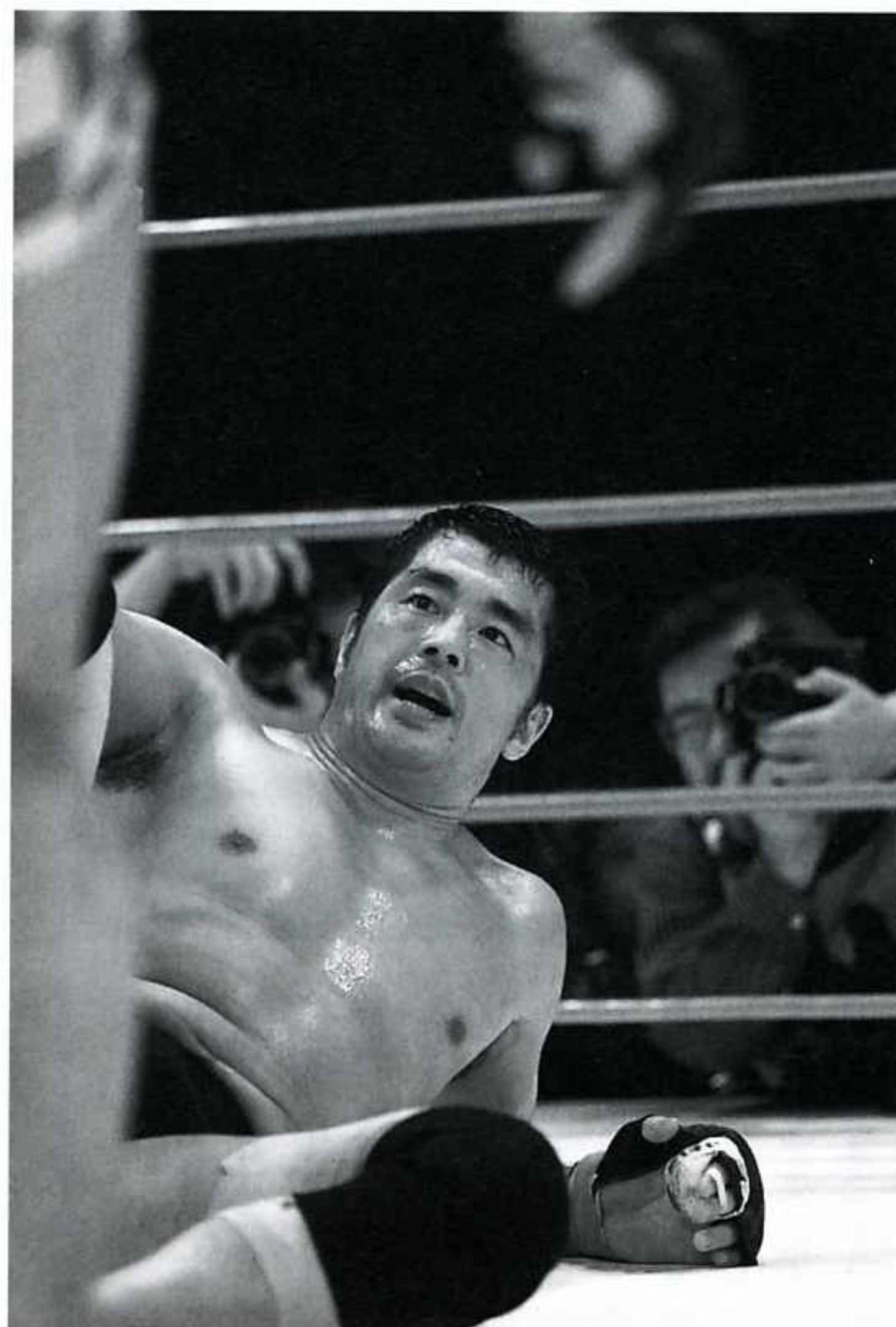
大谷　ああ、なるほど。

山口　人を興奮させる装置としてヒールが必要なのは一般の人たちも分かっているけど、「スポーツを見る」となるとヒー

大波紋のPRIDE.17
徹底分析座談会

権威のあるものがスポーツと定義すると それを観戦するには信頼感が必要だよね(山口)

ルはいらないというか、ベビーフェイスのみを見ても感動できるんでしょ
――あと、スポーツで大事なことは「権威」じゃない?
谷川　ああ、そうそう。権威。だから、ジャンルに権威のあるところには、ヒールがいてもいいと思うんだけどね。それはスポーツに見えるっていうかさぁ。
山口　うん、全然構わないですよ。
谷川　でも、ジャンルの権威とかいろんなものが、猪木さんの言う、ホントに市民権やらなんやらも含めて、そういうのが土壌として認められていないと、なんかそれがなんだっけ……卑劣なものだっけ?
山口　は?
大谷　けがれなきものですよ(笑)。
山口　なんで自分の言ったことを覚えてないんだよぉ(笑)。
谷川　けがれあるものに見えるんですよ、ジャンルに権威がないと。例えば、オリンピックとかサッカーのワールドカップみたいにそのジャンル自体に権威があれば、ヒールがいてもいい。ボクシングのドン・キングがなぜ成り立つかって言ったら、WBCとかWBAみたいな、そういう権威があるからだと思うんだよね。
山口　あっ、権威っていうより、信頼感じゃないの?
谷川　そう、信頼感でもいいね。
山口　スポーツ観戦の時に大事なのは信頼感ってことでしょ。
谷川　うん、信頼感。
山口　スポーツ=権威。権威のあるものがスポーツだって定義したとしたら、それを観戦するには、信頼感がなきゃ見れないってことだよね。
谷川　で、信頼感を得るには、けがれが多いものが、より少ないほうが、みんなは漠然といいなぁと思うんじゃないかという気がするよね。
――じゃあ、整理すると、けがれなきベビーフェースたちが公平なルールのもと、正々堂々と競い合う、権威があり信頼感のあるイベントがスポーツだと。
大谷　なんか凄いなぁ。
――まあ、実にポジティブな定義だけど、俺らにとってはその定義がネガティブなイメージなんだよね(笑)。
山口　そうそう(笑)。
大谷　それはある。
――なんでだろう?
谷川　何かが足りないんじゃない? それだけじゃ不満っていうか。
――うん。逆にそこを逸脱したものを認めないっていう雰囲気がイヤなんじゃないの?
山口　ああ、そうか。つまりね、スポーツファンが見たいのは、高田対ミルコじゃないわけじゃない。この間の『プライド17』を見る限りでは。
――内容が?
山口　うん、内容が。いわゆるスポーツファンが見たいのは、髙田対ミルコじゃないと。
――やっぱりノゲイラ対ヒーリングみたいな試合が、いわゆるスポーツファンは見たいんだ。
山口　それだけで十分、満足できるっていう。
谷川　そこが凄く不満なんですよね、僕には。
――結局、あの試合の内容っていうのは予想の範疇で、期待どおりではあるけれども、あれ以上のものが出せないということが不満ってことでしょ。
大谷　それは僕にも分かるんですよ。あれが、2番目とか3番目だったらいいわけじゃないですか。
――全然いい。
山口　オプションとして付いていたら、そんなに贅沢なことはないよね。
――ああ、やっぱ凄いなと。
山口　じゃあ逆に、みんなは、スポーツファンが完全否定した髙田VSミルコ戦はどう思ったの?
谷川　メチャクチャ面白かったね。いや、もうあれしか印象に残っていないもんね。
山口　メチャクチャ面白かった? 社長は?
――いや単純に、髙田は頑張ったなぁと。面白かったかというとちょっと違うんだけど、ホントに髙田は頑張ったなぁと思ったよ。
大谷　試合として引っかかったのは、やっぱあの試合が一番だったんじゃないですか? それはたぶん、みんな一緒だったと思いますよ、ここにいる人たちは。
山口　俺は、ファンのレベルと一緒で、「何やってんだ髙田は」って試合中はずっと思ってた。「いけよ、早く」って(笑)。
谷川　俺は近くで見てたからなぁ。
山口　解説席とスタンドの後ろのほうじゃ受け取る感覚は違うだろうね。俺はファンの気分を、いわゆる共有しながら見ていたんだけど(笑)。そん時は、実際にそういうふうに思ったよ。
谷川　見ている場所による感じ方の違いってあるんだよなぁ。
山口　うん、それはあるね。でも、1〜2Rは面白かったよ。緊張感もあったし、結局、髙田の試合が一番面白いんだなって思ってたからね。
大谷　それが3R、エキストラRと進んで……、ですね。

髙田は周りの期待に応えようとしなかった？
いや、精一杯やったし、満足していると思う（谷川）

◀高田の情念は観客には届かなかったからなのか、ドーム中が大ブーイングに包まれた

山口　で、まぁ、ケガしたうんぬんっていうのが試合後に分かった。だけど、やっぱり一番見なきゃいけないところは髙田の情念だと思うんだけど、その髙田の情念っていう部分を見たがっているファンはあまりいないんだなって感想を持ったね。だから、さっきスポーツ観戦って言葉が出てきたんだけどね。

大谷　それでブーイングしたんですかね。

——逆の発想もあるんじゃない？　髙田の情念が見たかったのに、見られなかったからブーイングしたんじゃない？

山口　ああ、それもそうだね。あれが情念には見えなかったと。

谷川　でも、あの髙田の情念の出し方っては半端じゃないよなぁ（笑）。

——いや、だからね、技術で見るのか情念で見るのかっていうのは凄く難しい部分で、そこらへんがスポーツの定義の肝になってくる気がするんだよなあ。

大谷　へぇ〜。

——スポーツを権威付ける指針で一番重要視されるのって、やっぱり技術だよね。記録か記憶かじゃないけど、権威として認められるのは記録のほうでしょ。技術が記録化されて実績になる。それがスポーツの前提にされてるわけよ。でも、プロレスっていう世界は、情念が記憶化されて幻想になる。これって一見相反してるわけよ。

大谷　ああ、僕は髙田さんの試合は記憶化されて幻想になってますね。だからやっぱりあれはプロレスなのかあ。

——いや、でもね、俺は髙田はスポーツマンだと思ったね（笑）。

大谷　ヒャッ!?

谷川　そうそうそう。俺もそう思ったなあ。

山口　その話に通じるかどうか分からないけど、たまたまバレーボールのCMを見てたの。

谷川　グラチャンね。

山口　そうそう、あれは逃げてるドロボーにアタックして、ひったくった荷物を放り投げたところをレシーブするとか、そういう〝タバコ〟の置き方じゃない。あのCM自体がね。

大谷　はいはい。

山口　その中の一つに、上司がセクハラしているCMがあって、後ろから大友愛ちゃんって子がサーブしてボールを頭に当てるっていうのがあるんだよね。で、その時の撮影風景の番組をやってたわけ。でも、全然上司の頭に当たらない（笑）。バレーボールは凄いっていうコンセプトでアオリのCMを作ってるんだけど、セクハラオヤジには当たらずに隣の女の子に当たっちゃう。それ何回も何回もNG出しながらやってるわけ。そん時にさ、最後に一発当たってOKが出た時に、その大友愛ちゃんが、泣いちゃうわけよ。

大谷　へぇ〜。

山口　で、周りが「普段、試合でも泣いたことないのにね」って言うの。それを見て思ったんだけど、人の前で何か物事をやるとか、人の期待に応えるためにやるプレッシャーというのは、ホント、どんな優秀なスポーツマンでも想像できないぐらいのプレッシャーだと思うんだよ。周りの期待に応える、周りの視線の中で闘うっていうのは。それをさぁ、充分に知ってるわけじゃない、髙田なんかは。その髙田が、なんであえて今回、その周りの期待に応えるような試合をできなかったのか？

——それはやっぱり、髙田がスポーツマンだからじゃないかなあ。

谷川　でも最後はね、たぶん髙田は、自分では周りの期待に応える試合をしたと思ってると思うんだけどね。

——スポーツマンとして、ルールの中で精一杯闘ったと。

山口　やっぱり根っこがスポーツマンなんだよなあ、髙田は。でね、俺が最近考えたのは、いわゆるK−1の世界がなぜスポーツとして認知されてるかっていうと、勝者と敗者がコロコロ入れ代わるからだよね、単純な話。それがスポーツだし、それがリアルファイトだって言われたら凄い説得力あるじゃない。

大谷　常勝チャンピオンを作らない。

山口　作らないっていうか作れないんでしょ。K−1っていう世界は、毎年毎年トーナメントやってね、誰が勝者になるか分からない世界？　それはスポーツファンじゃないと楽しめない。

——だからバンナが人気があるんでしょ。

我々が見たいのは、精神のしのぎあい。技術のしのぎあいだけだったら不満を感じる

技術でトーナメントを勝ち上がるんじゃなくて、一発の情念で試合を決めようという姿勢が評価されてるんじゃない？

谷川 そうそう。たしかにグランプリっていう権威付けをしてスポーツ化しているK－1だけど、みんな一番見たいのはそういうバンナみたいな情念だよ。

山口 「誰が今この時点で強いのか」ってことは、特に俺なんかは見れないのよ。「誰が一番強いのか」より、「どっちが強いのか」ってことで『プライド』はもってきたわけだし「誰がその時点で一番強いのか」って方向に行くことに一部のファンは嫌悪感を持ってる。

――例えば、桜庭が、これからアローナとかヘンダーソンとか、そういういわゆるミドル級の強豪たちとやってったほうがいいと俺は思うんだけど、その意味っていうのは、会長が言う「誰が一番強いのか」を見せるってことじゃないんだよね。そういう相手を肥やしにして、「桜庭がとてつもなく強い」っていうイメージをどこまで広げていけるかっていうさ。「あのヘンダーソン相手にもこういうふうに勝てちゃうんだ」とかさ。

山口 そういう意味では、それは小川にも望まれてるんだよね。

大谷 そうそうそう。

――べつに誰がその時一番強いかを「さあどうぞ！」って見たいんじゃなくて。

谷川 ないない、それはない。

山口 イメージとしてはやっぱりトーナメントとかさ、K－1の見せ方はそうなっちゃうんだよね。で、強さっていうのは糸井重里さんが言うように青い鳥と一緒で、いつまでもずっと手許に置いておけるもんじゃないっていうのはファンも漠然と分かってるしさ。スポーツファンは特に分かってる。だから見てても特にハレーションは起こさないよね。

――いや、だからね、野球で言うと例えば松坂大輔が松井を敬遠して巨人打線を完封するより、めった打ちになっていても松井と直球全力勝負を見たいっていう、そんな感覚じゃない？

谷川 うんうん。

――でも、それって両方ともスポーツだよね。

大谷 ああ、そっかあ。

山口 そうだね。

――そうやって考えると、スポーツって技術の競い合いだけじゃなくて、情念の競い合いも含まれるわけだよ。競い合いっていうよりも、しのぎあいって言った方がいいな（笑）。

谷川 ああ、しのぎあいのほうがいい！　それはしっくりくるなあ。

――しのぎあい。技術のしのぎあいじゃなくて精神のしのぎあいの見れるのが俺らにとって秀逸なスポーツなんでしょ。でも、一般的には逆のほうが多いかもしれない。

山口 やっぱり技術のラリーのほうがスポーツなんじゃない？　一般的には。

谷川 そうだろうね。

――でもさあ、それもよく分からなくなるんだよね（笑）。もしかして、ノゲイラ対ヒーリングは技術のしのぎあいって部分よりも、精神のしのぎあいのほうで沸いたのかもしれないし、高田対ミルコは情念のしのぎあいが見えづらかったからブーイングされたのかもしれない（笑）。

谷川 う～ん、難しいなあ。

――じゃあ、最初の谷津対グッドリッジはスポーツ？

谷川 スポーツだなあ。ちょっとけがれはあるけどね（笑）。

山口 実にいいスポーツだね（笑）。

大谷 ええ～？　スポーツなのお？　あんなにむさ苦しいスポーツマンはいないよぉ。

――ガハハハハハッ！　だから、それが偏見なんだよ。技術が見えないとスポーツの権威が下がると思ってる人が多いんだよ。でも、プロよりは技術の低い高校野球も草野球でも、立派なスポーツだからね。

谷川 プロなら最低限の技術がなきゃいけないっていう論調はあるよね。

――いやあ、俺は技術なんかなくても、何やられてもビクともしない鋼鉄の荒くれ漁師なんかも見てみたいけどなあ（笑）。

山口 実にけがれてるね（笑）。

――あっ、そうか！　スポーツっていう言葉のネガティブな響きは、そういう「けがれた眼」に対する偏見なんだ（笑）。

山口 俺たちが逸脱してるんだ（笑）。

――そうそう。でも、野球で一番期待するのは乱闘でしょ？

谷川 視聴率も一番いいだろうね。

山口 ビーンボールもスカッとするね（笑）。

――そういう本音を「けがれた眼」っていう偏見で片づけちゃう「スポーツ」っていう言葉がネガティブなんだよ。

谷川 そうかそうか。でも、けがれた眼はいけないなあ。僕みたいにいつも純粋に見なきゃ（笑）。

大谷 でも、谷川さんは眼が濁ってますよね（笑）。

山口 実に邪悪な光を放ってる（笑）。

谷川 んああああああ！ ■

▲東京ドームに集まった『プライド』史上最高53,246人が、マニアックと思われたノゲイラvsヒーリング戦に熱狂。『プライド』史上の快挙だ

11/22THU～12/13THU

CALENDAR

日付	予定
11/22 THU	■新日本キック協会/東京・後楽園ホール（17:30～）⬅p50 ★『SRS・DX』59号発売日
11/23 FRI	●フジテレビ系『SRS』（25:45～26:15）放送⬅p69
11/24 SAT	
11/25 SUN	■シュートボクシング/京都・福知山市三段公園総合体育館サブアリーナ（13:00～）⬅p49 ■修斗/東京・ディファ有明（16:00～）⬅p47 ◆PRIDE.18/チケット一斉発売⬅p46 ◆Kネットワーク『一撃』/チケット先行発売⬅p46
11/26 MON	■修斗/東京・北沢タウンホール（18:00～）⬅p47 ◆ニュージャパンキック/チケット発売⬅p49
11/27 TUE	
11/28 WED	◆MAキック新春正月興行/チケット発売⬅p48
11/29 THU	
11/30 FRI	■全日本キック連盟/東京・後楽園ホール（17:30～）⬅p49 ●フジテレビ系『SRS』（25:45～26:15）放送⬅p69
12/1 SAT	■アルティメットボクシング/北海道・滝川青年体育センター（18:00～）⬅p47 ■パンクラス/神奈川・横浜文化体育館（18:30～）⬅p48 ◆Kネットワーク『一撃』/チケット一般発売⬅p46
12/2 SUN	■日本キック連盟/東京・後楽園ホール（17:30～）⬅p49
12/3 MON	
12/4 TUE	
12/5 WED	
12/6 THU	
12/7 FRI	■アルティメットボクシング/北海道・苫小牧市総合体育館（18:00～）⬅p47 ●フジテレビ系『SRS』（25:45～26:15）放送⬅p69
12/8 SAT	■K-1 WORLD GP 2001 決勝/東京ドーム（17:00～）⬅p46
12/9 SUN	■ZERO-ONE/大阪城ホール（16:00～）⬅p47 ■全日本キック連盟/東京・後楽園ホール（17:30～）⬅p49
12/10 MON	
12/11 TUE	
12/12 WED	
12/13 THU	★『SRS・DX』60号発売日

格闘技パーフェクトガイド

Perfect Guide

GUIDE & TICKET
大会ガイド&チケット情報

総合格闘技&ノールール系

イノキ・ボンバイエ

INOKI BOM-BA-YE 2001 ～猪木軍vsK-1全面対抗戦～

12月31日（月）　さいたまスーパーアリーナ

◆開場/16:00　試合開始/18:00（予定）　◆入場料/VIP席100,000円（専用入場ゲート・グッズ付）　RRS席35,000円　SRS席25,000円　RS席15,000円　スタンドS席10,000円　スタンドA席7,000円　◆チケット発売/発売中　◆チケット発売所/ドリームステージエンターテインメント、PRIDEオフィシャルサイト（http://www.so-net.ne.jp/pride）、チケットぴあ、ローソンチケット、CNプレイガイド☎03-5802-9999、eプラス（http://eee.eplus.co.jp）☎03-5749-9911、サークルK／サンクス、レッスル渋谷店、レッスル池袋店、板橋大山アメリカン、書泉ブックマート、後楽園ホール、チャンピオン、フィットネスショップ格闘技☎03-3265-4646、チケット&トラベルT-1☎03-5275-2778、相鉄ジョイナスプレイガイド☎045-319-2456、公武堂☎052-241-2511、グレート・アントニオ（特典付き）☎03-3219-9550　◆会場アクセス/JR高崎線・宇都宮線・京浜東北線さいたま新都心駅より徒歩3分、JR埼京線北与野駅から徒歩7分　◆お問い合わせ/ドリームステージエンターテインメント☎03-5775-5700

出場予定選手

サム・グレコ
（オーストラリア／正道会館）

リングス

"世界のTK"髙阪がリングス・ロシアの新星アターエフと対戦！

秒殺を続けるロシアの破壊王アターエフが、ついにジャパン勢と激突！　迎え撃つのはリングス・ジャパンの大黒柱、髙阪だ！　9月にアメリカから帰国し、活動拠点を日本に移した髙阪は、これが帰国後の第1戦目となる。ここはキッチリ格の違いを見せつけて、来年は腰を据えて、リングスのベルト奪取に目標を置いてほしいところだ。

髙阪剛vsヴォルク・アターエフ

WORLD TITLE SERIES

12月21日（金）　神奈川・横浜文化体育館

◆開場/18:00　試合開始/19:00
◆入場料/RRS席20,000円　アリーナRS席15,000円　RS席10,000円　SS席7,000円　スタンドS席7,000円　スタンドA席5,000円　スタンドB席3,000円　学生特別優待席A席2,000円　学生特別優待B席1,000円　※学生特別優待席はチケットぴあのみで販売。なお、購入できるのは高校生以下。購入の際、学生証の提示が必要　◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット、CNプレイガイド、後楽園ホール、レッスル渋谷、レッスル池袋、書泉ブックマート、大山アメリカン、チャンピオン、フィットネスショップ水道橋店、格闘技プロショップ・イサミ☎03-3352-4083、イサミ尚武堂☎03-5214-6487　◆会場アクセス/JR関内駅南口より徒歩3分、市営地下鉄伊勢佐木長者駅より徒歩3分　◆お問い合わせ/リングス☎03-3461-0257

PRIDE

PRIDE.18

12月23日（日）　マリンメッセ福岡

◆開場/13:30　試合開始/15:00（予定）
◆入場料/VIP席100,000円　RRS席23,000円　スタンドS席13,000円　スタンドA席7,000円
◆チケット発売/11月25日（日）10:00～　一斉発売
◆チケット発売所/下記の表を参照
◆会場アクセス/JR博多駅より車で5分
◆お問い合わせ/ドリームステージエンターテインメント☎03-5775-5700

12・23『PRIDE.18』チケット発売情報

〈一斉発売〉
11月25日（日）10:00～

ドリームステージ	☎03-5775-5700
PRIDEオフィシャルサイト（http://www.so-net.ne.jp/pride）	
チケットぴあ	☎092-708-9999
	☎092-708-9966 [Pコード：945-173]
ローソンチケット	☎0570-00-0095 [Lコード：85126]
CNプレイガイド	☎03-5802-9999
eプラス（http://eee.eplus.co.jp）	☎03-5749-9911

決定対戦カード

〈金原弘光デビュー10周年記念試合〉
金原弘光vsポール・カフーン
（リングス・ジャパン）（リングス・オランダ）

髙阪剛vsヴォルク・アターエフ
（リングス・ジャパン）（リングス・ロシア）

エメリヤーエンコ・ヒョードルvsリー・ハスデル
（リングス・ロシア）（リングス・イギリス）

クリストファー・ヘイズマンvsエギリウス・ヴァラビーチェス
（リングス・オーストラリア）（リングス・リトアニア）

門馬秀貴vs佐々木恭介
（A³-Gym）（U-FILE CAMP）

出場予定選手

ヴォルク・ハン（リングス・ロシア）
小谷直之（RODEO STYLE）

WORLD TITLE SERIES

2月15日（金）　神奈川・横浜文化体育館

◆詳細未定
◆会場アクセス/JR関内駅南口より徒歩3分、市営地下鉄伊勢佐木長者駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/リングス☎03-3461-0257

K-1

K-1ワールドGP・シリーズ

K-1 WORLD GP2001 決勝大会

12月8日（土）東京ドーム

◆開場/14:30　試合開始/17:00
◆入場料/SRS席35,000円　RS席21,000円　SS席17,000円　S席11,000円　A席7,000円　B席5,000円
◆チケット発売/発売中　◆チケット発売所/キョードー東京、チケットぴあ、CNプレイガイド、ローソンチケット、eプラス（http://eee.eplus.co.jp）、JTB各支店、JTBトラベランド各店、JTB提携販売店各店、JR東日本みどりの窓口・びゅうプラザ、デジシート（http://k-1.world-gp.com）
◆会場アクセス/JR総武線、都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/K-1事務局☎03-3796-2977

出場決定選手

ステファン・レコ（ドイツ／ラスベガス大会優勝）
アーネスト・ホースト（オランダ／メルボルン大会優勝）
ジェロム・レ・バンナ（フランス／大阪大会優勝）
マーク・ハント（ニュージーランド／福岡大会Bブロック優勝）
ニコラス・ペタス（デンマーク／ジャパンGP優勝）
アレクセイ・イグナショフ（ベラルーシ／名古屋大会優勝）
フランシスコ・フィリォ（ブラジル／福岡大会Aブロック優勝）
ピーター・アーツ（オランダ／主催者推薦枠）

Kネットワーク

Kネットワーク

一撃

1月11日（金）　東京・代々木第2体育館

◆開場/17:00　試合開始/18:30
◆入場料/アリーナ席20,000円　スタンドA席10,000円　スタンドB席5,000円
◆チケット発売/11月25日（日）先行発売、12月1日（土）一般発売　◆チケット発売所/下記の表を参照
◆会場アクセス/JR山手線原宿駅、地下鉄千代田線明治神宮前駅より徒歩5分
◆お問い合わせ/ファーストウェーブ☎03-5369-3681

決定対戦カード

野地竜太vs武蔵
（極真会館）（正道会館）

1・11『一撃』チケット発売情報

〈先行発売〉
11月25日（日）

ファーストウェーブ	☎03-5369-3681
極真会館	☎03-5992-7735

〈一般発売〉
12月1日（土）
チケットぴあ、ローソンチケット

修斗

SHOOTO TO THE TOP
11月25日（日）　東京・ディファ有明

◆開場/15:00　試合開始/16:00
◆入場料/RS席8,000円　SS席6,000円　S席6,000円　A席3,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/ファイター、書泉ブックマート、後楽園ホール、フィットネスショップ水道橋店、KEEL CAFE、e-ticket（http://www.e-ticket.net）
◆会場アクセス/新交通ゆりかもめ有明駅より徒歩10分、臨海副都心線国際展示場駅より徒歩5分、品川駅東口から都バスで有明テニスの森下車、徒歩3分
◆お問い合わせ/サステイン☎03-5725-7338

決定対戦カード

《フェザー級チャンピオンシップ》
マモル vs 大石真丈
（シューティングジム横浜）（K'zファクトリー）

竹内出 vs マルタイン・デ・ヨング
（K'zファクトリー）（オランダ／NTL修斗マルタイン道場）

廣野剛康 vs 今泉健太郎
（和術慧舟會）（SKアブソリュート）

井上和浩 vs 阿部裕幸
（インプレス）（RJWセントラル）

藤原正人 vs 竹内幸司
（パレストラ東京）（シューティングジム横浜）

久保山誉 vs 端智弘
（K'zファクトリー）（PUREBRED大宮）

倉持昌和 vs 飛田拓人
（フリー）（インプレス）

松下直揮 vs 冨樫健一郎
（ALIVE）（パレストラ広島）

SHOOTO GIG EAST vol.7
11月26日（月）　東京・北沢タウンホール

◆開場/17:00　試合開始/18:00
◆入場料/S席6,000円　A席4,000円
◆チケット発売/発売中　◆チケット発売所/パレストラ東京、KEEL CAFE、デジタラジア（http://DIGITALAZIA.com）
◆会場アクセス/小田急線、京王井の頭線下北沢駅南口より徒歩5分
◆お問い合わせ/パレストラ東京☎03-5984-3209

決定対戦カード

池田久雄 vs 村田一着
（PUREBRED大宮）（アメリカ／フリー）

渡辺孝 vs 植松直哉
（パレストラ東京）（K'zファクトリー）

梅村寛 vs 小塚誠司
（ALIVE）（PUREBRED大宮）

小島直人 vs 石田光洋
（パレストラ東京）（総合格闘技TOPS）

喜多浩樹 vs 木部亮
（パレストラ東京）（ALIVE）

安達明彦 vs カッシム・アナン
（パレストラ松戸）（フランス／チーム・フランス）

朴光哲 vs マーク・ドゥンカン
（K'zファクトリー）（オランダ／NTL修斗マルタイン道場）

SHOOTO TO THE TOP
12月16日（日）　千葉・東京ベイNKホール

◆開場/14:00　試合開始/16:00
◆入場料/SRS席20,000円　RS席15,000円　SS席10,000円　パノラマS席12,000円　パノラマ席10,000円　S席8,000円　A席6,000円　B席4,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット、CNプレイガイド、e-ticket（http://www.e-ticket.net）
◆会場アクセス/JR京葉線舞浜駅よりディズニーリゾートライン乗車、ベイサイド・ステーション下車すぐ
◆お問い合わせ/サステイン☎03-5725-7338

決定対戦カード

〈ウェルター級チャンピオン決定戦〉
五味隆典 vs 佐藤ルミナ
（木口道場レスリング教室）（K'zファクトリー）

〈ライト級チャンピオンシップ〉
アレッシャンドリ・フランカ・ノゲイラ vs 戸井田カツヤ
（ブラジル／ワールド・ファイト・センター）（日本／和術慧舟會）

桜井"マッハ"速人 vs ダン・ギルバート
（GUTSMAN・修斗道場）（アメリカ／ヘル・ハウス）

三島☆ド根性ノ助 vs ライアン・ボウ
（格闘サークルコブラ会）（アメリカ／フリー）

プロフェッショナル修斗公式戦
1月12日（土）　東京・後楽園ホール

◆開場/17:00　試合開始/18:00
◆入場料/RS席10,000円　SS席7,000円　S席5,000円　A席3,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット、CNプレイガイド、e-ticket（http://www.e-ticket.net）
◆会場アクセス/JR総武線、都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/サステイン☎03-5725-7338

プロレスリングZERO-ONE

小川、橋本がタッグ結成！OH砲炸裂に期待！

「真撃」第Ⅳ章
12月9日（日）　大阪城ホール

◆開場/15:00　試合開始/16:00
◆入場料/RS席15,000円　SS席12,000円　S席7,000円　A席4,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、ファミリーマート、ローソンチケット、CNプレイガイド、eプラス（http://eee.eplus.co.jp）、デジシート（http://www.digiseat.net）、たんぽぽの種（http://tanpopo-tane.com）、エース☎06-6636-5468、バディスラム☎06-6645-1378、チャンピオン大阪店☎06-6645-5186
◆会場アクセス/JR大阪城公園駅、地下鉄大阪ビジネスパーク駅より徒歩5分
◆お問い合わせ/ステージア☎06-6344-4441

決定対戦カード

小川直也（U.F.O）・橋本真也（ZERO-ONE） vs トム・ハワード（アメリカ／UPW）・マーク・ケアー（アメリカ／フリー）

藤原喜明（藤原組） vs ディック・フライ（オランダ／フリー）

村上和成（U.F.O） vs ジョシー・デンプシー（アメリカ／LAボクシングジム）

星川尚浩（ZERO-ONE） vs 坂田亘（EVOLUTION）

DEEP2001

DEEP2001 3rd IMPACT 12.23 X'mas in DEFFER ARIAKE
12月23日（日）　東京・ディファ有明

◆開場/14:00　試合開始/15:00
◆入場料/VIP席30,000円　SRS席15,000円　アリーナS席9,000円　アリーナA席7,000円　アリーナB席5,000円　※当日券は500円増し
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、CNプレイガイド、ローソンチケット、eプラス（http://eee.eplus.co.jp）、ディファ有明☎03-5500-3731、書泉ブックマート、大山アメリカン、レッスル渋谷、レッスル池袋、後楽園ホール、ビデオショップチャンピオン、プロレスマニア館☎03-5276-0304、アイドール新宿☎03-3371-5211、ファイター☎03-3354-1903、フィットネスショップ水道橋☎03-3265-4646、チケット&トラベルT-1☎03-5275-2778、デポマート☎03-3515-6507、パンクラス☎03-5792-0815、DEEP2001
◆会場アクセス/新交通ゆりかもめ有明駅より徒歩10分、臨海副都心線国際展示場駅より徒歩5分、品川駅東口から都バスで有明テニスの森下車、徒歩3分
◆お問い合わせ/DEEP2001事務局☎052-339-0303

決定対戦カード

村浜武洋 vs ビクトル・ラバナレス
（大阪プロレス）（メキシコ）

矢野卓見 vs "ランバー"ソムデート吉沢
（烏合会）（M16ジム）

ドス・カラスJr vs 大刀光
（AAA）（SPWF）

窪田幸生 vs 坂田亘
（パンクラス・横浜）（EVOLUTION）

上山龍紀 vs ラバーン・クラーク
（U-FILE CAMP）（ミレティッチ・マーシャルアーツ・センター）

伊藤崇文 vs 日高郁人
（パンクラス・横浜）（格闘探偵団バトラーツ）

冨宅飛駈 vs 長南亮
（パンクラス・東京）（U-FILE CAMP）

大石幸史 vs 村浜天晴
（パンクラス・横浜）（フリー）

佐藤伸哉 vs 平田勝裕
（P's LAB東京）（A³-Gym）

掣圏道

アルティメットボクシング定期戦　滝川大会
12月1日（土）　北海道・滝川青年体育センター

◆開場/17:30　試合開始/18:00　◆入場料/リングサイド席10,000円　S席7,000円　A席5,000円　B席3,000円　◆チケット発売/発売中　◆チケット発売所/カラオケスタジオスポットライト、ミュージックショップシオジリレコード店、サクラ商会、プレス空畑、道新水口販売所、ローソンチケット
◆会場アクセス/JR滝川駅より車で10分
◆お問い合わせ/SWA滝川支部☎0125-23-2345

アルティメットボクシング定期戦　苫小牧大会
12月7日（金）　北海道・苫小牧市総合体育館

◆開場/17:00　試合開始/18:00　◆入場料/リングサイド席10,000円　S席7,000円　A席5,000円　B席3,000円
◆チケット発売/発売中　◆チケット発売所/パセオサービスカウンター、スティプレイガイド、鶴丸百貨店、サンプラザインフォメーションセンター、ローソンチケット
◆会場アクセス/JR苫小牧駅より徒歩20分
◆お問い合わせ/掣圏道協会本部☎0166-27-5788

総合格闘技&ノールール系

バトラーツ

競艇プロレス
12月1日（土）　埼玉・戸田競艇場

競艇プロレス
12月3日（月）　静岡・浜名湖競艇場

競艇プロレス
12月3日（月）　徳島・鳴門競艇場

◆お問い合わせ/バトラーツ☎0489-63-0005

パンクラス

PANCRASE 2001 PROOF TOUR
12月1日（土）　神奈川・横浜文化体育館

◆開場/17:00　試合開始/18:30　◆入場料/SS席16,000円　RS-A席7,500円　RS-B席5,500円　2F-A席10,000円　2F-B席6,000円　2F-C席3,500円　3F席4,500円　※当日券は500円増し　◆チケット発売/発売中　◆チケット発売所/チケットぴあ、CNプレイガイド、ローソンチケット、eプラス（http://eee.eplus.co.jp）、書泉ブックマート、大山アメリカン、レッスル渋谷、レッスル池袋、後楽園ホール、チャンピオン、プロレスマニア館☎03-5276-0304、アイドール新宿☎03-3371-5211、ファイター☎03-3354-1903、フィットネスショップ水道橋、チケット&トラベルT-1☎03-5275-2778、格闘技・プロレス図書館 闘道館☎03-3512-2080、パンクラス　◆会場アクセス/JR関内駅南口より徒歩3分、市営地下鉄伊勢佐木長者駅より徒歩3分　◆お問い合わせ/パンクラス☎03-5792-0815

決定対戦カード

《初代ヘビー級王者決定戦》
髙橋義生vs藤井克久
（パンクラス・東京）　（V-CROSS）

《ミドル級タイトルマッチ》
ネイサン・マーコートvs國奥麒樹真
（アメリカ/コロラド・スターズ）　（パンクラス・横浜）

郷野聡寛vs近藤有己
（Team GRABAKA）　（パンクラス・東京）

佐々木有生vs渋谷修身
（パンクラス・GRABAKA）　（パンクラス・横浜）

菊田早苗vs渡辺大介
（パンクラス・GRABAKA）　（パンクラス・横浜）

美濃輪育久vs柴田寛
（パンクラス・横浜）　（RJW／CENTRAL）

三崎和雄vsクリス・ライトル
（パンクラス・GRABAKA）　（アメリカ／I.F.アカデミー）

北岡悟vs長岡弘樹
（パンクラス・東京）　（ロデオ・スタイル）

topic!
反撃のノロシは上がるのか!? パンクラス本隊が公開練習！

11月10日（土）、パンクラス横浜道場において、12.1横浜文体大会での対グラバカ3vs3マッチに出場する近藤有己、渋谷修身、渡辺大介が公開練習を行った。前回の5vs5団体戦では惨敗を喫したパンクラス本隊。反撃に向け、これまでのパンクラシストには感じられなかった"敵意"をビンビン放射する3人の声をどうぞ！

近藤「日本人の実力者とやれて嬉しいですね。ワクワクしてます。休んでる間に、体も技も謙虚に言って1.5倍、もっと言えば2倍は上がってますから。それを出せればと。郷野選手の挑発？　まだまだ足りない。もっとガンガン言ってくれていいですよ。あんぐらいじゃヘコまないっすよ」

渋谷「石井の借りを返します。佐々木選手は立っても寝てもバランスがいいけど、それを上回る自信があります。前回の対抗戦についてはいろいろ言いたいこともありますけど、負けてるんで。次、勝って見返します」

渡辺「前回は自分はドローで、内容も良かったと思うんですけど、団体戦ですからね。悔しいですよ、リングで（郷野に）あれだけ言われちゃ。今度の相手はチャンピオンだけど、ホントに勝つ気でいますから、オレ」

▲写真左から近藤有己、渋谷修身、渡辺大介

キックボクシング

MA日本キックボクシング連盟

MAキック新春正月興行
1月18日（金）　東京・後楽園ホール

◆開場/16:45　試合開始/17:15
◆入場料/SRS席30,000円　RS席20,000円　S席10,000円　指定A席7,000円　指定B席5,000円　立見席3,000円
◆チケット発売/11月28日（水）
◆チケット発売所/チケットぴあ、後楽園ホール
◆会場アクセス/JR総武線、都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/士道館総本部☎042-942-8721

出場予定選手

佐藤堅一（士道館）

マグナム酒井（士道館）

カズ工藤（士道館新座ジム）

Result!
ADVANCE-1
11・3★千葉・袖ヶ浦市臨海スポーツセンター

★第9試合
○山上健吾（判定3-0）井出本高司●
〈花澤ジム〉　〈八街ジム〉

★第8試合
○花戸忍（判定3-0）天野哲成●
〈東金ジム〉　〈マイウェイジム〉

★第7試合
○中西陽介（1R1分18秒、KO勝ち）加瀬大策●
〈山木ジム〉　〈八街ジム〉

★第6試合
○阿部乃泰彦（2R3分00秒、TKO勝ち）菅原誠二●
〈東金ジム〉　〈花澤ジム〉

★第5試合
△寺口一也（判定0-0、ドロー）大高一郎△
〈花澤ジム〉　〈山木ジム〉

★第4試合
○福原啓太（判定2-1）藤田啓一●
〈花澤ジム〉　〈土浦ジム〉

★第3試合
○美根トシフミ（判定3-0）奥沢栄三郎●
〈花澤ジム〉　〈山木ジム〉

★第2試合
○白須康仁（判定3-0）滝沢尚也●
〈花澤ジム〉　〈マイウェイジム〉

★第1試合
○三幣一裕（判定3-0）東金ケンジ●
〈花澤ジム館山ジム〉　〈東金ジム〉

真樹ジム オキナワ

冬の沖縄を熱くさせる異色格闘技イベント！

前回大好評を収めた、真樹ジムオキナワ主催の「KAKIDAMISHI（カキダミシ）」の第2回大会の開催が決定した。今年1月のK-1愛媛大会で引退試合を闘った村上竜司。引退試合にもかかわらず試合後「スタン・ザ・マンとやりたい」と語っていたが、その言葉がなぜか沖縄で実現する！　そしてバス・ルッテンの弟子アミールと村上和成の弟子が対戦する弟子対決のほか、ムエタイの強豪サッグモンコン、カール・マレンコの参戦も決まり、かなり異色かつ豪華なラインナップだ！

村上竜司vsスタン・ザ・マン

KAKIDAMISHI 2
12月16日（日）　沖縄・ダンスホール松下

◆開場/16:00　試合開始/17:00　◆入場料/SRS席10,000円（大会パンフ付）　イス席5,000円　立見席4,000円　◆チケット発売/発売中　◆チケット発売所/真樹ジムオキナワ、他　◆会場アクセス/那覇空港より車で約10分　◆お問い合わせ/真樹ジムオキナワ☎098-942-8120

決定対戦カード

村上竜司vsスタン・ザ・マン
（士魂塾）　（オーストラリア）

カール・マレンコvsX
（バトラーツ）

アミールvsX
（アメリカ）

サッグモンコン・シッチューチョークvsX
（タイ）

山本ノボルvsソーレック・ゲッソンリット
（カワタジム）　（タイ）

ジュリアスvsシャイン
（真樹ジム）　（サードマーシャルアーツアカデミー）

Mr.神風vs中島剛士
（神風塾）　（士魂塾）

早千予vsX
（白龍）

手塚豊vs水町浩
（真樹ジム）　（士魂塾）

キックボクシング

ニュージャパンキックボクシング

後楽園ホール大会

1月26日（土）　東京・後楽園ホール

◆開場/16:45　試合開始/17:00
◆入場料/特別RS席12,000円　RS席10,000円　特別指定席7,000円　A指定席5,000円　B指定席4,000円　C指定席3,000円
◆チケット発売/11月26日（月）
◆チケット発売所/チケットぴあ、他
◆会場アクセス/JR総武線、都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/ニュージャパンキックボクシング連盟
☎03-5625-2371

Result! CHALLENGE TO MUAY THAI 10
11・2★東京・後楽園ホール

★第10試合
○チョンポップ・キアットポルティップ（4R0分49秒、KO勝ち）押川童子丸●
〈タイ〉〈キングジム〉

★第9試合
弘中史樹（中止）藤原国崇
〈ウィサラクレック〉〈拳乃会〉

★第8試合
○飯田誠一（1R1分58秒、KO勝ち）宮本勲●
〈町田金子〉〈大和ジム〉

★第7試合
○佐藤友則（判定3-0）HIDE●
〈小国ジム〉〈八王子FSG〉

★第6試合
○孫悟空丸山（判定2-1）外山繁幸●
〈小国ジム〉〈上州松井ジム〉

★第5試合
○岩井伸洋（1R2分33秒、KO勝ち）馳大輔●
〈小国ジム〉〈JK国際〉

★第4試合
○増倉敦史（3R2分38秒、KO勝ち）獅子丸修平●
〈一心館〉〈小国ジム〉

★第3試合
○米田貴志（判定3-0）和地英世●
〈小国ジム〉〈KOファクトリー〉

★第2試合　バンタム級／3回戦
○戸部隆一（判定3-0）川井りん太郎●
〈上州松井〉〈ウィサラクレック〉

★第1試合
○植田栄二（1R2分02秒、KO勝ち）有川省吾●
〈町田金子〉〈小国ジム〉

シュートボクシング

どついたるねん in 福知山

11月25日（日）　京都・福知山市三段公園総合体育館サブアリーナ

◆開場/12:00　試合開始/13:00
◆入場料/2,000円　※当日券は500円増し
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/ローソンチケット、龍生塾各道場、マーシャルワールド
◆会場アクセス/山陰本線福知山駅より徒歩30分、JR福知山駅より京都交通バス乗車、三段池公園下車
◆お問い合わせ/龍生塾本部道場☎06-6357-5339

決定対戦カード

朽岡裕輔 vs 田村聡太
（龍生塾）（大阪ジム）

石塚勇三 vs 緒形健一
（龍生塾）（シーザージム）

全日本キックボクシング連盟

LIGHT ON！

11月30日（金）　東京・後楽園ホール

◆開場/17:00　試合開始/17:30
◆入場料/RS席10,000円　S席7,000円　A席5,000円　B席3,000円　一般立見3,500円　※当日券は1,000円増し
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、後楽園ホール、全日本キック、Bout Review（http://www.boutreview.com）
◆会場アクセス/JR総武線、都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/全日本キック☎03-3365-1171

決定対戦カード

小林聡 vs オスマン・イギン
（藤原ジム）（ベルギー）

金沢久幸 vs ニック・ミッチ
（TEAM-1）（ニュージーランド）

《全日本ライト級王座決定戦トーナメント1回戦》
浜川憲一 vs SHI-LOW
（作真会館）（士心館）

松本竜大 vs 大月敦史
（名古屋JKF）（藤原ジム）

〈LIGHTNING全日本ライト級トーナメント決勝戦〉
藤牧孝仁 vs ラスカル・タカ
（はまっこムエタイジム）（月心会）

サトルヴァシコバ vs 嵐田茂
（勇心館）（REX JAPAN）

鈴木ミツル vs 富永秀則
（GENESIS）（月心会）

加門政志 vs 山本元気
（士心館）（REX JAPAN）

真後和彦 vs 大橋和夫
（はまっこムエタイジム）（藤原ジム）

菊池匡斉 vs 坂口雅至
（はまっこムエタイジム）（S.V.G）

BULLET

12月9日（日）　東京・後楽園ホール

◆開場/17:00　試合開始/17:30
◆入場料/RS席10,000円　S席7,000円　A席5,000円　B席3,000円　一般立見3,500円　※当日券は1,000円増し
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、後楽園ホール、全日本キック、Bout Review（http://www.boutreview.com）
◆会場アクセス/JR総武線、都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/全日本キック☎03-3365-1171

決定対戦カード

新田明臣 vs 清水貴彦
（S.V.G）（超越塾）

前田尚紀 vs 大宮司進
（藤原ジム）（シルバーウルフ）

笠原大介 vs YUTAKA
（GENESIS）（月心会）

池田好治 vs 江口真吾
（藤原ジム）（作真会館）

J-NETWORK

ディファ有明大会

1月20日（日）　東京・ディファ有明

◆詳細未定　◆会場アクセス/新交通ゆりかもめ有明駅より徒歩10分、臨海副都心線国際展示場駅より徒歩5分、品川駅東口から都バスで有明テニスの森下車、徒歩3分
◆お問い合わせ/J-PROMOTION☎03-3418-6598

決定対戦カード

チョークディー・ポープラムック vs 加藤督朗
（タイ）（PHENIX）

テーワリッノーイ・SKVジム vs 井上哲
（タイ）（山木ジム）

蔵満誠 vs 大宮司進
（ソーチタラダ）（シルバーウルフ）

西山誠人 vs X
（アクティブJ）

稲葉潤 vs 泉雄策
（サバーイ町田）（山木ジム）

日本キックボクシング連盟

2001激動シリーズ ～最終戦～

12月2日（日）　東京・後楽園ホール

◆開場/17:00　試合開始/17:30　◆入場料/RS席10,000円　指定A席5,000円　指定B席3,000円
◆チケット発売/発売中　◆チケット発売所/チケットぴあ、後楽園ホール　◆会場アクセス/JR総武線、都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/日本キックボクシング連盟☎03-3691-4536

決定対戦カード

《NBK統一ランキング戦》
小野瀬邦英 vs 中村篤史
（渡辺ジム）（北流会君津）

石毛慎也 vs 広川靖之
（東京北星）（小国ジム）

楠本勝也 vs 神谷秀明
（東京北星ジム）（ピコイ・錦）

松本浩幸 vs TURBO
（八王子FSG）（パシフィック）

小野寺亮 vs 宮本勲
（神武館）（大和ジム）

駒和徳 vs 中西和宏
（大阪真門）（八王子FSG）

藤原鉄志 vs 西田和嗣
（青春塾）（S.V.G）

石川直生 vs 新宅正章
（青春塾）（新空手／空修会館）

降矢康勝 vs 加藤啓明
（GENESIS）（TEAM-1）

平航 vs 佐々秀幸
（作真会館）（新空手／瀧澤学園）

栗原毅 vs 清水英樹
（REX JAPAN）（月心会）

村山良和 vs 瀬尾博幸
（はまっこムエタイジム）（TEAM-1）

空手

極真会館（松井派）

第14回全関西空手道選手権大会
12月2日（日）　兵庫・神戸ワールド記念ホール

◆開場/9:00　試合開始/10:30　◆入場料/S席4,000円（当日5,000円）　大人自由席2,000円（当日3,000円）　小・中学生1,000円（当日1,500円）、幼児無料　◆チケット発売/発売中　◆チケット発売所/チケットぴあ、極真会館兵庫県・大阪南支部各道場、兵庫県・大阪南支部事務局　◆会場アクセス/JR三宮駅からポートライナーで市民広場駅下車　◆お問い合わせ/中村道場☎078-531-0664

新空手

第2回新空手道京都大会
11月23日（金・祝）　京都・岡崎武道センター

◆試合開始/12:00　◆入場料/500円（大会パンフレット付）
◆会場アクセス/京阪丸太町駅より徒歩5分（旧武徳殿）
◆お問い合わせ/新空手・本部☎03-3239-4994

アマチュア

北道院拳法

第7回全日本大学オープン選手権大会
11月23日（金・祝）　大阪・豊中立武道館ひびき

◆試合開始/10:00　◆入場料/無料
◆会場アクセス/阪急宝塚線服部駅より徒歩12分
◆お問い合わせ/北道院拳法大会本部事務局☎06-6333-7004

日本国際テコンドー協会

第2回中部大会
11月24日(土)、11月25日(日)　岐阜メモリアルセンター

◆詳細未定
◆会場アクセス/JR岐阜駅または名鉄新岐阜駅より岐阜市営バスまたは岐阜バス乗車、岐阜メモリアルセンター正門前下車すぐ
◆お問い合わせ/日本国際テコンドー協会☎042-360-1289

アマチュアKoK

第2回KoKリミテッド
11月25日（日）　東京・新宿区スポーツ会館4階総合体育館

◆詳細未定　◆会場アクセス/JR中央線・総武線大久保駅より徒歩5分、JR山手線新大久保駅より徒歩10分
◆お問い合わせ/リングス☎03-3461-0257

アマチュア修斗

大宮フリーファイト35
12月23日（日）　埼玉・PUREBRED大宮

◆入場料/無料
◆会場アクセス/JR宇都宮線東大宮駅、JR高崎線宮原駅、東武野田線岩槻駅より大宮健康センターゆの郷無料送迎バスに乗車
◆お問い合わせ/PUREBRED大宮☎048-686-3328

アマチュアシュートボクシング

第12回全日本アマチュアシュートボクシング選手権
12月9日（日）　東京・文京スポーツセンター

◆試合開始/10:00　◆入場料/無料　◆会場アクセス/営団地下鉄丸ノ内線茗荷谷駅より徒歩5分
◆お問い合わせ/シュートボクシング協会☎03-3843-1212

新日本キックボクシング協会

KICK GENERATION Ⅲ
11月22日（木）　東京・後楽園ホール

◆開場/17:00　試合開始/17:30　◆入場料/SRS席10,000円　RS席7,000円　A席5,000円　立見4,000円（当日のみ）
◆チケット発売/発売中　◆チケット発売所/協会各ジム、チケットぴあ、後楽園ホール　◆会場アクセス/JR総武線、都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/新日本キックボクシング協会☎03-3780-1350

主な対戦カード

—5回戦—

マサル vs ムァンファーレック・ギャットウィチアン
（トーエルジム）（タイ）

北沢勝 vs ホカトモヒロ
（藤本ジム）（治政館）

鷹山真吾 vs 高杉茂男
（尚武会）（伊原ジム）

風神和昌 vs 葵真吾
（野本ジム）（トーエルジム）

GN-HOLD

GRAPPLE MASTER 2001
12月16日（日）　神奈川県相模原市総合体育館

◆試合開始/15:00　◆入場料/無料
◆会場アクセス/小田急線相模原大野駅より車で20分
◆お問い合わせ/GN-HOLD☎070-5209-5308

アマチュアパンクラス

第3回アマチュアパンクラスオープントーナメント
11月23日（金・祝）　P's LAB東京

◆試合開始/10:00　◆入場料/無料　◆会場アクセス/地下鉄日比谷線広尾駅より徒歩5分　◆お問い合わせ/ワールドパンクラスクリエイト☎03-5792-0815

第2回アマチュアパンクラスオープントーナメント
12月9日（日）　P'sLAB大阪

◆詳細未定　◆入場料/無料　◆会場アクセス/地下鉄御堂筋線・四つ橋線大国町駅より徒歩1分　◆お問い合わせ/ワールドパンクラスクリエイト☎03-5792-0815

日本拳法

第13回日本拳法大演武会
11月23日（金・祝）　東京・立川市錬成館柔・剣道場

◆開場/13:00　試合開始/13:30　◆入場料/無料
◆会場アクセス/JR中央線立川駅南口より徒歩7分（諏訪神社内）
◆お問い合わせ/世界日本拳法連合総本部講武会館
☎0903-5496-464

T.A.M.A.

格闘技サミット交流戦
12月23日（日）　東京・ニューシティーホール国立特設コート

◆開場/11:00　試合開始/11:30
◆入場料/2,000円　※当日券は1,000円増し
◆会場アクセス/JR中央線国立駅南口より徒歩2分
◆お問い合わせ/T.A.M.A.代表　長瀬正和☎0425-72-6795
☎090-1213-1947

キックボクシング

STRIKE BACK!　〜逆襲〜
1月27日（日）　東京・後楽園ホール

◆開場/17:00　試合開始/17:15　◆入場料/SRS席20,000円　RS席15,000円　S席10,000円　A席7,000円　B席5,000円　立見4,000円（当日のみ）　◆チケット発売/発売中　◆チケット発売所/治政館ジム、チケットぴあ、後楽園ホール
◆会場アクセス/JR総武線、都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/治政館ジム☎048-953-1880

主な対戦カード

—5回戦—

武田幸三 vs タイ国強豪選手
（治政館）

菊地剛介 vs 小川和宏
（伊原ジム）（治政館）

米田克盛 vs X
（トーエルジム）

石井宏樹 vs タイ国強豪選手
（藤本ジム）

小出智 vs 韓国強豪選手
（治政館）

松本哉朗 vs タイ国強豪選手
（藤本ジム）

庵谷鷹志 vs 鷹山真吾
（伊原ジム）（尚武会）

マサル vs ジャッカル黒石
（トーエルジム）（治政館）

topic!

ラジャダムナン大会カード決定！

FIGHT TO MUAY-THAI 2001
12月9日(日)タイ・ラジャダムナンスタジアム

深津飛成 vs トーンパンチャン・サックテーワン
（伊原ジム）（タイ）

石井宏樹 vs ジャカワーンレック・サックテーワン
（藤本ジム）（タイ）

松本哉朗 vs コンファーク・ルークメークロン
（藤本ジム）（タイ）

小出智 vs パヤックレック・ソーソーゴージム
（治政館）（タイ）

菊地剛介 vs ダオチャイ・ソーソーゴージム
（伊原ジム）（タイ）

米田克盛 vs デンスッキー・マハーチャイウィラー
（トーエルジム）（タイ）

主要チケット発売所一覧

チケットぴあ ☎03-5237-9999	レッスル渋谷店 ☎03-3464-0078
チケットセゾン ☎03-3250-9999	レッスル池袋店 ☎03-3989-0056
ローソンチケット ☎03-3569-9900	板橋大山アメリカン ☎03-3962-6443
CNプレイガイド ☎03-5802-9999	チャンピオン ☎03-3221-6237
オデッセー ☎03-3408-0331	書泉ブックマート ☎03-3294-0011
渋谷東急文化チケットセンター ☎03-3406-1513	後楽園ホール ☎03-5800-9999

バックナンバー インフォメーション

これ以前の号をお求めの方は、グレート・アントニオへお越しを！（ただし、完売した号もございますので、ご確認ください）

《8・9＆8・23　合併号　51号》

●猪木軍団vsK-1全面対抗戦/バンナ、石井館長インタビュー、コールマン＆グッドリッジ対談
●7･29『プライド15』最終情報！/アントニオ･ノゲイラインタビュー、大山峻護奮闘日記
●祝・リングス取材解禁！/前田日明と久々の再会、金原弘光が8・11有明大会をズバリ分析、前田日明主催・マスコミ懇親会
●大会速報/7・20K-1ワールドGP2001名古屋大会
●噂の三面記事　特大版/猪木成田会見、『プライド15』全カード決定、K-1ラスベガス大会情報、リングス有明大会情報、『DEEP2001』全カード決定、大道塾世界大会開催
●8・19K-1ジャパンGP決勝戦/中迫剛、ノブ・ハヤシ、大石亨インタビュー

《9・13　臨時増刊号　52号》

●大会速報/7・29『プライド15』　さいたまスーパーアリーナ大会
●K-1vs猪木軍団続報/どうなる！？　8・19K-1ジャパン、ミルコ・クロコップインタビュー
●SRS・DXの注目！/前田日明主催、マスコミ懇親会（後編）、極真、真夏の他流試合3連戦、東孝インタビュー、『プライド』＆UFC、ラスベガス大会実現へGO！
●8・11K-1ラスベガス大会最終情報/ピーター・アーツ、内田ノボルインタビュー
●大会レポート/7・22全日本キック後楽園ホール大会、7・26SMACK GIRLclubATOM大会、7・28新日本キック後楽園ホール大会、7・29パンクラス後楽園ホール大会
●大盛況！　グレート・アントニオ津田沼店

《9・13　53号》

●大会速報/8・19K-1 ANDY MEMORIAL 2001たまアリ大会、ジェロム・レ・バンナ、マイク・ベルナルドインタビュー、8・18『DEEP2001』横浜文体大会
●大会詳報/8・11K-1ワールドGPラスベガス大会、8・11リングス旗揚げ10周年記念有明大会
●SRS・DXの注目！/堀辺正史の『プライド15』総括インタビュー、ミルコ・クロコップ、わずか2週間でバーリ・トゥーダーに大変身！？　髙田延彦＆桜庭和志in沖縄
●グレート・アントニオ夏の陣　イベント速報/8・5破壊王トークショー、8・11浅草キッド、Tシャツ即売会
●大会レポート/8・10全日本キック後楽園ホール大会、8・4『キング・オブ・ザ・ケイジ10』
●巻頭座談会/『プライド』の「メジャー化」で失われていくものとは何か？

《9・27＆10・11　合併号　54号》

●徹底追跡！　猪木軍vsK-1軍、開戦の波紋/アントニオ猪木、石井館長インタビュー、堀辺正史「猪木軍vsK-1軍の意義とは？」、サム・グレコ、グッドリッジインタビュー
●『プライド16』直前情報/『プライド』に来襲する他団体の王者をキャッチ、ドン・フライ、セーム・シュルト、ヒカルド・アローナインタビュー、ホイスが「ノゲイラvsコールマン戦」を徹底検証、『プライド16』最新カード
●リングス新展開！/ヴォルク・アターエフ、レナード・バババル、伊藤博之インタビュー
●SRS・DXの注目/10・14バトラーツ大会情報、橋本真也vsサダハルンバ谷川
●大会レポート/9・2正道会館全日本大会、8・25パンクラス大阪大会ほか

《10・25　臨時増刊号　55号》

●徹底追跡＆詳報！/12・31『INOKI BON-BA-YE 2001』TBSで放送決定、11・3『プライド17』で髙田vsミルコ戦実現へ。髙田インタビュー「なぜ小川戦をやめてミルコと闘うのか？」
●大会速報！/9・24『プライド16』大阪城ホール大会、9・21リングス後楽園ホール大会
●噂の三面記事/K-1、TBSに進出！　来年2月に「K-1ミドルGP」開催、極真会館プロ参入へ「Kネットワーク」旗揚げへ！　ほか
●SRS・DXの注目/松井章圭館長、桜庭和志、魔裟斗＆小比類巻、緒形健一インタビュー
●10・8 K-1福岡大会直前インタビュー/フランシスコ・フィリォ
●大会レポート/9・7～15 KICKダイジェスト、9・16新日本キック・ディファ有明大会

《10・25　56号》

●徹底追跡！「猪木軍vsK-1」から「プロレスvsK-1」へ/ミルコ、石井館長インタビュー、K-1ファイター意識調査「総合挑戦は是か、非か？」、アーツ、ベルナルド、バンナ、セフォー、アビディインタビュー、佐竹＆藤田が髙田延彦の強さを語る
●21世紀最初のオールスター戦『プライド17』特集/アントニオ・ノゲイラ、ヴァンダレイ・シウバ、ヒース・ヒーリングインタビュー、桜庭和志VS小室哲哉対談
●大会詳報/9・30パンクラス横浜文体大会、9・28『UFC33』ラスベガス大会
●SRS・DXの注目/山崎進、滑川康仁インタビュー、アントニオ猪木inパラオ
●大会レポート/9・23極真アメリカズ・カップ2001、9・29キング・オブ・ザ・ケイジ11ほか

《11・8　57号》

●11・3『プライド17』直前情報！/髙田公開練習、特訓中のミルコに潜入ルポ、シュートボクセはなぜ強い？　衝撃！　グレイシー内紛、小原、スケルトンインタビュー
●12・8 K-1ワールドGP決勝大会情報/21世紀のK-1を変えるニューフェイスたち
●大会詳報/10・8 K-1ワールドGP 2001 敗者復活戦福岡大会、10・20リングス代々木大会
●編集長インタビュー/週刊プロレス編集長・佐藤正行
●SRS・DXの注目/木山仁インタビュー、パンクラス正規軍vsグラバカ5対5全面対抗戦
●大会レポート/10・12全日本キック後楽園大会、10・14バトラーツNKホール大会　ほか
●SRS・DXオフィシャルHP、いよいよオープン！

《11・22　58号》

●大会速報/11・3『プライド17』東京ドーム大会、ホイス・グレイシーインタビュー、試合後インタビュー……ミルコ・クロコップ、ヴァンダレイ・シウバ
●噂の三面記事拡大版/12・31『猪木軍vsK-1』いったい誰が出るのか？
●1・11『一撃』開催決定！/武蔵、野地竜太インタビュー、11・3～4極真全日本大会速報
●SRS・DXの注目/『プライド』に来る変なガイジンたち、世界大会直前！大道塾「飲んだくれ」座談会、リングスヘビー級王座ヒョードルインタビュー
●大会レポート/10・30パンクラスvsグラバカ対抗戦後楽園大会、10・25『真撃』日本武道館大会、10・28新日本キック後楽園大会、10・31AX下北沢大会

バックナンバー　通信販売方法

定価／各680円　送料／1冊＝100円、以下一冊増えるごとに50円増し。希望冊数×680円と冊数分の送料を、現金書留にて下記までお送りください。
住所、氏名、希望号数の明記をお忘れなく。発送まで1～2週間ほどかかりますのでご了承ください。

〒101-0054　東京都千代田区神田錦町3-14-12神田NSビル8F　『SRS・DX　バックナンバー係』まで　お問い合わせは ☎03-3295-4445

浅草キッドの底抜けアントンハイセル

◎浅草キッドHP『キッドリターン』
最新URLはこちら⬇
http://www.asakusakid.com

『プライド17』での小原の醜態に、博士断言！
「もう似てると言われたくない！」

博士 今週は東京ドーム、『プライド17』なのだ！　俺たちも気合い入ったし、盛り上がった興行だったな。

玉袋 途中のSHOW―YAのロックコンサートも盛り上がったし。

博士 新日本の闘強導夢じゃねーんだよ！　あれはジュラシックとかいうバンドだろ。

玉袋 「webゴング」の投票でも評価高かったねー。

博士 ウソつけ、全然盛り上がってなかっただろうが！　そもそも『プライド』は桑田圭祐が出たぐらいだから、観客はあの程度のグループじゃ驚かないよ！

玉袋 ボーカルの藤谷美和子が良かったなー。

博士 そりゃ『プライド1』だよ！　そのネタしつこいよ！　とにかく、盛り上がったのが桜庭VSシウバ、髙田VSミルコ。

玉袋 しかし桜庭の敗戦はショックでしたよ。

博士 シウバの投げ攻撃が出た。

玉袋 後藤達俊のバックドロップより危険ですよ！

博士 なんで、そこで出てくる名前が後藤なんだよ！

玉袋 まー今回負けたのは桜庭じゃなくて、別人格のザ・グレート・サクですから良かったです。

博士 よかないよ！　なんで桜庭の入場シーンを真に受けてんだよ！

玉袋 今ごろサクは大阪南港に沈んで封印されてますよ。

博士 それじゃグレート・ニタだろうが！　でも大仁田のごとく、桜庭には何度も復活してほしい。

玉袋 まー、ものには限度がありますけど。オバチャンチンの結婚とか。

博士 いいだろ4回結婚したって！　ほっとけ！　しかしまさかホイス戦とは逆に、桜庭がコーナーに座ったままゴングになるとはなー。

玉袋 ホイス戦のあの瞬間は、ドームの天井に向けてまさに射精せんばかりの感動をした俺たちでしたけど、今回はその精子がボトって顔面に落ちてきた感じですよ。

博士 まーしかし、始まる前の心臓の高鳴りと、結果のあっけなさ。まさかがあるから『プライド』なんだよな。

玉袋 その代表が髙田VSミルコですよ！

博士 賛否両論！

玉袋 いやいや、髙田本人だけ賛って言われてますよ！

博士 そんなことないよ！

玉袋 試合はミルコVS寝る子でしたよ！

博士 なんか髙田は滅茶苦茶発育しそうだろ！

玉袋 イタリアの新聞各紙までも辛口に「何もできず」とバッサリ。軒並み4・5～5・5の低評価。

博士 そりゃ髙田じゃなくて、中田の話だろ！　ミルコと髙田の舌戦も始まり、あの試合を見た小川も髙田とはやらない方針を固めたかもしれない。

玉袋 髙田とはやらない小川ですが、橋本とは「夜もヒッパレ」でもう一丁やってますよ!!

博士 2人で桑田圭祐の曲を熱唱！

玉袋 ♪そんな猪木に騙され～、渚にたたずむ～

博士 たたずむな！　その替え歌もしつこいよ！　歌ったのは「白い恋人達」だろうが。

玉袋 2人が恋人同士じゃないですかね？

博士 今はまさにそんな感じだけどな。小川・橋本といえば、犬猿の仲だったのに。

玉袋 す～べ～ての歌に～、懺悔しな～

博士 桑田さんと長渕さんの犬猿の仲の話は蒸し返すな!!！　しかしオーちゃんも歌じゃなくて試合が見たい。

玉袋 小川はテレビでヒッパレで試合間隔もヒッパってるんですよ！

博士 溜めに溜まってきたから、そろそろ大爆発しそうだ！　そして今回の大ニュースは、猪木様の清原への不意打ち闘魂注入事件！

玉袋 安生の前田不意打ちパンチより卑劣でしたよ。

博士 猪木様のは不意打ちでもありがたいだろ！

玉袋 原新監督が来期から怠けている選手に猪木流闘魂注入法を導入するらしいですよ。

博士 近代野球は体罰を認めないよ！

玉袋 何言ってんですか！　つい最近まで清原のいたPL学園野球部では日常茶飯事だったじゃないですか！

博士 大きなお世話だ！　俺たちが注目してたのは小原道由！

玉袋 博士に似て駄目男でしてね。

博士 もう「似ている」とも言われたくないよ。

玉袋 あの試合を見た健介が「ふがいない試合やりやがって！　俺のようにアタマ丸めてやり直せ！」とアドバイスしたらしいですよ！

博士 するか！　アタマ丸めたってなんにも変わってなかった健介がアドバイスできる立場じゃないだろ！　でも、新日本プロレスの道場の影の番長があの試合だったら、新日本プロレスの道場幻想が崩れてしまうよ。

玉袋 小原よ腹を斬れ！

博士 そこまでさせるのか？

玉袋 ならば今後はキャッチフレーズを犬から鳥（チキン）に改名せよ！

博士 するわけないだろ！

玉袋 プロレスの躾によって獰猛だった狂犬が、座敷犬のようにされるんですかね？

博士 犬の躾と一緒にするな！

玉袋 なんかブラジルの犬の躾のされ方は「相手に襲いかかりケガを負わせろ」っていう躾を受けている気がするんですよ。それと反対に小原犬は人間様（相手）には絶対服従、犬は他の犬や飼い主には絶対にケガをさせてはいけないっていう躾がしっかりされているんですよ！

博士 小原犬って勝手に新種の犬を作るな！

玉袋 小原犬をいじめないでください！　犬を虐待すると、日韓ワールドカップが中止になってしまいます！

博士 やかましい！　それは韓国の犬食文化にFIFA会長がクレームつけたって話だろ！

玉袋 小原犬は「勝利」というエサが目の前にあるのにもかかわらず、躾がいいから「伏せ」しちゃうんですよ。でも、ブラジル犬は躾されてないから「伏せ」も「待て」もしなくてエサに喰らいつくんですよ。

博士 小原選手はもう一度やらないとダメって言ってるんだから、いきなり『プライド』と言わず、リングス参戦して再スタートしてくれればいいんだけどな。

玉袋 リングス・リトアニア大会にボブチャンチンが出たし、小原もリングスに引き抜いて、いよいよ前田社長の反撃開始ですか！

博士 いや、やっぱりありえないな、小原犬のリングス移籍。

玉袋 どうして？？

博士 だって『プライド』とリングスは「犬猿の仲」やんけ！　■

桜庭、左肩手術で長期欠場は決定的！

強い日本人よ、出て来いっ！

11・3『プライド17』東京ドーム大会で、ヴァンダレイ・シウバに連敗した桜庭和志は、左肩鎖関節脱臼で、11月14日、都内の病院で緊急手術をした。桜庭の負傷は思ったより酷く、これで復帰まで半年以上の歳月が必要になってきた。日本格闘技界のエースの危機に、『SRS・DX』は、心より強い日本人ファイターの出現に期待したいっ！

強い日本人ファイターは だから完全復活してほしい

　これまで総合格闘技は、〝プロレス〟というジャンルと密接に関わってきたため、「日本人が強い」というイメージがあった。しかし、ここのところ『プライド』のリングでは、常連の佐竹雅昭、小路晃、松井大二郎、大山峻護が連敗続き。藤田和之もK―1のミルコ・クロコップに敗れ、頼みのエース桜庭和志もシウバに連敗を喫した。

　昨年、桜庭がグレイシーに連勝し、藤田がマーク・ケアーらに勝って勢いづいていた時とは、正直状況が違ってきている。ノゲイラやシウバらブラジル勢など、どんどんレベルアップしていく総合格闘技界において、強い日本人の復活は急務の課題と言えるだろう。

　しかし、結論から言うと、日本の格闘技界をざっと見渡しても、本当の意味で世界に通用するファイターは、桜庭しかいないような気がする。だから、桜庭にはさらに強くなって復活してもらわなければ、マジでヤバイのだ。

　桜庭は他のファイターに比べてモノが違う。バーリ・トゥードの多くの試合は、タックルを決めて上になって殴る、あるいは関節技を極めることで勝負の決着がつく。なんでも有りで効率良く勝つには、できるだけ最短距離で絶対的有利なポジションをとって攻めるのが定石だから、本来はあまり攻防は生まれにくいのだ。

　ところが、桜庭は『プライド』のような闘いで、非常に高度な技術で客を楽しませることができる。単に強くて勝つだけではジャンルを引っぱることは無理。もちろん、桜庭のマネをして入場に凝ってみたり、試合中にプロレス技を出せばウケるんだという発想も論外。そういうファイターは、一生桜庭の領域まで近付けないだろう。

　しかし、桜庭の試合は攻防だけで、素人を惹き付ける何かを持っている。しかも、桜庭の試合となると、他の出場ファイターが一斉にリングサイドに集まってきたり、モニターに釘付けになる。そんな勝負の行方以上のものを、プロにも見せつけられるのは桜庭しかいないのだ。

　だから、桜庭には心底完全復活してもらいたい。これまで、ボクシングの辰吉丈一郎のように、桜庭と同様、タレント性の高さを見せることができた〝天才〟もいたが、途中でどうしても勝てない壁にぶつかってきた場面を、我々は何度も見てきた。もちろん、桜庭にはまったくそんな心配はないという確証が持てれば安心だが、その壁が本当に訪れないかどうかが心配だ。まさか、その壁がシウバとは思わないが……。

　桜庭VSシウバ戦については、まったく違った2通りの見方がある。

　桜庭本人が言うように、今回のシウバ戦は本当に調子が良く、前回と違って冷静に対処し、危ない場面は一度もなかったという見方。ただ、極まりそうになったギロチンチョークをボディスラムで叩きつけられた時に、アクシデント的に脱臼しただけなんだと。たしかに桜庭は、あのボディスラム以外、致命傷になる攻撃はまったく受けていない。

　一方、この日の桜庭に対して、最初からオーラが少なく、終始シウバにパワーで押されていたと見る人も結構たくさんいる。普段95キロ以上あるシウバが落として93キロ以下に持っていったのに対し、桜庭は練習をすると82キロくらいまで自然と落ちてしまう。その10キロ以上のパワーの差はやはり大きい。そのため、見た目として、すぐに立ち上がって打撃を繰り出そうとするシウバのほうに、勢いを感じてしまうのだ。この結果を受けて、次回もシウバ戦はヤバイんじゃないか、あるいは桜庭はシウバに対して苦手意識があるんじゃないかと考えてしまう見方だ。

　もっとも、桜庭本人にしてみれば、相手の良さをプロレス的に自然と引き出してしまうため、あそこからが自分の真骨頂と考えているだろう。たとえば、ギロチンチョークが極まりかけた時、本当はヘンゾがよくやるように相手の胴体に飛び付いて両足を挟み、引き込んでいればもっと簡単に勝てていたに違いない。

　でも、シウバがボディスラムの体勢に入った時、桜庭は投げられたあとの次の展開を読んでいた。だから、受け身がうまく取れなかったのだ。そして、1Rはシウバの攻撃を受け流し、2R以降にどんどん盛り返していくのが桜庭のスタイル。だから本人は、ほとんど何もしないで、「さあこれから」という時に、試合が

桜庭、衝撃の連敗
強い日本人よ、出て来いっ！

結論から言うと、桜庭しかいない。

終わってしまった感覚に違いない。
しかし、さらに骨法の堀辺師範のように「一度打撃でボコボコにされると、相手に対して潜在意識の中で勝てないという恐怖を植え付けられる。それを取り返すのは大変なことだ」という、非常に興味深い意見もあるし、私は桜庭にホイス戦の後遺症はないかと少し不安もよぎった。

昨年のホイスとの激闘は、伝説の90分間、最初から最後まで密度の濃い展開が続いた。あれほどの試合をやると、大方の人間は完全燃焼してしまう。いわゆる「燃えつき症候群」ってヤツだ。
ホイスのように、それから長期欠場していれば話は別だが、桜庭はエースとして、その後ヘンゾ、ハイアンといった強敵との試合が続いた。ホイス戦のあとのヘンゾ戦では「夏休みボケのように気持ちが入らなかった」と言っていたが、ホイスとあれだけの試合をし、そのあとにボブチャンチンと殴り合ったんだから当たり前の話。それが「燃えつき症候群」ってヤツだ。
極真のフィリォや数見もそうだが、一生に一度味わえるかどうかの濃密な闘いをしたあと、人は体は動いているのだが、心がついていかないという状態に陥ることがある。もしかしたら、桜庭も本当は完全に抜けきっていないのでは、と思ってしまった次第である。
以上のように、桜庭はセオリー以上のものを見せられる才能を持ったファイターである。だから、「あの時こうしていれば……」というような技術論で、桜庭の試合を分析するのはナンセンス。問題はこの一戦を経て、桜庭がどう生まれ変わるかということだ。
フジテレビの『プライド17』中継の終わりに腕をつった桜庭のインタビューが収録されていた。幸い、そのインタビューで桜庭は、負けたことに対してムキになって答えていたので、「燃えつき症候群」の不安はぬぐえた。「まあ、負けですけど、負けたと思ってませんから。僕はしつこいですから、練習で極められてもすぐに仕返ししたくなる。ケガが治ったらすぐにでもやりたいです」。
そうだ、ムキになったほうがこっちも安心する。試合後に流した涙といい、「負けてしまいました」と変に認めたり、「べつになんとも思ってません」というより、よっぽどいい。
で、次に桜庭はどう完全復活するか。
K—1のホーストは、初めてK—1に出場した当時、なんと桜庭と同じ82キロしかなかったが、その後ウェイトをやって100キロ近い肉体を作り、それでもスピードとテクニックが衰えないような練習を積み重ねてきた。今回の負けで、桜庭にもそんな意識改革があるのか、それともまったく別のことをするのか、変わらないのか。
レベルアップする『プライド』の中で、この天才の変わり方に注目したい。シウバも、それまで負けるなよ。
（谷川）

入院直前の桜庭にFAXインタビュー

——ケガの具合はどうですか？　いつ頃復帰できそうですか？
桜庭　痛いです。復帰はまだ分からない。退院して練習を始めてから考えます。
——シウバ戦を振り返って、本当にヤバイと思ったところはありますか？　もしあったらそれはどこですか？
桜庭　ハイキックが入った時、ヤバかったというより、何が来るか分からないから、全体的に注意しなければと思いました。
——これで連敗したことになっちゃいましたけど、シウバは相性の悪い相手ですか？　それともやりやすい相手ですか？
桜庭　相性はいいと思います。試合が面白くなるから。やりやすいかどうかは分からない。
——やっぱりウェイト差が気になったんですが、今後ウェイトを増やす気持ちはありますか？
桜庭　少しあります。
——シウバ戦を受けて、何か変わった練習をしようという気持ちはありますか？
桜庭　はい、あります。それはシウバに限らず。
——最後に、シウバ戦に負けた悔しさの思いのたけを読者にぶつけてください。
桜庭　悔しいっ！　■

高山善廣、『PRIDE.18』『イノキ・ボンバイエ』に名乗り！

猪木指令で「ファスティング」を即実行
強い日本人はここにいる！

K-1の野郎、年越せねえようにしてやる!!

▲『プライド17』の控室で猪木にファスティングを勧められ即実行した高山。「（ファスティングジュースは）チビチビ飲んでるんですよ。今は普通の水がノドから胃に入るまでが、全部分かります（笑）。猪木さんに話を聞いたら、『ただ絞れるだけじゃなくて、神経伝達とか、そういうことも早くなるから』って。だったら1回試してみようかなと」

高山に久しぶりに『プライド』参戦の噂が聞こえてきた。実現すれば『プライド14』以来だが、高山といえば『プライド17』の際、控室で猪木に『猪木祭り』の出場を直談判したばかり。しかもそこでファスティングを勧められ即実行！　という素早さである。そんな高山に、先日の『プライド17』の感想から、次の『プライド』参戦の真意、対K－1に至るまで、いろいろと聞いてみた──。

聞き手◎"Show"大谷泰顕
撮影◎乾晋也（インタビュー）

ミルコが「これならタカダに負けたほうがよかった」って? 負けでもいいんだったら、寝てみろよって!

——高山さん、最近ファスティングをやったらしいですね。

高山　今日で3日目ですね。昨日の段階で、もう3キロは落ちてますね。

——へえ～。でも、なんで今になってファスティングをやろうと思ったんですか?

高山　なんでもクソもないじゃないですか。Ｓｈｏｗさん、いたじゃないですか、あの場所に（笑）。

——あ、はい（笑）。実は高山さんが『プライド17』の控室で、猪木さんから「ファスティングでもやってみたらどう?」みたいなことを言われてるのを、僕は見てました（笑）。

高山　そうそうそう。「早いうちにやったほうがいいよ」って。

——そもそもなぜ猪木さんから「ファスティングをやったら?」っていう話になったんでしたっけ?

高山　だからまあ、年末にK—1とやるっていう話があって、まあ、新日本の人がたくさん出るんだったらしょうがないけど、僕もその気でいるんで、「猪木さんの頭の中に入れておいてください」って言いに行ったら、「まずファスティングからしなさい」って言われたんですよ。

——対K—1の前に、まずファスティングをやれと。じゃあ対K—1の話をする前に、まず『プライド17』の総括を聞きたいですね。

高山　総括なんて、そんなエラそうなことは言えないじゃない。1回出ただけのヤツが（笑）。

——いやいや、ブッタ斬ってくださいよ!

高山　あの～、壮快感がなかったよね。

——たしかに! 結果的には日本人選手は誰も勝てなかったんですけど、今後日本人選手はどうすればいいんですかね。

高山　グリーンカードを取ってアメリカに移住する（笑）。まあ、それは冗談だけど、アハハハハ!

——じゃあ第1試合からいくと、まず小原道由選手が出て行ったけど、消化不良というか、そんな感じで判定負けだったじゃないですか。

高山　うん。

——で、石川雄規選手が負けて、佐竹雅昭選手が負けて。

高山　まあ、石川さんと佐竹さんはさておいて、第1試合の犬神さんがねえ（笑）。

——「乾坤一擲」じゃなくて「犬坤一擲」って書いてあったらしいですね（笑）。

高山　とにかく（ヘンゾの懐に）入れなかったのは分かるけど……。試合後のコメントを読んだら、「グラウンドに行くチャンスがなくて」って書いてあったけど、グラウンド状態の場面もあったけど、そこでも逃げてたじゃない。それだったら髙田さんみたいに最初から寝て「カモン、カモン!」ってやれば、向こうだって柔術家なんだから、行くんじゃない? って思ったんですけどね。

——あれは小原選手には申し訳ないけど、新日本プロレスの選手だから、グレイシー一族と第1試合を任されたわけじゃないですか。でも、その「役割」は果たせなかったと思うんですよね。

高山　そうですね。プロレスでも第1試合は凄く重要で、来てくれたお客さんを盛り上げて次につなげていかなきゃいけないわけだから。第1試合がコケたら皆コケるっていう（笑）。Uインターの頃からそう言われてたんですけどね。まさにそのとおり! っていう（笑）。犬死にでしたね（笑）。

——小原選手だって、プロとして10年以上キャリアがあるから、プロとして第1試合の「役割」は分かってたはずなのに、結果的にそうならなかったっていうのは、何が原因なんでしょうかね。

高山　いやあ、新日本プロレスから「そうしろ」って言われてたなら、新日本プロレスが原因でしょうけど、何も言われてないんなら小原さんが悪いでしょうね。

——いや、その前にそういうことって刷り込まれてるんじゃないんですか?

高山　プロレスラーとしての生き様が?

——そう「プロレスラー」であるならば。

高山　叩き込まれてないんじゃないの?

——ああ、なるほど!

高山　分からないですよ、よそのことだから。

——『SRS・DX』には「あれは新日本による『プライド』潰しの陰謀だ」って書いてあったけど（笑）。

高山　あれは面白かった。そうかもしれないと思ったし。そうだとしたら、新日本恐るべしだね、フフフフ。

——で、一番物議を醸した、髙田延彦VSミルコ戦なんですけどね。

高山　髙田さん、最初良かったですよね、タックルね。

——1ラウンドでまずミルコをテイクダウンさせましたよね。

高山　あれで、結果論なんだけど、タックルでミルコを倒して、ここ（コメカミ）が切れてない時点で、藤田選手を上回ってるっていう、アハハハハハ!

——たしかにそうだ!（笑）。

高山　ただ、その後がね。でも、なんだろう……、写真を見たら、凄く足が腫れてるから。

——『プライド17』の結果が載ってる『週刊プロレス』に、もの凄く腫れた写真が載ってましたよね。

高山　「ああなったから作戦を変えた」ってね。寝て待ってたわけですよね。たしかに寝て待つって、なんとなくビジュアル的にズルいような気がするけど、バーリ・トゥードは「なんでも有り」だから、それも有りなわけで。ミルコのコメント読んだら、「こんなだったら負けたほうがよかった」みたいなこと言ってたけど、負けでもいいんだったら、寝てみろよって! 髙田さんのことを「勇気がない」とか言ってるけど、それを言うなら、お前にだって勇気がなかっただろ! って。ファンが「面白くない」とか「つまらない」って言うのはお金を払って見に来てるわけだから勝手だけど、ミルコはそういうことを言えないですよ。だってミルコはそこに向かって髙田さんを蹴ったり殴ったりして面白くできるんだから。タックルを切った時だって、タック

▲『プライド17』の際、猪木の控室で『猪木祭り』の出場を直談判した高山

高山VSセーム・シュルトが見たい？
そしたら『ロッキー4』のロッキー状態！

ルを切りながら上から殴りゃあいいのに、それをしないんだから。だから彼がそういうことを言えるの？って思いますね。強がってるけど、実はお前もビビッてたんじゃないの？って。

―実はミルコもビビッてたと。

高山　見た目はたしかに、『週プロ』とか『ゴング』の言うように「お客さんのブーイングに表れてる」んだろうけど、あの戦法も有りだからね。だって前にホイラーとサク（桜庭和志）がやった時はあれと逆の状態だったけど、サクはそれを蹴ったり挑発したりして、最終的には極めてたでしょう。だから、そういうこともできるんだから。お前やれよって！お前こそ、こんな状態でわざわざクロアチアから来たんだから、仕事していけよって！

―いろんな人が骨を折ってくれて、わざわざ来たんだから（笑）。

高山　そう！同僚に迷惑をかけてね。同僚のテロ対策の人たちからすれば、あんなルールのある殴り合いなんか「趣味」みたいなもんだって思われてるんでしょ？たしかに「プロ」のリングだから、そうではないんだけど。そういうところに迷惑をかけて日本まで来て、ああだこうだ言うんだったら、寝てる人でも踏み潰すなり、蹴るなりしろよって！そしたらそれに対してまた髙田さんが何かするだろうし。ダメですね、分かってない。

―僕が思うには、オーロラビジョンに髙田選手のボコッと2倍に膨れ上がった足を映してたら、観客の反応も全然違ったと思うんですよね。

高山　あの～、それはテレビスタッフのスイッチャーというか、「次に髙田延彦のここを映して」っていう人が分かってないから、アハハハハ！

―PPVで見た人は「足をケガしてますねえ」みたいな解説が入るから、それほどでもないんだけど、あの場にいた人は絶対に分からなかったでしょうね。

高山　分からなかったですよね。あれじゃあタックルが極まらないから、ああしたように見えますよね。

―じゃあ髙田VSミルコに関してはそんなところで次に進んで、桜庭VSシウバなんですけどね。

高山　大会後にも言ったけど、「みんなが期待したヒーローが負けちゃった」っていう。あれでサクが一本取ってれば、他がダメでも締まるんだけど（苦笑）。

―ただ、桜庭選手が涙を流したことで、違ったシメにはなりましたよね。

高山　うん。そうかもしんない。

―その前に、まず出てきた時の桜庭選手の雰囲気はどう感じました？

高山　どうでしょうね。まあ、ああいうグレート・ムタのパフォーマンスをやってたから、調子のいい時と変わらなかったかなと。で1、2日前くらいに電話で話したんですけど、調子は良さそうだったし。当日に嫁さん（桜庭夫人）にも会って「調子いい」とかって聞いてたから、全然安心して見てたんですけどね。

―まあ「たら・れば」の話は勝負にはないんですけど、もし肩がハズれてなかったら？

高山　ただ、結構苦戦してたと思いますよ。それなりにサクも片足タックルを決めたりしてたけど、決められた後でも、シウバはガードが上手でしたよね。あんなにうまいとは思わなかった。それに力もあるからツラいんじゃないかな。あれで下からサクの腕を取ろうとしてたから、そんなことまでする余裕があるんだなって。シウバは完璧に「総合」の選手になってたから凄いな、と思いましたね。

―まあ、『プライド17』はそんな感じだったんですけど、そんな『プライド』に、高山さんもまた出るんじゃないかっていう噂がチラホラ聞こえてきたんですけどね。

高山　いや、「やりたいなぁ」とは言ってるんですけどね。決定ではないんで。

―実際、『プライド17』の結果を見て、どの辺の選手が対戦相手になってきそうですかね。

高山　どの辺？　あの辺です、アハハハハ！

―いや、僕もネットレベルの話しか知らないですけど、ファンの書き込みだと、「高山VSセーム・シュルトが見たい」っていうのがあるじゃないですか。たしかにそうなれば、デカいもん同士の闘いは見てみたいし。

高山　たしかにその辺だと思うんですよ。あの～、『プライド』のリングに出たいっていうのは、今のプロレスではなかなか出せない緊張感を僕が味わってファンに提供したいっていうのがあるんですよ。僕が見上げて「うわっ、デケエ！」っていうのがなかなかないんでね。ま、新日本にはデクの棒が2人いるけどね。

―デクの棒……、ジャイアント・シルバ&シンですね（笑）。

高山　ねえ？　せっかく『プライド』に上がれる身だし、向こうはパンクラスで無敵を誇って、『プライド』でも小路選手と佐竹選手を撃破しているし。しかも高山と向かい合ったら、高山は『ロッキー4』のロッキー状態になれる、アハハハハ！

―ロッキーの相手のイワン・ドラゴでしたよね！

高山　ねえ？　そういうのはいいなあと。なんだっけ、『プライド王』に出てる佐藤江梨子ちゃんが「私、背が高いから上を向いてキスするのが夢なんです」って言ってたけど、まさにそれ状態、アハハハハ！

―キスはしないけど（笑）。実際、シュルトの印象ってどんな感じがしますか？

高山　僕も一般の人から比べればそうな

▲高山がファスティング中と聞き、あえていろいろと料理を並べてみた（笑）。それにしても高山はよく専門誌をチェックしてる。それについて訪ねると、「俺の場合は喋らないといけないからチェックしておかないと（笑）」とのこと

「プロレス」って枠から一歩踏み出したから対K－1も避けるわけにはいかなくなった

んだけど、「手足が長くてヒザ蹴りが怖い」とか言われるけど、さらに長くて、僕が普通に立ってても、彼のヒザが僕のアゴに入っちゃいそうで凄いなって。で、佐竹さんなんて、K—1でバリバリにやってた人じゃないですか。そういう人がほとんど何もできずにKOされるなんて、これは怖いと。怖いというならやらなくちゃいけないのがノーフィアーですからね。

――なるほど、ノーフィアーって「恐い物知らず」っていう意味だから（笑）。

高山 そうそうそう（笑）。『プライド17』も僕は通路の脇で見てたんですけど、ちょうど彼が退場する時に近くを通って。遠くから見ると細そうですけど、近くから見ると、やっぱりそれなりの太さがありますよね。だから、これは手強そうだなと。

――他の選手はどうですか？ 例えば、『プライド』ヘビー級の王者になったノゲイラとか？

高山 その前に、ノゲイラVSヒーリングがあんなに面白くなるとは思わなかったですね。見た後は、もっと面白くなったな、と思ったけど。途中でノゲイラはケガしてたみたいだし、それがなくて、プラス、ヒーリングがガンガン攻めてたら。

――高山さんの考えの中には『プライド』にもベルトがあるなら、GHCのベルトとは別に、腰に巻きたいとは思わない？

高山 アハハハハ！ いや～、どうだろう……。まだそういうふうには思えないですね。これが調子良く次の相手とかその次もポンポンと勝てればね。

――じゃあ、ベルトの話はもう少し先と。

高山 う～ん……、全然見てないわけじゃないけど、今はまだ。

――分かりました。ということで、最初に話も出た、対K—1なんですけど、まだどう転がっていくかは分からないとはいえ……。

高山 分かんないですよね。もし『プライド18』に出るとしたら、その1週間後でしょ？

――ですよねえ……。ただ、「なぜ藤田和之がミルコにやられたのに、誰も名乗りを上げないの？」っていう石井館長のコメントが『週刊プロレス』に掲載されて、それに対しては高山さんが「安っぽいリベンジはいらない。藤田選手は藤田選手で落とし前はつけるよ。俺がやる時は俺の闘いだから。だったら相手を用意しておけ」みたいなことを言ってたじゃないですか。

高山 それはね、猪木さんじゃないけど、一歩踏み出しちゃったから、高山の場合は。普通の「プロレス」っていう枠から『プライド』っていうところに。そういう時にそれ（対K—1）が出てきちゃったら、それも避けるわけにはいかなくなっちゃった。ホントそれだけですね。で、やっぱりK—1とプロレスが闘うっていうと、日本の四角いリングに注目してる人はみんなが「どうなる？」って、凄く注目されるじゃないですか。だったら、そういうところに出ない手はないなと。そういう気持ちはありますよね。

――対K—1ってなると、誰と闘いたいと思います？

高山 K—1はね、細かく言えば違うんだろうけど、みんな攻撃が同じじゃないですか。蹴るか殴るかだから。だから誰でも大差はないな、という気はするんですけどね。ただ、できればみんなが知ってる人とはやりたいな、と思うくらいですね。

――CMに出てるようなね（笑）。でも結果的に『プライド17』では高田選手がミルコっていうK—1ファイターの相手に名乗りを上げたけど、他にはあまり手を上げなかったじゃないですか。それってなぜだと思いますか？

高山 『週プロ』の佐藤編集長によると、「プロレスファンはプロレスだけやってくれっていうニーズが多いから」みたいですけどね（笑）。でも、どうなんだろう……、やっぱプロレスの会社が「ウチの仕事だけしっかりしてくれよ」って言っているのかな、もしかしたらね。やりたい人は何人かはいるけど、それを言っちゃうと怒られちゃうというか。凄く子どもみたいで嫌なんだけど、組織に属してる人はしょうがないよ、それは。

――例えば僕がこういう仕事をしてたとしても、日本に一大事があったら、やっぱり何かしなくちゃ！ って思うと思うんですよ。

高山 どうなんですかねえ……、だから一大事とは思ってないんじゃない？ ひとつの事件ではあるけど。

――でも藤田選手がミルコに負けたっていう時に……。

高山 僕は彼と闘った人間だから、ショックはありましたけどね。

――じゃあ例えば、藤田選手がこの前やったトークショーで永田&中西両選手に対して、「ここまで来て、対K—1に出なかったらヘタレだ」みたいなことを言ってたんですけど、それはどう思います？

高山 そうですねえ……。まあ、藤田選手はその2人の実力を知ってるから言うんじゃないですか？ それを出してないから歯がゆいんでしょうね。結局「新日本のリングで俺と闘え！」っていう話しかしないから。

――高山さんが藤田選手と『プライド14』で闘って、僕は今年1番好きな試合なんですけど、NOAHみたいなリングでの試合もできるし、『プライド』の闘いもできる、それがプロレスラーっていうか。

高山 僕はそうなりたいですから、『プライド』に出たわけだしね。ただ、僕の場合はリングだろうと、テレビのお笑い番組だろうと、解説席だろうと、高山っていうキャラクターを出さなくちゃね。

――だから、何があってもいいように、ファスティングもしてるんだろうしね（笑）。

高山 ねえ？ 『猪木祭り』がどういう形態でやるのか、まだ分からないけど、いい感じで出られればいいですよね。ただ、もし『猪木祭り』に出ることになっても、モー娘。とSMAPが『紅白』に出てる時間にはやりたくないですね、アハハハハ！ ■

◀「『プライド』でシュルト以外に闘いたい相手？ 最初『プライド』に上がる時にボブチャンチンが凄く頑張ってたんだけど、最近は調子が良くないから、お互いに調子がいい時にガンガンやりたいですね。だからボブチャン頑張って！ オバチャチンに気に入られてるみたいだから殴り合うにはやりにくくなったんだけど、アハハハハ！」

12・31『イノキ・ボンバイエ』に参戦か？

石井館長の隠し玉は
子安慎悟
総合の練習を極秘に開始！

聞き手◎石黒由佳子
撮影◎乾晋也

12・31「イノキ・ボンバイエ」で行われる猪木軍vsK－1軍対抗戦で、K－1側のメンバー候補として挙がっているのはミルコをはじめ、外国勢ばかり。武蔵、中迫らジャパン勢が拒絶反応を示しているだけに、ジャパン勢は誰も出ないのかと思われていたが、ここにきて石井館長があるジャパン戦士にいつでも出られるように総合の準備をするように指令を出したという情報をキャッチ。その選手は柔道経験者でもある“ミスター正道”子安慎悟！　さっそく、総合の練習を始めた子安を直撃してみた。

顔面もシンドイですけど 総合のほうはもっとシンドイです

――ちょっと小耳に挟んだんですけど、寝技の練習を始めたそうですね。

子安 そうなんです。

――やっぱり例のアレですか（笑）。

子安 例のアレって（笑）。

――猪木軍vsK――1ですか？

子安 石井館長からお話があって、出場決定ということではないんですけど、「もしかしたら、声を掛けるかもしれないから準備しておけよ」と言われたんで、最近練習を始めたんです。

――でも、準備するからには子安選手自身もまったく興味がないということではないんですよね。

子安 そうですね。これから総合一本でやっていくということではなくて、自分の空手というか、修行の一環としてこれまで空手から顔面をやってK――1にチャレンジしたじゃないですか。その延長で、今度は顔面からまた未知の世界へ一歩踏み込むという気持ちで、今回、こういうチャンスを頂いて活かせればいいなと。

――もともと子安選手は、柔道の経験があるんですよね。

子安 中学、高校とやってました。

――実績は？

子安 ないですよ。1度だけ県の個人戦で3位か4位に入ったくらいですから。

――ということは、寝技系は嫌いじゃないってことですよね。

子安 僕が正道会館に入った時は、打撃と自分がやってきた柔道の寝技とか投げを活かせればと思ってましたからね。でも、入った時はその道は絶たれまして（笑）。

――そんな道が絶たれたなんて（笑）。

子安 自然と打撃一本の流れができてしまって、ずっとやってきたんですよ。

――でも、正道会館のチャンピオンになってるじゃないですか。

子安 はい、一応……ならせていただきました（笑）。

――いや、それは自分の実力じゃないですか（笑）。〝ミスター正道〟とまで言われている人が。

子安 いや、自分じゃ全然そんなこと思ってないですから。

――空手から顔面に移った時に、なかなかスムーズに移行できない人っているじゃないですか。アンディもそうだったし。でも、子安選手は空手から顔面というかK――1の試合に出た時に、違和感なく空手の技も活かして試合をしてましたよね。それで、今日の練習を見てて思ったのが、打撃の練習の後に、寝技のスパーリングをやってたじゃないですか。でも全然違和感ないんですよね。

子安 アハハハ、べつに意識してやってないんですよ。

――子安選手が空手からK――1の練習を始めた時に、距離感の違いを感じたって言ってたじゃないですか。

子安 そうですね。顔面をやった後に空手の試合に出た時は、接近して打ち合うのがうざったいなぁって思いましたね。

――それが、寝技の練習を始めた時に同じようなことって感じましたか？

子安 あ～、あんまり感じなかったですね。勝つ負けるとか、倒す倒されないっていうのはなしにして、そんなに違和感はないですね。今は名前は出せませんけど、寝技のプロの方に教えていただいてます（笑）。

――どうですか？

子安 やっぱり、強いですね（笑）。

――クソ～って気持ちとか出てきますか？

子安 いや、クソ～って気持ちはないことはないんですけど、まだ自分に甘えてますね。自分を甘やかしてるような気がします。向こうはプロだし、オレはアマだしっていう（笑）。それはこれから徐々にやっていけば「クソ～っ」て気持ちになるんでしょうけどね。また、その流れに自分の体をついていかせるので精一杯ですから。寝技と言っても、これまでやってきた柔道とは違うことがいっぱいあるので、体になじませてる状態ですね。

――寝技をやると言ったって、寝技の試合じゃなくて打撃もある総合の試合ですもんね。そういうことを踏まえて一番磨いている部分はなんですか？

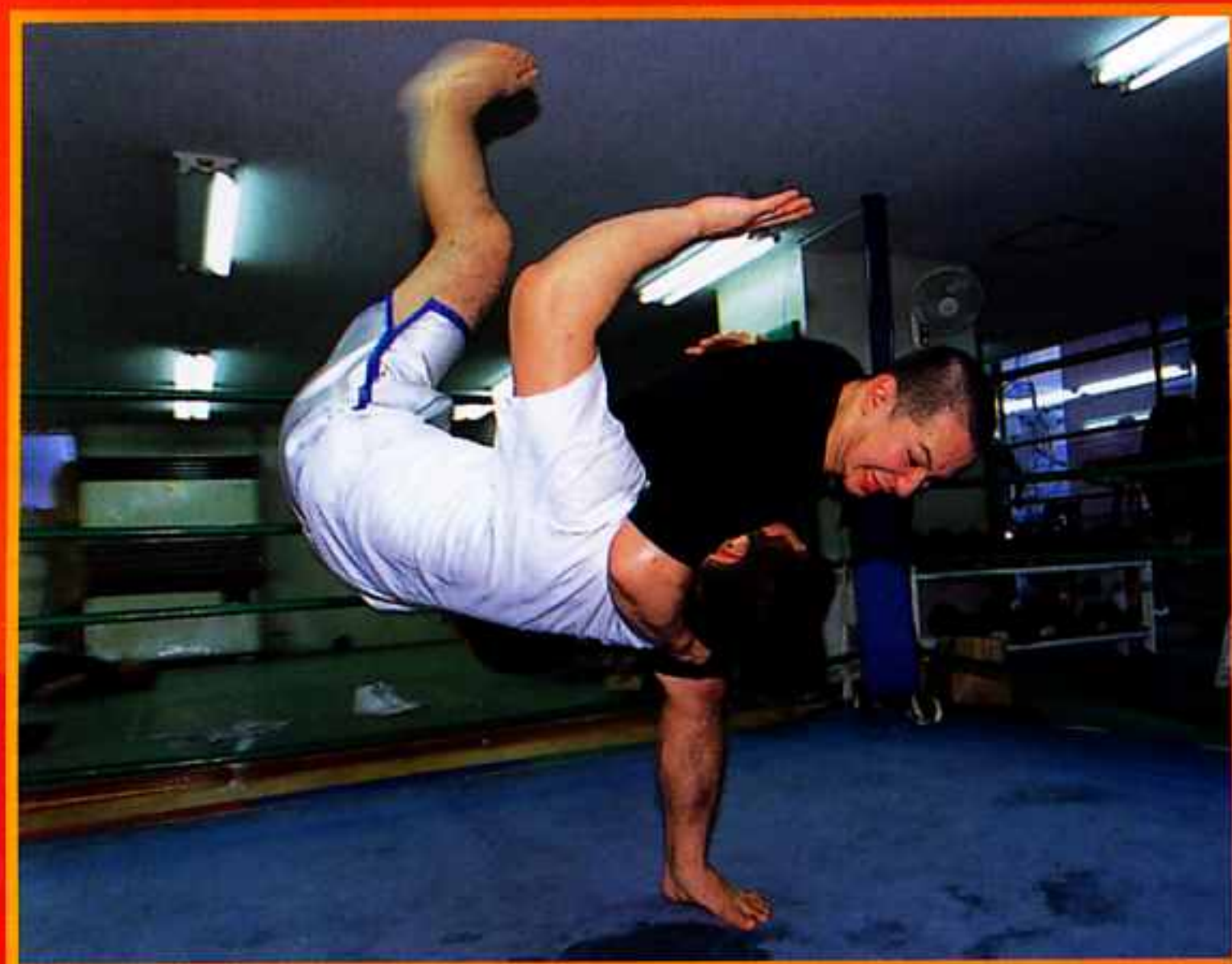
子安 今までやってきた打撃を活かしつつ、柔道の経験も活かしているという感じですかね。

――自分自身で融合できているなぁと感じますか？

子安 う～ん、昔の勘を戻している感じなのでまだ分からないです。

――久々に寝技やってどうですか？

子安 辛いです。今は辛いとしかいいようがないです。練習もシンドイし。顔面

▶「まだ寝技といってもさわりを練習してるんですよ」と子安

▶さすが柔道経験者。投げからケサ固めもやっていた。「試合で使えるかは分かりませんよ」（子安）

館長から言われれば、もちろん行きますすよ

◀打撃と違う筋肉を使っているせいか、今はとにかくシンドイらしい。まだ正式に試合が決まっていないだけに気持ち的には余裕があるようだ

もシンドイですけど、総合のほうはもっとシンドイですね。ずっと密着して力を入れたりとか力みっぱなしみたいなところもあるんですよ。久々に使う筋肉もあるので筋肉痛になってます（笑）。

――そうか、そうか（笑）。でも、寝技の下地がまったくないところからチャレンジするよりは、やりやすいですよね。

子安　それはそうですよね。

――8・19K―1ジャパンで「猪木軍VSK―1」があったじゃないですか。あの試合はどうでしたか？

子安　面白かったですね。以上です（笑）。

――それだけ？

子安　他人事のような感じでしたよ。

――それがまさか自分に振られるとはねぇ。

子安　そうですよ、思ってもなかったですよ。なんか外の話みたいな感じでしたから（笑）。

――実際に、館長から言われた時は正直、どう思いました？

子安　はっきり自分の考えでは、まだ空手からK―1に移って、まだそんなに試合をしてないので経験も浅いですし、自分としてはまだK―1のほうで打撃をしっかり磨きたいなというのはあったんですよ。それで、いつ納得できるか分からないですけど、ある程度納得がいくまでやって、何十戦かやってみたら、今回の話はもっとやってみたいと思ったかも知れないですね。

――ちょっととまどいがあるんですね。

子安　そうですね。

――あのぉ、正式に決まったら大丈夫ですよね（笑）。

子安　準備を始めてるわけですから、館長から言われれば、もちろん行きますすよ。それしか道はないですから。

――それを聞いて安心しました。さっき「猪木軍VSK―1」は他人事だったと言ってましたが、子安選手から見て、猪木軍ってどんな印象があるんですか？

子安　ほとんど分からないです。誰が猪木軍かも分からないので。失礼な話なんですけど（笑）。

――そうなんですか？

子安　今の時点では、猪木軍というよりも、自分のことでいっぱいいっぱいなんですよ。

――猪木軍ってヘビー級の選手が多いんですけど、もし、出るならやっぱり体重が合う人がいいですか？

子安　体重が合うとしたら誰がいるんですか？

――ヘンゾ・グレイシー選手とか、石澤選手かな。

子安　はぁ……。

――子安選手としては、もしやるなら、男のロマンじゃないですけど、自分よりも大きな選手に向かっていくか、体重の合うタイプときっちりやりたいかと言われたらどっちですか（笑）。

子安　どうなんですかね。端から見たら、小さい人が大きい人にぶつかったほうが凄いなぁって思われるかも知れないですけど、まだそこまでの勇気はないですねぇ（笑）。自信も何もないので。

――では、体重が合うほうと仮定して、ヘンゾ・グレイシーは分かりますか？

子安　はい、なんとなくは。試合は見たことあると思うんですけど、あんまり覚えてないですね。でも、グレイシーって名前が付いているからには強いんだろうなぁという感じですね。

――打撃のできるグレイシーなんです、ヘンゾ選手は。もし、万が一闘うことになったらどうしますか？

子安　とりあえず、グレイシーって名前が付いているという時点でビックリですよね（笑）。でも、もし闘えたとしたら光栄ですよ。だって、総合を専門にやってる選手の方でもなかなか闘えない相手なんですよね。

――そうですね。

子安　だったら、ホントに光栄ですよ。

――石澤選手だったらどうですかね。

子安　分からないですね。ケンドー・カシンのマスクのイメージは分かるんですけど、『プライド』の試合は見てないんですよ。あんまり『プライド』の試合も周りの人が見ているのを端から見て凄いなぁっていう感じしかないんで。

――あら、あんまり総合系の試合は見ないですか？

子安　自分、他の打撃の試合も見ないですからね（笑）。

――あら、そうなんですか？　な、何を見てるんですか？

子安　お笑いのビデオとか……。友達から借りた「めちゃイケ」とか「ぐるナイ」とか。

――お笑いのビデオかぁ（笑）。あんまりプロレスとかも見ないですか？

子安　見ないですね。昔は凄い好きだったんですよ。中学校や高校の時は凄く好きで、先輩とやったりとかしてましたよ。よく学生プロレスとかあるじゃないですか。ああいうノリの素人のプロレス団体とかに出てたりしてたんですよ。

――試合に？

子安　はい。夢の島だかなんかで、試合をしてたんですよ。むちゃくちゃでしたけどね。UWFスタイルみたいなのと、プロレススタイルと両方やってましたよ。そんなに数はやってないですけどね。

――何歳くらいの時に？

子安　17～8歳くらいですね。先輩で凄く好きな人がいて、先輩が先に試合をしてたんですよ。それで先輩から「やらない？」って言われて、僕も凄く好きだったから「やりたいですっ」と（笑）。今考えるとガチンコでしたよ。思い切り蹴ったりとか、パンチも打ってましたから。1度、後ろ回し蹴りを蹴ったら顔面に入って、そのまま倒れて救急車で運ばれてしまったんですよね。

――その頃は柔道やっていた時ですよね。後ろ回し蹴り得意だったの（笑）。

子安　柔道やりつつも、もともと打撃が好きだったので（笑）。柔道は柔道で凄く好きですけど。

――プロレスでは誰が好きだったんですか？

打撃で勝負？　それはそうですね。打撃しかないですから。

子安　三沢選手とか。タイガーマスクやってる頃も好きでしたし、素顔になってからも好きでした。あとはライガー選手も小さいのに凄いじゃないですか。だから好きでしたね。あとグレート・ムタとか。

——それにしても、そういうことをやってるとは思いもしませんでしたよ。でも、そういう意味では近いものをやるという感じじゃないですか（笑）。

子安　いや〜、かなり昔の話ですからね。昔話でしかないですよ（笑）。

——ところで、猪木軍VSK—1のルールって知ってますか？

子安　全然分からないですね。反則とかも分からないですねぇ。ちゃんと決まったら知らされると思うので（笑）。

——子安選手としては、今一番磨きたいのはなんですか？

子安　打撃ですね。寝技はもちろんですけど、打撃もまだまだ勉強中なので。両方一生懸命やらないといけないですけど、寝技があるからって、寝技だけやると打撃をしっかりやっておかないと中途半端になってしまうので、そこは割り切って。

▶寝技の練習をしているとはいえ、子安の最大の武器はやはり打撃。自分よりも重いグレート草津や柳澤龍志とスパーリングしていた

——猪木軍の選手は打撃系はあまりいないですから、そうなるとK—1側の選手がこのルールで対戦する時に、一番ポイントになってくるのは、タックルの切り方ですよね。そのあたりはどうですか？

子安　ちゃんと決まったら、やらないといけないですよね。

——今はどんなことやってるんですか？

子安　差し合いとか、あとは普通に寝技の練習をやってます。

——子安選手としてはどういうところで勝負したいですか？

子安　今はまだ頭の中では整理できてないですね。いろいろ寝技の知識とかが入ってくればある程度分かってくるじゃないですか。こうなったら、こうしてとか。今は勉強期間中なので分からないです。

——どんなルールで闘うにしろ自分の持ってるもので勝負をしたいなと思った時に、子安選手はやっぱり打撃で勝負していきたいですか？

子安　それはそうですね。立ち技しかないですもんね。打撃しかないですから。

——打撃しかないと言っても、〝子安キック〟とか出しますか？

子安　あれ出したら、バタンって倒れた瞬間に上になられてアワワワって感じになりますよね。あ〜出さなきゃ良かったって（笑）。それは目に見えてますから、まあ流れで（笑）。

——あら、流れ（笑）。出すんだ（笑）。もし、アンディとかがやったら、あの人の性格を考えると、意地でもカカト落としとか出してた気がしますね（笑）。

子安　やりそうですねぇ。たぶん、やると思いますよ。

——タックルで入ってきた相手の頭にカカト落としとかね（笑）。

子安　後ろ蹴り合わせたりとか（笑）。もし為すすべがなくなったら、秘密兵器を出します（笑）。

——アハハハ。気分的には楽しみですか？

子安　試合に向けての気持ちはまだなんにもないですね。まだ決まってないですし。まず、自分は打撃の練習と組み技の練習でいっぱいいっぱいなので。

——決まったとしたら総合の試合は初めてですよね。不安ですか？

子安　う〜ん、自分は空手から顔面やって、顔面の怖さを味わったじゃないですか。総合の練習を今やり始めて、総合の怖さっていう、極められたりとか、落とされたりとかまだしてないので、その怖さが分からないっていうのもあると思うんですよ。だから、こんなにノンビリしてるというか（笑）。

——練習もシンドそうですけど、試合になったらまた違いますもんね。

子安　そうですね、分からないですからね。どういうふうになるか。今も寝技の練習してて、シンドイなぁ、試合でもこんだけシンドイんだろうなぁとは思いますけど。

——寝技のプロの方からはどういうアドバイスをもらってるんですか？

子安　とりあえず、してはいけないことってあるじゃないですか。こういうふうにしたらとられるよっていう、やってはいけないことを教えてもらってます。

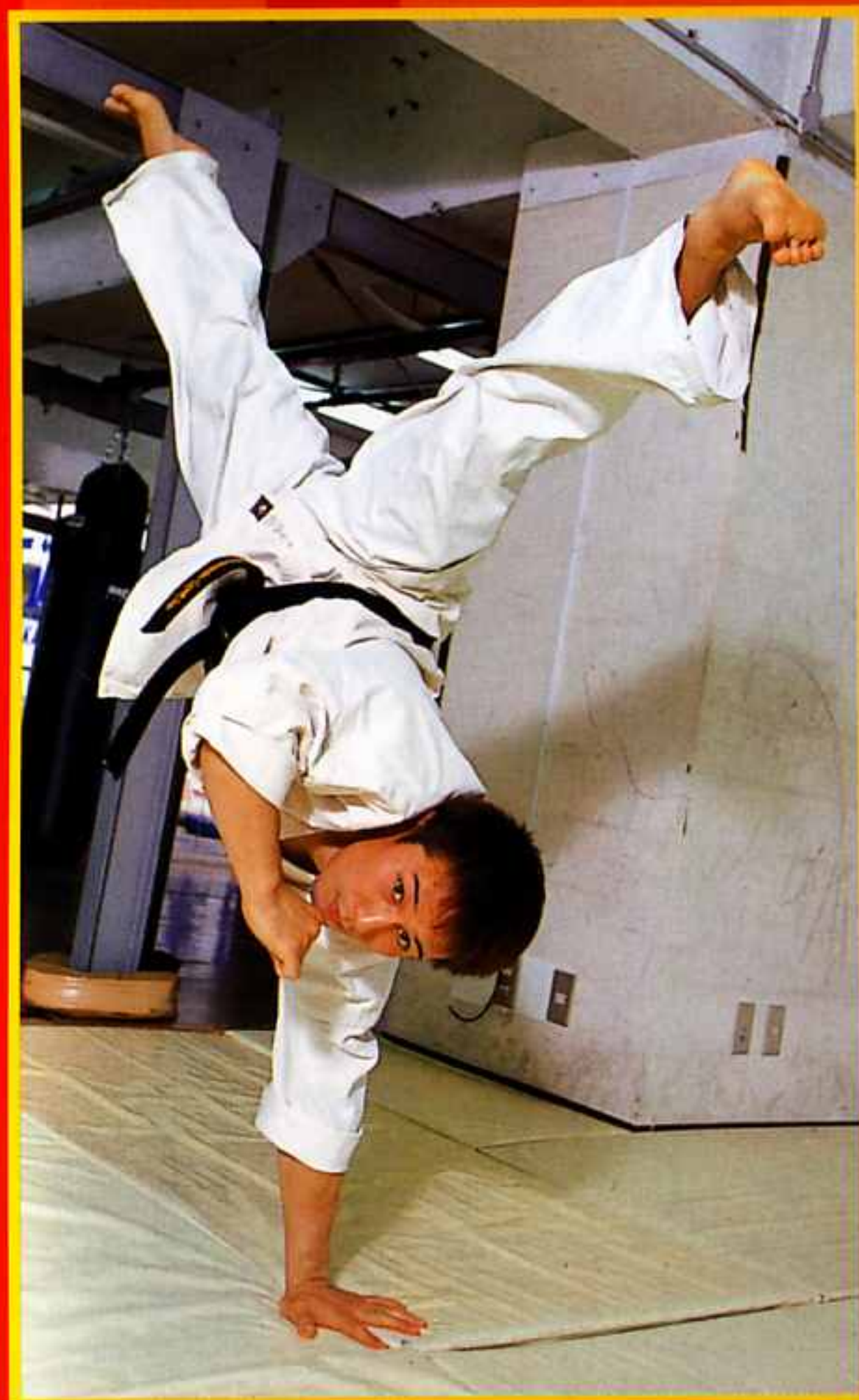
——どちらかというと、技を覚えるというよりは危険回避のためのことを覚えてるんですか。

子安　そこからやっていかないと、分からないじゃないですか。やって難しいですよ。

——K—1でも凄くいい試合をしてますからね。とても楽しみですよ。とくにジャパン勢の中で寝技の下地があって総合挑戦というのも初めてですから。

子安　いやいや。もう、いっぱいいっぱいですから。あんまり強い刺激はいらないですよ（笑）。ちょっと今回は刺激が強すぎます（笑）。

——石井館長からのご指名という時点でかなり期待されてますからね。頑張ってくださいね。

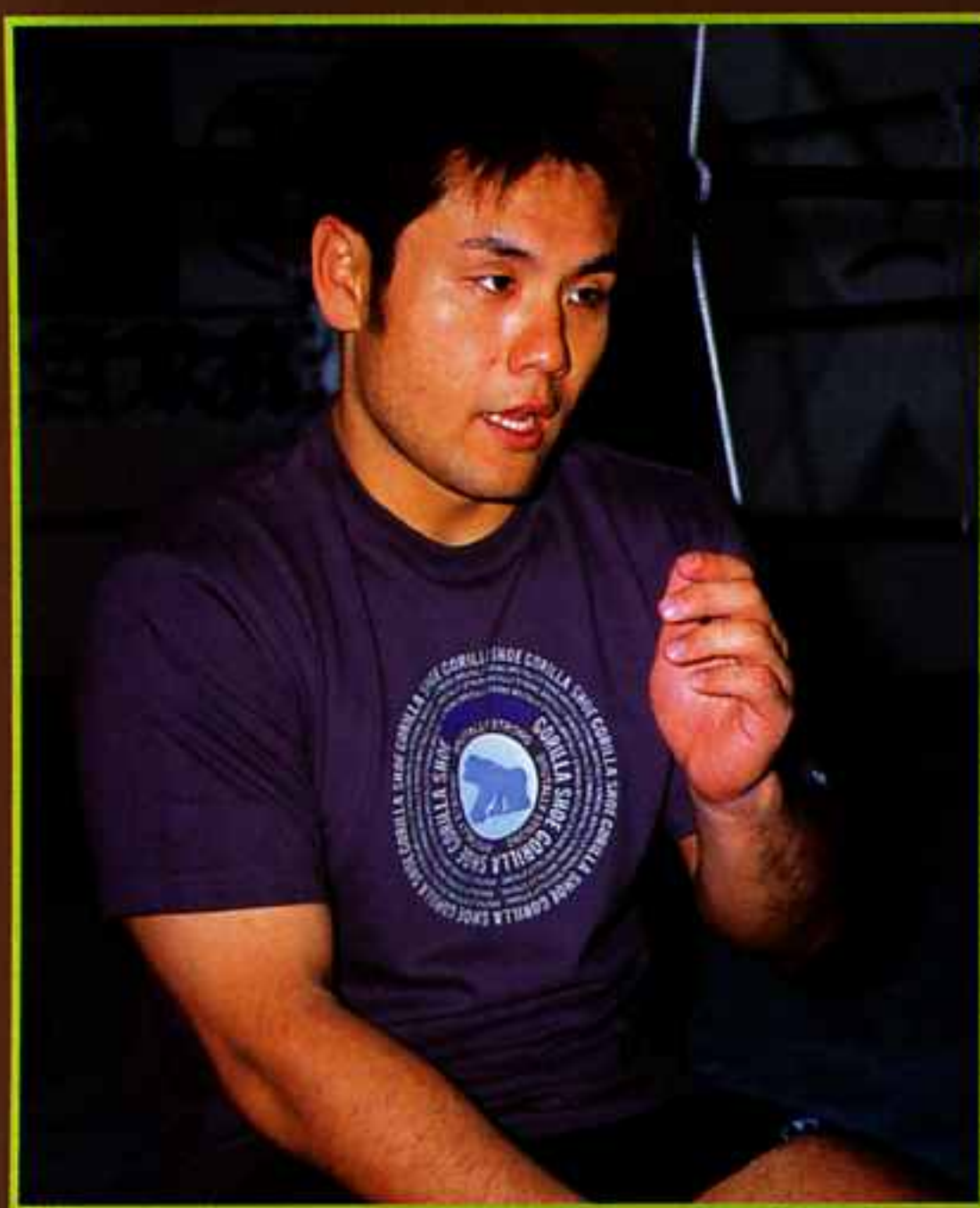
子安　いや、期待しないでそっとしておいてください（笑）。■

▲子安の持ち味はトリッキーな蹴り技。“子安キック”はVTでも使えるのか？「無理でしょうねぇ（笑）」（子安）

菊田早苗、『プライド』復帰!? 狙うはシウバか!?

ファンが選んだ「シウバに勝てる日本人」は菊田早苗である！

悲しいことであるが、桜庭がシウバに2連敗してしまった。その最中、『SRS・DX』のHPの掲示板では「シウバに勝てる日本人」としてグラバカの菊田早苗の名前が挙がり始めたのだ。この結果を受けた形でシウバ戦や『プライド』出場の可能性などについて聞く。

聞き手◎中村カタブツ君（ブチ）

SANAE KIKUTA

シウバ選手の寝技は結構うまいですよ。相当の強敵になると思います

——ウチの雑誌でホームページを立ち上げまして、そこの掲示板で「シウバに勝てる日本人は誰か」っていうスレッドが立ったところ、菊田さんじゃないかというふうになったわけです。どうなんでしょうか、菊田さんとしては?

菊田　う〜ん。

——まあ、可能であるならばイイ方向にという話なので、現時点では個人的な気持ちとしてでいいんですが。

菊田　そうですね。今、誰もが知ってる選手だし、有名で強いっていう二つを兼ね備えてる選手なんで、もちろんやりたい気持ちはあるんですけど。

——競技者としては当然ですよね。

菊田　ですよね。ただ、僕が横からやりたいんだって言ってもね。言うのは簡単ですからね(笑)。

——ただ、ファンのニーズはあるんですよ(笑)。

菊田　うん。打撃系と寝技系なんで、やったら結構面白いと思いますよ(笑)。

——桜庭VSシウバ戦は見ました?

菊田　見ました。だから、寝技になった瞬間に早く仕留めないと厳しいなとは思いましたよね。倒したらすぐにいかないとダメな選手だなとは思いましたよね。

——寝技になった時、桜庭さんを蹴って突き放しましたよね。

菊田　あれは結構うまかったですね。あと十字とかも狙ってたし、結構寝技はできるんじゃないですかね。

——それはリップサービス抜きで。

菊田　うん。寝技できますね。あと力がハンパじゃないのが分かりますね。相当の強敵ですね。

——打撃さえ気を付けてればいい、という感覚じゃないんですね。

菊田　やっぱりティトとやった時も一生懸命スイープしようとしてるんですよ。ああいう動きって、本当にできない人は1回もやらないですから。でも、4回も5回もスイープしようとしてるってことはよっぽど練習でやってるし、身に付いてる証拠なんですよ。それに、ティトの身体が浮くんですよ。

——あの重いティトが。

菊田　ええ。だから、できるのは間違いないですね。桜庭さんの寝技の技術は超一流なんで、その選手を一瞬でも止めてしまうというのは相当の実力がないとできないです。

——となったら、ファンとしてはますます見てみたいなと思うんですが、その一方で掲示板のほうでは「菊田じゃなくて美濃輪のほうがいい」という書き込みもあるんですよ(笑)。

菊田　それはもうね(苦笑)。僕ももう大人なんで、そこでコメントしてもね。それに好きな選手って人それぞれじゃないですか。

——大人になるにはまだ早いでしょう(笑)。以前、『プライド』ではヘンゾとやってますけど、あの頃と比べて、菊田さん自身成長している実感はやっぱりありますか。

菊田　当然伸びてますよね。それに2年前にアブダビ出た時は、僕は1回戦でヒーガン(・マチャド)に負けてますけど、2年経った時にはヘンゾがアブダビで1回戦で負けてるんですよ。だけど、僕は優勝しましたよね。だから、実力は常に動いているんで。現時点のチャンピオンは僕なんで。だから、ホイスともやってみたい気持ちはありますね。今、ホイスはどれだけの男なんだ、どれぐらいの実力なのかと。それも、寝技で真っ向からやってみたいんですよ。

——菊田ファンが望むのはそういう試合ですよね。ただ、そこまで結果出してるのに美濃輪という名前が出ることに対する憤りってないですか。

菊田　もし、状況が許すんであれば、出ていけばいいと思いますよ。それで通用するんだったら通用するでいいじゃないですか。だけど、これから先は分からないですけど現時点では無理でしょう。

——技術的なところではどうなんだろうとは僕も思いましたね。だけど、それでも「美濃輪を」という人たちの気持ちなんですよ。なんかやってくれるんじゃないかっていう期待感ですよ。

菊田　だけど、僕との試合で美濃輪選手はなんにもやってないんですけどね(笑)。

——ワハハハ! その意味で言えば、やってないと言われればやってないですね。だけど、逃げ続けたじゃないですか。

菊田　いやぁ、何かやるっていうのは相手を追い込むことを言うんですよね。

——おっしゃるとおりですね(笑)。

菊田　だって、例えばですよ。僕は今まで試合で使ってなかったオモプラッタとか、下からの返しとかを使って、自分の中でプラスした試合をやってるんだけど、あの時の美濃輪選手はリボーリオ戦やフィリョ戦とまったく同じ展開になったわけですよ、僕の感じ方からすれば。要するにそっから先が行き詰まってるところがあると思うんですよね。

——身体能力は凄かったですけど、技術的なものに関してはどうかなって気になりましたね。だけど、やっぱり僕は美濃輪さんは凄いって思ったんですよ。同時に菊田さんも凄いって思いましたしね。だから、菊田さんの評価と美濃輪さんの評価っていうのは真反対の部分っていうか、光が当てられてる部分が違うし、自分自身が考えている評価も違うってことですよね。

菊田　だから、リボーリオとかフィリョ戦では見せていない美濃輪育久を僕との試合で見せていれば、それは凄いと僕自身思ったと思いますよ。そういう意味では彼の凄さというのは僕には伝わらなかったというのが実感です。

SANAE KIKUTA

▼12・1パンクラス横浜文体大会に向けて行われたグラバカ公開練習で、石川英司を相手にオモプラッタをかける菊田。その技術は圧倒的だと思うが、本人は「実は僕、技術があるわけじゃない」と仰天発言。また、下の写真は佐々木有生を相手に打撃練習に励む様子

――じゃあ、美濃輪さんが持ってるリング上の爆発力っていうのはどういうふうに評価してますか。華とかって言われる部分です。

菊田 バン！っていう必死になってるところですよね。

――うらやましいと思います？

菊田 う～ん、難しいですね。単純に言うと僕の中では選手として尊敬するとかっていう対象の選手じゃないですから、うらやましいとは思わないですね。誤解してほしくないのはあくまで選手としての部分ですけど。

――では、菊田さんが考える、菊田早苗にとって必要なものというのは？

菊田 必要っていうか、やっぱり僕はムリーロ・ブスタマンチとかノゲイラとかは好きなんで。ああいう柔術系の闘い方というか。

――あくまで技術にこだわるという言い方が正しいんでしょうか。

菊田 技術？　技術っていうか、十分、闘志が見れるんですね、彼らの試合は。それに僕は技術の人ってよく言われるんですけど、技自体で言ったら一番ヘタですからね、スポーツセンターの中で。

――え！　ウソでしょ!!

菊田 佐々木君とかうまいですから。どっちかと言ったら僕はパワーでやってる部分がデカいのもあるし。それは組んでるみんなが言うんですけど。

――はぁ、だけど、それでアブダビで優勝できますか？　戦術とかはまた別ってことですよね。

菊田 もちろん戦術っていうのはありますけど、どっちかと言うと一番天然に近いですよ、僕はたぶん。力を使って、雰囲気とかでやってる部分が強いと思いますね。あそこに郷野君がいるんで聞いてみれば分かると思いますけど。

郷野 いや、菊田さんからパスするのって難しいですよ。だからなんていうか、経験とかそういうのが凄いからなんですよ。

菊田 ね。技術って言葉が出てこないでしょ（笑）。単に経験とパワーとかなんです。それに雰囲気とか華とかっていうのは本人が持ってる独特のものだから作ってできるものでもないし。それは凄いですけど、それを見よう見まねでやってもしょうがないですしね。だから、あれはいい試合だったとは思うし、美濃輪選手も気迫があって、いい選手だっていうのは分かってるんですよ、もちろん。僕自身、もう一回やりたいと思ったけれども、でも、もしまた同じだったらつまんないですね。

――はい。競技者としては当然だと思います、それは。

菊田 だから、成長するその日まで待ちたいですね。こういう言い方って、やっぱり嫌われますか？（笑）。

――いや、面白いですよ（笑）。そのまま行ってほしいって本気で思います。なんていうんだろう、菊田さんはパンクラスでヒールになるって言ってましたけど、もともとのプロとしてのスタートから、かなりなヒールだったと思うんですね。まずは『プライド』でプロレス側から叩かれて。

菊田 あれは僕も悪いんですよね。結局、なんていうのかな、他人の職業のことまでツッコンで喋ってね。何も関係ないのに言う必要もないのかなって。いろんな迷惑をかけたと思いますね。ただ、フリーだったし、まだ若かったし。たしかにあれは反省してますね、今になってみると。

――いや、今だからこそ、反省する必要はまったくない感じがするんですね。だって、あれだけ叩かれた中で、たった一人でコツコツ技術を積んできてここまで来たわけですから。

菊田 だから、逆境になればなるほど、これで終われないってことは深く思う人間なんで、それはバネですよね。

――その姿が格闘技ファンにはたまらない魅力になって支持されてるわけですよね。

菊田 ただ、まだその輪は小さいですよね。

――だけど、大きなプロレスファンの中に入っても目立つんですよ。「チクショウ、目障りだぜ」っていう部分とはいえ、気になるのは凄いですよ。それは、そういう面倒くさいことも全部結果を出してひっくり返してきたからで、だからこそ、いまだにプロレスファンからは嫌われる要素があるんですよね。

菊田 う～ん。

――いや、ホント、ヒールの素質がありますよ（笑）。

菊田 アハハハ！　ヒールの素質。僕がヒールの素質！（笑）。

――プロレスファンというか、特定のファンからは本気で嫌われるタイプですね（笑）。そして格闘技ファンからは絶大な支持を集めると。ただ、これって、けなしてるわけじゃなくて、リングに上がる人って絶対にもの凄く好かれるか、もの

美濃輪選手に対しては“選手”としては尊敬する対象ではないです

僕、技自体で言ったら一番ヘタですから、スポーツセンターの中で

SANAE KIKUTA

凄く嫌われるかじゃないと光らないと思うんですよ。

菊田　だから、さっきなんで美濃輪選手に対して厳しいことを言ったかというと、グラバカ＝技術とか、機械的なことばかりクローズアップされるんですよ。

――技術屋集団みたいな言われ方ですよね。

菊田　うん。でもね、寝技って技術だけじゃできないんですよ。関節技は技術だけど、パスガードするとか、させないとか、抑え込むとか、そういうのは80％我慢の世界なんですよ。地味な（笑）。もうどっちが心が折れるかっていうそういう部分なんですよ。それをいつも勘違いされちゃうんですね。だから、僕らは心は強いんですよ。だから、この間の美濃輪選手との試合も負けなかったんですよ。

――でも、それってやっぱり見えにくいところですよね。評価されるまでに時間がかかるし。しんどくなかったですか。

菊田　まあねえ、だけど、僕ももう年取って大人になっちゃったからなぁ。あんまりガツガツ上を見たりはできないんだよなぁ。だから、そこをクローズアップされてもなぁ（笑）。

――自分で言っておいて何を言ってるんですか。チャンピオンになったばかりの人間をクローズアップしなくてどうするんですか（笑）。

菊田　そうですよね（笑）。

――それに、これからシウバを倒す可能性とかもある人じゃないですか。年取っちゃったからっていうのはやめましょう（笑）。

菊田　ねぇ（笑）。

――ということで、話は戻りますが、シウバとはイチ競技者としては闘う気持ちがあるでいいわけですね。

菊田　それは闘いたいですね。

――ちなみに勝つ可能性としてはどう考えてます？

菊田　シウバに？　それは絶対に勝てないと思ったらやらないですからね。勝てるチャンスがあると思うから、やりたいと言えるんですよ。それにノゲイラやスペーヒーの試合を見て、今の総合では寝技ができないと勝てないっていうのは確信したんで。

――今、逆に打撃ができないとダメだみたいな言われ方もされてますよね。

菊田　でも、打撃は苦しいし、ボコボコになるけど。う～ん。

――まあ、いいか、と（笑）。

菊田　僕の闘い方っていうのはボコボコにされても寝技で勝つっていうスタイルですから。まだ、ボコボコにされたこともないですけど（笑）。僕は打撃はできないですからね、やっぱり。

――ただ、練習はしてますよね。スネークピットとかで。

菊田　今、練習してますけど、それは打撃で倒そうっていう感覚じゃないですからね。

――分かりました。では、最後の質問なんですけど、菊田さんがこの世界で目指してるものはなんですか。最終目標というか。

菊田　そうですねぇ……。

――柔術家としての強さを目指すとか、あるいはプロの頂点を目指すとか？

菊田　う～ん、本音を言うと白けますよ（笑）。

――いや、本音でお願いします。

菊田　僕、実は目標がないから（笑）。

――ワハハハ！　ホント白けますね（笑）。

菊田　だって、優勝しようと思ってアブダビに行ったわけじゃないし、チャンピオンベルト取りたいと思ってパンクラス入ったわけじゃないし。

――ただ、それは当たり前のことだと思います。目の前に来たものをキチンと処理するってことですから。

菊田　それにそういうリラックスした中での勝負が一番結果を出してきたので、逆にガツガツしてる時はダメなんですよ。余計な批判をしちゃうし（笑）。実力もまだないのに大舞台に出よう出ようとなっちゃったし。だから、その辺は自然体にやっぱり任しちゃってますね。それのがね、楽しいッスよ。格闘技ライフと私生活を楽しんで試合に臨んで、それで勝てばいいじゃないですか（笑）。

――なんか、やっぱりナチュラルヒールの素質がありますね（笑）。

菊田　なんでですか！（笑）。ただ、試合になるとリングに上がった瞬間だけはこの野郎って気持ちになりますよ。リングに上がるまでは怖いですしね。上がった瞬間に別人になるんですよ、自分が。それがまだあるウチは大丈夫ですね。

――では、それがあるうちにシウバ戦をぜひお願いしたいなと思います（笑）。■

三代目格闘ビジュアルクイーン

長谷川京子(はせキョー)の超SRS宣言！

第21回

11・3 PRIDE.17 東京ドーム大会

桜庭とシウバの再戦を、思い入れタップリで観ていたはせキョー。桜庭の入場シーンを見ただけで号泣してしまったというはせキョーの、その涙のわけは？　また、はせキョーは『プライド17』をどう見たのか？

みんなの夢を背負って入場する桜庭選手を見て思わず涙が……

今回の『プライド17』は、すっごく楽しみにしていたんです。

こんなにいいカードがズラ～リと揃って、一気にやってしまうのがもったいないってくらい!!　桜庭選手VSシウバ選手をはじめ、髙田選手VSミルコ選手、ノゲイラ選手VSヒーリング選手……ｅｔｃ。それに試合を観に来たゲストの方々も超豪華！　小室哲哉さんや巨人の清原選手、マリナーズの佐々木選手……ｅｔｃ。それにホイス選手も!!　客席も満員でモノ凄い熱気。でも何か、心のどこかでつっかかるような、そんな気分のまま終わってしまった今回の大会。原因はいくつかあるんですが、やっぱり桜庭選手の敗北は、特に悔しかったです。実は、桜庭選手の入場の時点で号泣してしまった私。

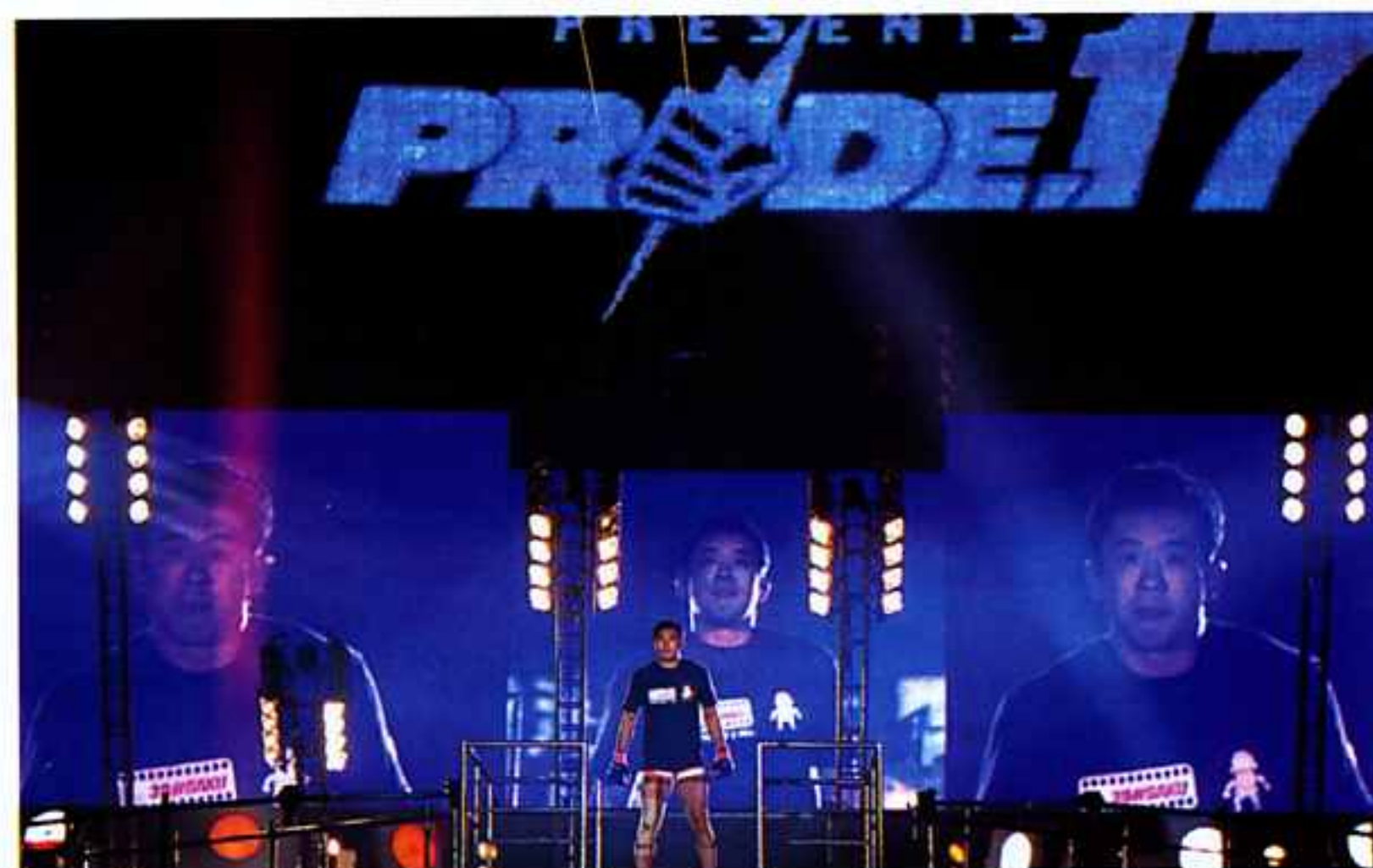
『プライド17』が行われた週の水曜日に、フジテレビの『すぽると！』で桜庭選手の特集が組まれていたのを、皆さんはご覧になりました？

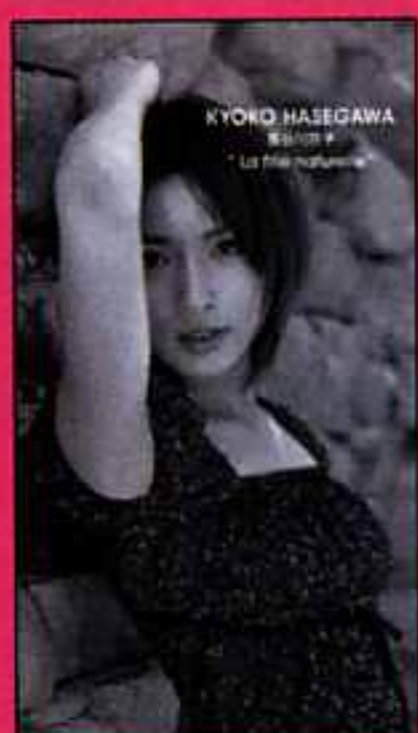
『ヒーローは2度、負けない』

というテーマで特集されていたのですが、その中で、アニメのヒーローのフィギュアが何体も置かれていて、桜庭選手と照らし合わされていたんです。それを見ていたら、男の子がなんでアニメのヒーローをあんなに好きなのか、男の人がなんで桜庭選手をこんなに好きなのかが、なんとなく分かった気がしたんです。私ももちろん桜庭選手が大好きだけど、でも女性がそう思うのと、男性の桜庭選手に対する気持ちとは少し違うのかなって思いました。どちらにしても、ファンの人たちは桜庭選手に今この時、夢を託していて、桜庭選手は、そんな人たちの夢を背負っているんだな、とか考えていたら、思わず涙が出てしまったんです。

1R終了時点で、桜庭選手の右肩がボコッと出ているのに気付き、アレ？　どうしたの？　と思っているうちに、ドクターストップで試合終了。やっぱり、こういう形で試合が終わってしまうことは凄く悔しいけれど、アクシデントは仕方ないことだし、何より桜庭選手が一番悔しいんだろうなぁと、桜庭選手の涙を見て思いました。

そして、このカードのほかに私がとっても楽しみにしていた、ヘビー級のタイトルマッチのアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ選手VSヒース・ヒーリング選手。なんと言っても大のヒーリングファンの私。いつも奇抜な髪型にするのは、どうなのって感じですけど……。でも、入場の時の、カウボーイスタイルでの登場がカッコ良いんですよネ。

だから、私としてはヒーリング選手に勝ってほしかったんですよ～!!　でもノゲイラ選手の強さには圧倒されました。100の関節技を自由自在に操れると聞いてましたけど、試合を見て「たしかに」とうなずいてしまいました。どんな体勢からでも、スルスルっと技を掛けてしまう、その技術。ホントに凄いです！　最後までまったく気の抜けない試合で面白かったです。ヒーリング選手が負けたのは悲しかったけど、ヒーリング選手はまだ23歳と若いし、これからですよ……なんて思っていたら、ノゲイラ選手も25歳と聞いて、少し、ううん、かなりビックリ!!　30歳はゆうに超えていると思っていました。

それにしても、ブラジル勢はホントに恐るべし！　ですね。シウバ選手、ノゲイラ選手、そして、ノゲイラ選手の師匠マリオ・スペーヒー選手……ｅｔｃ。ボブチャンチン選手があんなに簡単に負けてしまうなんて……、驚きでした。次々とやってくるブラジル勢、次は果たしてどんな選手が来るのでしょうか？

今回は、悔しい思いをたくさんしてしまったけれど、私はこれからも桜庭選手を応援していきます！　■

12/19にはポニーキャニオンより待望のファーストビデオ＆DVD「La fille naturelle」を発売！　2002年度版カレンダーが好評発売中！

はみだしはせキョー

長谷川京子（はせがわ・きょうこ）1978年7月22日生まれ。10/11（木）スタートのドラマ『スタアの恋』に出演中。
ビデオ＆ＤＶＤの発売記念トーク＆握手会のお知らせ　■日時：12月22日（土）11:00～　■場所：ワールドスポーツカフェ（東京・JR渋谷駅より徒歩5分）■問い合わせ：03-5521-8044（ポニーキャニオン）

番組インフォメーション
11/23、11/30、12/7の見どころ

情報提供◎『SRS』アシスタントプロデューサー・金井由紀子

地域によっては放送日時が異なります。また、この番組インフォメーションは11月13日現在のものです。都合により内容が変更になることもございますのでご了承ください。

注目! あなたが選ぶSRSベストバウト大賞募集!

早いもので、今年もまたSRS視聴者の皆さまの1票で決めるベストバウト大賞の季節がやって来ました。2001年格闘技界のベストバウトはどの試合か? 官製ハガキに、住所、氏名、年齢、職業、電話番号と2001年で一番心に残った試合を明記し、〒119-8088フジテレビ「SRS ベストバウト2001」係までご応募ください。また、12月よりインターネットでもご応募の受け付けを開始します。ホームページアドレスは、http://www.fujitv.co.jp/srsです。たくさんのご応募、お待ちしてます!

『SRS』は金曜日深夜25時45分~26時15分(時間は変更することがあります)フジテレビ系で絶賛放映中。

11/23
オーケンワールド全開!
格闘ビデオ道
11月23日(金)/25:45~26:15

今週は、大槻ケンヂプロデュース「格闘ビデオ道」で、皆さまのお腹を笑いのどツボにおはめしちゃいます! 謎の投稿モノから、秘蔵VTR、お宝映像まで、世の中に存在するオモシロ格闘技ビデオを公開しちゃう大好評のこのコーナー。今回もまた、誰もが驚く格闘技の貴重な映像が登場しますよ。アントニオ猪木のプライベート映像から、ブラジルの怪しい格闘技、そして本邦初公開! エリオ・グレイシーの自宅&私生活の模様まで、内容盛りだくさん! 濃密過ぎる30分。大槻ケンヂによる神秘的な「格闘技ワールド」をとくとご堪能あれ!

▲お馴染みオーケン師範による「格闘ビデオ道」。今回はどんなビデオを繰り出すのか? 今から楽しみですね

11/30
1回戦から屈指の好カード続出!
12・8『K-1 ワールドGP2001決勝戦』特集!
11月30日(金)/25:45~26:15

先日開催された福岡での敗者復活戦で、レイ・セフォー相手にファンのド胆を抜く試合を展開したマーク・ハント。抽選会では、なんとジェロム・レ・バンナを指名し、早くも嵐の予感を感じさせる1回戦屈指の好カードが決定しました。SRSでは、このハントvsバンナ戦に大注目。海外に取材班を派遣し、『K-1ワールドGP決勝戦』を前にした両者に密着取材を敢行しました。初優勝を狙うバトル・サイボーグは、サモアの怪人の顔面を打ち砕けるのか? それとも怪物が、サイボーグの拳を顔面で破壊するのか? 2人の練習風景などを踏まえながら検証しますよ。お見逃しなく!

▲勝ち名乗りをあげるのは、冷酷なバトル・サイボーグか? それとも陽気なサモアの怪物か?

12/7
決戦のゴングまで残り15時間!
12・8『K-1ワールドGP2001決勝戦』最終直前情報!
12月7日(金)/25:45~26:15

波乱続きだった今年のワールドGPもいよいよ大詰め、決勝戦を迎えました! 21世紀最初のGPを制するべく、大激戦のサバイバルバトルを勝ち残った7名のファイターに館長推薦枠1名を加えた8名の選手が東京ドームに集結。今回のSRSでは、12月8日『K-1 ワールドGP2001決勝戦』に挑む選手の最新情報をお届けします。死にものぐるいで練習してる選手がいれば、非常にリラックスしてファイナルを迎える選手もいたりと、決戦を目前に控えた選手の表情は様々。大事な体の調整は、選手の皆さん、うまくいってるのでしょうか? 決戦の火ぶたが切られるまで残り15時間! 最新情報はSRSで、GETしましょう!

▲昨年は7万200人の観衆が詰めかけた決勝戦。21世紀初の優勝者は誰だ? いざ東京ドーム決戦へ!

フジテレビ系列の番組から

◎フジテレビ
12・8『K-1 ワールドGP2001決勝戦』中継
12月8日(土) 21:00~22:54
『K-1 ワールドGP2001決勝戦』を当日の21時より放送します。2001年ファイナルバトルを、手に汗握りながら、お楽しみくださいね

◎CS721
K-1 放送日程
『K-1 ワールドGP2001inメルボルン』
11月24日(土) 15:20~18:00
『K-1 ワールドシリーズ2001 Part.2』
11月25日(土) 15:50~17:00
『K-1 ワールドGP2001in名古屋』
11月25日(土) 17:00~20:00
『K-1 ワールドシリーズ Part.3』
12月1日(土) 16:00~17:20
『K-1 ワールドGP2001inラスベガス』
12月1日(土) 17:20~20:00
『K-1 ワールドGP2001in福岡』
12月2日(日) 15:00~18:00

◎CS739
11・3~4極真『第33回全日本空手道選手権大会』
11月23日(金) 13:00~15:00

SRSホームページのアドレスはこちら
http://www.fujitv.co.jp/

SRSホームページでは、詳しい放送日程や最新・格闘技情報、『ロケ現場潜入日記』など内容満載です。また、人気コーナー『SRS FIGHT CLUB』では皆さんからの原稿を募集中です。あなたが書いたエッセイや観戦記、その他マニア情報、プチ情報などで作るコーナーです。あなたの熱い魂の叫びを書いて、どしどしお寄せくださ~い。それから、はせキョーのページもあるのでこちらも必見!

TV

日付	チャンネル	番組名	時間	内容・見所
11/22（木）	FIGHTING TV SAMURAI!	ワールドコンバットファイト（再）	8:00～9:00	『ワールドコンバットファイト』の再放送シリーズ。『WPKLムエタイチャンピオンリーグ』(98.11.14/オランダ）から4試合。同内容放送11/28・8:00～
	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション（再）	9:00～10:30	修斗、北沢タウンホール大会（99.11.4）
	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション（再）	10:30～12:00	新日本キック協会、後楽園ホール大会（00.5.5）
	FIGHTING TV SAMURAI!	PRIDE王	17:00～17:30	東海テレビ『PRIDE王』と同内容
	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション	19:00～21:00 23:00～25:00	11.2に後楽園ホールで開催のニュージャパンキック連盟『CHALLENGE TO MUAY THAI』大会。同内容放送11/26・4:00～、11/29・14:00～
	FIGHTING TV SAMURAI!	世界の格闘技 ワールドコンバットファイト	21:00～22:00 26:00～27:00	パット・ミレティッチ特集。パット・ミレティッチvsチャック・キムほか3試合。同内容放送11/23・13:00～、11/26・6:00～
	FIGHTING TV SAMURAI!	格闘ジャングル	22:00～23:00 25:00～26:00	さまざまな格闘技の最新情報を紹介する番組。毎回格闘家のゲストも登場し、ファイターの等身大の魅力に迫る
	BS朝日	パンクラスハイブリッドアワー	24:00～26:00	船木誠勝が語るパンクラス・ヒストリー25～～96.12.15 日本武道館
	GAORA	週刊格闘JAM！	25:10～25:20	毎回、K-1、PRIDEなどから活躍が期待される選手や格闘技界の旬な話題から、選手個人の特集など格闘技界の様々な話題を取り上げる
	GAORA	角田信朗の格闘魂	25:30～26:00	正道会館の角田信朗がパーソナリティーを務める、ラジオとのメディアミックス企画番組。自ら格闘魂を語り毎回格闘家のゲストも迎える　今回はゲストに参議院議員の大仁田厚をゲストに迎える。再放送11/24・23:30～、11/26・16:30～
	TBSテレビ	格闘王	25:50～26:20	『K-1ワールドMAX』オセアニア予選大会
	FIGHTING TV SAMURAI!	PRIDE王	27:00～27:30	東海テレビ『PRIDE王』と同内容。同内容放送11/26・28が27:00～、11/27・29が17:00～
11/23（金）	FIGHTING TV SAMURAI!	格闘ジャングル	7:00～8:00	11/22を参照　同日再放送12:00～、18:00～
	FIGHTING TV SAMURAI!	ワールドコンバットファイト（再）	8:00～9:00	『HOOKnSHOOT "HORIZON" パート1』(99.3.20) から5試合。同内容放送11/29・8:00～
	フジテレビ	SRS	25:45～26:15	➡P69
	日本テレビ	プロレス・ノア中継	25:55～26:25	11.20 大阪府立体育館第2競技場大会
	Jスカイスポーツ3	ワールドファイティング	26:00～27:00	『カルガリー・スタンピード・レスリング～ハート・ファミリー特集1』
11/24（土）	FIGHTING TV SAMURAI!	ワールドコンバットファイト（再）	8:00～9:00	『サブミッションファイティングチャンピオンシップ　パート2』(98.1.29/イリノイ州) から8試合。同内容放送11/30・8:00～
	スカイA	パンクラスハイブリッドアワー	17:00～19:00	船木誠勝ストーリー9
	Jスカイスポーツ2	ワールドファイティング	25:00～27:00	『ブラジル・MECAバーリ・トゥード特集3』を2時間の拡大枠で
	GAORA	LADY GO! 女子ボクシング	26:00～27:00	女子ボクシング協会主催で10.10に北沢タウンホールで開催された大会を放送
	テレビ朝日	ワールドプロレスリング	26:05～27:05	11.23 後楽園ホール大会
11/25（日）	BS朝日	ワールドプロレスリング完全版	15:00～17:25	11.2 横浜文化体育館大会
	FIGHTING TV SAMURAI!	格闘ジャングル	27:00～28:00	11/22を参照
11/26（月）	FIGHTING TV SAMURAI!	ワールドコンバットファイト（再）	8:00～9:00	『HOOKnSHOOT "HORIZON" パート2』(99.3.20) から4試合。同内容放送12/1・8:00～、12/7・8:00～
	FIGHTING TV SAMURAI!	PRIDE王	17:00～17:30	東海テレビ『PRIDE王』と同内容。 同内容放送11/27・29・12/3・5が27:00～、11/28・12/6が17:00～
	TBSテレビ	ワンダフル	23:50～24:50	『格闘新世紀』／PRIDEファンクラブイベント『PRIDE BANQUESTvol.1』の模様
	日本テレビ	超K-1宣言	26:47～27:17	内容未定
11/27（火）	FIGHTING TV SAMURAI!	ワールドコンバットファイト（再）	8:00～9:00	『USWF12 パート1』(98.10.24) から7試合。同内容放送12/3・8:00～、12/8・8:00～
	東海テレビ	PRIDE王	24:40～25:10	『第1回 クイズPRIDEグランプリ』
11/28（水）	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション（再）	10:30～12:00	格闘探偵団バトラーツ、本川越ペペホール（99.12.5）
	スカイA	パンクラスハイブリッドアワー	22:00～24:00	8.18『DEEP2001』横浜文化体育館大会
	GAORA	北斗旗 第一回世界空道選手権大会	23:00～25:00	11.17国立代々木第2体育館で開催された大道塾主催の同大会を放送
	フジテレビ	すぽると	23:50～24:30	K-1 企画。角田信朗出演
11/29（木）	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション（再）	9:00～12:00	国際空手道連盟　極真会館「第7回全世界空手道選手権大会」(99.12.4～5)　東京体育館
	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション	19:00～21:00 23:00～25:00	11.9に後楽園ホールで開催のMA日本キック連盟『ODYSSEY-6』。同内容放送12/3・4:00～、12/6・14:00～
	FIGHTING TV SAMURAI!	世界の格闘技 ワールドコンバットファイト	21:00～22:00 26:00～27:00	アーロン・ライリー特集。アーロン・ライリーvsフィル・ストロフォリノ戦ほか3試合。同内容放送11/30・13:00～、12/3・6:00～
	FIGHTING TV SAMURAI!	格闘ジャングル	22:00～23:00	11/22を参照。同日再放送25:00～
	BS朝日	パンクラスハイブリッドアワー	24:00～26:00	船木誠勝スペシャル～～新日本時代からヒクソン戦まで
	GAORA	週刊格闘JAM!	25:10～25:20	11/22を参照
	GAORA	角田信朗の格闘魂	25:30～26:00	11/22を参照。今回のゲストは正道会館の宮本正明　再放送12/1・26:30～、12/4・11:30～
	TBSテレビ	格闘王	25:50～26:20	藤田特集（予定）
11/30（金）	FIGHTING TV SAMURAI!	格闘ジャングル	7:00～8:00	11/22を参照　同日再放送12:00～、18:00～
	フジテレビ	SRS	25:45～26:15	➡P69
	日本テレビ	プロレス・ノア中継	25:55～26:25	11.25 名古屋・愛知県体育館大会
12/1（土）	Jスカイスポーツ2	ワールドファイティング	26:00～27:00	『カルガリー・スタンピード・レスリング最終回～ハート・ファミリー特集』。同内容放送12/5・25:00～、12/8・26:00～
	テレビ朝日	ワールドプロレスリング	26:05～27:05	内容未定
12/2（日）	BS朝日	ワールドプロレスリング完全版	15:00～17:25	11.16 石川県産業展示館大会
	パーフェクトチョイス（122ch）	真撃アンコールアワー	18:00～	『真撃・第Ⅳ章』を前にこれまでの真撃（6.14大阪)、第Ⅱ章（8.30武道館)、第Ⅲ章（10.25武道館）を、2日から4日の3日間にわたり完全再放送！
	GAORA	真撃～第Ⅲ章～完全版	19:00～23:00	10.25に日本武道館で開催された『真撃～第Ⅲ章～』の全試合を完全放送
	Jスカイスポーツ3	ワールドファイティング	26:30～27:30	12/1のJスカイスポーツ2と同内容。同内容放送12/6・24:00～
	FIGHTING TV SAMURAI!	格闘ジャングル	27:00～28:00	11/22を参照
12/3（月）	GAORA	全日本キックボクシング	15:00～17:00	10.12 後楽園ホール大会

ON THE AIR 11/22～12/13

格闘技番組ガイド TV&RADIO

TV（右ページから続く）

日付	チャンネル	番組名	時間	内容・見所
12/3（月）	FIGHTING TV SAMURAI!	PRIDE王	17:00～17:30	東海テレビ『PRIDE王』と同内容。 同内容放送12/6・10・12が27:00～、12/11・13が17:00～
	フジテレビ	すぽると	23:50～24:30	3日から7日までの1週間、K-1GP直前SPECIAL WEEK
	TBSテレビ	ワンダフル	23:50～24:50	『格闘新世紀』／内容未定
	日本テレビ	超K-1宣言	26:47～27:17	内容未定
12/4（火）	FIGHTING TV SAMURAI!	ワールドコンバットファイト（再）	8:00～9:00	『WPKLムエタイチャンピオンリーグ』(98.11.14/オランダ）から3試合
	パーフェクトチョイス（122ch）	PRIDEシリーズアンコールアワー	12:00～	4日から22日の19日間にわたって、PRIDE.1からPRIDE.17とPRIDE.GP開幕戦と決勝戦の全19大会を完全アンコール放送
	東海テレビ	PRIDE王	24:40～25:10	PRE-PRIDE4、練習風景（前編）
12/5（水）	FIGHTING TV SAMURAI!	ワールドコンバットファイト	8:00～9:00	『ADCC US TRIALS 77～87kgトーナメント パート1』(99.7.24）から5試合
	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション（再）	10:00～12:00	格闘探偵団バトラーツ、TOKYO FMホール大会（99.12.25）
	フジテレビ	すぽると	23:50～24:30	K-1直前情報
12/6（木）	FIGHTING TV SAMURAI!	ワールドコンバットファイト（再）	8:00～9:00	『ADCC US TRIALS 77～87kgトーナメント パート2』(99.7.24）から9試合
	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション（再）	9:00～10:30	ESP『SUPER BROWL ⅩⅤ』(99.11.5/グアム)
	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション（再）	10:30～12:00	MAキック連盟、後楽園ホール大会（99.11.26)
	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション	19:00～21:00 23:00～25:00	11.22に後楽園ホールで開催の新日本キック協会『KICK GENERATION』大会。同内容放送12/10・4:00～、12/13・14:00～
	FIGHTING TV SAMURAI!	世界の格闘技 ワールドコンバットファイト	21:00～22:00 26:00～27:00	ミハエル・アビティシャン特集。vsスルタンマゴメドフ・カフカズほか7試合。同内容放送12/7・13:00～、12/10・6:00～
	スカイA	パンクラスハイブリッドアワー	21:00～23:00	10.30後楽園ホール大会。再放送12/10・20:00～
	FIGHTING TV SAMURAI!	格闘ジャングル	22:00～23:00	11/22を参照 同日再放送25:00～
	BS朝日	パンクラスハイブリッドアワー	24:00～26:00	12.1横浜文化体育館大会
	GAORA	週刊格闘JAM！	25:10～25:20	11/22を参照
	GAORA	角田信朗の格闘魂	25:30～26:00	11/22を参照
	TBSテレビ	格闘王	25:50～26:20	内容未定
12/7（金）	FIGHTING TV SAMURAI!	格闘ジャングル	7:00～8:00	11/22を参照 同日再放送12:00～、18:00～
	FIGHTING TV SAMURAI!	ワールドコンバットファイト（再）	8:00～9:00	『HOOKnSHOOT "HORIZON" パート2』(99.3.20）から4試合
	フジテレビ	SRS	25:45～26:15	➲P69
	日本テレビ	プロレス・ノア中継	25:55～26:25	11.30札幌・北海道立総合体育センター大会
12/8（土）	テレビ朝日	ワールドプロレスリング	26:05～27:05	内容未定
12/9（日）	GAORA	LADY GO! 女子ボクシング	6:00～7:00	10.10に北沢タウンホールで開催の日本女子ボクシング協会『Fighting Angels Part3』
	BS朝日	ワールドプロレスリング完全版	15:00～17:25	11.23後楽園ホール大会
	FIGHTING TV SAMURAI!	PRIDE侍	19:00～21:00 23:00～25:00	月1回放送の『PRIDE』情報満載のバラエティ番組。再放送12/10・10:00～
	Jスカイスポーツ3	ワールドファイティング	23:00～25:00	シュートボクセ対抗戦 同内容放送12/13・24:00～
	FIGHTING TV SAMURAI!	格闘ジャングル	27:00～28:00	11/22を参照
12/10（月）	FIGHTING TV SAMURAI!	ワールドコンバットファイト（再）	8:00～9:00	『USWF BATTLE OF THE BELTS Ⅱ パート2』(98.10.24）から5試合
	FIGHTING TV SAMURAI!	PRIDE王	17:00～17:30	東海テレビ『PRIDE王』と同内容。同内容放送12/11・13が27:00～
	TBSテレビ	ワンダフル	23:50～24:50	『格闘新世紀』／内容未定
	Jスカイスポーツ2	ワールドファイティング	26:00～28:00	12/9のJスカイスポーツ3と同内容
	日本テレビ	超K-1宣言	26:47～27:17	内容未定
12/11（火）	FIGHTING TV SAMURAI!	ワールドコンバットファイト（再）	8:00～9:00	『第3回アブソリュート・ファイティング・チャンピオンシップ・ワンマッチ特集』(97.5.2/モスクワ）から6試合
	GAORA	K-2カラテエクストリーム	21:00～22:00	11.11に東京武道館で開催の全日本新空手連盟『第64回新空手道交流大会』
	東海テレビ	PRIDE王	24:40～25:10	PRE-PRIDE4、練習風景（後編）
12/12（水）	FIGHTING TV SAMURAI!	ワールドコンバットファイト（再）	8:00～9:00	『サブミッション・ファイティング・チャンピオンシップ6』(99.8.4)
	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション（再）	9:00～10:30	格闘探偵団バトラーツ、後楽園ホール大会（00.1.30)
	スカイA	パンクラスハイブリッドアワー	22:00～24:00	船木誠勝ストーリー10
	フジテレビ	すぽると	23:50～24:30	12.8K-1 WORLD GP決勝戦速報。角田信朗出演
12/13（木）	FIGHTING TV SAMURAI!	ワールドコンバットファイト（再）	8:00～9:00	『LION HEART INVITATONAL』(99.9.4）から7試合
	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション（再）	9:00～10:30	修斗、後楽園ホール大会（00.3.7)
	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション（再）	10:30～12:00	ESP『SUPER BROWL ⅩⅤ』(00.2.7/ニール・ブレイズデールアリーナ)
	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション	19:00～21:00 23:00～25:00	修斗、11.25にディファ有明で開催の『SHIITO TO THE TOP』
	GAORA	北斗旗 第一回世界空道選手権大会	20:00～22:00	11.17に国立代々木第二体育館で開催された大道塾の世界大会『第一回 世界空道選手権大会』を放送
	FIGHTING TV SAMURAI!	世界の格闘技 ワールドコンバットファイト	21:00～22:00 26:00～27:00	『WCFレアマテリアル・レビューパート3』。ワシーリ・クージンvsイゴール・ボブチャンチンほか7試合
	FIGHTING TV SAMURAI!	格闘ジャングル	22:00～23:00	11/22を参照。同日再放送25:00～
	BS朝日	パンクラスハイブリッドアワー	24:00～26:00	大阪・なみはやドーム大会（01.3.31)
	GAORA	週刊格闘JAM！	25:10～25:20	11/22を参照
	GAORA	角田信朗の格闘魂	25:30～26:00	11/22を参照
	TBSテレビ	格闘王	25:50～26:20	内容未定

BOOK
話題の本&新刊情報

〈新刊紹介❶〉 It's HOT!

『PRIDE大百科』

東邦出版著/東邦出版
本体価格　952円/発売中

PRIDE初の公式ガイドブック登場！

先日開催された東京ドーム大会では、5万3246人の大観衆が集結したPRIDE。ビギナーファンからコアファンまで楽しめるドリームステージエンターテインメント公認PRIDE初の公式ガイドブックが、東邦出版から出た！　桜庭和志によるPRIDE技術講座や、PRIDEに登場した全101名の写真付き選手名鑑、PRIDE.1～16までの全試合結果、主要会場ガイドなどを収録。またその他にも、大会のバックステージ密着レポートや、"ブッカーK" こと川崎浩市氏のこぼれ話が掲載されてたり、バーリ・トゥード、グレイシー柔術、桜庭和志の3本立てでそれぞれの歴史が振り返えられてたりと、豪華企画が目白押し！　これを読めばPRIDE通になれること間違いなし。もちろん資料としても活用できるぞ！　手元にぜひおいておきたい1冊だ！

〈新刊紹介❷〉 It's HOT!

『プロレススーパーゲーム列伝』

馬波レイ十大地将著/ソニー・マガジンズ
本体価格　1,400円/発売中

プロレスゲーム16年の歴史を全て網羅！

セガ・マークⅢからPS2まで、家庭用ゲーム機で発売されたプロレスゲーム全112タイトルを究極の "LOVE" で綴った本が出たぞ！　著者の馬波レイ＆大地将のコンビは、それぞれゲーム専門誌で活躍中のゲームライター(ホームページhttp://www.bb.wakwak.com/~m_shibayama/も要チェック)で、大のプロレスファン。「この本のせいで、ライター生活を確実に縮めた」と笑う馬波氏は、パートナー大地氏と共に、3カ月間1歩も外へ出ずひたすらゲームに没頭し続けてこの本を書き上げたという。発売年度ごとにゲームをまとめ、批評十入手難度や価格、発売日を加えて網羅。表紙は『プロレススーパースター列伝』の著者、原田久仁信氏の描き下ろした。「もうしばらくプロレスゲームはギブ！」という馬波氏だが、ぜひ今度はみのもけんじ氏の表紙で続編を！

〈新刊紹介❸〉 It's HOT!

『徹底図解　総合格闘技　技の実戦マニュアル』

PUREBRED大宮 野中公人監修/新星出版社
本体価格　1,400円/発売中

PUREBREDが全面協力、技の実践マニュアル登場！

"大和魂" エンセン井上が代表を務める総合格闘技ジムPUREBREDの大宮ジムで、後進の指導にあたっている野中公人が監修した総合格闘技の技の実戦マニュアル本が、大好評発売中だ！　巻頭特別インタビューでエンセンが「やるからには楽しくないとね。好きになれば上達も早いし」と話しているように、本書では、基本動作から打撃、防御など、誰にでも分かりやすく図解。第3章の「寝技の攻防」編では、ガードポジション、サイドポジション、バックマウントなど、それぞれの状態からの技の切り出し方を徹底的に解説しているので、この1冊で十分に寝技を学べるぞ。この本を片手に、キミもバーリ・トゥーダーの仲間入りだ！

〈おすすめの一冊〉 Recommend

『PURE DYNAMITE　ダイナマイト・キッド自伝』

ダイナマイト・キッド著/エンターブレイン
本体価格　1,800円/発売中

ダイナマイト・キッドが半生を赤裸々に語る！

1980年代から90年代にかけ、小柄ながらも火の玉ファイトでファンを魅了し続けたダイナマイト・キッドの自伝が登場。発売直後から好評を得ているぞ。カナダ・カルガリー時代に始まり、初代タイガーマスクとの出会い、MSGへの進出、全日本プロレスへの移籍、従弟デイビーボーイ・スミスとの確執、切り裂かれた私生活、そしてステロイド……。リング上では決して見ることができなかった "爆弾小僧" の全てがここに綴られている。また、本書で語られているエピソードの中には、キッドとともに時代を駆け抜けた外国人レスラーも豊富に登場し、当時の海外マット界の状況も知ることができるぞ。オールドファンだけでなく、平成のプロレスファンにもぜひ読んでほしい一冊だ！

BOOK RANKING (11/1～11/14調べ)

1. 『PURE DYNAMITE ダイナマイト・キッド自伝』
   ダイナマイト・キッド著/エンターブレイン
   本体価格　1,800円
2. 『PRIDE大百科』
   東邦出版編/東邦出版
   本体価格　952円
3. 『真空飛び膝蹴りの真実 "キックの鬼" 沢村忠伝説』
   加部究著/文藝春秋（文春ネスコ発行）
   本体価格　1,500円
4. 『ざまぁみろ！』
   立嶋篤史著/ネコ・パブリッシング
   本体価格　1,800円
5. 『極真魂』
   黒澤浩樹著/双葉社
   本体価格　1,400円

3位 『真空飛び膝蹴りの真実 "キックの鬼" 沢村忠伝説』

真空飛び膝蹴りで人気を博し、連続117のKO記録を打ち立てたキック界の英雄、沢村忠のノンフィクション本が3位にランクイン。自分を語ることを避けてきた男が、人気絶頂から忽然と姿を消した理由まで、その真相の全てを明かす。

書泉ブックタワー

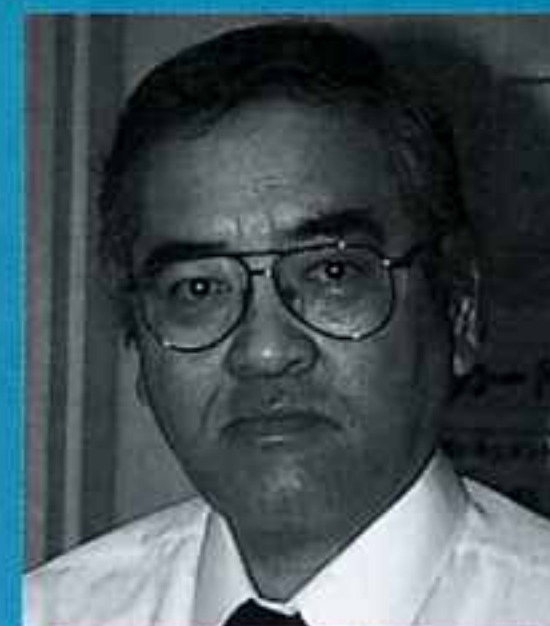
東京都千代田区神田佐久間町1-11-1
☎03-5296-0051（代）

▲プロレス・格闘技の本を探すならここ、『書泉ブックタワー』！　本誌のバックナンバーも常備しているので、探している本があったら秋葉原の書泉へGO！

書泉ブックタワー　後藤　実副主任

「相変わらずダイナマイト・キッドの本が人気ですね。その他の自伝本も、好調な売れ行きを見せています。人物を通して、歴史を学ぶことはとても素晴らしいことだと思います」

※表示価格は全て税別価格

GOODS
最新&売れスジグッズをご紹介!

〈新作紹介〉 It's HOT!

『(株)猪木事務所パーカー』
グレート・アントニオ/6,500円(税別)

**これを着て冬を乗り切れ!
コノヤロー!**

大人気「(株)猪木事務所シリーズ」。Tシャツ、灰皿、ライターに続き、皆様のリクエストにお応えして『(株)猪木事務所パーカー』がついに登場。(株)猪木事務所Tシャツの上にこのパーカーを着て、大みそかの『猪木祭り』に出陣!

〈おすすめグッズ〉 Recommend

**『紙のプロレススーパーバイザー
吉田豪の持ち込みレアグッズ』**
左から、タイガーマスクチャンピオンベルト/6,000円、GoGoドラゴン/2,500円、アステカイザーブロマイド(小)/500円

吉田豪提供、懐かしいレアグッズ!

レアグッズコレクターとしても大活躍中の吉田豪氏が、グレート・アントニオにプロレス骨董品の数々を提供したぞ。もちろん、どれも入手困難なものばかり。写真以外にも多数取り揃えてあるので今すぐGET!

グレート・アントニオ
西山店長

「大人気カシオGショックシリーズから、12月1日より『INOKIモデル』『桜庭モデル』が出ます。「闘魂」や「KS」の文字が浮かび上がり仕掛けが盛りだくさん! 通販も行いますのでお楽しみに!」

グレート・アントニオ
東京都千代田区神田錦町3-14-12神田NSビル1F
☎03-3219-9550
通信販売受付 ☎03-3295-4450 or 0570-007800
ホームページアドレス http://www.great-antonio.jp
営業時間/11:00~20:00(月曜定休)
通信販売受付/10:00~18:00(月~土曜)

GOODS RANKING (11/1~11/15調べ)

1. 『前田日明クイック・キック・リーTシャツ』
グレート・アントニオ&紙のプロレス/3,800円(税別)
2. 『猪木軍団応援Tシャツ』
グレート・アントニオ/4,000円(税別)
3. 『サクモン』
サン・アロー/1,600円(税別)
4. 『ファスティング・ダイエット』
杏林予防医学研究所/18,000円(税別)
5. 『とうふパン』
杏林予防医学研究所/1,000円(税別)

1位

BACK ▶
◀ FRONT

『前田日明クイック・キック・リーTシャツ』
クイック・キック・リーがTシャツになった!

グレート・アントニオと紙プロが強力タッグ結成! バックにはイギリスの地図がプリントされてます。色はイエローとホワイトの2色。一見、格闘技Tシャツに見えないところが人気の秘密?

Et cetra

パンクラス8周年パーティ開催

93年11月、東京ベイNKホールでの旗揚げから8年。パンクラスでは、12月2日（日）に銀座東武ホテルで8th Anniviersary "Pancrase Passage Party" を開催するぞ。当日はパンクラス全選手が参加する予定だ。選手の意外な素顔が見れるかも？
◆日時/12月2日（日）12:00～
◆場所/銀座東武ホテル2F「桜の間」（地下鉄日比谷・浅草線「東銀座」駅から徒歩1分）
◆会費/15,000円
◆参加方法/ご予約の必要はありません。11:30～12:00の間に直接会場で設けた受付で会費をお支払いください
◆お問い合わせ/ワールドパンクラスクリエイト ☎03-5792-7077

プロレス&格闘技グッズ大集合！

11月22日（木）～12月9日（日）の期間、東京・丸井スポーツ［フィールド］池袋2Fイベントスペースにて「ぼくらの熱血ヒーロー列伝」と題し、格闘技フェアを実施中！プロレス＆格闘技各団体のTシャツやトレーナー、ウェア、グッズが大集合だ。また、期間中は、大物選手を招きサイン会＆トークショーを開催。12月8日（土）には、U-FILE CAMP田村潔司が登場するぞ！
◆期間/11月22日（木）～12月9日（日）
◆場所/丸井スポーツ［フィールド］池袋（豊島区西池袋1-16-3）
※田村潔司サイン会＆トークショー
12月8日（土）14:00～
◆お問い合わせ/丸井スポーツ［フィールド］池袋
☎03-3989-0101

早川光由が柔術セミナー開催！

ブラジリアン柔術茶帯の早川光由（ストライプル）が、東京・フィットネスショップ水道橋で初心者を対象にしたブラジリアン柔術テクニックセミナーを開催。今や格闘技界ではブラジル格闘技が注目の的。参加人数に制限があるので、希望者は早めに申し込もう！
◆日時/12月16日（日）14:00～16:00
◆場所/フィットネスショップ水道橋 4F格闘技スタジオ（JR総武線「水道橋」駅より徒歩1分）
◆参加費/3,000円（ストライプル会員2,500円）
◆人数/限定26名
◆申し込み方法/店頭にて参加費ともに申し込み
※電話予約も可（予約後、店頭・書留にて入金）
書留の際の送り先:東京都千代田区三崎町3-6-13寺本ビル4F
◆お問い合わせ/フィットネスショップ水道橋
☎03-3265-4646

小野寺力キックボクシングスクール開校！

キック界の実力者・小野寺力が、12月1日からキックボクシングスクールを開始したぞ！ 年齢、性別は問わず、強くなりたい人、健康、体力をつけたい人、ダイエット目的など誰でも入会OKだ。みんなで楽しく汗を流そう！
◆場所/小野寺力キックボクシングスクール 港区高輪3-9-15オーク高輪2F（都営浅草線「高輪台」駅から徒歩30秒）
◆日時/毎週金曜20:45～22:15
毎週土曜11:00～12:30、15:30～17:00
◆入会金/8,000円
◆受講料/月謝コース…1ヵ月8,000円、チケットコース…1回2,000円
◆お問い合わせ/小野寺力キックボクシングスクール ☎03-3445-8248
※小野寺力公式HP
http://home4.highway.ne.jp/riki/index.htm

大山峻護復活サイン会開催

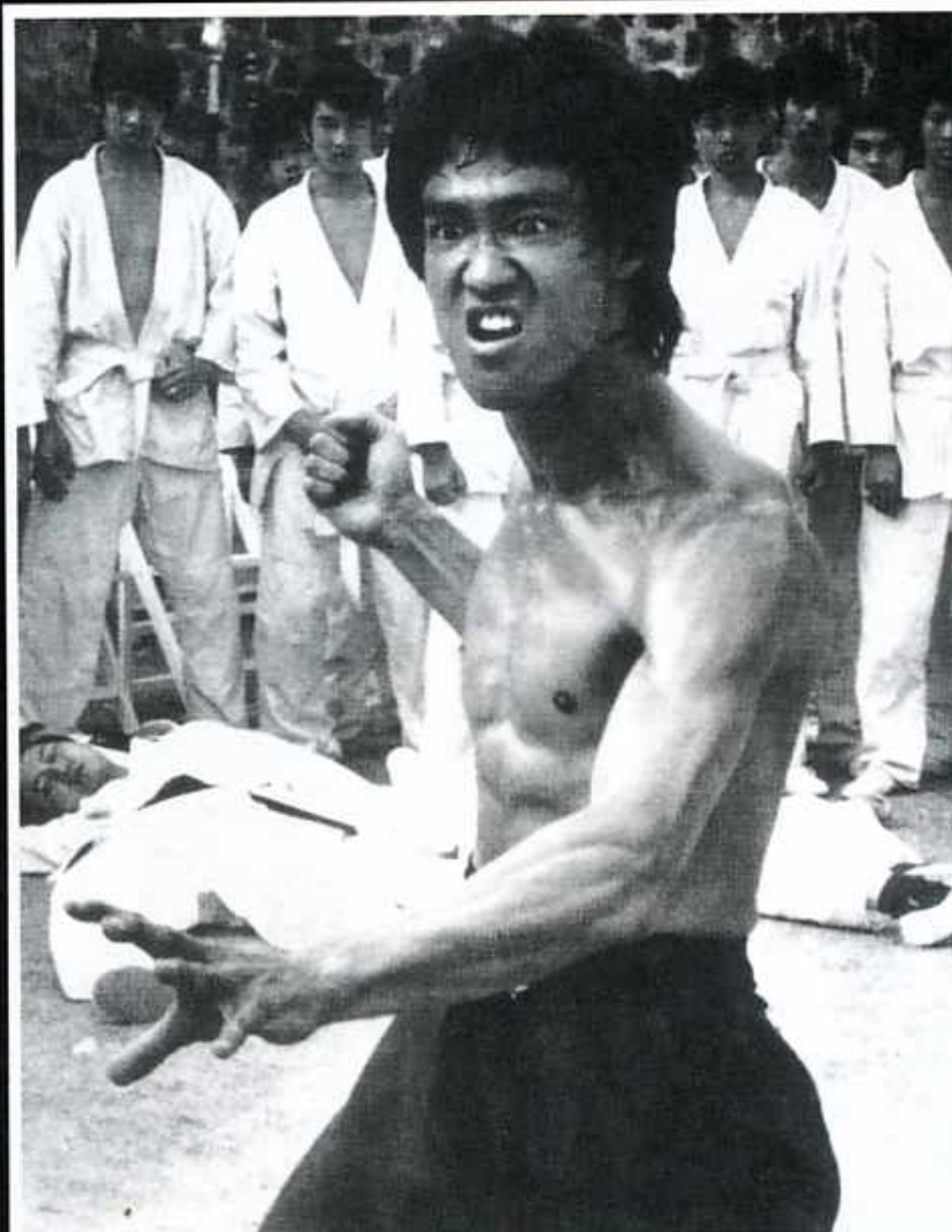
右目網膜剥離の手術も無事成功した大山峻護が、復活へ向けてサイン会を開催するぞ！ 選手にとって何よりも励みになるのがファンの声援。キミの熱い声が、一日も早いリング復帰につながるぞ！
◆日時/12月9日（日）14:00～16:00
◆場所/フィットネスショップ水道橋 4F格闘技スタジオ（JR総武線「水道橋」駅西口より徒歩1分）
※ポラロイドカメラによる記念撮影（1枚1,000円）、持参のカメラにての撮影は不可。なお、当日、色紙も販売します
◆お問い合わせ/フィットネスショップ水道橋
☎03-3265-4646

出場選手募集！

【格闘技サミット交流戦】
◆日時/12月23日（日）10:30～
◆試合会場/ニューシティホール国立特設コート（JR中央線「国立」駅より徒歩1分）
◆試合形式/トーナメントおよびワンマッチ形式で、TAMAフリーファイト、ジャケット着用フリーファイト、TAMAスタンディングルールより選択
◆階級/65kg以下、75kg以下、無差別
◆参加資格/格闘技経験初心者でも可、年齢制限は特になく、男女共に応募可能
◆参加費/4,000円（保険料込み）
◆申し込み方法/申し込み用紙に必要事項を明記し、現金書留にてご応募ください。手元に申し込み用紙がない方は、80円切手を同封の上、下記の住所まで請求してください
〒185-0031
東京都国分寺市富士本1-23-5 長瀬正和まで
◆主催/T.A.M.A（トータル・アスレチック・マーシャル・アーツ）
◆お問い合わせ/大会事務局 ☎0425-72-6795

宇月田麻裕の 北斗占い

Mahiro Utsukita

破軍　武曲　廉貞　文曲　貪狼　禄存　巨門

11/22～12/12

★北斗占いとは★

古来インドの「北斗七星の信仰」が中国に伝来し、陰陽五行説と結合。そして、日本密教の１つとして発展していった。平安時代以降は、北斗七星の中の１つの星を、自分の守護星として、除災招福を祈願したものである。
この「北斗七星の信仰」を、宇月田麻裕が「北斗占い」として蘇らせた。
絶好調の星には、吉兆星が輝き、不調の星には凶兆星が現れる。

北斗本命星早見表（ホクトホンミョウジョウ）

貪狼星	巨門星	禄存星	文曲星	廉貞星	武曲星	破軍星
	1959	1958	1957	1956	1955	1954
1960	1961	1962	1963	1964	1965	1966
	1971	1970	1969	1968	1967	1978
1972	1973	1974	1975	1976	1977	
1984	1983	1982	1981	1980	1979	
	1985	1986	1987	1988	1989	1990
1996	1995	1994	1993	1992	1991	

★あなたの生まれ年で、本命星が分かります。
例）1972年生まれの人は貪狼星　※節分前の生まれの人は、前年の星になります

貪狼（タンロウ）……社交家タイプ。現実的で、交友関係の幅広く、交際の達人
巨門（キョモン）……研究家タイプ。話術に優れ、研究熱心に取り組みます
禄存（ロクゾン）……経済家タイプ。悠長な雰囲気を醸し出し、経済観念に優れています
文曲（モンゴク）……芸術家タイプ。あなたが奏でる芸術的センスは、全てを魅了します
廉貞（レンテイ）……聡明な自信家タイプ。聡明なうえに実行力が伴い、勝負強いです。
武曲（ブゴク）……権威タイプ。情熱的で、権威を好み、リーダーシップを取っていけます
破軍（ハグン）……個性派タイプ。自立心、独立心があり、劇的な人生を歩みます

貪狼星

全体運
波風が立たず、比較的落ち着いた日々を過ごせる暗示。逆に、エキサイティングなことが期待できないので、刺激が少なくて物足りなさを感じてしまうかも。まずは、ルーティンワークをこなし、現状を把握して前向きに行くとＯＫ！

恋愛運
カップルは、刺激を与え合ってお互いの向上を目指していくとグッド。フリーは、違った価値観を持った人に惹かれる暗示。ワクワク気分を味わえそう。

勝負運
勝負も試合運びも冷静にできるのでＯＫ。

健康運
健康をキープできるとき。でも寝不足には注意。

金運
貯蓄に関心を持つと○。ボーナスは貯蓄に。

★ラッキーカラー★
ライトピンク

★ラッキーアイテム★
バッグ

★ラッキースポット★
公園

巨門星

全体運
吉兆星が輝きます。バイタリティあふれ、突進力があるとき。自分のカラを破って、素のあなたを表現できれば運気はアップ。格闘技の世界だけでなく、新たなる魅力を発見して。レベルアップした新たな自分に出会えるチャンス！

恋愛運
フリーは、力づくで恋をゲットしようとしても、それだけではＮＧ。ときにはフェロモンを発したり、ときめくようなセリフを言ってみたり、臨機応変に！

勝負運
食事法を取り入れると、さらに勝運アップ。

健康運
健康運アップ。スタミナいっぱいのとき。

金運
趣味を実益にできるチャンス。売り込んで。

★ラッキーカラー★
レッド

★ラッキーアイテム★
レザー製品

★ラッキースポット★
コンビニ

禄存星

全体運
自信喪失するような出来事あり。だからといって、いつまでも落ち込んでいてはダメ。それをバネにして復活したあなたを披露しよう。外から入ってくる情報に耳を傾けて、キチンと自分のフィルターを通して吸収すると早期復活。

恋愛運
クリスマスまでに恋人をゲットしようと焦っていない？　野性的なのも良いけど、紳士的な態度も大切。カップルは恋人とクリスマスプランを楽しんで。

勝負運
現実に屈しそう。コツコツやることで開運。

健康運
肩凝りや肩を壊しやすいので気を付けて。

金運
暴飲暴食で金遣いが荒くなりそう。自粛して。

★ラッキーカラー★
ブラウン

★ラッキーアイテム★
カメラ

★ラッキースポット★
格闘技会場

文曲星

全体運
凶兆星が現れます。空回りしがちな運気。こんなに実力があるのに、何で誰も分かってくれないの～、なんて思ってしまうことが。慌てて結果を出さなくても大丈夫！　ちゃんと時期が来れば、活躍のステージは与えられるハズ。

恋愛運
恋人と現状をキープする努力をして。パーティシーズンだけに、ついつい浮気心がチラホラ。でも、自分で思っている程、現実はうまくはいかないとき。

勝負運
相手の出方を見てから、後手で攻めたほうが。

健康運
疲れを次の日に残さないこと。ゆっくり寝て。

金運
交際費が多くなるとき。計画性を持って。

★ラッキーカラー★
ホワイト

★ラッキーアイテム★
ジャケット

★ラッキースポット★
ＯＡショップ

廉貞星

全体運
コツコツと努力ができるとき。試合でも仕事でも、勝負がかかっている人は、予想以上の結果が期待できそう。また、気配り上手になれるので、職場でも学校でも評判がアップ。プライベートでは、あなたの存在が重宝がられそう。

恋愛運
癒し系のあなたをアピールするとグッド。思わぬところで、恋が芽生える暗示。カップルは安定期。ろうそくの炎のような愛が、静かに燃えているとき。

勝負運
静かな闘魂で相手に威圧感を与えられそう。

健康運
リラクゼーションに興味を持つとグッド。

金運
貯蓄運があり。今からコツコツ貯めていこう。

★ラッキーカラー★
グリーン

★ラッキーアイテム★
アロマオイル

★ラッキースポット★
映画館

武曲星

全体運
滞っていたことが、一気に動き出すとき。また、やらなくてはいけないことを避けていた人は、年末になる前に一掃するとグッド。転職運、変化運があるので、日常生活に変化をつけていくことで、徐々に運気はアップしていく兆し。

恋愛運
三角関係のカップルは元サヤに収まり、イザコザで疎遠になっていたカップルは復縁の予感。フリーは、ターゲットをパーティに誘ってみるとグッド。

勝負運
思わぬところにラッキーが転がっている暗示。

健康運
回復が遅れていた病気が目に見えて回復しそう。

金運
スクラッチカードにチャレンジしてみては？

★ラッキーカラー★
ネイビーブルー

★ラッキーアイテム★
アニマルグッズ

★ラッキースポット★
ホール

破軍星

全体運
ビジョンやイメージが崩れやすいとき。簡単に崩れてしまうものなら、もしかしたら間違った目標だったのかも…。もともと個性的なあなたなので、自分をアピールするような独特なものを創造すると、一気に運気は好転する予感。

恋愛運
恋人のイヤな部分を目の当たりにしてしまいそう。理想ばかりを追っていても仕方ないので、そんな彼女のことを受け入れられるようなあなたになって。

勝負運
シミュレーション不足。もっと念入りに。

健康運
性病などの下半身の病気には要注意。

金運
予定外の出費が多いとき。財布のヒモを締めて。

★ラッキーカラー★
ボルドー

★ラッキーアイテム★
アンティークグッズ

★ラッキースポット★
ファミレス

宇月田麻裕プロフィール
ヒューマンディレクターとして、ハッピネスファクトリーを主宰。独自の占術「北斗占い」を中心に、タロットをはじめ西洋、東洋の占いをオールマイティに使う。TBS「ワンダフル」出演をはじめ、雑誌、映像などで活躍中。URL http://www.happiness-f.com/

モグラ コラム

連載第59回

掲示板で誰かを叩く時の矛先は、"Show"大谷氏と中村カタブツ君氏へ!

本誌『SRS・DX』のオフィシャルサイトが始まって、この雑誌が発売される頃には、すでに3週間は経過している。私がこのオフィシャルサイトで担当しているのは、『Webゴング』と『ニュースジャッジ』だ。『ニュースジャッジ』は、交代で毎日更新。『Webゴング』も、2人がかりで1週間に1度の割合で更新している。

このサイトをスタートさせる時に、社長から「『Webゴング』と『ニュースジャッジ』はモグ(社長は私のことをこう呼ぶ)」とお達しを受けたわけだが、この会社に入るまでパソコンすらまともに触ったことのなかったモグラにとっては、地上で生活するよりも難しい任務である。正直、できるかどうか雲を掴むような話だったが、始まってしまえばもうやるしかないのだ。今回のコラムでは、私が担当している『Webゴング』と『ニュースジャッジ』がいかなるものなのか紹介してみたい。

まだホームページを見ていない方にこの2つを説明すると、『Webゴング』はよくテレビで使われている「テレゴング」と同じ物だと思ってもらいたい。メインテーマに沿ったいくつかの設問に対して、ホームページを見ている方々に回答していただくというものだ。たしかに、掲示板で指摘されたとおり、確信犯的に回答を用意する場合もあるが、これはダイレクトにファンのニーズを調べることができる。それに対して『ニュースジャッジ』は、新聞に載っているニュースを、「のれる」、「のれない」、「興味ナシ」の3つの選択肢で判定するというものだ。「のれる」と「のれない」という選択肢を選ぶとすると、それはすなわち「興味がある」ということだと判定し、それが多ければ多いほど、その日のランキングでは上位に行くというシステムになっている。だから、そのニュースによっては、「のれる」が圧倒的に多いという場合もあるし、「のれない」がたくさんある場合もある。

この『Webゴング』と『ニュースジャッジ』は、それぞれを単独で楽しむよりも、2つを比較してみることによって一層楽しむことができる。例えば、11月13日に、猪木が「小川ゴネるならいらねぇ」という見出しが新聞紙上で躍った。この日の『ニュースジャッジ』では、この話題がダントツで1位だった。票の内訳を見ると「のれる」票が圧倒的。これは、すなわちファンが猪木の小川に対する厳しい発言に賛同したのだ。このニュースが出る1週間前に、第3回の『Webゴング』では【「『プライド』が関わるなら、出たくない」と言っている小川直也。あなたは『猪木祭』に、小川に出てきてほしいですか?】という設問を作り、回答として4つの選択肢を用意した。

1. 小川は猪木軍の大将。当然出てきてほしい!
2. 1・4新日本の巴戦を優先してほしいので、出なくてもいい!
3. 「出たくない」と言っているようなヤツは猪木軍にいらない!
4. K—1軍として出てこい!

この中で一番ファンが投票した回答は、1番の「小川は猪木軍の大将。当然出てきてほしい!」。1週間前のこの時点では、「小川に出てきてほしい」という声が多かったのが、1週間後にはファンの意見はさらに歪んできた。翌日14日の「藤田、安田が小川批判」というニュースに対しても、藤田、安田の小川批判に「のれる」という声が圧倒的だった。わずか1週間で、ファンの意見はこのように深まっていくのだ。

毎日ネタが変わる『ニュースジャッジ』と、ある程度期間を明けておく『Webゴング』が連鎖することによって、実に興味深い結果につながっていくのだ。

16日から『ニュースジャッジ』は『テーマ別ランキング』と『ウィークリーランキング』に区分されて保存されることになった。ニュースの性質によって各テーマごとにカテゴライズされている。『テーマ別ランキング』で順位が高ければ高いほど、ファンがそのテーマについて関心があるということであり、またそれだけ新聞に話題が上るということだ。現在この『テーマ別ランキング』でダントツに票を集めているのは、「猪木軍VSK—1」である。つまり、現在のマット界の話題の中心は「猪木軍VSK—1」にあると見てとれる。

ここで、面白いのは「2001世界最強タッグリーグ決定戦」というテーマ。これは、本誌の読者にはあまり関心のない話題と思うかもしれない。しかし、この話題は『テーマ別ランキング』では堂々の3位となった。たしかに、このテーマのニュースが出ると、「興味ない」という票が多い。実際、『テーマ別ランキング』の中でもダントツで「興味ない」票が多かったテーマだ。それでも3位になっているということは、スポーツ紙はこの話題に紙面をさいていることが分かる。

以上見てきたように、『Webゴング』と『ニュースジャッジ』は、マット界の話題の中心やファンのニーズの移り変わりまで調査できる代物なのだ。まだ見たことのない読者の方は、今すぐにでも『SRS・DX』オフィシャルサイトにアクセスしてみて、この2つを見てほしい。

最後に掲示板についても触れておきたい。最初は、掲示板を設置すれば、必ず悪質な書き込みが来るだろうと、我々は戦々恐々とし、24時間体制で掲示板をチェックしようと意気込んでいた。しかし、悪質な書き込みはまったくと言っていいほど来ない。代わりにたくさん来たのが、本誌編集部に対しての厳しいご意見だった。これは雑誌が発売されると一斉に増えた。一番不思議なのは、私についての訳の分からないスレッドだ。「おい、小松!」に始まって、なぜか私が掲示板の中で遊ばれている。いたいけなモグラを使って遊ぶのは結構。皆さんのストレス発散の場にでもしていただけたら、こんなに嬉しいことはない。ただし、最後の最後に一言だけ言っておきたい。掲示板で誰かを叩きたい時、矛先は編集部の人間ではなく、"Show"大谷氏(ワンダフル)や中村カタブツ君氏に向けていただきたい。これは編集部から心からのお願いです(笑)。

(小松)

▲『Webゴング』と『ニュースジャッジ』は、両方比較してみて楽しむことができる

ABNORMAL★MOGUTAN

あぶもぐ 十二日目

親方◎小松モグタン

GO! GO! 黄金シリーズ
覇権を争う男たち!
坂口が!
スティーブ・カーンが!
スキップ・ヤングが!

SRS・DX公式サイト、皆さん見てますか？ 掲示板に「もぐら、もぐら」って書き込みやがって！ もぐら仲間が泣いていますよぉぉぉ！ それはさておいて、今回からはさっそく掲示板に寄せられた声を取り上げてみました。「ノブ兄さんは悪くない！」ということで、ノブ兄さんへの応援っぽいご意見中心に。さあ、高田ファンの心の叫びを聞けぇぇぇぇ！ もぐらばもぐらばもぐらばもぐらばもぐらば〜（パクリ）

高田はそんなに悪いのか？

掲示板より

観戦してて、ボクも昨日は高田の闘い方に失望したし、ブーイングも浴びせた。でも、今日骨折してたのを知って、あれはあれで最善の戦略だったんじゃなかったかと思ってきた。負けない試合をしたのは、ミルコも同じじゃないかなぁ？ いろんな見方ができると思うけど、高田だけここまで酷評されることはないんじゃないか？ と思いますけど。プロレスファンに藤田につぐ連敗を見せることを頑なに阻止した高田の気持ちを皆さんは少しは感じませんか？ ボクのえこひいき的な見方かもしれませんが。

（投稿者／数少ない高田ファン）

◇ファンなら、えこひいきに見てもいいんじゃないの？ えこひいきに見てこそ、ファンだよ！ ひいきのひきたおしで、もっとノブ兄さんを応援しよう！

掲示板より

ミルコは打撃の選手、高田は打撃の選手ではない。立って闘う必要性はどこにもない。なのになぜ、ブーイングされなくてはいけないのか？ ミルコも、総合格闘技が簡単だというのなら、寝技で勝負すればいいのではないか？ それに高田の今までをみんな忘れたのか？ ケガしていたホイス戦以外に、高田があのような試合をしたことがあっただろうか!! U時代の前田戦・インター時代のバービック・オブライト・北尾戦・『プライド』においても、結果こそ出ていないが、ヒクソン・ケアー・ボブチャンチン戦。逃げたことなどないではないか!! 高田は今回、ケガした時点でミルコを倒すことを諦めたのかもしれない。だが、それは自分が負けることにより、ミルコ最強説が出ないように、『プライド』が弱いというイメージが出ないようにしたのだと思う。考えてほしい。ミルコは高田をチキン野郎だなどと発言したようだが、ヤツは高田が骨折したことすら分からなかったのだ。いい気になるなと言いたい。高田が骨折しなければ、結果は必ず違ったはずだ。また、SRS・DXにも言いたい。たしかに、ケガをしたのは高田・桜庭である。しかし、A級戦犯呼ばわりされなくてはいけないのか。これはSRS・DXが我先にと高田たちが悪いように見えるようにしているように感じる。勝負は勝ちか負けしかない。その結果だけを報じるのは、レベルの低い雑誌のすることである。貴誌には違った角度から『現実』を実際に会場に来ていない人たちにもちゃんと伝わるようにしてほしい。高田よ、蘇れ！ 『プライド』と名付けられたその名前は、自分がヒクソンと闘う時に決まったものなのだ。ボクは見たい。高田が自分の『プライド』を取り戻すのを。引退するのは、それからでも遅くない。『プライド17』でブーイングをした人たちよ、本当の高田を見てからブーイングしてみろ!! 高田は、君たちに自分のベストの闘いを見せている途中でケガしたのだ!!

（投稿者／たかし）

◇本当だよ！ もぐらだったらリングに穴掘って、隠れているよ。そんなもぐらでも、ミルコはチキン野郎って言ってくれるかな？ ただ、ヒールっぽくなっているノブ兄さんもかっこいいと思うぞ、もぐらは！

（小川徹・埼玉県八潮市・16歳）

（大崎洋二・埼玉県戸田市・？歳）

（安田顔・石川県金沢市・？歳）

掲示板より

高田はホンマは強いねん。ローだって入ってたし、テイクダウンも取ってたし。だけどなぜか勝ちにいかない。安全策を取る。なんで？ もっと勝ちにいってほしい。分かるよ。寝ころんだ時、ミルコが寝技に来るわけないやん。骨折とかそんな大まじめに寝ころんだってことも。でも、ミルコが寝技に来るわけないやん。勝とうとしてよ！ 強さを見せてよ！ オレはケアーの時も、ボブチャンチンの時も絶対勝てたと思ってるし、ましてミルコに負けるわけない。もうコメントとか体調とかどうでもいい。関係ない。そんなん知らん。強い高田が見たい。

（投稿者／Mi ura）

◇強いノブ兄さんを見たいのは、ファンももぐらも一緒！ でも、高田はミルコに勝とうとしていたよ、絶対に！ 土中ではそういうふうに広まっています。

ハガキより

「藤田VSミルコ」にしろ、K―1はママゴトルールによって、救われて勝っただけじゃん！ 藤田の敗戦の時のブーイングたるや、今回の高田戦以上のものだったじゃんか。つまり、みんな、このルールは何かおかしいと感じてた証拠だもん。安田戦から怒りたまってたもん、K―1びいきのルールに。今回は高田が、オレたちが藤田戦で味わった「ルールにもてあそばれた屈辱」を、結果的にまんまとミルコにお返ししてくれたわけで、高田は何も悪くないよ。グレイシーがよく言うように、高田には足が折れようとも生きている限りは、その状態でも闘うんだという「決闘」の意識があったわけで、じつにアッパレだ。

※あまりの長文につき、一部抜粋です。

（アゴ三郎・東京都北区・34歳）

◇本当に一部だけの掲載で、正直言って、スマン。とりあえず、アゴさんの一番言いたいことは、「猪木軍VSK―1」ルールがK―1びいきのルールだ！ って言うことでしょう？ プロレスファンなら、アゴさんばりの情熱をもって、大晦日K―1軍に怒りをぶつけろ！

小川VS藤田戦を『プライド』で！

掲示板より

新日での巴戦を拒否していた藤田の心に変化が……、遂に小川VS藤田戦が実現しそうな勢いです。ただ新日での対戦ならまったく意味がありません！ 前回の藤田VS健介戦のような「なんちゃってバーリ・トゥード」、新日お得意の「乱入による試合ストップ」もしくは「時間切れ引き分け」で決着を後々まで引っ張ることは明らかです。そこで、このカードを『プライド』で実現するように皆様で署名を集めませんか？ このスレッドに書き込んで頂ければ、私が責任をもって交渉します。皆さん、ご協力ください！

（投稿者／アンドレ）

◇ご協力くださいって、ホントに責任もってくれるの？ でも、この熱さには感動！ ただ、もぐら的には巴戦が見たいなぁ！

★作品募集

『あぶもぐ』では、読者の皆さんからのお便りをお待ちしております。相撲関係オンリーと言いたいところですが、べつになんの作品でも結構！ 強烈なぶちかましをお待ちしております。

あて先

〒101-0054
東京都千代田区神田錦町3-14-12
神田NSビル8F
SRS・DX編集部『あぶもぐ』係

桜庭和志を倒して『プライド』ミドル級チャンプに輝いたヴァンダレイ・シウバを擁するシュートボクセ。今や最強軍団の呼び声が高いボクセであるが、そんな彼らに真っ向から喧嘩を売ったイキな団体が立ち技バーリ・トゥードを提唱する日本のシュートボクシングだ。すでに対抗戦第１弾は１１月２０日に行われているが、間違いなく熱い闘いになっていることと思う。ということで、２０日の試合を見た方も見れなかった方もともに楽しんでいただくために、ボクセ会長フジマールとSB会長のシーザー武志の対談を企画。対抗戦はまだまだ始まったばかり、次回の激突までこの対談を読みつつ待ってほしい！

シュートボクシング会長 シーザー武志

VSワル対談!!

――残念なことにこの対談が掲載される時には、対抗戦の第1弾はもう終わっているんですすが、シュートボクシングVSシュートボクセは第2弾、3弾も行っていくわけですよね。

シーザー　ウチのほうでは今回が始まりで生涯続けていきたいって思ってますよ（笑）。

フジマ　今回は私たちが乗り込む形ですけど、次はぜひブラジルに来て私がやってるイベントで闘ってほしいと思ってます。

シーザー　嬉しいですね、そう言ってもらうと（笑）。

フジマ　一回限りではファンの方たちも納得しないと思いますから（笑）。

シーザー　そのとおりでしょ。もうぜひ（笑）。

フジマ　こちらこそ！（笑）。

――やっぱり、お二人とも熱いですね（笑）。

シーザー　でも、試合になったらまた別ですよ。なにしろこのルールにかけてはウチは本家なもんで分家には負けないって気持ちがありますから（ニヤリ）。

フジマ　オー！　私は選手たちに、「日本で試合をする限りは死ぬつもりで行け。殺す気で行け」と言ってますから（ニッコリ）。

――ウワァ、お互いに一歩も譲らないですねぇ（笑）。

フジマ　ですから、対抗戦第1弾もボクセの選手が全員勝つと思いますね。

シーザー　ウチもトップ選手を揃えて失礼のないようにお迎えしますよォ。

――なんか、既に対抗戦の初戦がここで始まってる感じですね（笑）。ということで、W会長対談を始めたいわけですが、実は、シーザー会長とフジマ会長は意外に共通点があるんですよ。例えば、一つの転機として17歳というのがあって、シーザー会長はその年でキックを始めて、フジマ会長はシュートボクセを立ち上げたんですすよ。

シーザー　ほぉ、17でジムを作ったんですか。

フジマ　私は13歳の時に車の事故でケガをしてリハビリのためにムエタイを始めたんです。それがきっかけでみんなに教えるようになったんですよ。（といってバッグから雑誌を取り出し）これはブラジルでつい最近出た雑誌なんですが、私のストーリーが載ってます。

シーザー　レンガを割ってる写真があるじゃないですか（笑）。

フジマ　はい（笑）。この最後のページで天井を蹴ってる写真があるじゃないですか。これは今でもできます。やってみましょうか（笑）。

――凄いですね。どうですか、シーザー会長も天井蹴りをやってみませんか。

シーザー　いや、僕はもう引退してますから。身体を張るのは別の場面ですよ（笑）。

フジマ　そうです。私たちは選手にどれだけ良い環境を作ってあげられるかを考えてます。

――そこが勝負所なんですね。で、当時のジムには道場破りみたいなものも来たんですか。

フジマ　もちろん来ました。その時期はたくさん道場破りが来てましたね。ですから、自分の道場の中で、彼らと闘って勝ちました。何回も。

――一方、シーザー会長の場合はどちらかというと、その道場破りの側だったんですかね（笑）。

シーザー　いやいや、僕は道場破りじゃ

祝 シュートボクセVSシュートボクシング 対抗戦開幕!!

司会◎中村カタブツ君（ブチ）
撮影◎丸山剛史

シュートボクセ会長 フジマール 善VS

ないですよ。路上っていうか、一般のいわゆる日本の悪いヤツ（笑）。

フジマ　悪い人？

シーザー　日本刀を持ったヤツらと喧嘩みたいなことになりましたね。まあ、組織の人間が相手でしたね。

フジマ　凄いことやりましたね。なぜ、まだ生きてるんですか。

シーザー　それは僕も不思議なんです。運がいいんでしょう。大阪の京橋ってとこで斬り合いがあって応援に行ったんですよ。で、日本刀振り回してる人間を殴り倒したんですね。だけど、そのまま無事でいられるわけがないんで、ある組織に形だけ入って逃げ切ったんです。

フジマ　ブラジルにも似たようなことはあります。もし対抗できなくなった場合はその人たちのグループに入れというのは鉄則ですね。

シーザー　ブラジルという国は治安が悪いんですか。

フジマ　危ないところもありますが、私が住んでるクリチバは安全なしっかりした町です。だから、運良くだと思うんですが、そういう危ない目には遭ったことはありません。ですから、シュートボクセでは、礼儀作法を一番に教え込みます。「この道場に入ったからには、絶対道端ではケンカするな」と教えてますし、ケンカした場合には本当に厳しい罰を与えます。

シーザー　それは素晴らしいことだと思います。そうならなくちゃいけないと思います。僕は若い時から一人で育ってますから、人生というものを教えてくれる人がいなかったんですよ。そんな中で、やっぱり、今から考えれば格闘技で更正できたし、いい人生がつくれたわけです。そういう意味で、格闘技に対して僕は凄く感謝をしてますね。

フジマ　それは今、話していても感じますし、いろんな人から話も聞いて素晴らしい人だと思っています。

シーザー　嬉しいですよ（笑）。

——そんなお二人だからこそなんですが、シーザー会長は18歳の時にタイ修行に出かけてタイ人と試合をしてるんですね。一方、フジマさんはヒクソンの最大の敵といわれたズールと対戦してるわけです。

フジマ　タイに修行に行かれてるんですか（笑）。

シーザー　本格的にタイで修行したいって気持ちがありましたから。ただ、きっかけみたいなものは学校の校長から「申し訳ないが退学してくれないか」と言われましてね（笑）。で、校長も一緒に辞めるならってことで辞めたんですけど、実は校長、その翌年、定年退職だったんですよ（笑）。

フジマ　ハハハ！　面白い先生ですね（笑）。

シーザー　それで気分が悪いから本場のタイで勝負してこようって行ったわけです（笑）。ただ、僕が行った頃は、タイの空港降りてタクシーに乗るとジャングルに連れて行かれて金を取られるような時でしたから、結構いろんなことがありました。試合もジャングルの真ん中みたいなところにある村まで6時間くらいかけて連れて行かれて、そんな中で勝ってきました。

フジマ　私は本当にそういう精神力を尊敬します。私の弟子たちもタイで修行してますけど観光じゃなくて、トレーニングのためだけ。厳しい練習して試合をやってみんな勝ってきてます。凄いいい経験になったと言ってます。

シーザー　僕もボロボロになるまで練習

日本刀を持ったヤツらと喧嘩になりましたね（シーザー）

しましたね。

フジマ やっぱり練習漬けだったんですね（笑）。

シーザー いや、夜はちゃんと女郎屋に行ってましたよ（笑）。

フジマ ん？ そういうイイ経験されたんならあまり厳しくなかったんじゃないですか？（笑）。

シーザー いやぁ、練習は朝5時頃に起きて15キロくらい走ったりしてやってたんですよ。ただ、夜は自分の度胸試し（笑）。だから、僕の場合、アメリカのブラックタウンとかも行くし、香港の麻薬地帯とか一人で行くしね。あんまりなんともないですね。気持ちとしてはヤバイかなとは思うんですけど、まあいいだろう、やられたらやられた時だなって。

フジマ やっぱりそういう経験されて、そういう精神力がある先生は素晴らしいと思います。生徒は先生を見て、その精神力を感じ取れたら、どんな相手でも勝てると思います。

シーザー 人間って一生一回しかないし、自分の役割があるならそれをやり遂げたいんですよ。それに、人間どんな国の人でも、どんな気の短いヤツでも、目と目で分かることってあるんですよ。ムードってあるじゃないですか？ 人生、生涯修行だし、そんな中で友達になってもしかしたらもう二度と会うことはない可能性があるとしても、いい思い出を残していくことが僕は大事だと思います。

フジマ 私もそう思います。だからこそ、今回の対抗戦は大切にしていきたいんです。

——お二人とも考えの基本は一緒だというのがよく分かりましたが、ただ、聞いているとシーザー会長はなんだかとってもワルな感じで、フジマさんはイイ人という感じが好対照で素敵ですね（笑）。

シーザー ガハハハ！ 僕はワルですか（笑）。

フジマ 私もイイ人と言われたら照れますよ（笑）。

——でも、フジマさんもやる時にはやるんですよね。ズール戦の話を聞かせてください。

フジマ まあズールの件はどういうふうに聞いてるか知りませんが、ホントにズールという人はブラジルを渡り歩いて、「この街に男はいないのか！」ってアピールしながらファイトしていた人間なんです。それはケンカじゃないんですが、当時は『プライド』のようなイベントはなかったですからね。だから、彼がクリチバに来た時は驚きました、あの身体の大きさに。でも、道場生が「先生、あいつとやってくれ、あいつとどうにか闘ってくれ」と言うわけです。

シーザー そうなったら、もうやるしかないですね。

フジマ はい。それでウチの道場に呼んで15分間お互いに本当に殴り合いをしました。もちろん自分の道場のルールの中で。それでズールという人は、この時期ブラジルで最も強いと言われた有名な人でしたから、そういう人に試合が終わって「本当にお前は若くて俺より小さいのに、よくここまでやった」という言葉をもらって、逆に自分が有名になったんです。それからは凄く仲いいです（笑）。

——やっぱり男じゃないですか。それはシーザーさんが昔やってたケンカの世界とも通じるところありますか。

シーザー まあ僕の場合は今、外側の部分しかしゃべってないからね（笑）。だけど、フジマさんとはじっくり話せば一生の友達になれると思うんですよ。

フジマ 本当にそんな暖かい言葉をもらえて自分は嬉しいです（笑）。絶対いい友情が生まれてくると思うし、これからももっともっと仲良くなれると思います。そして、今度のイベントで生徒たちは、絶対勝つという心で来ますので、絶対いい試合をすると思います。

シーザー それはこちらも凄く嬉しいですよ（笑）。その反面、逆に我々も、立ち技全ての競技の中でどんなに強い選手が出てきても受けて立ちますんで、頑張りましょう（笑）。

——期待が膨らむ対抗戦ですが、フジマさんは以前カポエイラとも対抗戦をやられてるんですよね。

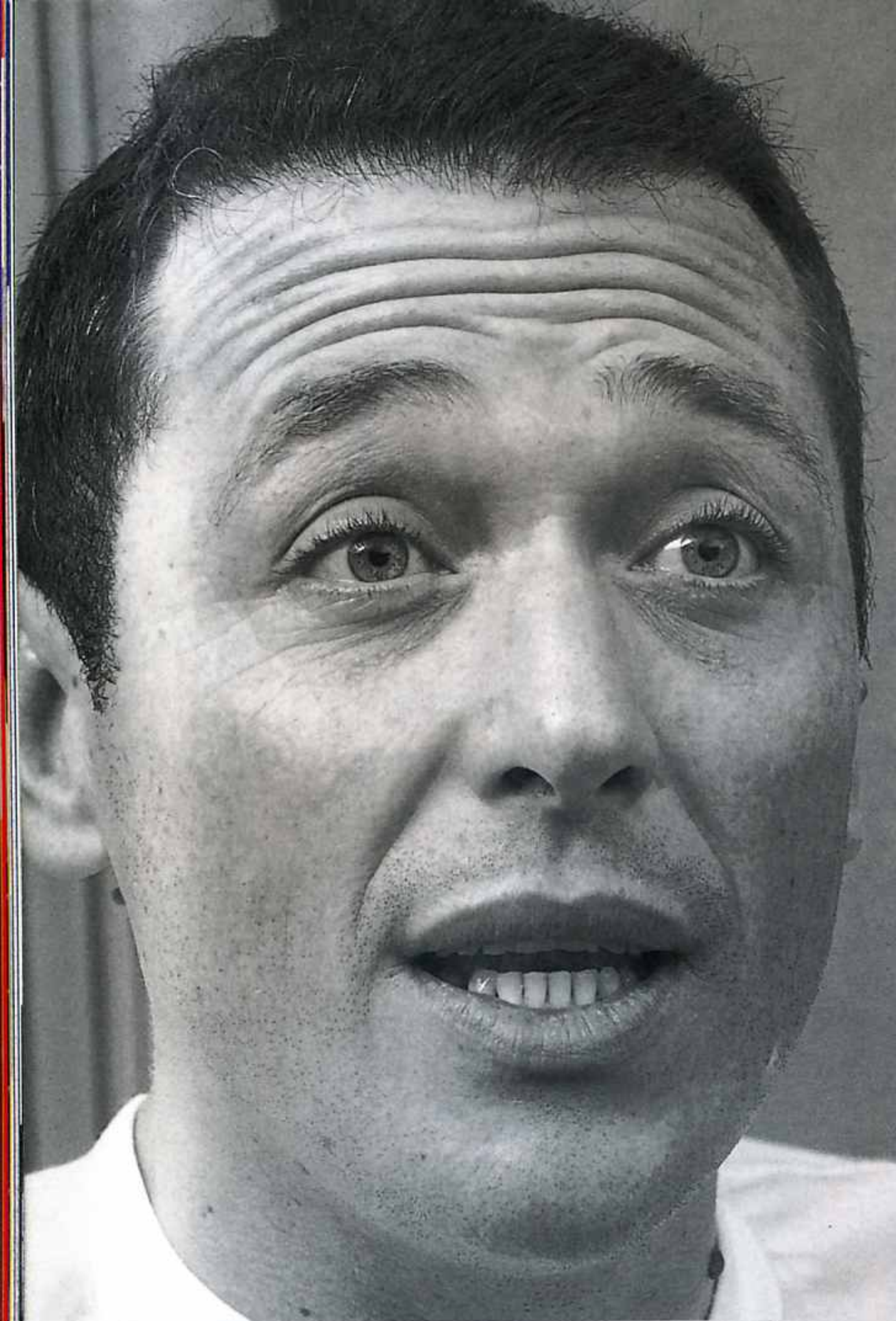
フジマ カポエイラとは今回のような実りある交流とは違ってトラブルが原因でした。ある事件がきっかけになったんですが、すぐにも大きな争いごとになりそうになったので、それを防ぐために自分が大会を開いて対抗戦を行ったんです。

シーザー トラブルの原因はなんだったんですか。

フジマ あるカポエイラの先生が、大きな石を道場生の頭にぶつけて生徒が死にそうになったことです。

シーザー ヒドイことするねぇ。

フジマ はい。それで道場生たちが騒ぎ始めて大騒動になりかけたんです。だから、私は自分で対抗戦を開いてモメごとは全て水に流そうと約束したんです。結果はもちろんシュートボクセが全勝しました（笑）。

シーザー キチンと問題を解決したのが

凄いことやりましたね。なぜ、まだ生きてるんですか？（フジマ）

素晴らしいね（笑）。

――でですね。今回の対抗戦に関してなんですが、シュートボクセの選手はもともとムエタイをやっていたから打撃はできますよね。しかも、桜庭に勝ったヴァンダレイ・シウバまで所属してるわけですから、絞め関節もできるし、防げると。そんな選手たちとどう闘っていこうと思ってますか。

シーザー　いや、まったく問題ないですよ。ウチも立ち技全ての関節もあるし、絞めもあるんだから。

――どんと来いと（笑）。

シーザー　その辺は完全にウチのエリアですよ（笑）。

フジマ　いや、試合はやってみないと結果は分からないですよ（笑）。でも一言だけ言いたいのは絶対日本のみなさん、このチケットを早めに買って見に来てくださいということです。絶対素晴らしい試合になると思いますから。

――あっ、すいません。この雑誌が出る頃は対抗戦の第1弾は終わってるんです。

フジマ　ならば、なおさら、この次の大会は絶対に早めにチケットを買うべきです。というのも対抗戦第1弾は絶対に格闘技ファンの話題になると思うんです。

シーザー　ホント、そうなるようにウチの選手たちも頑張りますからね（笑）。今回出る緒形たちはシーザーの魂が入った最高の選手たちですから！

フジマ　私の生徒たちもシュートボクセのスピリットを持った選手たちばかりです！

――ところで、ちょっとフジマさんにお聞きしたいんですが、普段から絞め関節をやってるわけで、その辺は問題ないと思いますが、グラウンドがないというのはやりにくい感じはしませんか。

フジマ　もちろん私たちにとって絞めと寝技は毎日練習してることですから、問題はありません。ただ、ルールとしては初めてのことで戸惑うこともあるかもしれないです。しかし、このルールはシュートボクセにぴったりだと思うんです。

シーザー　そう。僕はシュートボクシングとシュートボクセって運命的な出会いだと思うんですね、名前一つとってもね。格闘技に対する考え方も絞めもあったりなんでもできる選手がいて一緒だし。これはもう神様が与えてくれたものだと思うんですよ。

フジマ　私もそう思います。もう何年も前からシュートボクシングという競技が日本にあると聞いて興味を持っていたし、先日は実際に観戦もできました。私は心の底から本当にこのイベントを盛り上げていきたいんです。シュートボクセではたくさん良い選手がいます。この一回で終わるんじゃなくて何度でもやっていきたいんです。

シーザー　僕も気持ちは一緒ですよ。僕の代だけじゃなく、シュートボクシングの後継者がずっと永遠に続けられるような仲間でいたいですね。

フジマ　心からありがとう。私は一回目の対抗戦には来ることはできませんが、選手たちは絶対にいい試合をします。そして、シーザー会長については、ここに来る前からいろいろ話を聞いていたんですが、聞いていた以上に素晴らしい精神力の持ち主だと思いました。もっともっと尊敬するようになりました（笑）。

シーザー　ありがとう！　（通訳に向かって）ポルトガル語で「ありがとう」って何て言うんですか？　モイント・オブリガード？

シーザー&フジマ　（二人とも立ち上がってガッチリ握手をして）モイント・オブリガード（笑）。■

※SB対シュートボクセ第1弾、11.20後楽園大会は、次号で詳報！

SRS·DX Editor's Talk

編集部トーク 裏事情

猪木軍VSK―1は5対5より増える！

A 『プライド17』が終わってから、スポーツ紙や専門誌の話題は「猪木軍VSK―1」一色。まだ正式なカードは一つも発表されていないけど、水面下ではかなりの動きがある。たとえば、成田空港でいきなり猪木さんが「全面対抗戦は5対5に決定！」とぶち上げてたんだけど。

B いや、5対5にはならないはずだよ。石井館長は両陣営の数からいっても7対7か、10対10になると言っていた。それだけ名乗りを挙げる選手が増えてきたんじゃないかな。

C K―1からは、ミルコ、アビディ、セフォー、ローゼ、グレコ、それに子安選手の名前が挙がってますけど、あとは『K―1GP』以降になるんじゃないですかね。

A 一方、猪木軍のほうも面白いね。藤田、安田、佐竹の出場はほぼ決定的。問題は猪木が指名していた永田・中西なんだけど進展があった。永田が藤波社長に呼ばれて、はっきりと「出てみたい」と意志表示。永田は相手にミルコを選んでくれたら、出る腹を固めているようだ。それ以外の選手だったら、この話は流れるだろう。

B 藤田も先輩の永田には出てもらいたいんで、ミルコ戦を譲り、「K―1王者か、バンナと闘いたい」と発言しているからねぇ。

C 永田VSミルコ戦は『イノキ・ボンバイエ』の大きな目玉になりますよ。でも、石井館長は「小川VSバンナ、藤田VSミルコがいいんじゃないか」と言ってましたけど。

A その小川なんだけど、ゴネる態度に猪木が遂に最後通告。「出たくないなら、いらねぇ」という発言も飛び出した。藤田・安田だけじゃなく、高田まで小川には凄いバッシングだからね。東スポの「あんな演技するヤツとは試合したくないよ。格好悪くて。小心者協会会長だね」という発言には大笑いさせてもらったけど（笑）。

B 猪木軍はやっぱり小川がポイントだけど、その小川を批判する高田が本気で『イノキ・ボンバイエ』でK―1軍と再戦しようとしているという話を聞いた。高田はマジで足の負傷を治しちゃうんじゃないかな。

C もし、高田が出場すれば、藤田、永田、安田、佐竹と日本人だけでも凄い陣容になる。それに、あと石澤と小川がいるし、高山だって名乗りを挙げてますからね。やっぱり、対抗戦は5対5より増えるんじゃないですかね。

A 俺が思うに、それだけのメンバーが猪木軍で集まるのならば、ノゲイラとか、コールマン、グッドリッジ、ドン・フライといった外人部隊は全然必要ないんじゃないかな。こりゃあ、一気にK―1軍がヤバくなってきたね。

B その外人部隊に関しては、1週間前の12・23『プライド18』とのからみが出てくるんじゃないかな。石井館長は「ミルコVSシウバが面白い」と言ってたけど、現実的に桜庭やノゲイラが負傷していることを考えると、シウバがメインになりそう。ミルコは『イノキ・ボンバイエ』に出るから、このカードは先送りになると思うよ。

C でも、東スポで「シウバVSクロコップ実現！」が一面になっていたのはビックリしましたね。だって、ミルコとシウバなんて、ついこの間まで格闘技ファンしか知らなかったでしょう。総合やり始めてから、これでミルコは東スポの一面を3～4回飾ってますからねぇ。これは、ベルナルドやアーツだってなかったことですよ。

A そうやって、スターは作られていくんだよなぁ。来年、ミルコがK―1に戻って、ミルコVSバンナなんかやったら、それだけでスーパーファイトになってしまう。これが石井館長の新しい売り方なんだろうね。

B そうそう。プロレス専門誌でもミルコの名前は連発されているからね。永田も「相手がミルコだったら」と評価はヒクソン並み？ 今年の最優秀外人選手は、ミルコで決まりって感じだね（笑）。■

▶さすが猪木。猪木軍にもどんどん名乗りを挙げる日本人レスラーが（成田空港にて）

◎これまで、いろんな格闘技を見てきたが、「猪木軍VSK―1」ほど何が起こるか予測できないイベントはない。私がこのイベントのどこに緊張しているかというと、その予測できないところだ。正直、猪木軍とK―1のどちらが勝つかとか、誰が勝つかというよりもその部分に緊張している。その感覚はUFCやK―1が出てきた時と似ている。UFCもノールールで格闘家が闘ったら、どんなことになるかという緊張感があった。K―1も、ヘビー級のチャンピオン8人集めてトーナメントをやったら、あんなに凄絶なKOが続出するとは思わなかった。そんな感覚に近いものを感じる。そこにこの闘いの魅力があると思うのだ。「猪木軍VSK―1」の8・19開戦でも、安田がローゼにあれほど酷い失神KO負けを食らうとは思わなかったし、藤田がミルコのヒザ蹴りで大流血するとも思わなかった。一方、高田VSミルコにしたって、あんな展開になるとはほとんど予測していなかったのだ。だいたい、いまだに両陣営が闘うのに、どんなルールだったら一番面白くなるのかよく分からないし、あのルールでどんな事態が今後起こるのか、全てが把握しきれていない。一番分からないのは、K―1ファイターが本当は現時点でどこまでのことができ、それをどう見せられるかということだ。ノゲイラVSヒーリングや桜庭VSシウバの試合はだいたい読めるけど、高田とミルコがどっちが強いかとか、永田とミルコがどっちが強いのかなんて、プロの格闘家だって予測不能だろう。その予測不能の世界には、また神風が吹きやすい。猪木マジックか、石井館長の強運か？ ホント緊張するなぁ。（谷川）

SRS DX

次号の発売日は **12月13日(木)** です。

発行元：株式会社フジテレビ出版／株式会社ローデス
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-14-12
神田NSビル8F ☎03-3295-4445
販売元：株式会社扶桑社
〒105-8070 東京都港区海岸1-15-1
☎03-5403-8888
発行人：柳沢忠之 編集長：谷川貞治

DESIGNER：梅村あゆみ、水町由美子、su・plex、岩村唯是
溝口真穂、野尻雅友、松浦千枝、小林善夫

極真会館
第33回オープントーナメント
全日本空手道選手権大会
11.3〜4★東京体育館

このままいくと、来年は……

数見が危ない!!

木山仁、揺るぎない強さで極真全日本を2連覇!

木村靖彦との決勝戦を本戦5ー0で制し、大会2連覇を飾った木山仁。1回戦から全ての試合を本戦で決めるという、群を抜いた強さを見せての優勝だった

◀大会のレベルの高さ、盛り上がりは数見不在を感じさせないものだった。表彰式には市川雅也、田中健太郎ら若い世代の選手も目立った

もはや木山は〝暫定王者〟ではない！

▼カカト落としで技有りを奪い、木山は本戦で決着をつけた

◀元々は中量級だった木山だが、今はナチュラルな重量級と打ち合っても負けないだけの力強さがある

★決勝戦
○木山仁（本戦5-0優勢勝ち）木村靖彦●
〈鹿児島支部〉　〈本部直轄浅草道場〉
※木山は右カカト落としで『技有り』を奪った

やっぱり極真は凄い。

そう思ったのは、準決勝の2試合を見た時だった。ベスト4に残る強豪同士の試合なら、延長、再延長までもつれてもおかしくないのだが、今回は2試合とも本戦、しかも一本で決着がついた。木村靖彦が市川雅也を、木山仁が足立慎史を、それぞれ下段回し蹴りで下している。実力差ということもあるだろう。実際、木村と木山は他の選手に比べてレベルが一段上に見えた。でも同時に、負けた2人の脚のダメージが限界に達していたという側面もあるはずだ。

128人が参加する直接打撃制のトーナメントで勝ち上がるというのは、自分の肉体を傷め続けるという意味でもある。より上の成績を残す、より栄光に近付くというのは、つまり他の選手よりも痛い思いをするということなのだ。大会を2日間通して見ていると、まさにそれが〝痛いくらい〟伝わってくる。だから、極真を見るといつもグッときてしまうのだ。

そんな過酷なトーナメントを、ただ一人サクサクと勝ち進んでいったのが昨年の優勝者、木山仁だ。初日は動きが硬かったと本人は言っていたが、それでも1回戦をカカト落としで一本勝ち。その後も全て本戦でケリをつけて決勝まで上がってきたから驚異的である。

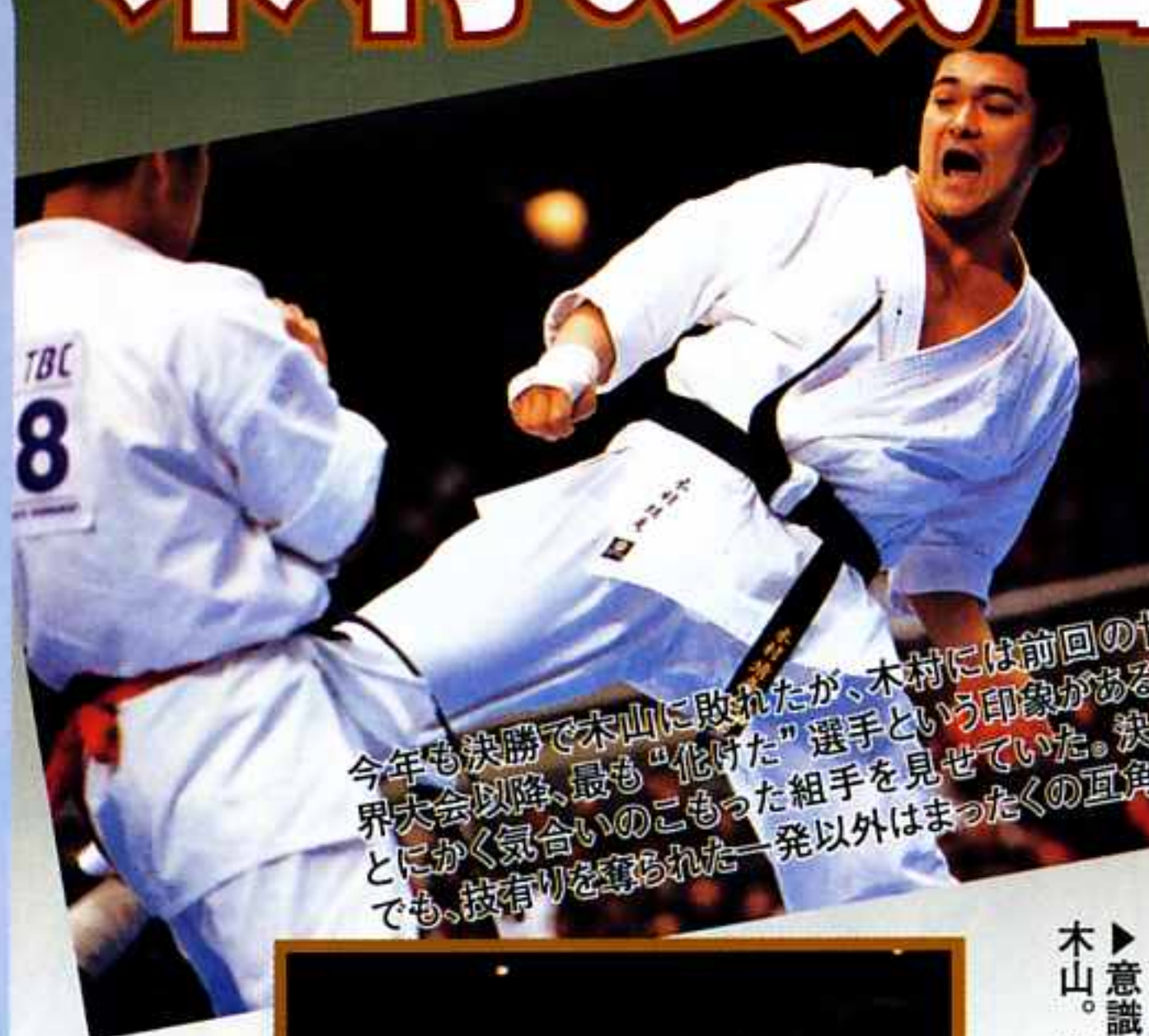
「去年は半信半疑でしたけど、今年は自分の技が効くんだっていうのが再確認できました」と木山。勝てると自信を持って試合に臨み、そしてそのとおりに勝ってしまう。

決勝の木村戦もまた、本戦決着。技有りを取ったカカト落としは、相手の動きを追尾するようにカカ

極真会館
第33回オープントーナメント
全日本空手道選手権大会
11.3～4★東京体育館

決勝は前年と同一カード 木村の気合いも光った！

木山のコメント

「嬉しいです、押忍。（連覇は）自信になりました。去年は自分の技が効くのか半信半疑でやってたんですが、今年は自分の技が効くんだってのが再確認できましたから。喜びよりか、ホッとした感じです。自分の心の弱い面が出るんじゃないかと心配だったんですよ。プレッシャーに負けて、途中であきらめてしまうんじゃないかって。そういう弱い心を打ち消して優勝できたのが自信になると自分では思うんですけど。（数見とは）簡単には言えないですけど、互角には渡り合えるんじゃないかなというところまで来てると思います。あとはいかに倒すかですね。互角じゃ話になんないですから。いかに倒す技を身に付けて、数見先輩だろうが効かせられるかどうか」

今年も決勝で木山に敗れたが、木村には前回の世界大会以降、最も"化けた"選手という印象がある。とにかく気合いのこもった組手を見せていた。決勝でも、技有りを奪われた一発以外はまったくの互角

▶意識して上段への蹴りを出していったという木山。技の多彩なところも大きな強みだろう

▶木山には、見ていて危ないと思う場面が一度もなかった。準決勝では、足立慎史から下段回し蹴りで技有りを2度奪って合わせ一本勝ち

◀健闘を称え合う両雄。笑顔の木村だが、この直前まで、バックステージで嗚咽を響かせていた……

▶今年の木山はカカト落としを有効に使い、攻撃の幅をさらに広げていた。決勝だけでなく、1回戦でもこの技で一本勝ちしている（写真は準々決勝・池田祥規戦）

▶木村も準決勝・市川雅也戦で一本勝ち。右下段回し蹴りでまず技有り、さらに下段を叩き込んで市川を沈めた

◀今大会では主審として登場した数見。来年は日本のエースの座をかけた木山との闘いが待っている

トをコントロールして脳天にブチ当てる超ハイレベルな一撃だった。

昨年は、数見が出ていない大会で勝ったということで〝暫定王者〟の雰囲気もあった木山だが、今年の勝ちっぷりは真の王者にふさわしいものだったと思う。

数見の不在も、まったく気にならなかった。それだけ木山がチャンピオンとしての風格を漂わせていたのだ。

数見に木山、それに昨年以来大化けした感のある木村と、日本勢は前回とは比べ物にならないくらい充実した布陣で2003年の世界大会に臨めることだろう。だが、その前に気になるのが来年の全日本大会だ。今の木山の充実ぶりからして、ハッキリ言って数見も危ないんじゃないだろうか。

懐の深い構えから少ない手数で確実に〝効かせる〟のが数見のスタイル。逆に木山は凄まじい回転力のある突きのラッシュに加え、カカト、上段回し蹴り、顔面へのヒザと〝飛び道具〟のオプションも豊富だ。数見とはひと味違ったタイプの強さがあるだけに、一旦ペースを握ったら、たとえ数見が相手でも押し切ってしまうのではないか。数見が休んでいる間にコンスタントに試合に出て勝ち続けているのも有利な材料だろう。木山は早くも来年を見据え「互角じゃ話になんないですから。いかに倒す技を身に付けて、数見先輩だろうが効かせられるかどうか」と闘志を燃やしている。

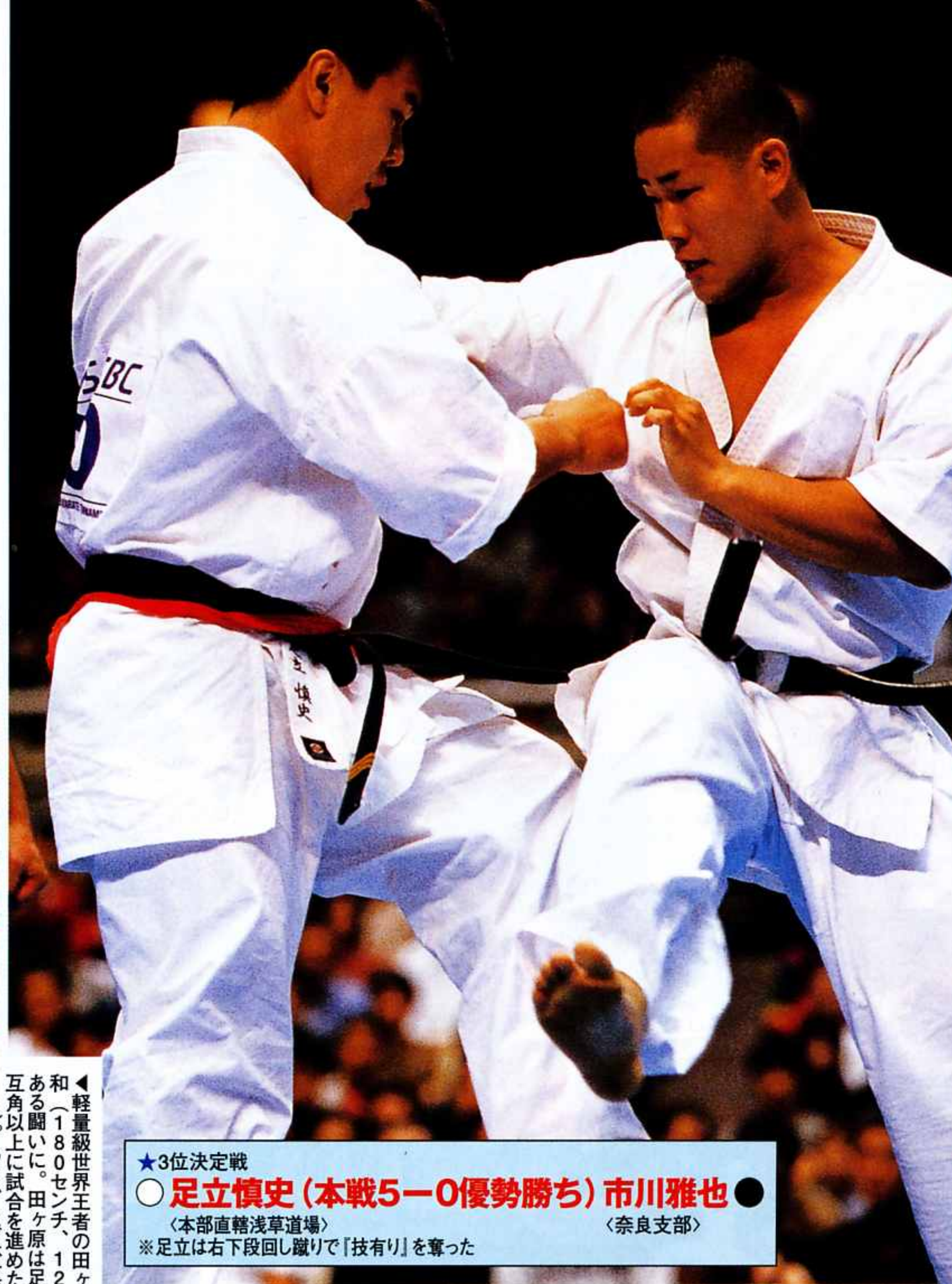
2年後の世界大会。数見を押し退け、木山が日本のエースとして出場していても、決して驚くべきことではない。

（橋本）

極真魂は連鎖する！

──有力選手たちの闘いぶりをダイジェストで

◀中量級の第一人者・木立裕之（右）。世界ウェイト制大会では決勝でブルガリアのコストブに敗れ、名誉挽回を期しての全日本大会だったが、3回戦で新鋭・市川の勢いに屈する形となった（再延長3－0）

▶80年代から出場し続け、昨年も3位に入ってみせたベテラン市村直樹。その組手からはまったく衰えが感じられなかったが、4回戦で足立に3－0の僅差で敗れる

★3位決定戦

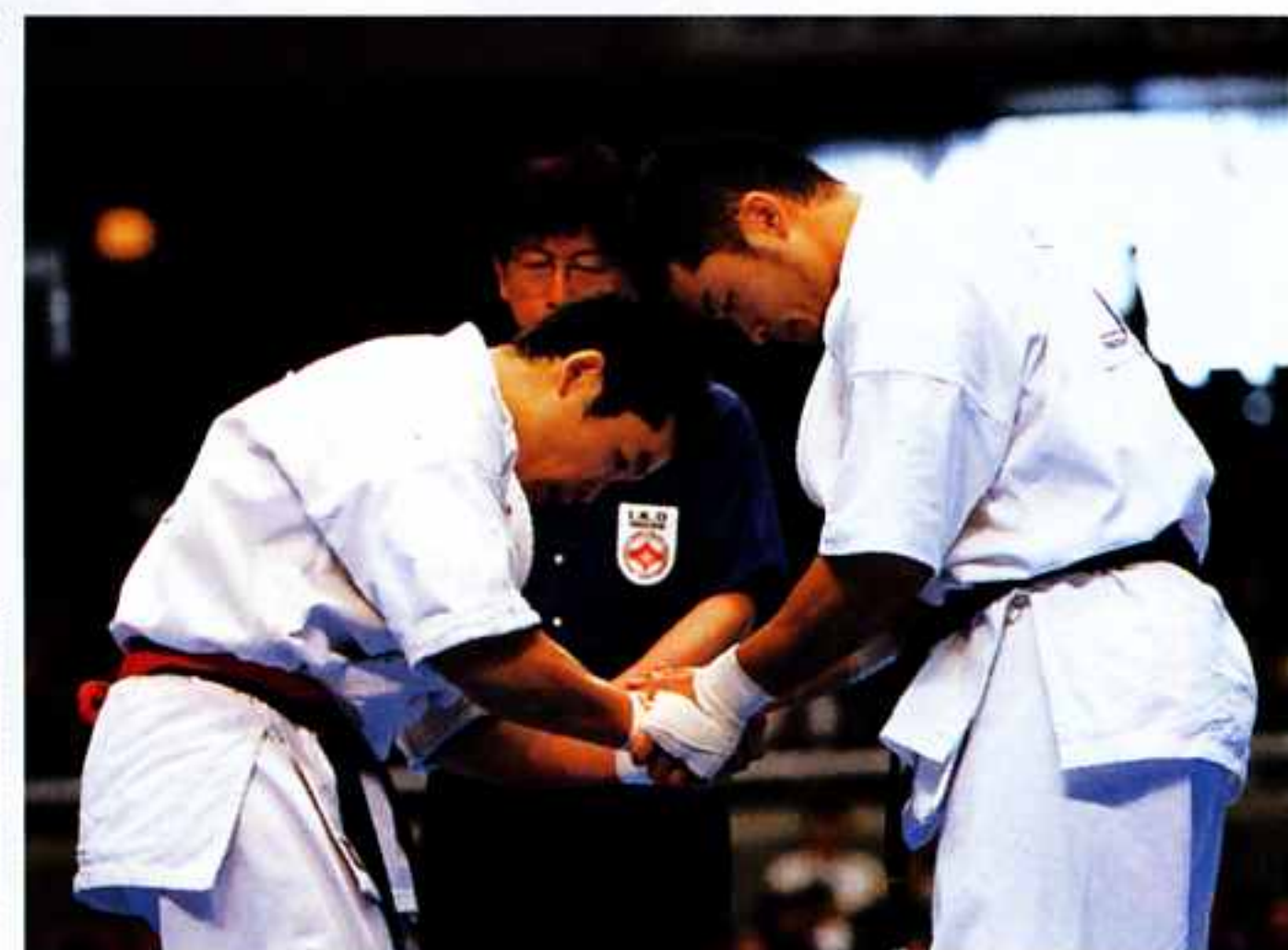
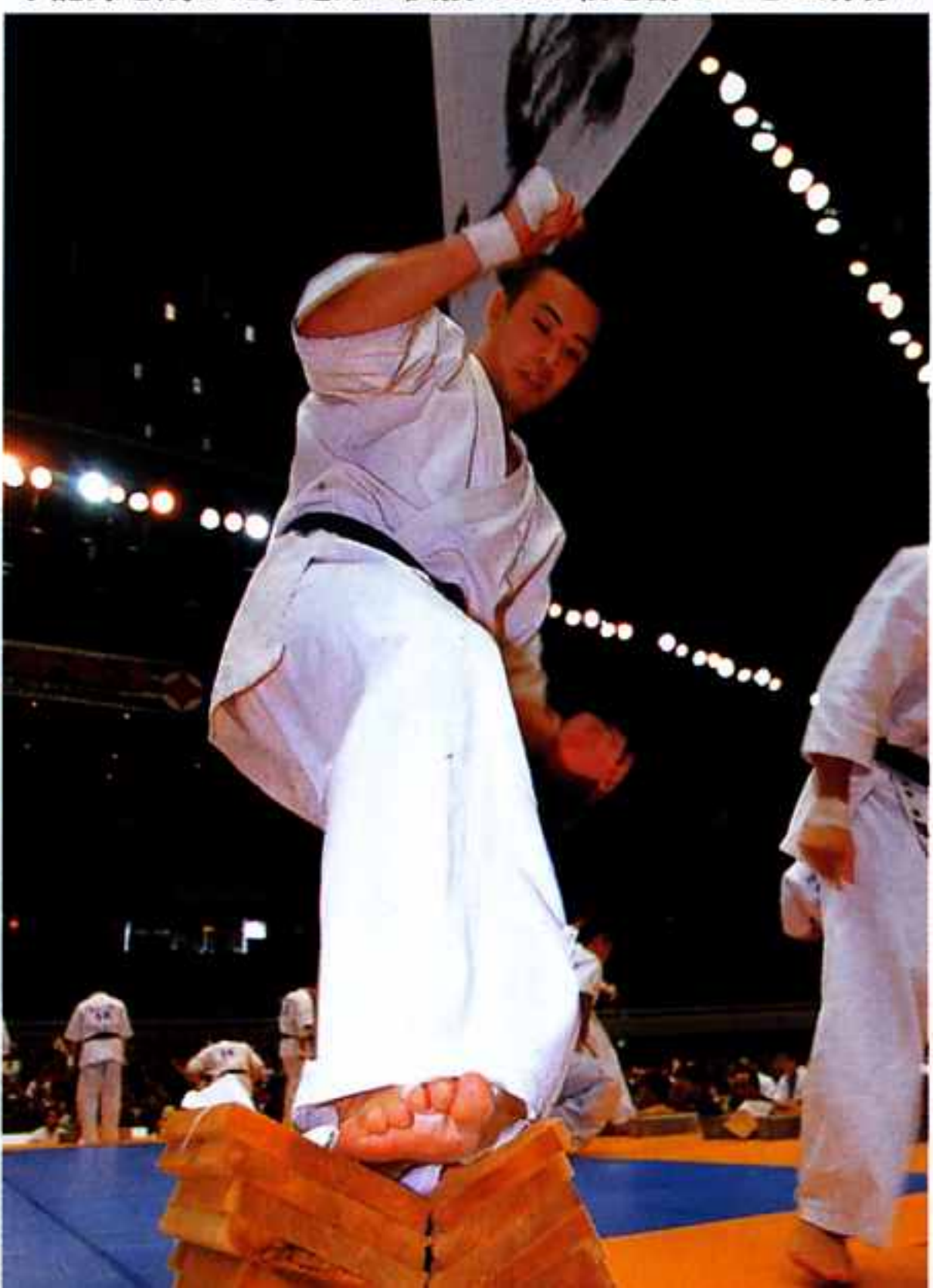
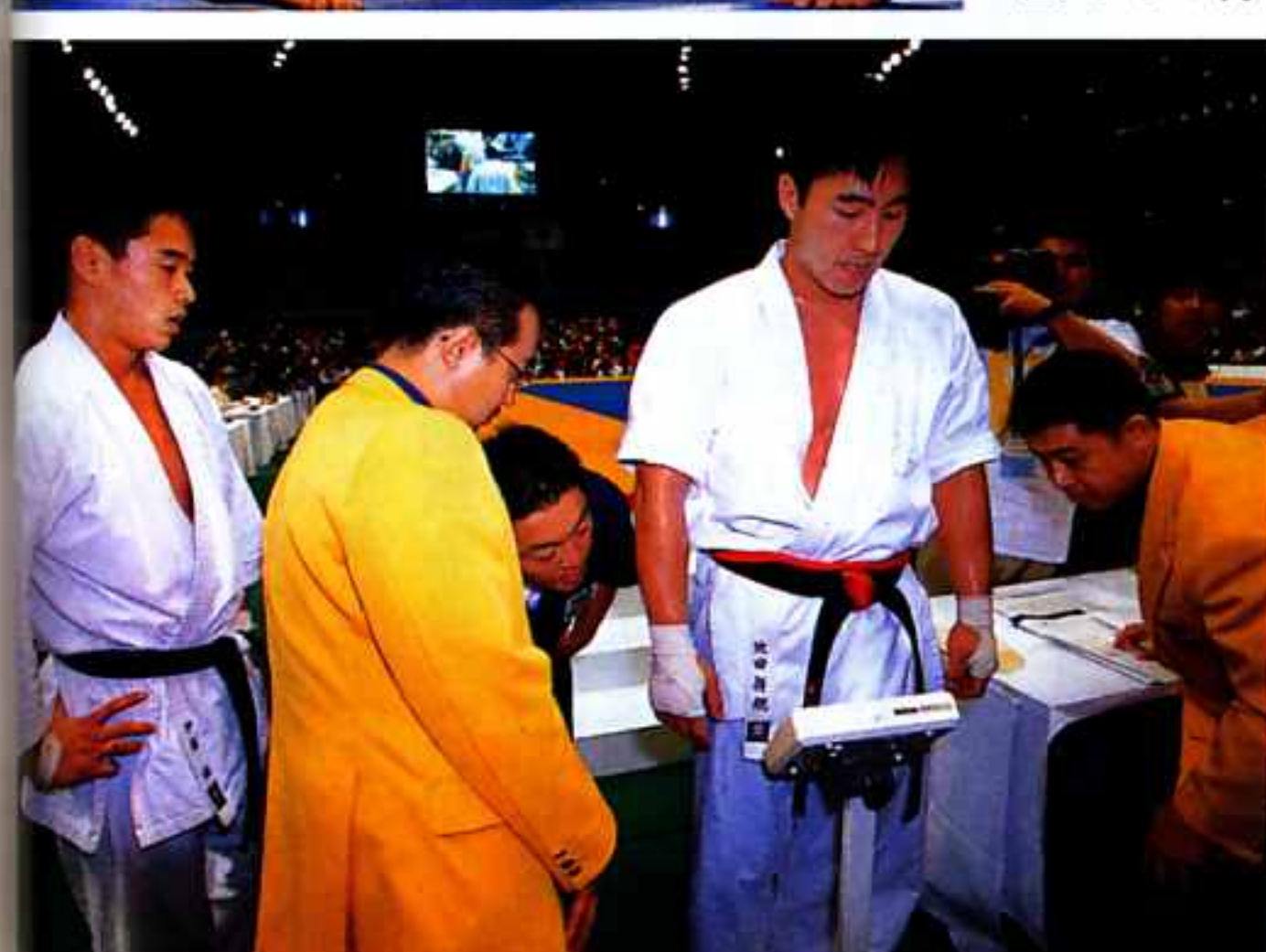
○足立慎史（本戦5－0優勢勝ち）市川雅也●

〈本部直轄浅草道場〉　〈奈良支部〉

※足立は右下段回し蹴りで『技有り』を奪った

▲準決勝では足立（左）、市川とも下段を効かされて一本負けしており、どちらか（どあるいはちらも）が欠場してもおかしくなかった3位決定戦だが、両者とも試合場へ。しかも、お互い容赦なく傷めた脚を蹴り合い、市川に至ってはモモにパンチを打ち込む！　ボロボロの体で壮絶な潰し合いを演じる両者の姿から、極真魂を感じずにはいられない！

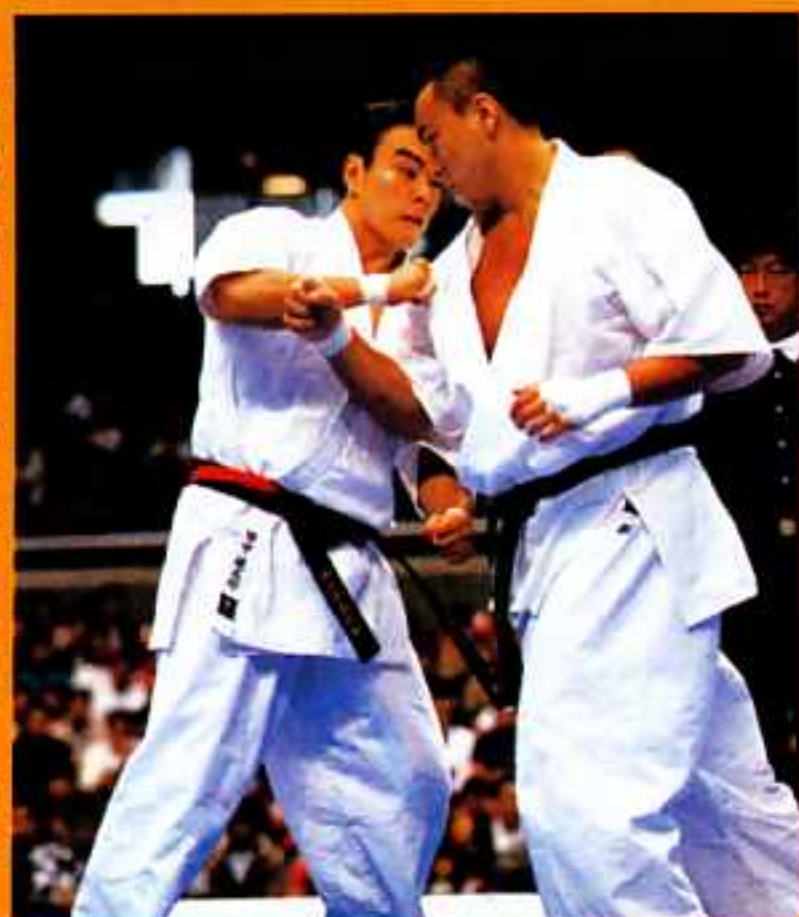
◀軽量級世界王者の田ヶ原正文（162センチ、68キロ）と近藤博和（180センチ、125キロ）の3回戦は、大会中最も体格差のある闘いに。田ヶ原は足を使った撹乱あり、正面からの特攻ありで互角以上に試合を進めたが、再延長でなんとか近藤が勝利（判定4－0）。あと少しで体重判定だったが……。ちなみにこの試合、主審は〝ミスター体重判定〟田村悦宏が務めた

▼準々決勝で足立に敗れたものの「成長著しい」と松井館長も絶賛したのが池田雅人。昨年に続き、2年連続で5位に入賞し、技能賞も受賞。試割りではトップの29枚という記録を残した。足刀の試技では9枚を割ることに成功！

▲グラウベ・フェイトーザとの名勝負で知られる福田達也（左）だが、今回は持ち前の突貫ラッシュは見られず。3回戦で御子柴直司に判定5－0で敗れた

▲4回戦、伊藤慎（99年の全日本ウェイト制大会で準優勝）と今年の全日本軽重量級優勝者・池田祥規の対戦は再延長、体重判定でも決着がつかず、試割り判定で池田が勝利（池田25枚、伊藤20枚）

◀世界ウェイト制・軽量級準優勝の福井裕樹（左）は、なんと初戦敗退！　山本雅樹に判定4－0で不覚を喫してしまう

なぜ、勝てない…

極真王者への道険し。期待の田中健太郎、今年も無念の8強止まり

▶最初の難関と思われた3回戦の入沢群には本戦4―0。安定した内容で2日目のスタートを切った

◀初戦で軽量級の世界2位の福井裕樹を破った好調・山本雅樹にも、危なげなく本戦5―0の勝利。弱冠20歳とは思えない落ち着きと安定感を感じさせた

木村戦で無念の敗退を喫した健太郎。試合場を降りると涙が溢れ出した

◀5―0の判定に健太郎はただただ呆然。木村と握手をする表情もうつろだった

▲健太郎も突きや下段回し蹴りで応戦したものの、木村の気迫と勢いを止めることはできなかった

▲突き、下段、ヒザ蹴りと、3分にわたり気迫のこもった攻めを続けた木村。健太郎は試合後「効いたものはなかった。なぜ負けたのか分からない」とうなだれたが、本戦5―0、木村の完勝だった

★準々決勝（Aブロック）
○木村靖彦（本戦5―0優勢勝ち）田中健太郎●
〈本部直轄浅草道場〉　〈横浜港南支部〉

試合後、消沈した表情で会場の片隅にたたずむ健太郎に、話を聞いた。健太郎は目を伏せたまま、「なんで負けたのか、自分では分かりません……。とくに効いた攻撃はなかったし……、ダメージもないし……」。途切れ途切れに話す姿から、負けた悔しさ、切なさが痛いほどに伝わってきて、見ているこちらまで悲しくなってきた。

準々決勝。結果的に昨年と同じところで敗退し、今年も試合場を降りると同時に悔し涙で顔をゆがめた。負けた相手は昨年準優勝、今回もゼッケン1番で優勝候補の筆頭である木村靖彦。

たしかに、健太郎の言うように、やられた感覚はなかったかもしれない。しかし、試合は完全に木村がペースを握り、本戦の3分で決着がついてしまった。5―0。もう少し見たいという主観的な感情を無視すれば、順当な判定と言っていいだろう。闘っていた健太郎本人には感じられなかった大きな差が、2人の間には確実にあった。

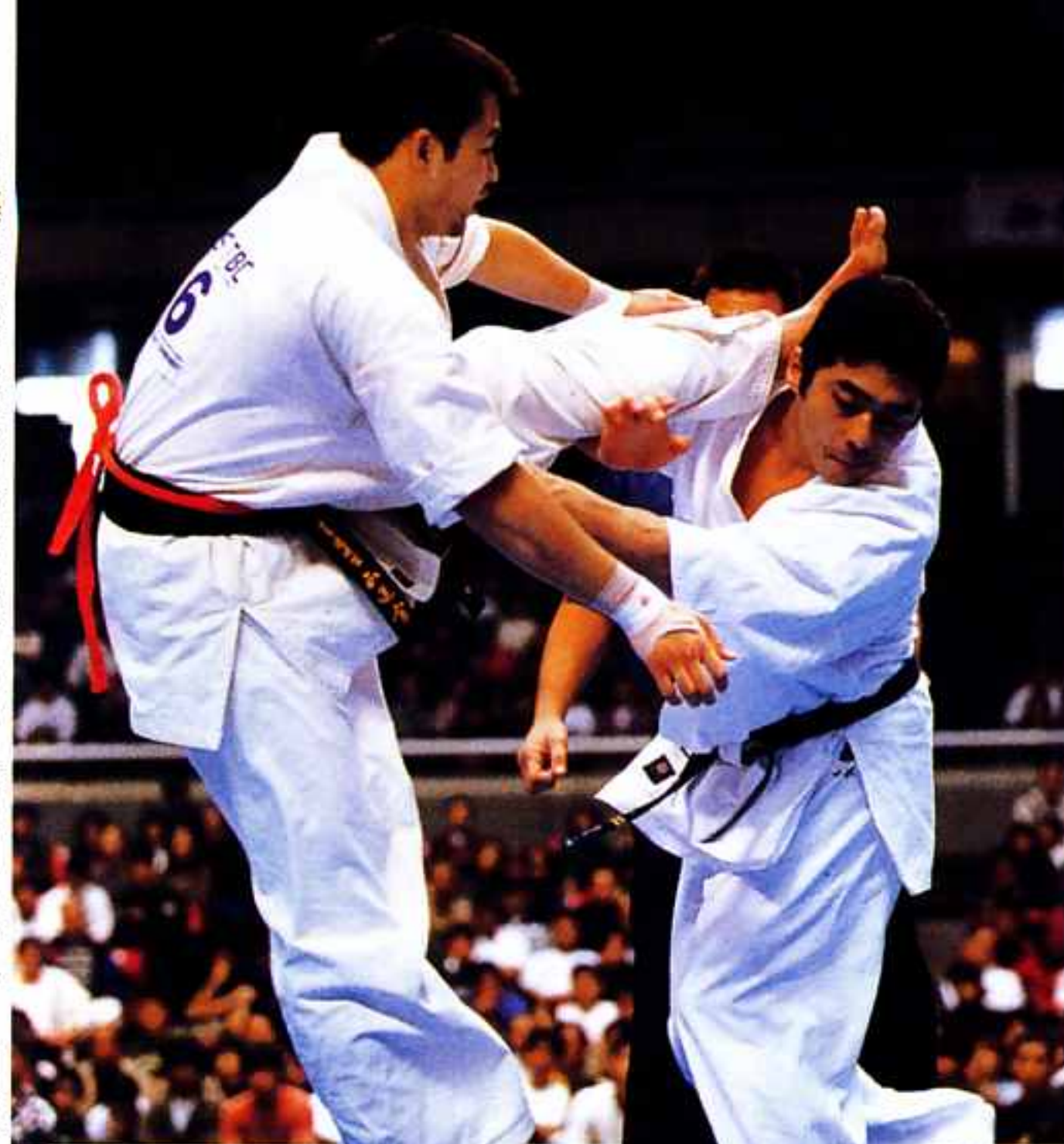
その差はいったいなんだったのか。技術？　経験？　たしかにキャリアでは木村に一日の長がある。しかし、明暗を分けたのは、勝つことに対するどん欲さであり、執念ではなかっただろうか。

弱冠20歳ながら、力強く落ち着いた組手で定評のある健太郎。今回も、安定してはいたが〝淡々〟という印象しかない。率直に言えば〝魂〟を感じることができなかったのだ。健太郎の将来性については今さら言うまでもない。だからこそ、小さくまとまってほしくない。健太郎よ、次こそ、魂のこもった闘いを見せてくれ。（林）

加藤達哉がベスト8進出！

▶加藤にとって最大の武器は伸びのある左の回し蹴り。3回戦でも高本潤一をグラつかせる場面があった

「極真に勝つ」味を知った正道勢 来年はもっと凄いことになる!?

▲表彰式の壇上で松井館長から賞状を受け取る加藤達哉。ウェイト制ではベスト4の実績があった正道会館だが、今回は無差別で初の8位入賞だ

◀闘い終えた加藤をねぎらう後川聡之、中川敬介の両支部長。かつての"常勝軍団"の名選手たちは、今は指導者として打倒・極真の道に邁進しているのだ

「彼らは全てが素晴らしい」(松井館長)

▶正道の軽重量級王者で極真のウェイト制大会でも4位になったことがある沢田秀男だが、やはり市川に2回戦で敗退。再延長までもつれ込む大熱戦となったが、最後の最後、下段回し蹴りの連打で押した市川に判定3－0で軍配が上がった

◀Cブロック2回戦では極真と正道の軽量級チャンプ対決が実現。キャリアで上回る田ヶ原正文が延長4－0で大渡博之を下した。その他、正道勢は村尾健司が3回戦、外岡真徳が2回戦で敗れている

▼加藤の快進撃をストップしたのは市川雅也だった。序盤は互角の展開だったものの、市川は下段への蹴りを効かせてペースを握る。判定は文句なしの5－0。加藤は2年連続で市川に敗れたことになる

★準々決勝（Bブロック）

○市川雅也（本戦5－0優勢勝ち）加藤達哉●

〈奈良支部〉　〈正道会館〉

▲今大会でも最大の波乱と言えるのが加藤の2回戦。世界ウェイト制・重量級準優勝の門井敦嗣から試合開始直後に左の上段回し蹴りで技有りを奪取、そのまま判定勝利を収めたのだ。優勝候補にも数えられた門井を下したことで、加藤の勢いはさらに加速していった

エース・子安慎悟が欠場した今年の正道勢だが、結果的には大躍進を果たした。加藤達哉がベスト8入りしたのだ。正道会館の選手としては初めてのことである。

ハイライトは2回戦だった。全日本ウェイト制優勝、世界ウェイト制大会でも2位になった門井敦嗣に、加藤は技有りを奪って勝利。最終的に準々決勝で敗れたが、松井館長も「彼らは全てが素晴らしい」と正道勢を絶賛していた。

これは加藤以外の正道勢にも言えることなのだが、今回の闘いぶりは"普通"な感じがした。言い換えれば特別じゃないというか。

内容で押せば、確実に審判の旗は上がる。アウェーゆえの苦しさ（細かいルールの違いや判定）を感じさせず、堂々と勝負できていたのだ。これまでの挑戦の歴史は、そういう形でも成果を出している。

そうして、加藤はベスト8まで辿り着いた。「自信になった」なんてもんじゃないだろう。「やればできる」と頭で考えるだけでなく、肌で実感してしまったのだ。

こういう例えはなんだが、自転車の乗り方を覚えたら、二度と忘れないようなもの。昨日までの"快挙"も、明日になれば"常識"に変わるのだ。これからの正道勢はベスト8入りを「当然」として、さらに上を狙ってくることになる。

加藤曰く「前回（ベスト）32だったのが2つ伸ばせて。修正点はあるけど、それをクリアすればあと2段階は上がれると思います」。あと2段階って、決勝進出なんだけど……。それを現実のこととして考えられるレベルに、今の加藤はいるということだ。（橋本）

総評 松井章圭 極真会館館長

「木山君は、数見君と決勝を争っても明暗分からない、立派なチャンピオンです」

――大会の総評をお願いします。

松井　結果的に見たら、順当な結果になったのかなという感じがします。世界大会経験者が落ちたり、波乱と言われるような部分もありましたけれども、上位に行った選手たちはみんな実力のある選手ですし、ベスト8に20代前半の選手、田中君なり市川君が入って来たというのは、我々的には非常に喜ばしいことです。木山君も2連覇して自信をつけるでしょうし、木村君は逆に2連敗ということですけども、発憤材料にして再来年の世界大会までしっかり頑張ってくれると思います。

――優勝した木山選手は、歴代王者と比べて、安定度というのはどうだったんでしょうか?

松井　比肩する実力はあると思いますね。数見君が出ていないとか、3回戦くらいまでそんなに大差をつけて上がって来れなかったような部分があるかも分かりませんけれども、それは、ディフェンディングチャンピオンのプレッシャーもあったと思いますしね。数見君が仮に出て、決勝を争ったとしても、実力的に言えば、明暗、分からないなというところに来ているんじゃないかなと思います。準決勝で敗れた2人が、満身創痍の状況で敗れていることを考えた時に、極真会館の全日本選手権なり世界選手権、こういうフルコンタクトの試合の、トーナメント制で競う場合に、上位まで行くのがどれだけ難しいことかが分かるかと思うんですけど、それに対して木山君が、木村君も昨年はちょっとケガをしてましたが、今回はビシッと試合をできる状況で上がってきているということは、彼らの安定感や技術力というのを示していると思いますし、立派なチャンピオンだと思います。

――木山選手と他の選手の差というのはどんなところでしょうか?

松井　木山君はどちらかと言えば、今の全体の層に比べたら小型の選手ですよね。身長175センチで体重90キロ前後ですから。まぁ、90キロくらいある選手が〝小型〟になったわけですから、大型化が随分進んでいるということですけど。その割に、ああいう形で、無傷に近い形で上がってこれるというのは、やはりディフェンスの巧さとか、見切りの良さとか、それから突き、蹴り、どちらかに偏らない攻撃のバランスの良さ、防御の巧さ、攻撃のバランスの良さ、それから姿勢の部分でのバランスの良さもありますし。それからやはり1回チャンピオンになったというのが大きいと思うんですけど、最後まで気力が萎えないというのが、一番大きいんじゃないかなと思いますね。やっぱり優勝を目指していても、優勝経験がなかったり、勝ち抜く気力がなかったりすると、どうしても途中で気持ちが萎えてしまうことがあったりしますけれども、彼の場合は、常に勝って当然という意識で、特に昨年以降、稽古をやってきていると思いますから、そういったところでの、いわゆる「心・技・体」という部分での充実が、他の選手と違っていた。木山君のほうがひと回り優れているという感じがしますね。

――現時点での世界大会に向けての抱負を聞かせていただきたいんですけど。

松井　今大会では新旧交代劇がありながら、ベスト16以上の選手というのは、安定したというか、層が厚くなってきたというか、レベルが上がってきたと思うんですね。これをさらに底上げして、世界のレベルにまで持っていきたいというふうに希望してますね。選手たちも今年、ウェイト制の世界大会がありましたけれども、ああいうものも一つの発憤材料になっているでしょうし、そこで研究課題も自分なりに捉えているでしょうしね。まあ、2年後、世界大会目前と言ってもいいんですけど、そういったところに焦点を合わせて頑張っていただきたいし、さらに全体層の底上げを目指してやっていきたいと思いますね。木山君はヨーロッパ選手権でも優勝してますし、世界ウェイト制でも優勝してます。そういった意味では、世界レベルの選手であることに間違いないんで、彼が牽引車の役割をして、リーダーシップを持ってね、もちろん数見君もいるんですけど、2年後まで引っ張っていってほしいと思います。

――今回の大会で不満に感じた点とか、世界大会への不安がありましたら。

松井　これは今回の大会ということではなくて、ここ数年、第1回目のウェイト制の、試み的に開催したウェイト制の世界大会あたりからちょっと感じていることですけども、最近の選手たちは、勝負に対して淡泊になっているという感じがするんですね。我々の時は、年に1回の全日本選手権を目指して、4年に1回の世界選手権目指して、全日本チャンピオンイコール世界チャンピオンという位置づけの中で、そこを目指して来たわけですけど、最近、国際試合も国内の試合も非常に多いですしね、そういうことが、ある部分、いい意味で幸いしているのか、悪い意味で作用しているのか分かりませんけれども、勝敗に淡泊だなぁという部分を感じますね。競技選手の時代というのは、人生の中で本当に短いひときですから、集中して、とにかく勝敗にこだわってやってほしい。石にかじりついてでもという、気迫をみなぎらせる人がちょっと少ない感じがしますね。2年後の世界大会もそのあたりのことが一番重要になってくると思いますからね。

――今回、正道会館の加藤選手が門井選手という、優勝候補の一角を倒して上がりましたが、それに対するご感想と今後の他流派との交流について何か展望がありましたら?

松井　我々は特に総裁が亡くなってからは門戸開放の宣言を出して、お互いに尊重できるならば、交流していこうというような意識は常に持っていますんで、こういった競技会にエントリーしてくるのであれば、受け入れていきたいと思います。正道会館さんとはここ数年、非常にいい関係で、互いに交流しながら、切磋琢磨できていると思います。うちの大会にエントリーしてくれている選手たちは、ウェイト制の各階級のチャンピオンばかりなんで、出てくる選手たちは全て素晴らしい。攻守のバランス、技の振り分け、挑戦する気持ちというのも素晴らしいと思います。その中で、加藤君は非常に立派だったと思います。こういうことを私が言ったら語弊があるといけないんですけども、たまたま加藤君が勝ったと、今回出た選手の外岡君にしても、沢田君にしても、それから大渡君ですか、それから村尾君にしても、彼らは全てが素晴らしく、加藤君と同じ可能性を持っていると思います。逆に言うと、我々はそういった意味でも気を引き締めていかないといけないなと思います。■

第33回全日本空手道選手権大会全記録

木山仁、連覇達成！

A

No.	氏名	身長	体重	年令	段位	所属
1	木村靖彦	180	95	30	参段	本部直轄浅草道場
2	飯田孝久	175	71	26	初段	千葉中央支部
3	塩島修	162	70	26	初段	下総支部
4	徳田忠邦	180	97	25	初段	大阪南支部
5	佐野忠輝	168	103	30	初段	城西世田谷東支部
6	谷口誠	178	100	24	初段	大分支部
7	子安慎悟	170	87	27	参段	正道会館 (欠)
8	菅野秀行	173	87	28	初段	城南川崎支部
9	御子柴直司	177	87	26	初段	横浜東支部
10	岩井早人	171	67	29	初段	本部直轄長野道場
11	宮崎清孝	171	79	28	初段	山口支部
12	吉田和幸	170	74	29	初段	城西吉祥寺支部
13	小野篤史	161	70	25	初段	京都支部
14	高嶋大樹	178	78	23	2級	栃木南支部
15	船先雄	173	80	21	初段	奈良支部
16	福田達也	168	74	31	参段	神奈川西湘支部
17	福井裕樹	171	69	25	初段	本部直轄柏道場
18	山本雅樹	173	82	31	弐段	千葉北支部
19	中橋光司	169	70	32	初段	富山支部
20	本多悟朗	174	75	27	初段	城西国分寺支部
21	鈴木由一	178	78	30	初段	城南川崎支部
22	藤田雅幸	180	90	26	初段	石川支部
23	佐藤康貴	177	82	25	初段	群馬東支部
24	尾崎亮	165	68	30	初段	城西世田谷東支部
25	入澤群	180	98	28	四段	総本部
26	渡部篤	176	94	29	初段	愛媛支部
27	西谷真志	180	85	24	初段	大阪南支部
28	木村剛	181	84	24	初段	城西世田谷東支部
29	村田達也	173	77	19	1級	埼玉支部
30	御手洗太子	174	75	28	初段	鹿児島支部
31	佐藤英明	171	83	33	初段	宮城支部
32	田中健太郎	180	88	20	初段	横浜港南支部

B

No.	氏名	身長	体重	年令	段位	所属
33	幸龍敬	170	80	25	弐段	富山支部
34	岩崎伸之	175	74	28	弐段	愛知東南知多支部
35	今井勇一	166	70	33	弐段	愛知尾張名古屋支部
36	大塚裕樹	175	79	27	初段	横須賀支部
37	樋口惠士	178	91	24	初段	京都支部
38	川越祐介	174	86	26	初段	宮崎支部
39	加藤雅也	176	70	25	初段	静岡西遠支部
40	佐藤誉仁	179	90	24	初段	城西世田谷東支部
41	菅野哲也	180	88	27	初段	城南川崎支部
42	高本潤一	180	88	29	弐段	総本部
43	佐久間崇仁	178	83	23	初段	本部直轄柏道場
44	西村直也	163	65	37	弐段	東京城西支部
45	鈴木憲一	185	95	32	初段	本部直轄桜木町道場
46	加藤達哉	187	98	25	初段	正道会館
47	梅田文久	170	80	30	初段	福井支部
48	門井敦嗣	176	92	28	初段	下総支部
49	中川正士	186	90	26	初段	大阪南支部
50	渡辺秀則	188	110	27	2級	広島西支部
51	早田シン	170	75	28	初段	熊本支部
52	佐藤匠	185	92	18	2級	本部直轄桜木町道場
53	大森一矢	169	67	22	初段	本部直轄福岡道場
54	小野瀬寧	178	95	30	初段	千葉北支部
55	比内誠	171	73	24	初段	青森支部
56	杉山史紘	174	86	33	参段	横浜北支部
57	市川雅也	180	94	22	弐段	奈良支部
58	安芸晴康	166	65	27	初段	埼玉支部
59	沢田秀男	180	87	22	初段	正道会館
60	柳春逢	178	83	27	2級	湘南支部
61	廣直明	174	75	26	初段	城南川崎支部
62	小竹一也	182	90	33	初段	茨城古河支部
63	井野真孝	170	82	25	初段	三重支部
64	木立裕之	169	75	29	参段	本部直轄浅草道場

C

No.	氏名	身長	体重	年令	段位	所属
65	市村直樹	175	88	34	参段	城西下北沢支部
66	初川正彦	180	80	32	初段	駿河支部
67	高橋恒治	179	92	29	初段	千葉中央支部
68	本間徹	172	85	29	初段	京都支部
69	宇多村大介	188	100	26	初段	本部直轄新宿道場
70	青木修	174	78	25	初段	新潟支部
71	吉田敬一	177	88	26	2級	栃木南支部
72	安田幸治	174	70	28	弐段	兵庫支部
73	洪太星	185	88	20	2級	横浜港南支部
74	河野真一郎	175	86	26	初段	香川支部
75	大迫元喜	171	88	20	初段	滋賀支部
76	村尾健司	177	76	22	初段	正道会館
77	里山義和	170	77	29	初段	城西世田谷東支部
78	西岡慎悟	170	92	22	2級	福井支部
79	冨田好志	177	77	19	1級	愛知東南知多支部
80	足立慎史	180	93	31	参段	本部直轄浅草道場
81	田ヶ原正文	162	68	35	弐段	大阪南支部
82	櫻井貴光	177	84	25	弐段	群馬東支部
83	大渡博之	180	70	24	初段	正道会館
84	大貫直人	169	68	23	初段	横浜北支部
85	宮本岳司	173	80	23	初段	城南川崎支部
86	平野裕士	179	90	29	初段	茨城古河支部
87	ホルヘ・ゴメス	180	87	25	初段	埼玉支部
88	近藤博和	180	125	31	初段	城西世田谷東支部
89	山邉光英	182	92	27	弐段	本部直轄新宿道場
90	山下武範	167	72	29	初段	宮崎支部
91	岩井正人	171	68	29	初段	本部直轄長野道場
92	松村典雄	180	103	23	2級	本部直轄岩手道場
93	新妻耕平	171	79	21	初段	城西吉祥寺支部
94	小田桐武志	174	75	29	初段	青森支部
95	別府良建	173	85	20	初段	鹿児島支部 (欠)
96	池田雅人	175	85	28	弐段	総本部

D

No.	氏名	身長	体重	年令	段位	所属
97	伊藤慎	173	80	28	弐段	総本部
98	岡村龍之	168	79	31	弐段	愛知尾張名古屋支部
99	倉田尚彦	175	79	25	初段	兵庫支部
100	内藤慎也	185	90	27	1級	湘南支部
101	古賀裕和	173	81	31	初段	城南川崎支部
102	河岡晶俊	178	89	29	参段	山口支部
103	大木大輔	176	80	25	初段	山形支部
104	徳元秀樹	180	105	28	初段	横浜港南支部
105	板井洋司	185	110	26	初段	東京城北支部
106	渡辺猛	173	77	31	初段	静岡西遠支部
107	中田功章	172	73	26	初段	富山支部
108	岩尾昌哉	174	86	24	初段	横須賀支部 (欠)
109	木村一狼	175	83	31	1級	茨城古河支部
110	石井博裕	173	87	31	弐段	青森支部
111	日野正人	167	79	25	初段	本部直轄福岡道場
112	池田祥規	172	85	28	弐段	東京城西支部
113	進裕治	172	82	30	初段	城西世田谷東支部
114	成田薫	168	95	24	初段	秋田支部
115	山田幸信	175	90	27	初段	東京城東支部
116	日置亮介	177	83	24	初段	兵庫支部
117	大谷善次	170	76	32	弐段	城西国分寺支部
118	本間唯志	170	77	29	参段	総本部
119	山本光昭	172	82	29	弐段	北大阪支部
120	矢島真保呂	180	90	30	初段	城南川崎支部
121	日比野丈二	175	82	31	初段	総本部 (欠)
122	外岡真徳	171	85	28	初段	正道会館
123	西田憲治	174	85	31	初段	岡山支部
124	佐藤正博	178	90	26	初段	千葉北支部
125	弓場祥生	177	88	23	2級	京都支部
126	竹田悦史	167	76	26	2級	三重支部
127	村上友英	171	85	30	初段	大分支部
128	木山仁	176	91	27	参段	鹿児島支部

順位	氏名	順位	氏名	賞	氏名
優勝	木山仁	5位	池田雅人	敢闘賞	市川雅也
準優勝	木村靖彦	6位	池田祥規	技能賞	池田雅人
3位	足立慎史	7位	田中健太郎	試割賞	池田雅人
4位	市川雅也	8位	加藤達哉		

武蔵初の他流試合に石井館長が檄！
「つまらん試合なら帰ってくるな」
全日本キック、J―NETに続き、なんと他のリングに上がらない新日本キックも参戦

イベント

VS

野地竜太〈極真会館〉

来年の1月11日、代々木第2体育館で開催されるKネットワーク実行委員会主催の格闘技イベント「一撃」の全容が徐々に見えてきた。

10月25日、ホテルメトロポリタンで旗揚げ記者会見を行ったKネットワーク実行委員会は、これまで実行委員長に松井章圭極真会館館長を立てていたが、組織の方向性が固まったということで実行委員長の座を西関東地区本部・山田雅俊本部長にバトンタッチ。松井館長は会長職に棚上げされることになった。そして、今後の焦点となるのは、旗揚げイベントにどの団体の、どんな選手が参戦するかということだ。

メインイベントでは、すでにK－1ジャパン前王者の武蔵と、将来が期待されている極真のホープ野地竜太が対決することが正式に決定。このカードは、久々にワクワクさせられる日本人大物対決として非常に注目を集めている。

武蔵は今年のK－1ジャパンGPの決勝戦で、極真のニコラス・ペタスにKO負けし、同大会3連覇を逃すとともに東京ドーム出場権も逃した。

まさに奈落の底に叩き付けられた武蔵は、坊主になって正道会館で一から空手修行の出直し。そんな矢先、Kネットワークで野地と闘わないかという話が舞い込んだ。

打倒ニコラスを果たさなければ前に進めない武蔵には、まさに渡りに船。驚くべきことに、常勝軍団・正道の武蔵にとって、これが初のよそのリングへの殴り込みになる。

そんな武蔵に対して、石井館長に発言を求めると、石井館長は「やっぱり、現時点で一生懸命やっているファイターを評価したい。武蔵が本気でやり直そうという気持ちならば、野地戦後、またジャパンで試合を組みたいし、内容が悪かったら、下北沢あたりのキックの試合でもう1ランク下げてやらせるつもり。そのくらいの覚悟で臨んでほしいですね」と非常に厳しいコメントが返ってきた。武蔵にとっても、後がない試合だ。

しかし、一方の野地も経験こそ武蔵より遥かに劣るが、その潜在能力から「近い将来、K－1ジャパン王者になれる逸材」と評価が高い。現時点で負けても失うものがないだけに、思いきって自分をぶつけてくるだろう。

このメインイベント以外は、今号の締め切り時点では、まだ何も発表されていないが、「一撃」に参戦を表明する団体・選手が続々と手を挙げはじめている。

もともとアマとプロの架け橋となるイベント作りをコンセプトにしていたKネットワーク。まず極真系の選手では、K－1オーストラリア大会決勝戦を、あのマーク・ハントと争ったピーター・グラハムが参戦表明。グラハムはなんと極真茶帯の選手だ。

また、極真の有名ファイターでは、鳥人ギャリー・オニールが出場。ギャリーはすでに母国オーストラリアでキックの試合経験も積んでいる。フィリォやニコラスがそうだったように、極真も外国人選手のほうが違和感なく、今後もプロのリングに出場していきそうだ。

そこで本誌が気になるのが、今、最も話題を集めそうな極真ロシア選手。もし、セル

1・11 K-NETWORK「一撃」最新情報

極真系ファイターも続々と参戦

ゲイ・オシポフやセルゲイ・ブレカノフ、アレクサンダー・ピチュクノフあたりが出場すれば、大きな旋風を巻き起こすことになるだろう。

　流れ次第では、Ｋネットワークには世界中に広がる極真外国人選手が、腕試しで上がれるリングになるかもしれない。また、Ｋネットワークでは、総合の試合も実験的に行おうとしているので、どんな埋もれた強豪が発掘されるか楽しみ。Ｋネットワークの魅力は、ズバリ言ってその部分だ。とにかく、極真が動けば、格闘技界の大きな山が動いたというイメージになる。

　もちろん、「一撃」が成功するかどうかは、極真戦士次第。しかし、記者会見以降、いくつかのキックボクシング団体も名乗りを挙げている。

ピーター・グラハム（極真会館／オーストラリア）

ギャリー・オニール（極真会館／オーストラリア）

マウリシオ・ダ・シルバ（チームTBC／ブラジル）

メイン

武蔵〈正道会館〉

VS

▲武蔵と野地の試合は、久々にワクワクできる日本人対決だ

キック界も団体の垣根を越えて集結

まず、実行委員会のメンバーにも入っている全日本キックボクシング連盟からは、ミドル級の新田明臣、清水貴彦のどちらかが参戦予定。またＪネットワークからは、フェザー級王者の増田博正とバンタム級王者の浦林幹が名乗りを挙げている。

　また驚いたのは、武田幸三のいる新日本キックボクシング協会が協力体制を表明し、日本ミドル級王者の松本哉朗を出場させる意志を明らかにしたことだ。

　これまで新日本キックは、伊原信一代表の才覚もあって興行はいつも後楽園ホールを満杯にし、他のキック団体とはまったく交わることがなかった。その姿勢は変わらなさそうだが、他団体のキックボクサーとは闘わないことを条件に「一撃」に参戦してくる可能性は高い。新日本キックが他団体のリングに上がることは、よほどの大英断と言えるだろう。

　この他、チームＴＢＣからＫ－１ジャパンで角田信朗と対戦したマウリシオ・ダ・シルバや森口竜が出場予定。これらのメンバーで、どんなマッチメイクが発表されるか楽しみである。

　ただし、岩崎達也が極真会館を脱会したことにより、「一撃」旗揚げ戦での総合ルールでの試合はなくなりそう。今回は全試合Ｋ－１ルールに準じた立ち技試合のみラインナップされそうだ。

　いよいよ本格的に姿を現すＫネットワークの「一撃」。果たしてプロ格闘技イベントにどんな波紋を投げかけるか。なお、同大会のチケット先行発売は11月25日から、一般発売は12月1日からスタートする（46ページ参照。）■

松本哉朗（新日本キックボクシング協会）

増田博正（Jネットワーク）

清水貴彦（全日本キックボクシング連盟）

新田明臣（全日本キックボクシング連盟）

〜ファンのリアルな声が格闘技界を変える!!〜

短期集中連載

『SRS・DX』オフィシャルサイト・最新ニュース!!

http://www.so-net.ne.jp/srs-dx/

第1回

今日のニュースをドウ・ジャッジ！

ニュース・ジャッジ

新聞では毎日様々なニュースが報道されているが、いくら一面で報じられていても、まったく興味が湧かない記事もあるだろう。ファンが今一番興味がある話題はなんなのか？　そして、興味があったとしても、のれない話題もあるんじゃないのか？　ほんなら、ファン投票で白黒ハッキリさせろや！　という思いから生まれたのが「ニュース・ジャッジ」なのだ。そのニュースの論調やアングルに、「のれる／のれない／興味ナシ」かを判断（ジャッジ）して投票していただくことで、ファンのニーズは一目瞭然というワケだ。集計方法は、「のれる」＆「のれない」を興味アリと見なし、その合計数の多い順にランキングにしている。それでは、例として11月14日の「今日のランキング」（図1）を見てみよう！

この日、東スポが一面で「猪木軍内ゲバ」と大々的に報じた。ファンもこのニュースに大いに興味を示し、そのまま1位にランキングされたのだ。2位には「桜庭緊急手術」のニュースがランクイン。東スポ紙面では、4面でやや小さめに報じられたにもかかわらず、1位とはわずか1票差だった。

また、ニュースはそれぞれテーマで分類されている。これを集計したのが、次の「テーマランキング」だ。「今日のランキング」は一日限りだが、こちらには投票結果がどんどん蓄積されていく。では、現在の上位5位までを発表しよう！（図2）。

ご覧のとおり、現在の総合投票数1位のテーマは"猪木軍VSＫ―1"。必ずと言っていいほど毎日紙面に載るという話題の多さもあるが、ファンがいかに興味を示しているかが分かる。しかし「のれない」や「興味ナシ」への投票数が多いのもミソだ。また、見逃せないのは圧倒的に「興味ナシ」に投票されているにもかかわらず3位に食い込んでいる"2001世界最強タッグ決定リーグ戦"。毎日、新聞に載ってはいるが、ファンの興味はそれほどでもないということか（サイトを見ているのが格闘技ファンが多いのもあるだろう）。では、そのテーマの中でも投票数の多い記事は何なのか？　それが分かるのが次の「見出し一覧」だ（図3）。各テーマとも10位まで表示される。

ということで、ニュース・ジャッジの仕組みがお分かりいただけただろうか？　このほかにも、「週間ランキング」というのもあり、こちらはその週のニュースがテーマ別に集計されて見られるようになっている。しかし、こんな説明よりも実際に参加していただくのが一番。しかも、ニュース・ジャッジは毎日更新されるので、今の流れに乗り遅れないためにも、毎日のチェックがオススメだ！　皆さんに投票していただいたデータは、誌面でも有効活用させていただく。これから格闘技界を変えていくのは、ココに投票されたファンの生のデータなのだ!!　それではキミも今日から、ドゥ・ジャッジ!!　■

ウェブゴング、ニュース・ジャッジ、噂の三面記事DIGITALなど、スクープ記事あり、遊べるコンテンツありの『SRS・DX』オフィシャルサイト。みんな、もうアクセスしてくれたかな〜？　今号から始まるこのコーナーでは、オフィシャルサイトの情報をガンガン紹介していくよッ！　さて、まずはコンテンツの紹介からということで、今回は格闘技界で旬の話題が分かる「ニュース・ジャッジ」。アナログ野郎のサダハルンバも、最近はパソコンを眺めることが多くなったんだよッ！（操作はできないけど……）

Today's Ranking（2001年11月14日水曜日）

順位	見出し	のれる	のれない	合計	興味なし
1位	猪木軍、内部抗争勃発！　安田、藤田が小川批判！	117票	13票	130票	8票
2位	桜庭、緊急手術！　復帰は大幅遅れか	103票	26票	129票	9票
3位	永田、『猪木祭り』参戦はコールマン戦が条件	40票	71票	111票	27票
4位	興奮！　ステイシー下着公開の刑に	70票	9票	79票	59票
5位	元リングス坂田亘、『真撃』に参戦要求！	34票	36票	70票	68票

▲図1

Theme Ranking（11/1〜11/18現在）

順位	テーマ	のれる	のれない	合計	興味なし
1位	猪木軍vsK-1	2498票	1293票	3791票	932票
2位	『PRIDE17』	1998票	1040票	3038票	593票
3位	2001世界最強タッグ決定リーグ戦	522票	346票	868票	1739票
4位	12・9「真撃」大阪大会	350票	303票	653票	647票
5位	G1タッグリーグ戦	217票	134票	351票	226票

▲図2

見出し一覧　テーマ「猪木軍vsK-1軍」

順位	見出し	のれる	のれない	合計	興味なし
1位	猪木軍、K-1壊滅へ合同合宿	140票	31票	171票	41票
2位	高田、小川に反撃「お前こそ小心者！」	121票	41票	162票	25票
3位	猪木、『猪木祭り』に「小川いらねぇ」	102票	59票	161票	10票
4位	「猪木軍vsK-1」は、5対5に決定！	115票	45票	160票	11票
5位	「つまらんことやったら殺す！」猪木、大仁田の乱入拒否	120票	22票	142票	29票

▲図3

大道塾
2001北斗旗オープントーナメント
第1回世界空道選手権大会
11.17★代々木第２体育館

撮影◎吉澤晃

「ダテにこれまで飲んだくれてたわけじゃねえぞー!」

戦慄 興奮 感動

大道塾初の世界大会は超・大成功 東塾長、お見事です!!

▶海外、とりわけロシア勢の強さが目立った今大会。超重量級の決勝もロシアのグリゴリエフ（白のマスク）と日本のエース・稲垣拓一の闘いに。力と力が正面衝突する凄まじい名勝負だった

初開催の世界大会を大成功させた大道塾・東孝塾長。本誌の取材に、大会を総括してタイトルの言葉をくれた

超重量級

四面楚歌、満身創痍の完全燃焼 エース稲垣、決勝で壮絶に散る！

日本勢たった1人の生き残りとして感動的な闘いを見せた稲垣。マスクを取ったその顔は血まみれだった。稲垣は試合後、現役引退を表明

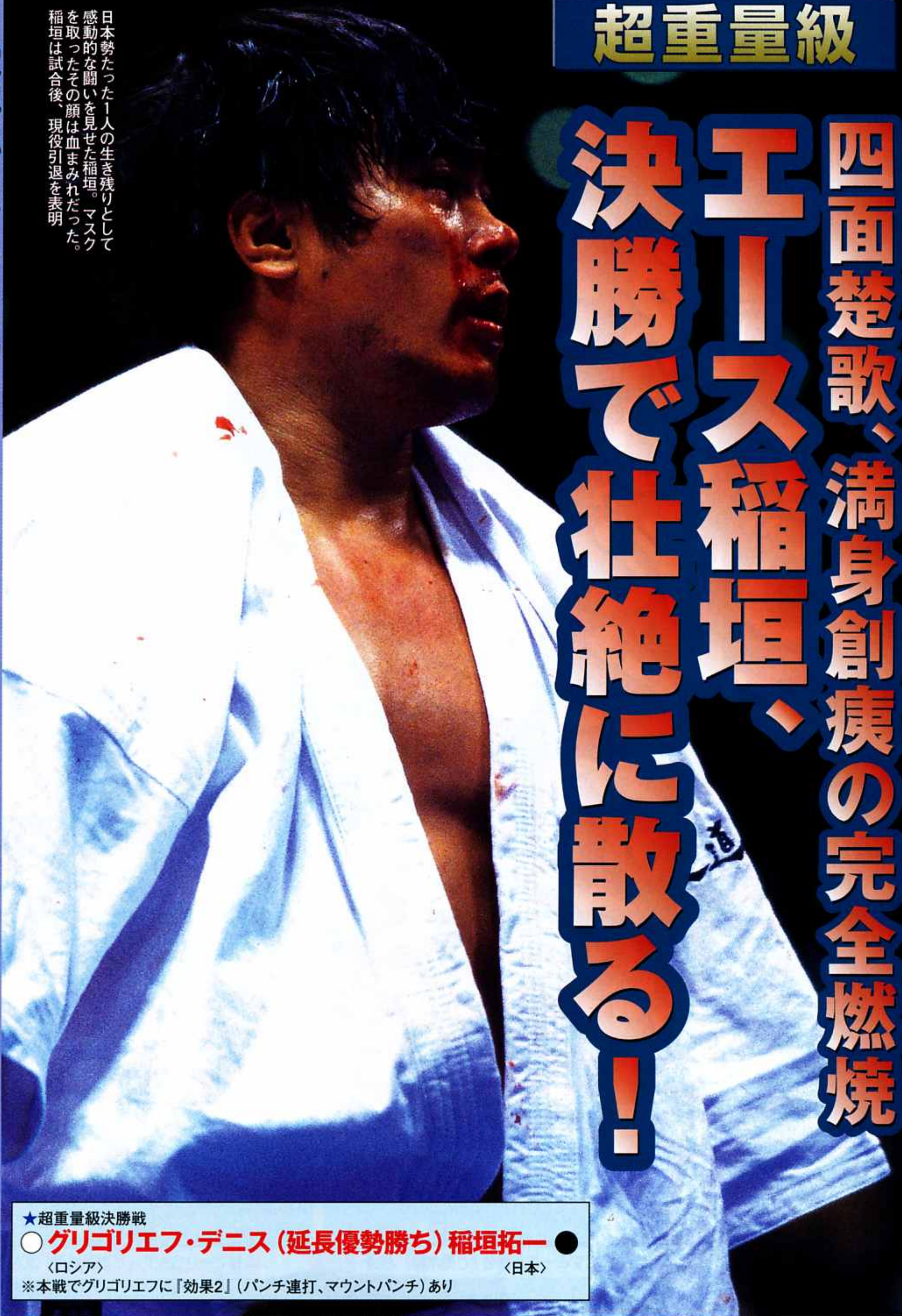
決勝戦

大逆転まであと一歩……優勝はロシアの怪物！

▲本戦は圧倒的なグリゴリエフのペース。パンチの連打、そしてマウントパンチで『効果』を奪う。最後はこのポイントがものを言って優勢勝ちとなった

▲ダウン寸前、何度も腰が崩れかけた稲垣だが、それでもパンチで前進

延長戦になると稲垣が攻め込む場面も増えてきた。この底力はどこから出てくるのか!?

▲大逆転優勝をかけ、腕ひしぎ十字固めの体勢に入った稲垣。渾身の気合いを込めてクラッチを切ろうとするが……。2度のチャンスは、いずれもタイムアップに

★超重量級決勝戦

○グリゴリエフ・デニス〈ロシア〉（延長優勢勝ち）稲垣拓一〈日本〉●

※本戦でグリゴリエフに『効果2』（パンチ連打、マウントパンチ）あり

大道塾といえば、何はともあれ〝飲んだくれ空手〟である。東孝塾長を筆頭に、選手たちも酒の席でのエピソードにはこと欠かない豪快かつ個性的な面々ばかり。

空手家というとカタいイメージがあるが、大道塾の選手たちときたら酒はガンガン飲むし下ネタは連発するし、まったく飾ったところのないムキ出しで生身な感じが逆に魅力的なのだ。それでいて試合では顔面パンチも寝技もありのハードな〝格闘空手〟を繰り広げるから、これがまたカッコいい。

その大道塾が新競技名『空道（くうどう）』を冠し、初の世界大会を開催した。米国同時多発テロ事件の影響でビザ発給に支障をきたし、外国人選手の欠場が続出するアクシデントにもかかわらず、予想を遥かに超えた盛り上がり。東塾長をして「これまでダテに飲んだくれてたわけじゃねぇぞ！（笑）」と言わしめるほどの大成功となったのであった。

その最大の要因は、やはり外国勢、特にロシア選手の脅威と、それに立ち向かった日本代表の悲愴感あふれる闘いぶりだろう。大会の第1試合目から日本代表がハイキックでKOされる波乱の幕開け。その後も日本選手は次々と敗れ去っていく。ロシア勢は技術的に日本とほとんど互角な上、身体能力で圧倒的な差があるのだから、その強さには戦慄を覚えてしまう。

特に身体指数（大道塾のカテゴリー基準。身長＋体重の数値）に上限がない超重量級では、体格差、パワーの差を痛感させられた。ベスト4に残った日本人が稲垣拓一たった1人という危機的状況。稲

大道塾
2001北斗旗オープントーナメント 第1回世界空道選手権大会
11.17★代々木第2体育館

▲出場表明していたセーム・シュルト（'96 & '97年の北斗旗無差別級王者でもある）は、『プライド17』の佐竹雅昭戦で左拳を負傷（小路戦での古傷が再発）。オランダ勢のセコンドとして会場を訪れ、欠場の挨拶を行った

準決勝戦

▲▶'96年の北斗旗無差別で3位になっているロシアのアリエフ・ビャセスラフのパワーに防戦一方だった稲垣だが、大型選手対策の最終兵器・金的蹴りで動きを止める。その後も下腹部へ蹴りを集中し、マウントパンチも決めて劇的な判定勝利！　試合が終わると、稲垣はガクッとヒザをついた。この時点で、すでにダメージが極限まで達していたのだろう

崖っ淵の準決勝、稲垣を救ったのは“お家芸”の金的攻撃だった！

▶〈2回戦〉稲垣に僅差の判定負けを喫したフィリポフ・アナトリーは、敗北の瞬間、思わず泣き崩れてしまう。ロシア勢の勝利へかける執念にも、素晴らしいものがあった

▲超重量級の入賞者たち。左から稲垣（準優勝）、グリゴリエフ（優勝）、ストッパ（3位）、アリエフ（4位）

超重量級トーナメント表
（ベスト8）

- アリエフ・ビャセスラフ（ロシア）
- バニャトフ・ヴァリユラ（アゼルバイジャン）
- フィリポフ・アナトリー（ロシア）
- 稲垣拓一（日本）
- アンドレア・ストッパ（イタリア）×棄権
- 山崎進（日本）
- レナード・ワーナー・ボルゼコスキー（ドイツ）
- グリゴリエフ・デニス（ロシア）

▲▶〈2回戦〉あえて階級を上げて出場した、もう1人の優勝候補・山崎進はイタリアのアンドレア・ストッパに2回戦で敗れる。本戦では右ハイで『効果』を取りかけるなど健闘したが、最後は力尽き、腕ひしぎ十字でタップ。投げと寝技が本領の山崎だが、ストッパも実は柔道出身の強豪。身長で18センチ、体重で16キロの差があり、組み手争いからキツそうだった

▲現役最後の試合を終えた稲垣は、本部席の東塾長に挨拶。王座死守はならなかったが、100％以上の働きを見せた稲垣を塾長も称えていた

垣への声援は、次第に悲痛な、切迫した色が濃くなっていった。そしてそれ故に、大会のヴォルテージはいっそう高まったのである。

周りを全て敵に囲まれ、しかも自分より大きい相手ばかり。状況の厳しさを一番感じていたのは稲垣本人だろう。だが、今大会を「卒業式」として選手生活の総決算にすると決めていた稲垣は、あえて自分のスタイルを崩さず、ロシア勢に正面からぶつかっていった。何度も場外まで突き飛ばされながら、ギリギリのところで勝利を掴み取り、ついに決勝まで勝ち進んだその姿には、まさに漢（おとこ）の一文字がふさわしい。

満身創痍の稲垣。準決勝では、試合が終わるとヒザから崩れ、試合場でへたりこんでしまった。なのに決勝でも、体格で自分より勝るグリゴリエフ相手に正面からの特攻だ。顔がのけぞる。腰が落ちる。「もうダメか」という瞬間の連続。それでも稲垣はありったけの力を振り絞って闘い続け、最後には逆転勝利寸前まで頑強なロシア人を追い込んだ。

たしかにポイント差で負けはした。でも、それになんの不満がある？　稲垣が見せてくれた完全燃焼は、たまらなく美しかった。「よくやってくれた」と、かける言葉はもうそれしかない。

大会が終わってまず感じたのは、日本が5階級中2つの階級で王座を奪われた残念さではなく「凄いものを見た」という充実感だ。東塾長が20年かけて作り上げた〝飲んだくれ空手〟の世界に、たっぷりと酔いしれさせてもらった。

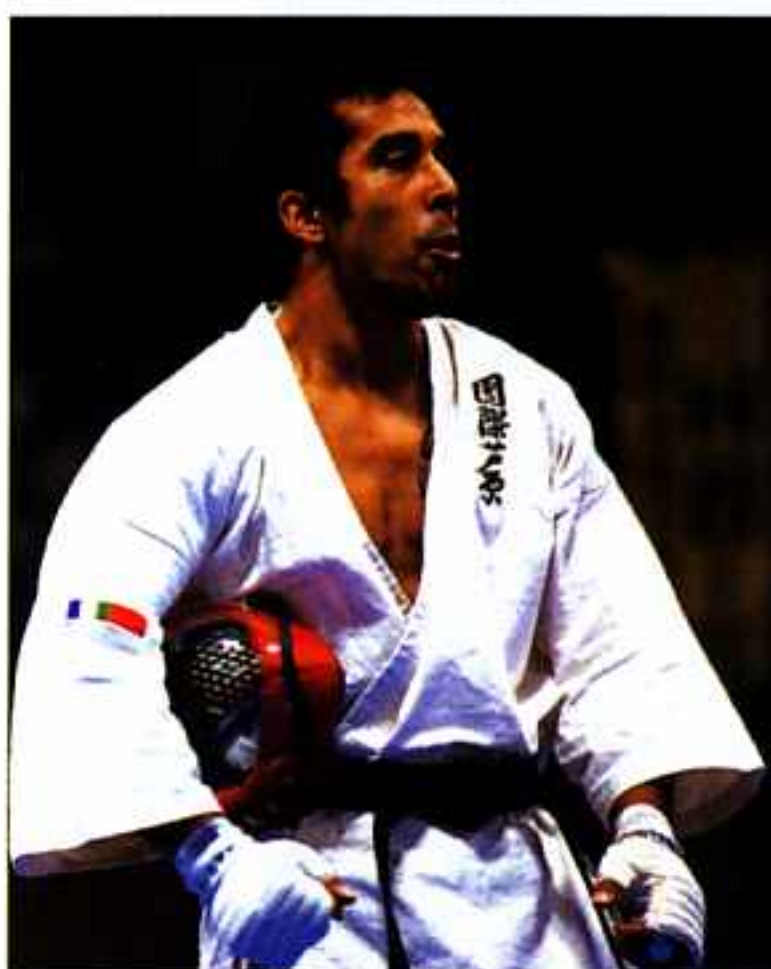
塾長、お見事でした！　（橋本）

重量級

“一蹴”必殺！

ステファン・タピラート 真・人間風車が重量級を席巻!!

されど藤松、北斗旗死守！ 4年後もおまえに任せたぞ

▲テコンドー界では屈指の実力者であるタピラート。2回戦では勢いある上段後ろ回し蹴りで一本勝ちしている

◀プロとしても活躍中なのに今大会に参加したことについて「賞金目的でなく、いろんな選手と試合がしたいから」と語ったタピラート。試合後は、よほど悔しかったのか目頭を熱くする場面も

速い！　このキックを見よ！　一瞬にして相手の懐に後ろ回し蹴りを決めるタピラート。“一蹴”で相手を仕留める

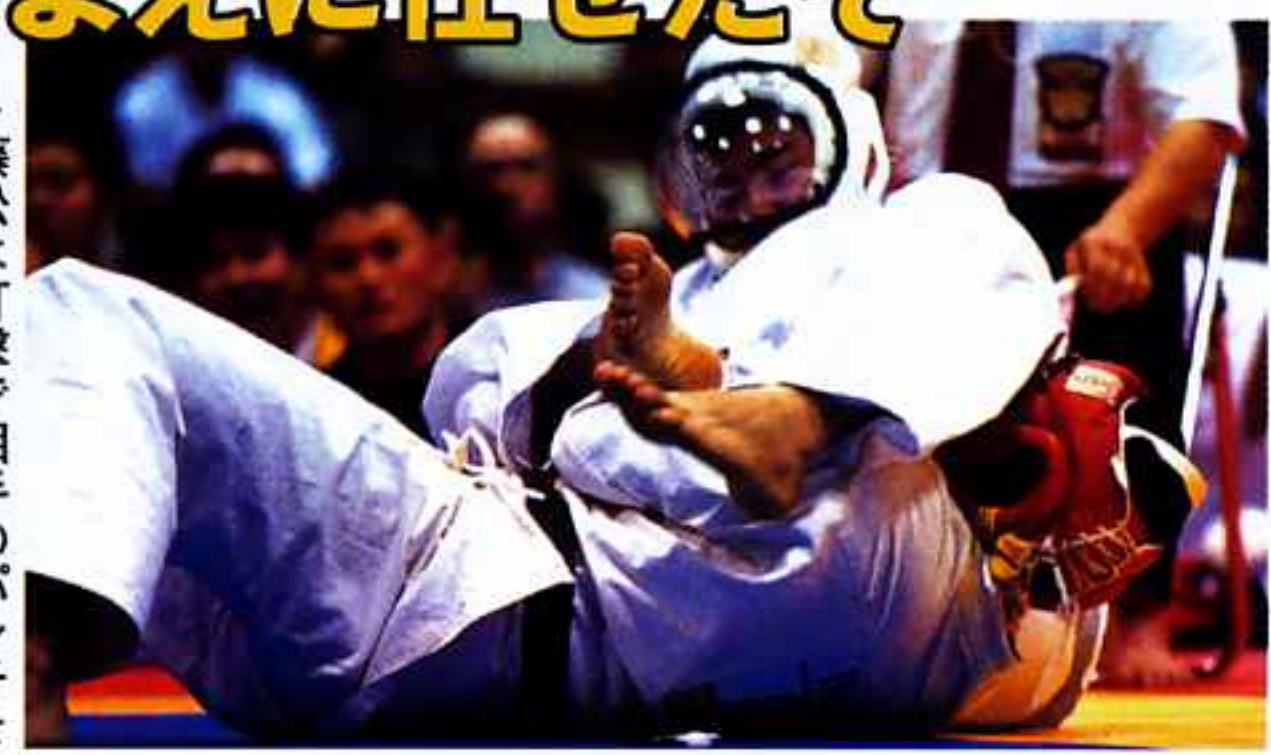
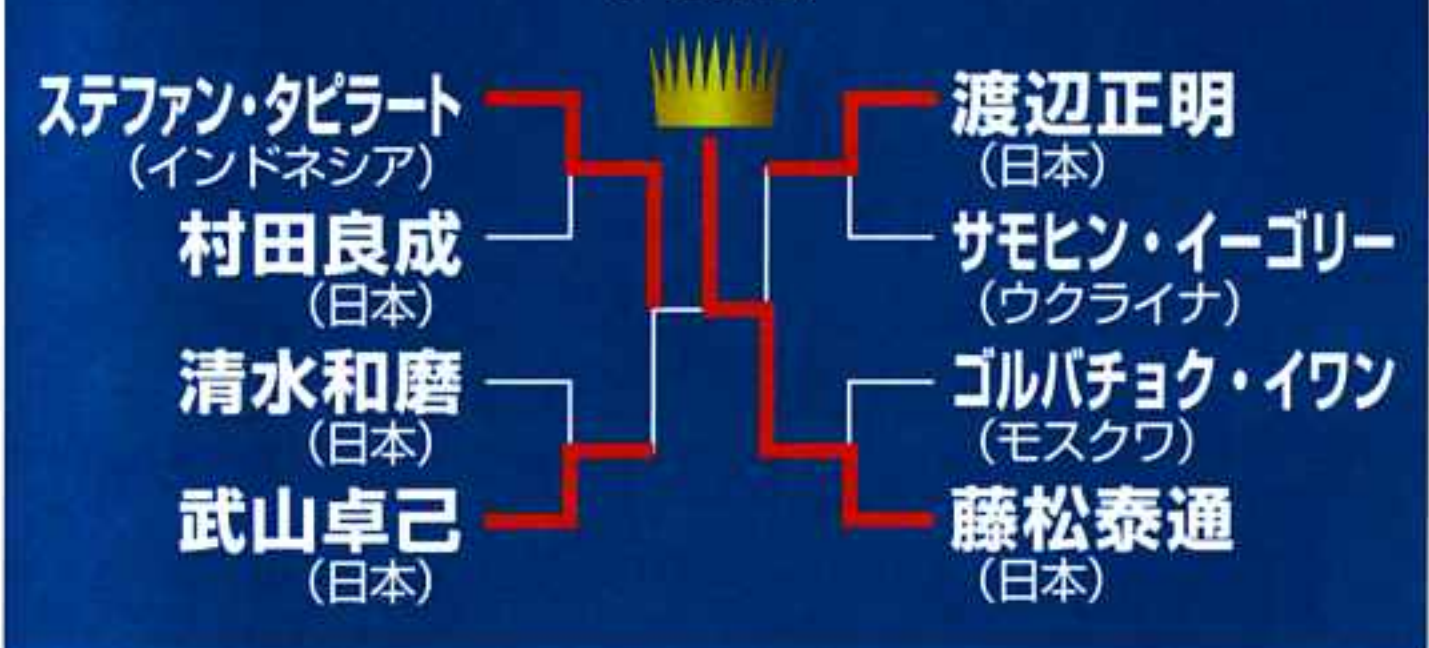
▶全階級をとおして日本人選手が次々と姿を消していく中、重量級は3名の選手が入賞。左から、タピラート（準優勝）、藤松（優勝）、武山卓己（3位）、渡辺正明（4位）

▲試合後「関節ははじめから狙ってた。大会前は寝れない日が続いたけど、今は優勝できてホッとしてます」とコメント。年齢は20歳。大道塾の新しい時代は藤松にかかっている

▶藤松は打撃で相手のパンチを誘い、カウンターのタックルからテイクダウンを奪う。すぐにタピラートの上になり、腕ひしぎ十字固めで優勝を決めた

▶セコンドたちの表情を見よ！　藤松が勝利を決めた瞬間の、この歓喜。それほどまでに、タピラートの存在は脅威だったのだ

重量級トーナメント表
（ベスト8）

ブロック	選手	選手
左	ステファン・タピラート（インドネシア）	村田良成（日本）
左	清水和磨（日本）	武山卓己（日本）
右	渡辺正明（日本）	サモヒン・イーゴリー（ウクライナ）
右	ゴルバチョク・イワン（モスクワ）	藤松泰通（日本）

★重量級決勝戦

○藤松泰通（本戦一本勝ち）ステファン・タピラート●
〈日本〉　〈インドネシア〉
※腕ひしぎ十字固め

それにしても重量級は意外な展開になった。いやぁ、まさか元テコンドー王者のタピラートが、決勝戦に進出してくるとは！

テコンドーというと、他流試合に弱いという印象がどうしても拭えない。K—1でアンディと闘ったピア・ゲネットもアッサリとKO負けしてたし……。

それがこのタピラート、1回戦から早くも大爆発。後ろ回し蹴り“一蹴”で一本勝ちを奪ったり、跳び蹴りで相手をぐらつかせたりと、恐ろしく強い。なぜだ？

試合前、通路でシュルトとなにやら話しているタピラート。インドネシア出身なのに語学が堪能だなぁと感心してたら、実は彼、オランダ在住で、ゴールデン・グローリーに所属してるんだとか。

やられた！　ゴールデン・グローリーといえば、ヒース・ヒーリングやギルバート・アイブルなどがいる名門チーム。彼らと一緒に練習してるとは、そりゃ強いはずだ。しかも去年6月のリングスオランダ大会に出場し、総合の経験もある選手だった。

若さへの不安もあったが、決勝でこのゴールデン・グローリーからの刺客を迎え撃ったのは、弱冠20歳の藤松だった。

日本重量級ベテラン勢が苦戦する中で、藤松はタピラートに蹴り技を出させないまま腕ひしぎで撃破。全日本重量級優勝に続く、嬉しい2冠達成となった。

常に落ち着きがあり、この若さで貫禄十分。今大会で引退を表明したベテラン勢も多いだけに、藤松よ、これからの大道塾はお前に任せたぞ！

（渡部）

大道塾
2001北斗旗オープントーナメント
第1回世界空道選手権大会
11.17★代々木第2体育館

軽量級

圧倒的強さで軽量級制覇！ 空手界の〝小川〟は全てがケタ外れだ!!

その技術は独創的で華麗!!

試合前、「自分が勝つしかない」と語っていた小川。見事に結果を出して満面の笑みだ

▶東塾長からは絶対に試合会場ではやるなと厳命された「カーレンジャー」のポーズがこれ。実は、試合場を降りる寸前でもこのポーズをやって塾長は思わず苦笑い。どこの世界でも小川という名の男は師匠の言うことを聞かない模様

▶独自に開発したテクニックでロシア勢を翻ろうした小川。写真は中段突きを放つと見せかけて道衣をキャッチしたところだ（準決勝）

◀軽量級入賞者。左からデニス（準優勝）、小川（優勝）、セルゲイ（3位）、土田真也（4位）。この大会で選手を引退する小川。今後は「基本的には空手の指導。個人的にはレスリングを学んでみたい」と。準優勝のデニスは「小川は憧れの人。試合ができて光栄だった」と語って負けてなお悔いなし

★軽量級決勝戦
○小川英樹（本戦一本勝ち）シニューチン・デニス●
〈日本〉　〈ロシア〉
※送り襟絞め

軽量級トーナメント表
（ベスト8）

- 佐藤繁樹（日本）
- シニューチン・デニス（ロシア）
- (欠)カーザウバエフ・アルベク（カザフスタン）
- 土田真也（日本）
- スピバコフ・セルゲイ（ロシア）
- 榎並博幸（日本）
- 寺西登（日本）
- 小川英樹（日本）

▲デニスの右ローをキャッチして倒し、すばやくサイドを取って送り襟絞めを仕掛ける。デニスはたまらずタップした

▲予想どおりロシア勢は強かった。だが、小川はそんなロシア勢を次々撃破。決勝では1分ほどで送り襟絞めで一本勝ち！

かつて、帯を使った首絞めで相手を落としたこともある小川英樹。どんな技が飛び出るかまったく分からないのが楽しみで恐ろしい男なのだが、世界大会という大舞台でも、それは遺憾なく発揮された。

なにしろ、中段突きを放ったと思ったら、相手の道衣を一瞬のうちに掴んでしまっているのだ。

相手とすれば、メチャクチャ嫌な感じだろうが、もちろん掴むだけで終わるわけはない。道衣を引っ張られ、前足に体重が乗ったところに足払いをかけられて転倒させられ、気付けば寝技に持ち込まれている。それも時間にして3、4秒の出来事だから天才だ。

2回戦、3回戦（1回戦は不戦勝）はこの動きで相手を圧倒しまくり、危なげなどまるでない。観客は、掴んでの攻撃が許される大道塾ルールを熟知研究した小川の動きに気持ち良く酔わされた。

だが、だ。決勝の相手、シニューチン・デニスは、昨年の体力別準優勝の伊藤紀夫、全日本パンクレイション準優勝の佐藤繁樹、今年のグラン・トロフィー優勝の土田真也を破って決勝戦に上がってきたロシア人。今大会においてもロシア勢は恐ろしい強さを発揮してるだけに万が一のことはある。

なのに小川は開始早々、いきなり足払いで倒してキメのポーズ。その後も中段突きからの道衣キャッチで揺さぶり、最後は蹴り足を掴んで頭突き。倒したところを送り襟絞めで一本と秒殺状態だったのである。もう見事の一言！

今回で選手を引退する小川。試合後の〝戦隊〟ポーズも含めて最後まで彼は華麗であった。（ブチ）

大道塾
2001北斗旗オープントーナメント
第1回世界空道選手権大会
11.17★代々木第２体育館

中量級

加藤清尚、痛恨のドクターストップ！ 高田よ、よくぞ日本の牙城を守った!!

▼加藤、飯村が消える中、ロシアの猛威を止めた高田久嗣

▲この左の上段蹴りが日本の砦を死守した

▲2回戦は左手薬指脱臼、右拳骨折しながら勝利した加藤だが、準決勝はドクターストップ

中量級の注目選手はやはり加藤清尚だろう。かつて軽量級の体格で無差別級を制したこともある加藤は大道塾史上に残る名選手中の名選手。そんな彼が自動車事故で足を複雑骨折し、誰もが選手生命を断たれたと思った中で奇跡の復活。有終の美を飾るべく世界大会にエントリーしてきたのだ。だが、加藤は2回戦で左薬指を脱臼、右の拳を骨折。試合には勝ったものの準決勝はドクターストップとなってしまったのだ。無念だが、こればかりは仕方ない。その加藤に不戦勝した高田久嗣が決勝に進出。ロシアのベスランと闘うことになった。ベスランが押し気味の展開で試合は進み、しかも延長に入ると高田の左上段に突きを合わせだし、高田は苦戦。だが、ここで高田は必死の気持ちをふり絞って打ち合いに応じ、左上段蹴りで一瞬グラつかせて『効果』。この後も両者、試合終了の笛の音も聞こえないほど激しく殴り合う。結果は高田が優勝したわけだが、魂と意地のこもった両者に満場の拍手が鳴り響いたのであった。　（ブチ）

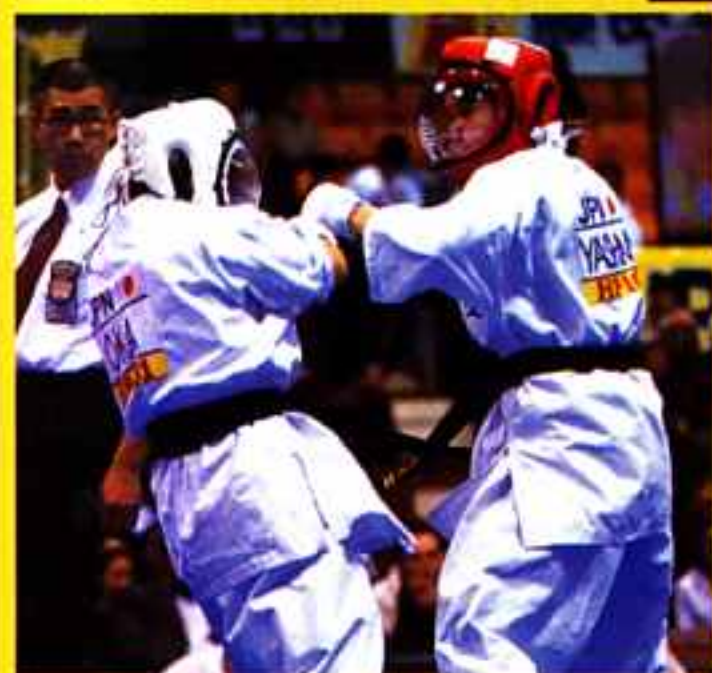
中量級トーナメント表
（ベスト8）

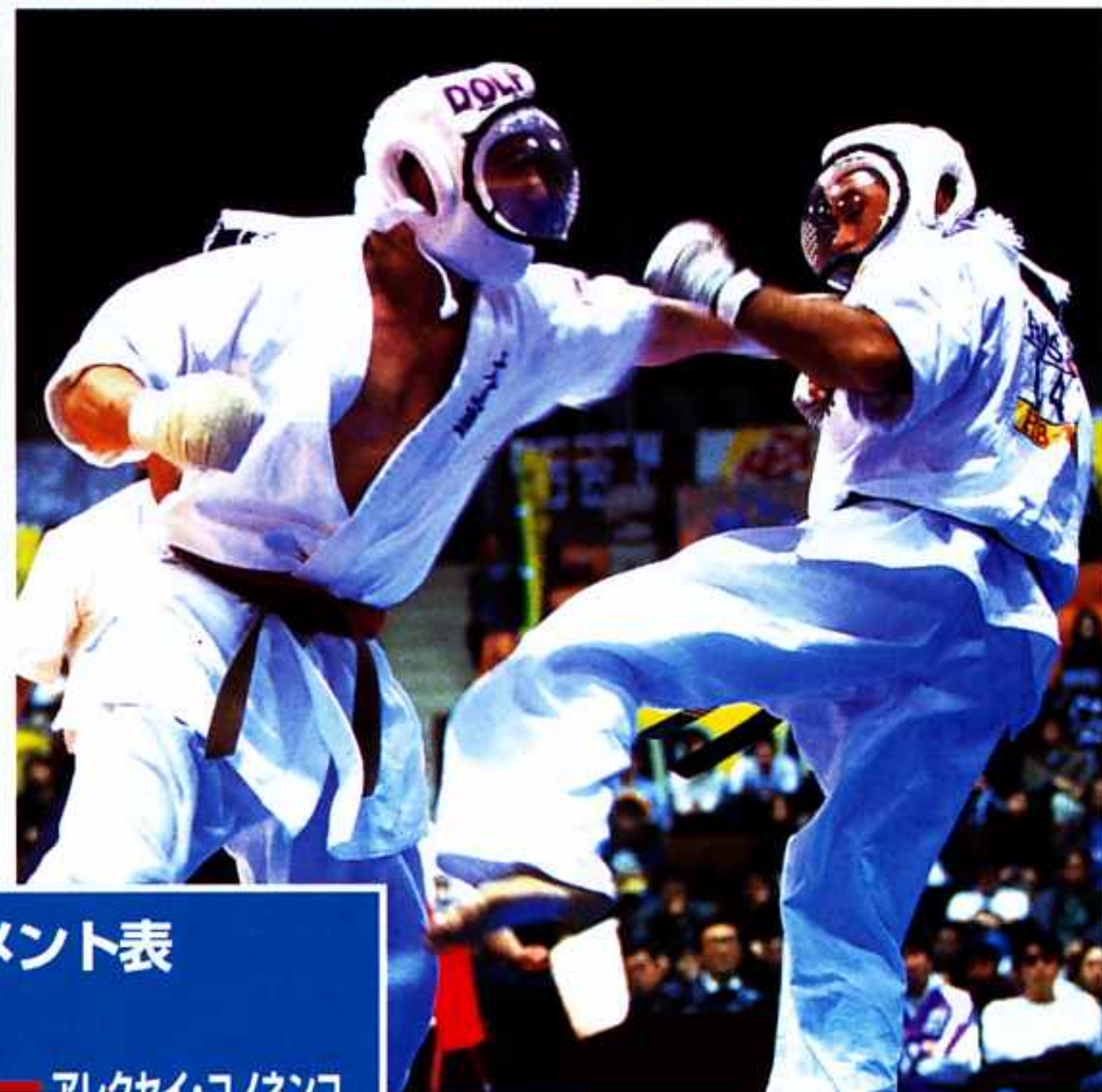
- ボロディ・ユーリ（ロシア）
- 高田久嗣（日本）
- リン・レイ・ムエイ（台湾）
- 加藤清尚（日本）
- 中川博之（日本）
- 佐野教明（日本）
- ダシャエフ・ベスラン（ロシア）
- 飯村健一（日本）

軽重量級

“大道塾のニコラス” コノネンコ敗れる！

▶東塾長は得意の氷柱手刀割りの演武を久しぶりに行う。気合い一閃、13枚の氷を見事に砕いた！

▼女子部の特別試合として、女子ボクシングのトップランカーとしても知られる八島有美VS岡裕美のワンマッチも行われた。女子とはいっても、やはり格闘空手、頭突きも平然とカマし合う激しい組手の末、試合は引き分けとなった

▲大道塾史にその名を残す名チャンピオン、長田賢一は短刀取りや5人掛けなど、実戦的な護身術を披露

▲コノネンコは東北本部の師範代でもある（愛称はニャンコ先生＝コノ“ニェンコ”だから）。「ロシアから日本に来て6年。大道塾には凄く良くしてもらったから、今日は本当は日本代表として出場したかったデス」と極真のニコラス・ペタス顔負けの流暢な日本語で語った

▲体力別3連覇&98年無差別優勝、今大会でも大本命だったコノネンコ（右）は決勝でルドルフと対戦。重いパンチに大苦戦し、ついに右ストレートで『有効』を奪われてしまう。試合は2ポイント以上の『有効』がないため自動的に延長となったが、コノネンコはルドルフを攻略できずに試合終了。本戦のポイントによって、ルドルフの優勢勝ちとなった

軽重量級トーナメント表
（ベスト8）

- 小野亮（日本）
- 能登谷佳樹（日本）
- ババヤン・ルドルフ（ロシア）
- 岩木秀之（日本）
- アレクセイ・コノネンコ（ロシア）
- 寺本正之（日本）
- クリスチャン・マルチネス（チリ）
- 長野常道（日本）

ビクトル・ラバナレスを直撃！

「知ってるVT選手？　タツヨシだ。彼との試合はケンカだったからな」

ヤノタク（矢野卓見）VSランバー、ドス・カラスJr VS大刀光など意表をついたカード編成が決まった「DEEP2001」（12月23日、ディファ有明）。そのメインで行われるのが、村浜武洋VSビクトル・ラバナレスの一戦だ。辰吉丈一郎に勝ったこともある元ボクシング世界王者の初VTはどんなものになるのか？　メキシコに住むラバナレスに意気込みを聞いてみた。

構　成◎橋本宗洋
取材協力◎DEEP2001事務局

——今回「DEEP2001」に出場することになったきっかけを教えてください。

ラバナレス　日本の友人が話を持って来て、いろいろ説明してくれたんだ。「ケンカ？ならできるよ」って二つ返事でOKしたよ。

——10月30日にはボクシングの中米タイトルも獲得されたそうですね。ボクシングでもまだまだ活躍中のあなたが、どうしてVTに出ようと思ったんですか？

ラバナレス　ボクシングは私にとって人生そのものだから、めったなことではやめないよ。逆にボクシングを続けることが、新しい闘いへのエネルギーになるんだ。

——辰吉選手に勝って世界タイトルを取ってから、もう9年にもなります。正直、衰えはないんでしょうか？

ラバナレス　とんでもない！　むしろ昔よりも今のほうが調子がいいくらいだ。それだけの経験を積んでるわけだし、3Rならチョロイもんだ。

——これまでにVTの試合を見たことはありますか？

ラバナレス　ああ、なんか前にテレビでやってたな。エキシビジョンだったと思うけど。

——誰の試合でした？

ラバナレス　そこまで覚えてるわけないだろ（笑）。

——誰か知っているVTの選手はいますか？

ラバナレス　ハルク・ホーガンとか。

——いや、ホーガンは……ちょっと違いますね（笑）。

ラバナレス　じゃあ、あとはタツヨシかな。

——辰吉選手はもっと違いますよ（笑）。

ラバナレス　そうかい？　だって彼はケンカが好きなんだろ？　勇敢な男だったな、タツヨシは。彼との試合は、それこそケンカ、VTみたいなもんだよ。

——今回の村浜戦に向けては、どんな練習をしてるんですか？　組み技対策とか。

ラバナレス　走り込みと普段どおりのトレーニングで充分だろう。それに、どんな試合でも対策は練ったことがないんだよ。1Rごとに全力でやるだけだ。

——では、キック、ヒザ蹴りなどパンチ以外の打撃に関しては？

ラバナレス　どうせ私には当たらないから、つまらないね（笑）。殴り合おうよ！

——村浜選手はシュートボクシングという競技の出身で、今度の試合も打撃戦が期待されています。

ラバナレス　ムラハマはパンチも得意だと聞いてるから、思いっきり殴り合いがしたいと思う。

——試合ではボクシンググローブとオープンフィンガーグローブが選択できますが、どちらを選びますか？　オープンフィンガーは使い慣れてないでしょうけど、アンコが薄いから威力が増すと思うんですけど。

ラバナレス　その辺はコーチに任せてるけど……。たぶんボクシンググローブだね。いつもと変わったことをする必要はないね。

——ボクシングのどんな部分がVTで有利になると思いますか？

ラバナレス　ジャブと左右のフック。それにフットワークも使えば、充分に勝てるさ。

——初のVTですが、「ここは誰にも負けない」と思う部分はどこでしょう？

ラバナレス　闘いの経験、そしてスピリット。これには自信がある。

——なるほど。日本での試合は久々ですけど、日本の観客にどんな印象を持ってますか？

ラバナレス　日本の人たちは大好きだね。特に女の子がかわいいよ（笑）。

——分かりました（笑）。それでは最後に、村浜選手へメッセージがあればどうぞ。

ラバナレス　とにかくアグレッシブにきてほしいね。そうすれば最高の試合ができる。それから、タツヨシともう1回闘いたいんだよ。彼は会場に来るのかい？　彼の目の前で、1RKOで勝ってみたいね。■

12・23『DEEP』で初VT
村浜武洋と対戦

どうだ、この勇姿は！　ベルトをタスキがけにしたファイティングポーズは武藤敬司ばり！

ビクトル・ラバナレス……1962年12月23日、メキシコシティ出身。92年9月、辰吉丈一郎をTKOに下してWBC世界バンタム級王座獲得。以後4度の防衛に成功。辰吉との再戦では判定で敗れるも、2度にわたる激闘は名勝負として語り継がれている。今年10月30日には、サウル・グルセーニョを下してセントロ・アメリカ（中米）タイトルを獲得（ウェルター級）

▶11月7日に行われた記者会見には、ヤノタクを除く日本人出場選手とランバーが出席。ドスJrとの対戦でVT初勝利を狙う大刀光は「謙吾がやられて黙ってられないから。今度はオレがヒジを脱臼させてやるよ、カンヌキで。組み合ったら狙うよ」と相撲イズム全開のコメント

▶一方の村浜も、ラバナレス戦での打撃勝負を宣言。「メインに恥ずかしくない試合しないと。グラウンドにいったほうが簡単ですけど、面白くないと思うんですよ。自分も打撃でそこそこやった男ですからね。総合の中ではストライカーナンバー1の自信がありますから」。なお、この試合はオープンフィンガーグローブとボクシンググローブが選択可能、5エスケープ制、ダウンカウントありで行われることになった。またWBC（世界ボクシング評議会）の“協力”も決定、ラバナレスは写真の世界タイトルのベルトを巻いて入場する

村浜断言！

「総合のナンバー1ストライカーは自分。打撃勝負でいきます！」

仰天!!

リングス・リトアニア大会にボブチャンチン出現!!

40歳の巨人相手にTKO勝ち！

▶『プライド17』での敗北からわずか1週間後にリングス・リトアニア大会に出場したボブチャンチン。1Rタックルで攻めたが、思わぬ苦戦。2Rに、ロツェビーチェスが足をつったため、なんとか勝利を収めた

★第8試合
○イゴール・ボブチャンチン（2RTKO勝ち）リチェルダス・ロツェビーチェス●
〈ウクライナ/フリー〉　〈リングス・リトアニア〉
※ロツェビーチェスが足をつったためにレフェリーストップ

▲ロツェビーチェスは、その巨体でアキレス腱固めも繰り出した

ハンにかかれば、北の最終兵器もファン状態！

◀ヴォルク・ハンとボブチャンチンのツーショットという貴重な1枚！

▼これがボブチャンチンと闘ったロツェビーチェス。当初、ボブチャンチンの相手は10月に滑川をKOしたヴァラビーチェスだったのだが、肩の負傷で欠場となってしまった

8月に正式に認可されたばかりのリングス・リトアニア。今回のリングス・リトアニア大会は、未知の格闘大国リトアニアを印象づけた大会と言っていいだろう。

まずリトアニアでは、以前からリングスとUインターの試合が放送されており、国内には33カ所のリングスのジムがあるという。滑川に勝ったヴァラビーチェスも、帰国時には空港に楽団が出迎えに来るなど、すっかりヒーローとなってしまったようだ。

そんなリトアニア大会で、一番のビッグサプライズといえば、ボブチャンチンの参戦だろう。残念ながら当初対戦相手に予定されていたヴァラビーチェスが肩の負傷により欠場してしまったが、代わって対戦したリチェルダス・ロツェビーチェスという40歳の選手も、ヴォルク・ハンにサンボで勝利したことがあるというから、他にいったいどんなとんでもない選手が潜んでいるのか、分かったものではない。

リトアニアでは、正式認可前から、ユーラシア大陸選手権（ハンが王者）などを、勝手に開催してしまうほど、現在はリングスに熱狂している。

今回もボブチャンチンを平気で呼んでしまうあたりに、何が起こるか分からないデタラメさと面白さがある。これこそ、今後のリトアニア勢の活躍を期待させる源なのだ。

恐るべし、リトアニア！■

写真協力◎リングス

FIGHTING NETWORK RINGS LITHUANIA

11・10★リトアニア・スポーツパレス

横井、なんとメインに登場！

エスケープ1を奪って デビュー以来4連勝！

◀日本から参戦した横井宏考は、リトアニアで人気のあるケツティス・スミルノバスと対戦。腕十字でエスケープ1を奪って、2Rポイント判定勝ちした。横井はこれでデビュー以来4連勝

▲横井とともに参戦した伊藤博之は、残念ながらレミジージャス・カゾウシナスにスリップ気味のダウンを奪われ、ポイント差で敗れてしまった。しかし、デビュー戦とは違い、冷静に闘えたようだ

驚愕！ ハンとオバチャチンが同じ空間に！

▲ボブチャンチンがリトアニアに来たからには、当然この人も

▲会場となったリトアニア・スポーツパレスには5000人の観衆が集まり、凄まじい声援を送っていたようだ。ちなみにリングスは、リトアニアではバスケットの次に人気のあるスポーツとのこと

▼横井と伊藤が一番印象に残ったというのが、リトアニアの美人の多さとか。こちらの女性2人は、ラウンドガール。あなたはのれる？　のれない？

RINGS NEWS

2月大会で、ライト級トーナメント開催決定！

今年4月から続いている、『WORLD TITLE SERIES』ミドル級、ヘビー級、アブソリュート級のトーナメント。これに続き、2月15日に開催される横浜文化体育館大会で、ライト級王者決定トーナメントが開催される。ライト級といえば、9月の後楽園大会で活躍した須藤元気、矢野卓見、小谷直之など個性的な面々が揃っている。その他にも、ロシア圏には、ライト級でいい選手がゴロゴロしているという情報も伝わってきているぐらいだ。しかし、ミドル、ヘビーと外国勢に奪われ（ミドルは現在空位）、アブソリュートも日本人は早々に敗退している。ここは、ぜひとも日本人選手の活躍を期待したいところだ。

プレゼント

リングスさんのご厚意により、リングス・リトアニア大会のポスターを2名様にプレゼント。ご希望の方は、ハガキに住所、氏名、電話番号を記入して、下記のあて先までお送りください。

〒101-0054　東京都千代田区
神田錦町3-14-12 神田NSビル8F
SRS・DX 編集部
『リトアニア大会ポスター』係

凄げぇ！ アターエフ、散打世界選手権優勝！

11月4日、アルメニアの首都エレバンにて開催された世界散打選手権にリングス・ロシアのヴォルク・アターエフが参加。90キロ超級において、見事優勝した。参加国数はおよそ30カ国という中で、全8試合を全てKO勝ちという圧倒的な強さを見せての優勝である。このアターエフが、いよいよ12月21日の横浜大会で、我らがTKと激突することになった。日本ではここまで2試合闘って、いずれもKO勝ちというアターエフ。遂に、ロシアの破壊王の底力を我々は目の当たりにすることになる!?

ヤマケン、リングス復帰を熱望！

リングスから離脱してから、クラブファイトや『UFC-J』で独自の活動を進めていたヤマケンが、古巣リングスへの復帰を熱望していることが分かった。現在、ヤマケンが主宰するパワーオブドリームからは、9月に所英男、そして10月に折橋謙がリングスに上がっている。ヤマケン本人も、リングスのルールが改正されたことによって、再びリングスのマットで闘いたい意志を持っており、11月8日にリングスに対して、参戦の意志をファックスによって伝えた。しかし、前田は以前より問題になっているヤマケンの脳の状態を気遣い、参戦を認められないという結論を出したのだ。このままヤマケンは参戦を諦めてしまうのか？　以下は、前田のヤマケンに対するコメントである。

前田日明のコメント

「彼は頭のほうは大丈夫だ、大丈夫だと言ってはいるんですけど、正直な話全然まずい状態だと思いますよ。彼には、生命維持に関わる脳幹にクモ膜下嚢胞というのがあって、強い打撃とかもらうと非常に危険なことになるんです。彼がリングスで闘っている時から、自分は実見しているんで、間違いなく危険だと思います。あれから何年も経っていて平気だと言っても、彼は“クラブファイト”とかいうなんでも有りの、まして素手で殴り合いしている試合を何回も経験しているのだから、前以上に悪くなっていると思いますよ。何らかの確証がない限り、彼を当時に比べて過酷なルールになったうちのリングに上げることは認められないですね」

12・1横浜文体
GRABAKA対パンクラス
抗争さらに激化！

郷野聡寛、毒舌三昧！

「近藤選手と組み技で勝負したら、寝起きでも勝てちゃいますから（笑）」

10・30後楽園での5VS5マッチに3勝1敗1分と完勝、パンクラス本隊に大きく差をつけたグラバカ勢。特に大将戦でKEI山宮を下した郷野聡寛は、試合後の強烈なマイクアピールでパンクラスファンの怒りに火をつけた！　結果として、パンクラスにこれまでなかった熱気と殺気をもたらした郷野。12月1日、横浜文化体育館大会での“パンクラス最後の切り札”近藤有己戦を前に、得意の毒舌を思う存分、披露してもらった。

聞き手◎橋本宗洋

——10・30後楽園の山宮戦は見事な勝利でしたね。

郷野　もう、試合後のコメントどおりですよ。コンプリート・ビクトリー。危ないところは一回もなかったし。でもビデオ見たら、アッパー一発だけもらってたんですね。ただそれすら、どこでもらったかビデオ見るまで気が付かなかった程度なんで。

——山宮選手がパンチで攻めてくる場面もありましたけど、あの時は……。

郷野　ありました、そんなの？

——何回かありましたよ。

郷野　じゃあ届いてなかったんじゃないですか。

——こっちが見てる以上に、やってるほうは余裕だったんですかね。そういえば菊田選手は「1Rの時点で、ラッキーパンチすらもらわないなと思った」って言ってましたよ。

郷野　そういうことですね。全然大丈夫でした。

——判定は1ポイント差だったんですけども……。

郷野　1ポイント差が2人に、2ポイント差が1人ですね。

——試合を見てると、その1ポイント、2ポイントは何十ラウンドやっても縮まらないんじゃないかっていう感じはしたんですよ。

郷野　俺はそう感じましたけどね。完勝ですよ。

——それでまた試合の後のマイクアピールが極悪で（笑）。

郷野　試合が終わって、感じたことを正直に言っただけですよ。

——「パンクラスの前のチャンピオンはこんなもんか？」と。

郷野　そうですね。

GRABAKA対パンクラス 抗争さらに激化！

▼10・30後楽園大会。郷野は山宮に勝利すると「オイオイオイ！　パンクラスの前のチャンピオンってこんなもんか？　もう日本には俺たちの相手になるチームはねぇよ！」とマイクアピール。敗れたパンクラス本隊は郷野をじっと睨みすえるしかなかった。船木のヒクソン戦敗北以上とも思える屈辱的な光景に、パンクラスファンは大ヒート！

10.30後楽園、パンクラス史上最大の屈辱！

——その次は「俺が美濃輪とやるのが10年早いとか言ったヤツ、目を覚ましてください！」と。

郷野　「まだ早い」ってねぇ（苦笑）。しかも「美濃輪さんに挑戦するのは」って。挑戦って何？　たしかに外から来た人間だから、そういうことになるのかもしれないけど……。ほんっとにパンクラスの中しか知らないんだなぁって思いましたよ。誰っていうんじゃなくて、そういう声全体、パンクラスの空気っていうのがね、もう。

——で、最後は「ブラジリアン・トップチームと対抗戦をやらせてくれ。もう日本に俺たちの相手になるチームはねぇよ！」と吠えて。

郷野　いろんな道場、ジムありますけど、一番俺たちがチームとしてレベルが高いっていうか、精鋭揃いっていうか。

——マイクアピールの時、グラバカコールが起こったのは聞こえました？

郷野　グラバカコールはまあ、後楽園ホールの2000人中、100人ぐらいですか（笑）。

——局地的な（笑）。

郷野　非常に局地的なコールで。東京ドームの広島ファンみたいでしたけどね。それでも聞こえましたよ。

——あと、負けたパンクラスの選手がリングに残って見てたじゃないですか、郷野選手のこと。

郷野　あれねぇ、気付かなかったんですよ、実は。

——そうなんですか？

郷野　気持ちよく喋ってたもんで。パンクラスの人たちが見てたのも気付かなかったし、俺以外のグラバカのメンバーの目が点になってたのも気付かなかったし。「グラバカはヒール路線」とか言っても、みんないい人ですから。一人だけ俺がね、地が出ちゃって。

——結局、最後は山宮さんと握手してリングを降りたんですか？

郷野　してないですね。

——著しくスポーツマン道にもとる人ですね、アナタは（笑）。

郷野　もとりましたねぇ。そこだけはちょっと反省してます、さすがに（笑）。終わった後で鈴木さんが控室に挨拶に来たんですよ。その時に「アレ、そういえば握手してないよな？」って気付いて。鈴木さんと挨拶したんで少しは気が晴れましたけど。あれは失礼なことしちゃいましたね。

——で、試合後のコメントでは美濃輪選手にまで毒づいて。「菊田さんにコテンパンにされたのにもう一回やりたいとか言って、凄ぇカッコ悪い。こんなヤツとやりたくないと思った」って。

郷野　なんかの雑誌で言ってたんですよね。「負けたと思ってない」とか「これからだ」みたいなことを。仮に俺が勝ってもそんなこと言われるのかと思ったら気分悪いですからね。まぁ、一人の対戦相手として、興味が薄れましたね。コンビニでその雑誌読んでて「もうコイツとはいいや」って。

——この前の対抗戦は、会場も盛り上がりましたけど、終わった後の反応も凄かったですね。ネットとか。

郷野　あぁ、ホントですか。

——パンクラスのHPも、それまではカキコミが「パンクラス全部が好き」、「みんな頑張って」みたいな雰囲気だったんですよ。平和な世界っていうか。まあ一部、叩かれてた雑誌もあるみたいなんですけど（笑）。

郷野　はいはい。

——それが10・30があってから、かなり変わりましたからね。古くからのパンクラスファンはあからさまに悔しそうだし、逆にグラバカファンは「ザマーミロ」みたいな感じで。前とは持ってる熱が全然違うんですよ。

郷野　いいんじゃないですか。してやったりですよね。

——あと「そんなこと言うけど郷野選手もホントはいい人なんでしょ」みたいな声もあったり。

郷野　はぁ～。そんなこと言われてもねぇ。地なんですよ、これ。そう思った人は残念でしたね（笑）。

——そういった感じでパンクラスがガ然、熱を帯びてきたんですけど。次も対抗戦をやるということで。

郷野　きっちり御褒美が出てますからね。勝ったほうが（DEEPで）トップチームと対抗戦って。ほんと、選手にエサ与えるのがうまいわ。いいニンジンがぶら下がってるんでね。俺はニンジン嫌いなんですけど（笑）。

——それはモチベーションも上がるでしょうね。

郷野　もう名前がなくて強い選手とやるのは充分ですから。そろそろ名前がある人とやりたいんで。それと、今回はまだ

◀11月15日の公開練習でも、郷野は毒を吐き放題。近藤の「まだまだ挑発が足りない」という発言に対しては「どこまでイジメればいいんですかね？　近藤選手がどれだけMっ気があるか分かんないんで、SMクラブにでも行ってください」

対抗戦に出てなかった選手が2人出てくるわけじゃないですか。渋谷、近藤と。それで勝っちゃえば、もういいんじゃないですか。

——もういい？

郷野　次で、もう完全にトドメ刺すっていうか、重箱のスミまで突っついて。

——パンクラスとの対抗戦は残りの選手を潰して終わりってことですか。

郷野　その残りがまぁ、今まで出し惜しみっていうか、出てこなかった連中なんで。前回勝って、それを出てこざるをえなくしたってことでね。

——ボスキャラを引っ張り出したと。

郷野　スライムとかドラキーとかは倒したんで、あとはボスキャラで。もうこれでクリアでしょ。

——だから近藤選手っていうのはパンクラス側にとって最後の切り札というか。

郷野　俺が勝っちゃったら盛り下がるでしょうね（笑）。今後のためには俺が負けたほうが盛り上がるんでしょうけど。負けても盛り上げる気も盛り上がる気もないですから。負ける気サラサラないんで。

——山宮戦が終わってすぐに近藤戦の話が尾崎社長から来たじゃないですか。正直、どうでしたか？

郷野　正直、ちょっと不安はあったんですけどね。試合まできっちり1カ月しかなかったんで、そこが。

——そこだけですか？

郷野　そうです。自分のコンディションに関してだけですね。ケビン（・ヤマザキ）さんに「できるもんですかね？」って聞いたら、俺の集中力、頑張り次第だってことなんで。

——相手に関しての不安は？

郷野　まったくないですね。

——じゃあ、近藤選手の印象っていうと……？

郷野　印象は……クイックストライカーですね。それだけです。

——それだけ（笑）。僕が思うのは、やっぱり打撃がうまいっていうのと、身体能力の凄さ。あと、誰とやっても勝つ可能性があるし、誰とやっても負ける可能性があるっていう（笑）。

郷野　あぁ、そこですよね。

——近藤選手の試合は、それこそ何が起こってもおかしくない。

郷野　一発があるからでしょうね。

——そうそう。とんでもない一発が。

郷野　まぁね……。その「とんでもない

パンクラスのファンについて？考えるだけ脳味噌のムダ

一発」で勝った相手って誰がいます？

——代表的なのはサウロ・ヒベイロでしょう。

郷野　サウロね。へへっ（笑）。サウロにやった打撃が俺に当たると思います？

——まぁ、そう言われると……。逆に、郷野選手は打撃同士で噛み合うかなって楽しみもあるんですよ。

郷野　ただまあ、打撃以外の部分では俺が圧倒的に上回ってると思うんで。相手が「それしかできない」ってとこにわざわざ入っていく必要ないでしょう。そういう意味では、主導権は俺が握ってるってことですね。

——打撃で闘うのも寝技で闘うのも、郷野選手の気持ち次第だと。

郷野　組めば100%勝てるしね。

——そうなるとですね、「近藤の弱点は寝技だから、手堅く寝技でいけば郷野が勝つだろう」って声があるんですよ。でも「それじゃつまらんだろう」って意見もあって。

郷野　実際ね、それでいいんだったら寝起きでも勝てますよ（笑）。「郷野、起きろ！」、「何……？　あ、ヨイショ」ってやって勝てちゃうでしょ。組み技ばっかりで勝負したら。寝込みを襲われても勝てるかな（笑）。

——言いますねぇ……。

郷野　ま、そのぐらいはね。だから一発があるんで、それだけ普通に気を付ければ。普通にやれば普通に勝てますよ。いつもどおり、普通に試合を迎えようかと。一応、ちゃんと目が覚めてから試合しますけど（笑）。

——それと、近藤選手は「勝つ自信もあるけど負ける自信もある」とか、郷野選手の挑発をサラッとかわすようなことばっかり言ってますけど、それは気になります？

郷野　べつにいいんじゃないですか、うん。俺も挑発してるわけじゃないですからね。思ったことをサラッと言ってるだけですから。

——「寝起きでも勝てる」ってのが「サラッと」ですかぁ？

郷野　そう、サラッと。だからお互い同じ気持ちで言ってるんだけど、色が違うってことですよ。

——今回、パンクラスのファンはそれこそ悲愴な決意で近藤選手を応援すると思うんですよ。「なんとかしてくれ、近藤！」って。

郷野　あぁ、そうなんでしょうね。

——逆に郷野選手にはブーイングも凄いだろうし。

郷野　いいですよ、それは。応援されるより、俺の相手に「勝ってほしい」っていう雰囲気の中で差を見せつけて黙らせるってほうがやりがいがあるでしょう。

——じゃあ、近藤選手を応援するであろうパンクラスファンの人たちには何かありますか？

郷野　何かって？

——「見とけよ！」みたいな。

郷野　なんで？　なんにもないッスよ。ほっときゃいいんです、そんなのは。考えるだけ脳味噌のムダ。以上！　■

渋谷修身と対戦決定！
GRABAKA随一のテクニシャン

佐々木有生

聞き手◎橋本宗洋

郷野に続いては、副将戦で渋谷修身と対戦する佐々木有生に登場してもらおう。菊田をして「ボクよりテクニックがある」と言わせる佐々木。話しぶりはイチイチ謙虚なこの男だが、やはりそこはグラバカ、根っこはどうにもヒール体質なのだった。

——石井（大輔）戦は見事な勝利でした。

佐々木 あのハイキックは練習してたものなんで良かったんですけど。完璧ではなかったですね。タイミングはいいけど力が60％ぐらいだったんで。あれでKOできてればもっと良かったんですけどねぇ。

——打撃は相当、練習してたみたいですけど、どこで習ってるんですか？

佐々木 菊田さんと一緒で、スネークピットで大江（慎）さんと。ジムでは自分より小さい人が多いんですよ。軽量級はテクニックとスピードがあるじゃないですか。だから試合になると誰とやっても（打撃が）見えますね。

——改めて、前回の対抗戦を振り返っていかがですか？

佐々木 5vs5とはいっても、僕と郷野さんの上2人が負けたら、他の3人が勝っても意味ないと思ってたんですよ。とにかく僕と郷野さんが勝たないといけないっていうのは感じてたんで。その部分でもいい結果でしたね。みんなで話してた感じでは、僕が一番厳しい試合になるだろうと思ってたんで、厳しいからこそ勝たなきゃいけないなと思ってました。

——郷野さんのマイクアピールはどうでした？

佐々木 ちょっとヒヤヒヤしましたね、僕の性格からすると（笑）。「凄いこと言ってんなぁ」って。また向こう（パンクラス勢）が睨んでるんですよ、こっちを。「うわぁ～、睨んでるよぉ」って、思わずそそくさとリングを降りてしまいました（笑）。でも、あれだけ言っても構わないですよね。完璧だったんじゃないですか、あの勝ちは。

——この前の対抗戦で勝ったことで、パンクラスではグラバカがトップの勢力ってことになったと思うんですけど。

佐々木 そう……ですかね。その辺はあんまり考えてなかったですね（笑）。

——でもマッチメイクにしろなんにしろ、グラバカにより多くのチャンスが回ってくるようになるんじゃないですか？

佐々木 いや、でもそれが最終目標じゃないですからね、パンクラスのトップが。課程ですよ。どんどん強い人とやっていきたいし。楽な試合より、接戦で勝っていったほうが自信になるじゃないですか。

——石井戦後には「UFCでデーブ・メネーとかとやりたい」って言ってましたね。

佐々木 そうですね、メネーとか、ヒカルド・アルメイダとか。トップクラスじゃないですか。その辺とやったことがないんですよね。だからやってみてどれだけできるのか、感じてみたいんですよ。それをやってみないことには始まらないっていうか。

——今度もパンクラス本隊と対抗戦で、渋谷選手との試合になりました。

佐々木 また僕が一番厳しい試合になるって言われてるんですけど（笑）。渋谷さんは、東京、横浜トータルで見てもトップに入る強い人なんで。そういう人とやれるレベルにまで自分が来たっていうのが嬉しいです。

——なんか謙虚ですよね、郷野選手と違って（笑）。渋谷選手にはどんな印象を持ってますか？

佐々木 レスリングが強くて力も強くて、体もある。僕とはまったく逆で（笑）。本当にいい選手だと思いますよ。ヘビー級からミドルに落としてくるんで、その部分でも強いでしょうね。

——体の差はあるでしょうね。向こうはちょっと落として90キロで、佐々木選手は85キロぐらいですか？

佐々木 でも、あんまり気にしてないですけどね。それをカバーできるだけのテクニックを養ってきたと思ってます。渋谷さんが菊田さんほど寝技のプレッシャーがあるかって言ったら、絶対ないと思いますし。体が小さくても力がなくても、テクニックでやれるってのを証明したいですね。

——また今回も、会場が横浜文体ってこともあって渋谷選手への声援のほうが多くなると思うんですけど、その辺は？

佐々木 もう大好きですね。相手への声援が聞こえると嬉しくてしょうがないんですよ。

——なんで？（笑）

佐々木 「何言ってもムダだよ」とか思っちゃうんですよ。「オマエらの願いは叶わないぜ」って。それが楽しいっていうか。

——案外イヤな性格ですね（笑）。

佐々木 アムロよりシャア、ガンダムよりザクってタイプなんですよ（笑）。ホンットねぇ、子供の頃テレビ見てて、ザクがやられるのが悔しくて！

——ククククク。まあ、ガンダムの話は今度ゆっくりしましょう（笑）。あと、渋谷選手は「相手は立っても寝てもバランスがいいけど、全部上回る自信がある」って言ってましたね。「この前はグラバカに負けたけど、次に勝って見返す」とか。普段はあまり強気なこと言わないんですけど。

佐々木 おぉ～！ 嬉しいっすねぇ。渋谷さんってもの静かっていうか、クールな感じがするんですけど、実はハラワタ煮えくり返ってるんでしょうね。いいな～。それ聞いて試合が余計楽しみになりましたよ。■

「相手への声援は嬉しくてしょうがない。『何言ってもムダなんだよ』って思うと、凄く楽しいんですよね（笑）」

▼ハントも愛犬家だということが判明。しかし、本誌でも何度か登場しているバンナの土佐犬とはエライ違い。なんとも可愛らしいワンちゃんだ！

ニュージーランドで現地渾身取材！

GP決勝大会の〝台風の目〟マーク・ハントの強さの秘密はタロ芋パワーにあった！

取材&写真◎青山速己

▲これがハントのパワーの源・タロ芋だ

――現在のコンディションはいかがですか？

ハント　悪くはないよ。今は70％くらいだけど、大会までには100％の状態にするよ。

――いま、日本ではアナタの人気が急上昇中ですが、どう思われますか？

ハント　そう、それは嬉しいね。

――人気が出たきっかけは、10月の福岡大会でのレイ・セフォー戦なんですが、あの試合を振り返っていかがですか？

ハント　実際には、オレは負けているんで、試合のことを説明するのは難しいよ。

――あの試合、あなたはノーガードで打ち合いましたが、なぜあんなことを？

ハント　それはレイに聞いてくれよ。おそらく彼も同じ気持ちだと思うから。まあ、彼は「オレはダメージを受けてないぞ」というのをアピールするためにやっていたと思うし、オレもそんな感じかな。

――ある雑誌で、セフォー選手を尊敬しているからああいう試合になったというような記事を読んだんですが。

ハント　ハハハハッ。たしかにオレは彼のことを尊敬しているけど、だからといって、痛い目をみようとは思わないよ。ノーガードでやったのは、疲れていたからかなぁ（笑）。

――いやぁ、でも、あの試合は2人の意地というかプライドが凄く感じられて、見ていて熱くなりましたよ。ハント選手としては、男のプライドを賭けたんじゃないですか？

ハント　まあ、そうだね。そういうことになるのかな。

――あんな闘い方をしたら、たとえ勝ったとしても、ダメージを受けて、次の試合に影響が出るとは思わなかったんですか？

ハント　もちろん、次の試合のことを考えたら、早く片付けたほうがいいに決まっているけど、ああなっちゃったら仕方ないよ。

――最近のK―1の試合は判定決着が多く、観客が興奮する試合が少なくなっているんですが、ハントさんは、どんな意識で試合に臨んでいるんですか？

ハント　オレが考えているのは、勝つか負けるか、それだけだよ。全力で勝ちにいくことがオレのパフォーマンスであって、もし、観客に魅せる試合をしようと思ったら、きっとうまくいかないだろうな。

――ノーガードの打ち合いなんて、普通の選手はしないし、できないと思うんですが。

ハント　実際にリングに上がっていると変なことが起きることがあるんだよ。マイク・タイソンが耳を噛ったこともあったじゃないか。だから、あの時、オレがなぜああいう試合をしたかと聞かれても、うまく説明できないよ。

――昔から打たれ強かったんですか？

ハント　練習によって強くなったのか、もともと強いのか、それはよく分からない。もしかしたら、自分に流れている血がそうしているのかもしれないけど……。

――首は昔からそんなに太かったんですか？

ハント　自分では普通だと思うんだけど、そんなに太いか？　首を太くするために特別のトレーニングをしたことはないよ（笑）。

――ハントさんは、サモアの血を引いていると聞いたんですが、詳しく教えてください。

ハント　両親はサモア人なんだけど、オレはニュージーランド生まれ。白人の中で育ってきたから、サモアの習慣みたいなものはよく分からない。サモアの言葉も聞けば分かるけど、自分で使うこともあまりないしね。

――日本では、アナタのキャッチコピーは「サモアの怪人」ですが、どう思います？

ハント　ハハハハハハッ。悪くはないよ。でも、どんな怪物なんだろうね。

――サモア人は闘う人種、勇敢な人種だと聞いたことがあるんですが。

ハント　ああいう島の人たちは、昔は人食い人種だったんだ。だから、生き残るために闘い、そのためには強くなくてはならなかったらしいね。

――サモアの人たちの中での、言い伝えみたいなものって何かありますか？

ハント　サモアのことわざで「ファマロス」というのがあるよ。それは「常に強く生きろ、強くなれ」という意味なんだ。サモアの人たちはみんな、サモア人としての誇りを持っているし、自分たちは正しいと信じている。

――ハントさんご自身が生まれたのはどこなんですか？

ハント　ニュージーランドのオークランドの近くで生まれ育ったんだけど、なんの特徴もない、ごく普通の町だよ。

――ご両親はどんなお仕事を？

ハント　父はエンジニアで、母は縫製の仕事をやっているよ。

先祖は人食い人種!? 生き残るために闘い、強くなくてはならなかった！

――小さい頃はどんな子供だったんですか？

ハント いい子だったと思うよ（笑）。

――ご両親にいつも言われていたことって何かありますか？

ハント 「ちゃんと学校に行け」って（笑）。

――行ってなかったんですか？

ハント いや、まあ、一応ちゃんと行っていたかな（笑）。

――格闘技を始めたのはいつ頃からですか？

ハント 始めたのは6年前（21歳）だけど、真剣に取り組み始めたのは去年のK－1の地区大会で勝ってから。それまでは収入も少なかったから、他の仕事をやっていたんだ。

――どんな仕事を？

ハント まあ、だいたい肉体労働だとか、バウンサー（用心棒）とか、そんな仕事だよ。

――6年前に格闘技を始めて、K－1のリングに立って、しかも決勝に残るというのは、凄いことだと思うんですが？

ハント 他の選手たちは、オレがなんでこんなに短い期間で上がって来るんだと思うかもしれないけど、オレからしたら、ひとつ一つの試合を大事に闘ってきた結果、こうなったんだとしか言えないよ。

――体がデカイのは子供の頃から？

ハント 自分では普通のサイズだと思ってんだけど……。

――いや、かなりデカイです（笑）。

ハント そう？ サモアの人たちはみんな大きいから、その人たちに比べればオレなんて全然、普通サイズだよ。

――学生時代に何かスポーツは？

ハント ラグビーとかソフトボールとかバスケットとかバレーとか、いろんなスポーツをやってたよ。

――ラグビーはかなりのレベルだったと聞いてますが。

ハント オークランドのディビジョン2という、上から2番目のところでやっていて、ナショナルチームを目指していたよ。でも、ある時、ナイトクラブのドアマンに、格闘技の試合をやってみないかと言われて、それから格闘技のほうに気持ちが傾いたんだ。

――ハントさん自身もバウンサー（ドアマン）をやっていたんですよね？

ハント ああ、やっていたこともあるよ。

――で、その時に4人を相手にケンカしたと聞いたんですが。

ハント ハッハハハハ。どうだったかなぁ。

――あと、バスにぶつかっても平気だったとか？

ハント さすがに無キズってことはなかったけど、大したケガはしなかったよ。

――サモアの血を引く人は強いという印象があるのですが、実際はどうなんですか？

ハント サモアにもいろいろな人がいるから、一概には言えないよ。

――サモア出身の有名なスポーツ選手にはどんな人がいるんですか？

ハント う～ん、ボクシングやラグビーでも強い選手はいっぱいいるよ。それに、もちろん小錦、武蔵丸は知っているだろ。

――ハントさんの、デカくて頑丈な体がどのように作られたのか知りたいんですが？

ハント 理由の一つは、タロ芋を食べていたからかな。それから、とにかくよく食べたよ。

――タロ芋は今でも食べているんですか？

ハント もちろん。

――好きな食べ物は？

ハント パスタとコンビーフとタロ芋。タロ芋はサモア人の主食で、白人のパンにあたるものなんだけど、ホントにうまいんだよ。

――K－1の話に戻りますが、決勝戦に出場できることをどう思っていますか？

ハント もの凄く嬉しいよ。まさか出られるとは思っていなかったからね。

――抽選会でジェロム・レ・バンナ選手を初戦の対戦相手に選んだのはなぜですか？

ハント 実際にK－1で闘ってみて、K－1ファイターも普通の人だと分かった。ジェロムにしても、決して倒せない相手ではないと思っているよ。彼とは前にやって負けているけど、今度はきっと勝てるよ。

――バンナ選手の印象を？

ハント 他のK－1ファイター同様に、凄くいいファイターだと思うよ。

――ハントさんが「ケンカを売った」と、バンナ選手を含め、みんな思っていますが。

ハント 「ケンカを売った」という言い方に間違いはないよ。前回闘った時は、初めてたくさんの人の前で闘って、非常にナーバスになったために負けてしまったけど、今回は彼に負ける気はしない。

――バンナ選手はK－1随一のハードパンチャーと言われてますが、どう闘いますか。

ハント 特に作戦は考えていない。ただ殴ってノックアウトするだけだよ。

――セフォー戦のように顔面でパンチを受けることはできますか？

ハント ハハハハッ。まあ、わざわざ自分から受けるようなことはしないよ。でも、さっきも話したように、状況的にそうなることがあるかもしれないけどね。

――ズバリ目標は？

ハント もちろん最後まで行くつもりだよ。簡単なことじゃないとは思うけどね。

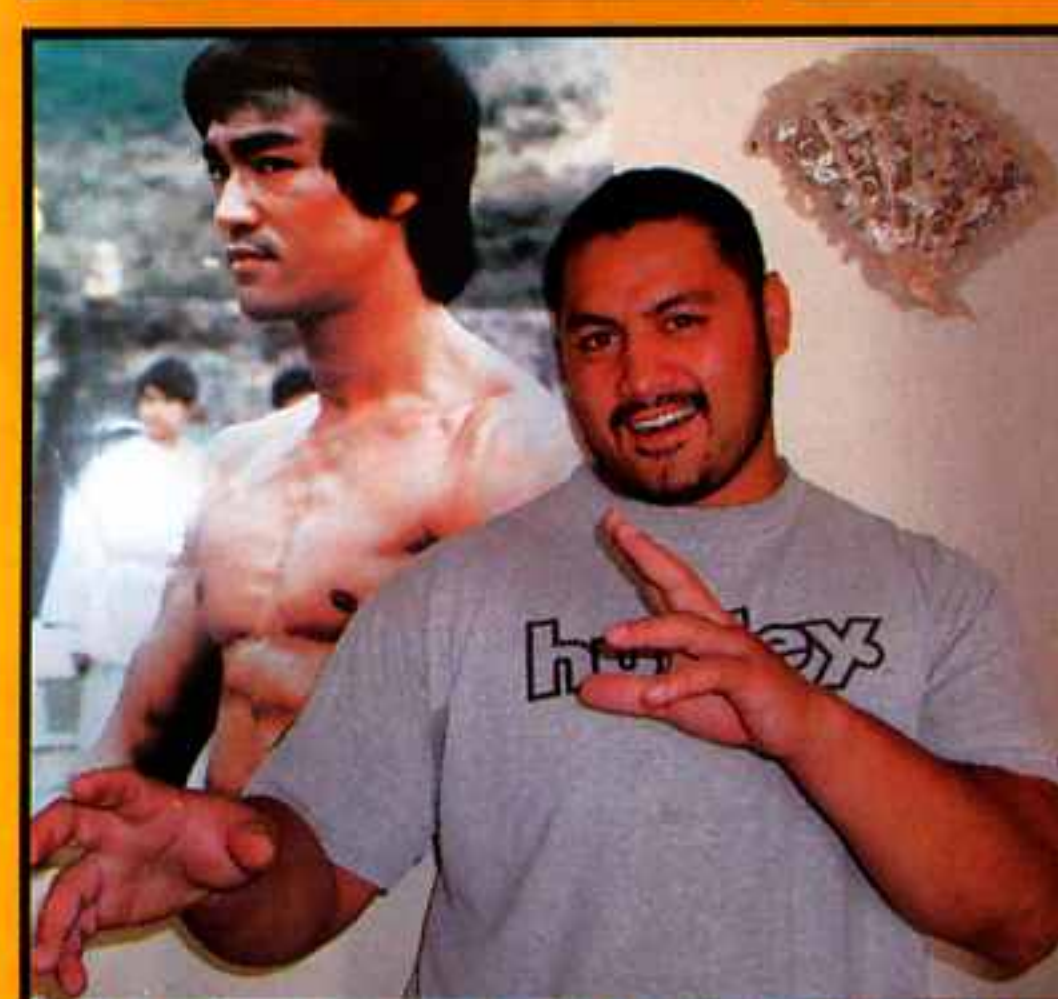
――注意しているファイターは？

ハント 全員。みんなトップファイターだからね。中でも最初にあたるジェロムだよ。

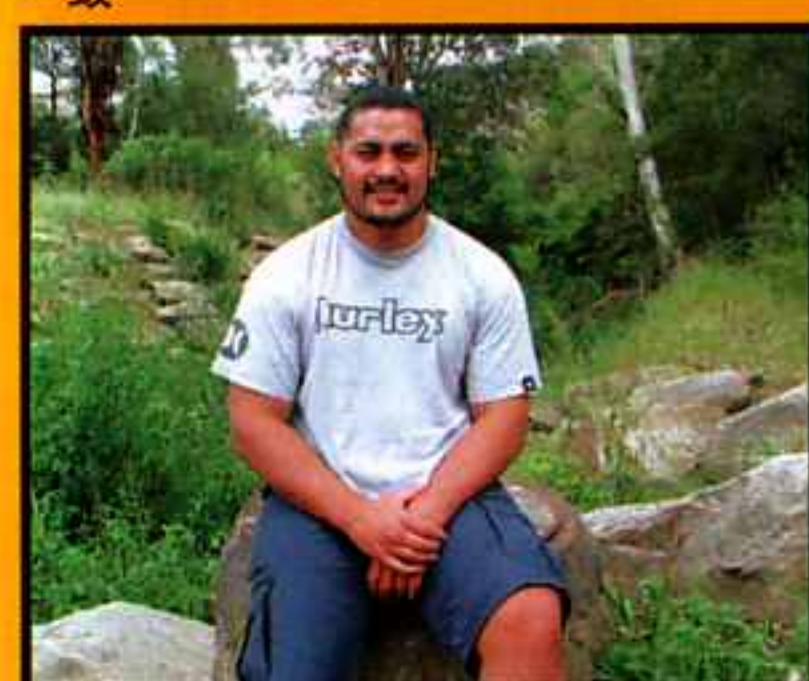
――ファンに対して優勝宣言をお願いします。

ハント まあ、優勝宣言はできないけど、最後まで行くつもりではいるし、みんなを楽しませる試合をしたいと思っているよ。■

◀ハントが練習しているジム・リバプールキックボクシング

▲▼現在のコンディションは70％とはいえ、調子はかなり良さそうだ

◀シャイなハントだが、カメラを向けるとこんな陽気な表情も

◀ハントの家。なかなかステキなたたずまいだ

▲ハントもブルース・リー好き。これまたバンナと一致

▲インタビューは裏山で。とにかく鳥がうるさくて……

▲「ようこそ、マイルームへ」なかなかキレイだ！

MAX CLUB マックス・クラブ

MAX CLUBで取り扱っている商品のご注文は通販のみの受付となります。

ご注文の専門ダイヤル
0120−000−902
受付時間
平　　日 PM12:00〜PM7:00
土・日・祝日 PM12:00〜PM6:00

FAX　24時間受付
0480−25−5541

お問い合わせ
0480−25−5540
受付時間
平　　日PM1:00〜PM5:00

お支払い方法
ご注文の際は，支払い方法を指定して下さい。

代引 TELかFAXで受付しております。商品到着時，配達員へ商品代金+送料+代引手数料+消費税をお支払い下さい。

現金書留 TELにてお問い合わせの上，商品番号，商品名，住所，氏名，電話番号を明確に書いて，商品代金+送料+消費税を同封してご送金下さい。

〒347−0023
埼玉県加須市北辻宮前１６４−１
MAX CLUB係

カード（代引のみ） TELにてご注文下さい。カードの代引のお支払いができます。一部対象外の地域もありますので，ご確認下さい。

ビザ
JCB
ジェーシービー
その他のカードについてはお問い合わせ下さい。

ご　注　意！
沖縄県，北海道，及び離島の方は送料をお問い合わせ下さい。
表示の価格には，送料，代引手数料，消費税は含まれておりません。
万一，不良品があった場合は送料は当社負担にて交換致します。
着品後，一週間以内に電話連絡の上ご返却下さい。
複数ご注文頂いた場合は，基本的に商品１つにつき，それぞれ送料がかかります。ご了承下さい。

広告有効期間　広告掲載日より１ヶ月間

★商品がなくなり次第、完売とさせて頂きますので、その際はご了承願います。

バーゲン品につき
返品・交換
はご容赦下さい。

Every Day Best Price!!
GOODS Outlet 35〜80%OFF

バーベルセットの長さは１６０cm，１８０cmのどちらかをお選び下さい。２００cmの場合は９００円増です。
B：バー　DB：ダンベルバー　P：プレート
バー・プレート：中国・台湾製

商品番号：HRC-100
商品名：クロームメッキバーベルセット

35%OFF

セット	内容	価格
35kgセット	B(10kg)×1，DB(25kg)×2，P(25kg)×4，P(5kg)×2	¥14,100→¥6,600
55kgセット	B(10kg)×1，DB(2.5kg)×2，P(1.25kg)×4，P(2.5kg)×4，P(5kg)×2，P(7.5kg)×2	¥20,500→¥9,600
75kgセット	55kgセット+P(10kg)×2	¥26,900→¥12,800
105kgセット	75kgセット+P(15kg)×2	¥36,500→¥16,800
145kgセット	105kgセット+P(20kg)×2	¥49,300→¥22,800

プレート	価格
1.25kg	¥400→¥150
2.5kg	¥800→¥300
5kg	¥1,600→¥600
7.5kg	¥2,400→¥900
10kg	¥3,200→¥1,200
15kg	¥4,800→¥1,800
20kg	¥6,400→¥2,400

商品番号：HRC−200
商品名：レギュラーバーベルセット

35%OFF

セット	内容	価格
35kgセット	B(10kg)×1，DB(25kg)×2，P(25kg)×4，P(5kg)×2	¥11,400→¥6,600
55kgセット	B(10kg)×1，DB(2.5kg)×2，P(1.25kg)×4，P(2.5kg)×4，P(5kg)×2，P(7.5kg)×2	¥15,400→¥9,600
75kgセット	55kgセット+P(10kg)×2	¥14,900→¥19,400
105kgセット	75kgセット+P(15kg)×2	¥25,400→¥16,800
145kgセット	105kgセット+P(20kg)×2	¥33,400→¥22,800

プレート	価格	プレート	価格
1.25kg	¥250→¥150	10kg	¥2,0000→¥1,200
2.5kg	¥500→¥300	15kg	¥3,000→¥1,800
5kg	¥950→¥600	20kg	¥4,000→¥2,400
7.5kg	¥1,500→¥900		

商品番号：HRC-300
商品名：ラバーバーベルセット

35%OFF

セット	内容	価格
35kgセット	B(10kg)×1，DB(25kg)×2，P(25kg)×4，P(5kg)×2	¥14,100→¥7,600
55kgセット	B(10kg)×1，DB(2.5kg)×2，P(1.25kg)×4，P(2.5kg)×4，P(5kg)×2，P(7.5kg)×2	¥20,500→¥11,600
75kgセット	55kgセット+P(10kg)×2	¥26,900→¥15,600
105kgセット	75kgセット+P(15kg)×2	¥36,500→¥21,600

プレート	価格	プレート	価格
1.25kg	¥400→¥250	7.5kg	¥2,400→¥1,500
2.5kg	¥800→¥500	10kg	¥3,200→¥2,000
5kg	¥1,600→¥1,000	15kg	¥4,800→¥3,000

商品番号：HRC-1000
商品名：50Φオリンピックバーベルセット

35%OFF

セット	内容	価格
61kgセット	B(16kg)×1，P(1.25kg)×4，P(25kg)×4，P(5kg)×2　P(10kg)×2	¥29,400→¥19,100
91kgセット	61kgセット+P(15kg)×2，	¥39,000→¥25,400

●バーベルシャフトは218cm(重量：約16kg)がセットされます。

プレート	価格	プレート	価格
1.25kg	¥400→¥250	10kg	¥3,200→¥2,000
2.5kg	¥800→¥500	15kg	¥4,800→¥3,000
5kg	¥1,600→¥1,000	25kg	¥8,000→¥5,000

ダンベルセット

35%OFF

セット	片手	内容	レギュラー	クロームメッキ	ラバー
10kgセット	片手5kg	DB(2.5kg)×2，P(1.25kg)×4，	¥4,000→¥2,600	¥4,800→¥2,600	¥4,800→¥3,00
20kgセット	片手10kg	DB(2.5kg)×2，P(1.25kg)×4，P(2.5kg)×4，	¥6,000→¥3,900	¥8,000→¥3,900	¥8,000→¥4,60
30kgセット	片手15kg	DB(2.5kg)×2，P(1.25kg)×4，P(2.5)×8，	¥8,000→¥5,200	¥11,200→¥5,200	¥11,200→¥6,60
35kgセット	片手17,5kg	DB(2.5kg)×2，P(1.25kg)×8，P(2.5kg)×8，	¥9,000→¥5,850	¥12,800→¥5,850	¥12,800→¥7,60
40kgセット	片手20kg	DB(2.5kg)×2，P(1.25kg)×4，P(2.5kg)×4，P(5kg)×4，	¥9,800→¥6,370	¥14,400→¥6,370	¥14,400→¥8,60

基本的にレギュラーダンベルセットにはレンチ式シャフト（スプリングカラー4ヶ付），クローム，ラバーダンベルセットにはスクリュー式シャフトがセットされます。

40%OFF
商品番号：L-535
商品名：セーフティアンクルガード
1組定価 ¥1,200→¥700

45%OFF
商品番号：L-222
商品名：レッグガード(スネ)
■サイズ/フリー
中国製
1組定価 ¥1,500→¥700

50%OFF
商品番号：L-237
商品名：レッグッパッド
中国製
1組定価 ¥1,000→¥500

商品番号：L-673J
商品名：金的ブリーフ(カップ付)
■サイズ/少年用
定価 ¥1,400→¥730
45%OFF

50%OFF
商品番号：LL-2000
商品名：レッグカールブー
1コ定価 ¥5,800→¥2,900

60%OFF
外部素材：最高級牛皮使用
内部素材：ウレタン使用(厚さ約2cm)
1組定価 ¥3,500→¥1,500
指が5本とも自由に動き，打つ，つかむことができます。
商品番号：BX-21
商品名：パームグローブ

50%OFF
■サイズ/フリー(23〜27cmまで対応)
日本製
★足の甲にスポンジ入り
★足全体をサポート
★足の冷えを解消することにより，体の動きを良くし，足首の損傷を防ぎます。
1組定価 ¥3,500→¥1,980
商品番号：FP-50
商品名：フットウォーマ

50%OFF
■サイズ/フリー
中国製
1組定価 ¥2,000→¥980
商品番号：L-469
商品名：フォーアームーサポーター

サイバースポーツ

NEW スタンディングバックセット

毎月限定100セット

セット内容

TYPE 1セット or TYPE 2セット

PLUS 本皮パンチンググローブ ¥2,800 本革

PLUS バンテージ ¥1,200 2個1組

さらに PLUS いずれか1品お選びください!!

ムエタイショーツ ¥5,800

サウナスーツ ¥2,800

リストウェイト(2kg) ¥3,000

※色はお選びいただけません。

TYPE 1セット SIZE/30×170cm 定価¥28,600 **¥8,800**

品番：STB-TP1
- スタンディングバッグtype1／¥18,800
- 本皮パンチンググローブ／¥2,800
- バンテージ／¥1,200
- ムエタイショーツ／¥5,800
- サウナスーツ／¥2,800
- リストウェイト(2kg)／¥3,000

TYPE 2セット SIZE/40×180cm 定価¥29,600 **¥9,800**

品番：STB-TP2
- スタンディングバッグtype1／¥19,800
- 本皮パンチンググローブ／¥2,800
- バンテージ／¥1,200
- ムエタイショーツ／¥5,800
- サウナスーツ／¥2,800
- リストウェイト(2kg)／¥3,000

ファイティングフルセット NEW

セット内容

セットG-1 or セットG-2 or セットG-3

サンドバッグ100B サンドバッグ130B サンドバッグ150B

PLUS

チェーン¥500

パンチングボール ¥4,000

スタンド安定袋 ¥3,500 安定します

ファイティングスタンド ¥13,800

さらに PLUS いずれか1品お選びください!!

本革 本皮パンチンググローブ ¥2,800

リストウェイト(2kg) ¥3,000

or

サウナスーツ ¥2,800

バンテージ ¥1,200 2個1組

※色はお選びいただけません。

SIZE/170×170×215～235cm
※セットのサンドバッグは黒のみ。

セットG-1 定価¥34,400 **¥10,000**

セットG-2 定価¥37,400 **¥11,000**

セットG-3 定価¥40,400 **¥12,000**

品番：CFS-G1
品番：CFS-G2
品番：CFS-G3
- ファイティングスタンド／¥13,800
- サンドバッグ100・130・150／¥9,800～15,800
- チェーン／¥500
- スタンド安定袋／¥3,500
- パンチングボール／¥4,000
- 本皮パンチンググローブ／¥2,800
- サウナスーツ／¥2,800
- リストウェイト(2kg)／¥3,000
- バンテージ／¥1,200

好評につき、安値続行!!

パンチンググローブ 本革 定価¥2,800 特別価格 ¥1,400
品番:CPG-PU COLOR/黒・赤 SIZE/フリー

オープンフィンガーグローブ 本革 定価¥3,800 特別価格 ¥1,980
品番:CFG COLOR/黒 SIZE/フリー

トレーニンググローブ 本革 定価¥8,000 特別価格 ¥3,600
品番:CTG COLOR/黒・赤 SIZE/16oz

スパーリンググローブ 本革 定価¥9,000 特別価格 ¥3,800
品番:CSG COLOR/黒 SIZE/16oz

スーパーパンチングミット両手1組 定価¥6,000 特別価格 ¥2,000
品番:CPM2 COLOR/青・赤 SIZE/フリー

拳サポーター 定価¥1,000 特別価格 ¥780
品番:CNG COLOR/白 SIZE/フリー

ムエタイショーツ 定価¥5,800 特別価格 ¥1,800
品番:CMS COLOR/A.B.C.D.E SIZE/Mフリー

スーパーハードミット 定価¥3,000 ¥1,500
品番:CK-S COLOR/黒 売切れごめん!!

バンテージ 2個1組 定価¥1,200 ¥800
品番:CBT

リストウェイト(2kg) 定価¥3,000 ¥1,980
品番:CWT

パワーグリップ 定価¥2,000 ¥1,280
品番:CPWG

レッグサポーター 定価¥2,000 特別価格 ¥1,250
品番:CLG COLOR/白 SIZE/フリー

ボディプロテクターベーシックモデル 定価¥4,800 特別価格 ¥2,400
品番:CBP-B COLOR/黒 SIZE/フリー 超軽量型!

レガースプロ 定価¥4,800 特別価格 ¥3,300
品番:CLG-P COLOR/黒 SIZE/フリー

純白フルコンタクト空手着 定価¥6,500 特別価格 ¥3,200
品番:CKT2 COLOR/純白 SIZE/4号・5号・6号 白帯付き!

パーフェクトガード 定価¥3,800 特別価格 ¥1,600
品番:CL-1 COLOR/白・赤 SIZE/フリー 大人気レガース!!

ハイパーキックミット 定価¥2,400 特別価格 ¥1,200
品番:CK-H COLOR/黒・青 抜群の感触!

ファールカップ 定価¥1,500 特別価格 ¥980
品番:CGG COLOR/白 SIZE/フリー もちろん洗濯OK!

ヘッドガードDX 定価¥5,800 特別価格 ¥3,300
品番:CHG-DX COLOR/黒・赤・白 SIZE/フリー マスク取外しOK!

サンドバッグ

すぐ使えます! 中身入り! ナスカンチェーン付!

サンドバッグ100B 定価¥9,800 ¥3,400
品番:C100 COLOR/黒・赤 SIZE/40×100cm

サンドバッグ130B 定価¥12,800 ¥4,900
品番:C130 COLOR/黒・赤 SIZE/40×130cm

サンドバッグ150B 定価¥15,800 ¥6,400
品番:C150 COLOR/黒・赤 SIZE/40×150cm

グレート・アントニオ

グレート・アントニオ誌上通販

闘魂シリー

信じられない！あのクイック・キック・リーがやってくる!!

【参加方法】当日朝11時から、グレート・アントニオにてクイック・キック・リーTシャツかパーカー、12/21リングス横浜大会のチケットご購入の方に参加整理券をお配りします（整理券がないと参加できませんので、ご注意ください。多数の場合は、人数制限をさせていただく場合があります）。商品以外にサインを入れてほしい場合は、色紙など各自持参してください。お問い合わせは、グレート・アントニオまで！

前田日明サイン会
12月8日（土）PM1：00～
グレート・アントニオにて

FASTING / NU-SCIENCE

●ファスティング・ダイエット
¥18,000（税別）

●元気ですかジュース（1000ml入り）
¥5,800（税別）

T-SHIRTS

●アントニオ猪木'76Tシャツ
（デザインカラー黒・赤／サイズXS・S・M・L）
¥4,000（税別）

●前田日明クイック・キック・リーTシャツ
（白・黄／サイズXS・S・M・L）
¥3,800（税別）

▲グレート・アントニオ&『紙プロ』誌上通販&リングス会場で絶賛発売中！

●猪木軍団応援Tシャツ
（白／サイズXS・S・M・L）
¥4,000（税別）

●浅草キッドTシャツ
（デザイン黒・赤／サイズXS・S・M・L）
¥3,500（税別）

●とうふパンTシャツ
（黒・緑／サイズXS・M・L）
¥2,800（税別）

●猪木顔面Tシャツ
（白／サイズM・L・XL）
¥3,500（税別）

●（株）猪木事務所Tシャツ
（白・黒・赤／サイズM・L）
¥3,500（税別）

●グレート・アントニオTシャツ
（白／サイズXS・M・L）
¥2,000（税別）

CLOTHES

●（株）猪木事務所パーカー
（ネイビー／サイズM・L）
¥6,500（税別）

●マスクド・ウィンドブレーカー
（黒・カーキ／サイズS・M・L）
¥6,800（税別）

●グレート・アントニオスウェット
（グレー／サイズS・M・L）
¥4,500（税別）

¥4,000(税別) ¥3,500(税別) ¥2,800(税別) ¥3,500(税別) ¥3,500(税別) ¥2,000(税別)

HOBBY

●SAKUベルト
(本物と同じサイズ&段ボール製)
¥2,500(税別)

●桜庭和志ぬいぐるみ「サクモン」
※ソフトビニール製・毛張り人形。
©高田道場/サン・アロー
¥1,600(税別)

CAP

●(株)猪木事務所キャップ
¥2,800(税別)

●グレート・アントニオキャップ
¥1,500(税別)

●INOKIキャップ(黒・ライトグレー)
¥3,500(税別)

GOODS

●ダイエットブッチャースリムスキン缶バッジ
¥3,000(税別)
※三代目魚武濱田成夫&グレート・アントニオロゴ入り

●闘魂おまもり(赤・ネイビー)
¥1,000(税別)

●SAKUキーホルダー
¥800(税別)
FRONT BACK

●高田道場ステッカー(A4サイズ)
¥1,000(税別)

●(株)猪木事務所アッシュトレー
¥1,000(税別)

●(株)猪木事務所マグカップ
¥1,500(税別)

大決定!

アントニオ猪木&桜庭和志
G-SHOCK
12/1より店頭で販売!!
詳細が決まり次第、サイトでお知らせします。

ご注文方法

ご注文は電話受付のみです

「グレート・アントニオ」通販専用NAVIダイヤル
☎ 0570-007800 ※携帯電話からは掛かりません。
☎ 03-3295-4450 ※携帯電話でも掛かります。
[受付曜日・時間] 月曜日~土曜日 AM10:00~PM6:00

商品お渡し方法

代金引換でのお受け取りとなります。
◎商品代金のほかに送料約700円(ゆうパック)、代引手数料約250円(いずれも地域によって異なります)がかかります。
◎お届けはご注文をいただいてから、5日前後で(株)ジャンボ(大阪)より郵送いたします。(ご注文が集中した場合は、お時間をいただく事があります。ご了承ください)

ご注意

◎代金、送料の先払いはお受けできません。
◎サイズ交換等の返品・交換はお受けできません。不良品等の理由による返品・交換の場合は、商品到着後10日以内にお電話にてご連絡ください。(期日を過ぎた場合は、受け付け致しかねます)
◎『グレート・アントニオ』店頭および「SRS・DX」編集部では、ご注文を受け付けておりません。

http://www.great-antonio.jp

ACCESS MAP

○神保町駅(半蔵門線/都営新宿線/都営三田線)より徒歩5分
○小川町駅(都営新宿線)より徒歩5分
○淡路町駅(丸ノ内線)より徒歩6分
○竹橋駅(東西線)より徒歩8分

OPEN 11:00~20:00(月曜定休)
東京都千代田区神田錦町3-14-12
神田NSビル1F
TEL 03-3219-9550

12/1からグレート・アントニオにて
猪木&桜庭G-SHOCKを同時発売決定！

たっつぁん万座ビーチ
読者プレゼント

12/8にはなんと、アキラ兄さんがやってくるぞーっ!!

■応募方法

ハガキには必ず応募券を貼ろう！

右ページ下の応募券を官製ハガキに貼って、
① 郵便番号・住所・電話番号
② お名前
③ 年齢・ご職業
④ 希望プレゼント名
⑤ 今号で面白かった記事とその理由（複数可）
⑥ 今号で面白くなかった記事とその理由（複数可）
⑦ 本誌に対するご意見・ご感想

を書いて、ビシバシ応募してください！

あて先…〒101-0054 東京都千代田区神田錦町
3-14-12 神田NSビル8F
SRS・DX編集部「たっつぁん万座ビーチ59」係まで
締め切り…12月13日（木）
当日消印有効

【グレート・アントニオ提供】

2001年版・猪木御守ができた！大晦日から頒布！

●アントニオ猪木“元気御守”

10名様

※当選者への発送は年明けになります。グレート・アントニオの商品に関するお問い合わせは、グレート・アントニオ☎03-3219-9550、またはhttp://www.great-antonio.jpまで

【ダイエットブッチャースリムスキン提供】

ブッチャー×魚武Tが大量完成！

●三代目魚武濱田成夫ポエトリー・リーディングツアーTシャツ（タイプA）

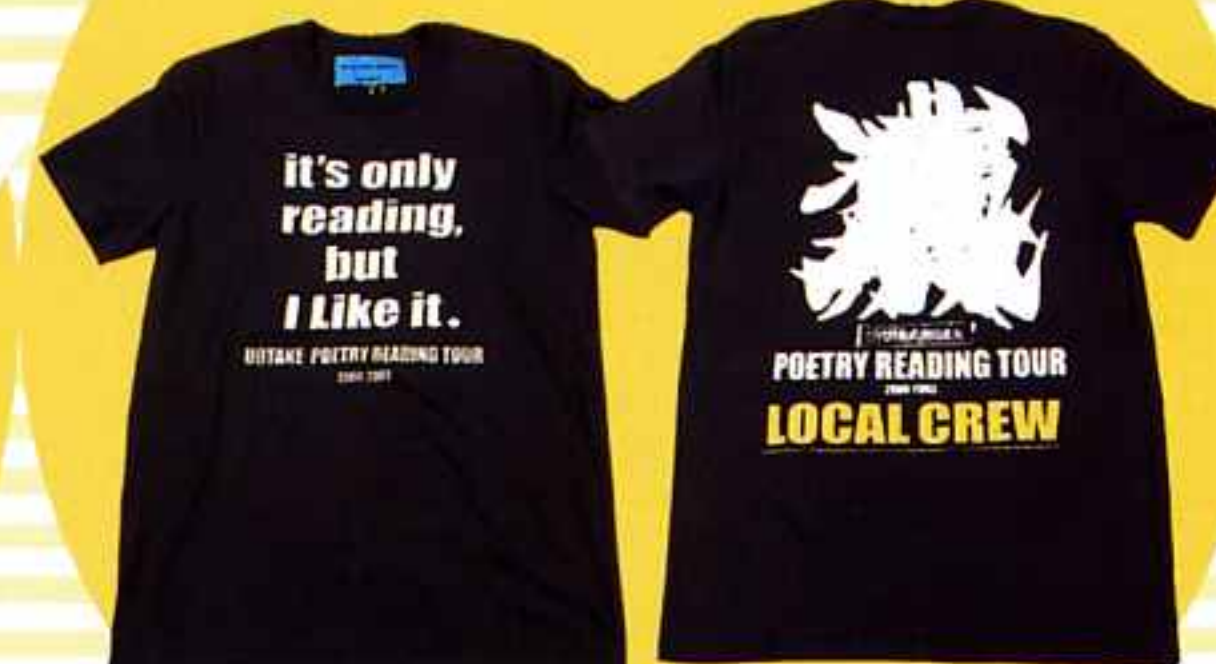
FRONT BACK 2名様

●三代目魚武濱田成夫ポエトリー・リーディングツアーTシャツ（タイプB）

FRONT BACK 2名様

●三代目魚武濱田成夫ポエトリー・リーディングツアーTシャツ（タイプC）

FRONT BACK 2名様

●三代目魚武濱田成夫ポエトリー・リーディングツアーTシャツ（タイプD）

FRONT BACK 2名様

※いずれもサイズS・M・L。ブッチャー×魚武Tは、グレート・アントニオで買えるよ！ ネット通販も間もなく開始！

【フォーブリック提供】

髙田&桜庭グッズが盛りだくさんの秀逸ボックス！！

●『WORKS』

2名様

※髙田&桜庭写真集（2冊1セット）、髙田vs桜庭の道場3Rマッチ入りDVD、WORKS限定髙田&桜庭Tシャツ、WORKSオリジナルトートバッグがついて12,000円(税別)。かなりお得だと思う。購入したい人は、http://www.so-net.ne.jp/pride/かhttp://www.takada-dojo.comに今すぐアクセス！ グレート・アントニオでも売ってます！

【ドリームステージエンターテインメント提供】

盗みたくなるボンバイエポスターとシャノンから突如、ドリームステージに送られてきた売り込みグッズ！

●12・31『INOKI BOM-BA-YE 2001』大会記念ポスター

5名様

●シャノン・“ザ・キャノン”・リッチ ポスター&ブロマイド

6名様

【エポック社提供】

直筆サインカード13種類、ジャージカード3種類封入のスペシャルなK-1カード！

●K-1グランプリ トレーディングカード2001（1BOX＝20パック入り）

2名様

※全151種類のK-1カード。この商品に関するお問い合わせは、エポック社お客様サービスセンター☎0298-62-5789まで